

	俳句	年代	季節	分類	季語
1	此夏を達磨と我の寒さ哉	26	夏	時候	夏
2	此夏を我と達磨の寒さ哉	26	夏	時候	夏
3	憎らしや夏を肥たる小傾哉	26	夏	時候	夏
4	ほの暗きとんねる行けば夏もなし	26	夏	時候	夏
5	四方から青みて夏の夜明哉	26	夏	時候	夏
6	白河を越ゆるや夏の小商人	27	夏	時候	夏
7	ほこり立つ硯の海の夏溜れたり	28	夏	時候	夏
8	尼もなし庵住みあれて夏の藤	29	夏	時候	夏
9	生き残る骨身に夏の粥寒し	29	夏	時候	夏
10	思はずよ君この夏を行かんとは	29	夏	時候	夏
11	後園に小さ夏の木の実かな	29	夏	時候	夏
12	十二層楼五層あたりに夏の不二	29	夏	時候	夏
13	世の夏を見おろして居る寒さかな	29	夏	時候	夏
14	葉かくれに小さし夏の桜餅	31	夏	時候	夏
15	藤の花末三寸を夏に入る	31	夏	時候	夏
16	古池や昼静かなる夏の鴛	31	夏	時候	夏
17	虫のつく夏萩の芽を剪り捨てぬ	31	夏	時候	夏
18	和歌に痩せ俳句に痩せぬ夏男	33	夏	時候	夏
19	夜店出テ鄙町夏ヲニギハヒヌ	35	夏	時候	夏
20	画かくべき夏のくだ物何々ぞ	35	夏	時候	夏
21	夏に入つてげんげんいまだ衰へず	29	夏	時候	立夏
22	夏立ちし瓶につゝじの花古き	30	夏	時候	立夏
23	一村は木の間にこもる卯月哉	25	夏	時候	卯月
24	四五日は春にまけたる卯月哉	25	夏	時候	卯月
25	どんよりと青葉にひかる卯月哉	25	夏	時候	卯月
26	富士ひとりいよいよ白き卯月哉	25	夏	時候	卯月
27	色々の子牛出揃ふ卯月哉	26	夏	時候	卯月
28	牛の子の眼を開きたる卯月哉	26	夏	時候	卯月
29	開帳の淋しうなりし卯月哉	26	夏	時候	卯月
30	雀にも友ある中の卯月哉	26	夏	時候	卯月
31	桃青の素堂尋ぬる卯月哉	26	夏	時候	卯月
32	旅人の達者で居たる卯月かな	26	夏	時候	卯月
33	散るものは散て気楽な卯月哉	26	夏	時候	卯月
34	鉄橋のさつはりしたる卯月哉	26	夏	時候	卯月
35	何もかも角にいでたる卯月かな	26	夏	時候	卯月
36	ぬぎかへて衣に風吹く卯月哉	26	夏	時候	卯月
37	寝ころんで酔のさめたる卯月哉	26	夏	時候	卯月
38	子狐の穴に顔出す卯月哉	27	夏	時候	卯月
39	砲台の工事を急ぐ卯月かな	27	夏	時候	卯月
40	花散りて人の眠たき卯月かな	27	夏	時候	卯月
41	片里に豆腐売り出す卯月哉	28	夏	時候	卯月
42	片里は豆腐売出す卯月哉	28	夏	時候	卯月
43	燕の雀にまじる卯月かな	29	夏	時候	卯月
44	はれよはれよ五月もすぎて何の雨	24	夏	時候	五月
45	油絵の遠目にくもる五月かな	25	夏	時候	五月
46	渾沌の中にもものあり五月不二	25	夏	時候	五月
47	もちもちといんきのねばる五月哉	25	夏	時候	五月
48	うすうすと窓に日のさす五月哉	26	夏	時候	五月
49	薄き日を小窓に拝む五月哉	26	夏	時候	五月
50	爪びきの此頃はやる五月哉	26	夏	時候	五月
51	ほろほろと墨のくづるゝ五月哉	26	夏	時候	五月
52	ことごとく石に苔もつ五月哉	27	夏	時候	五月
53	旅僧の病むや五月のかゝり船	27	夏	時候	五月
54	喰ひ過ぎて驚死ぬる五月かな	28	夏	時候	五月
55	ごうごうと臯月の海の鳴り渡る	29	夏	時候	臯月

56	臯月寒し生き残りたるも涙にて	29	夏	時候	臯月
57	晴れんとす臯月の端山塔一つ	29	夏	時候	臯月
58	吾病んで猶別れうき臯月かな	29	夏	時候	臯月
59	うれしけに犬の走るや麦の秋	25	夏	時候	麦秋
60	燕や白壁見えて麦の秋	25	夏	時候	麦秋
61	麦秋や庄屋の嫁の日傘	25	夏	時候	麦秋
62	麦の秋あからあからと日はくれぬ	25	夏	時候	麦秋
63	一人子の凧揚げけり麦の秋	26	夏	時候	麦秋
64	麦秋や中国下る旅役者	26	夏	時候	麦秋
65	麦の秋老婆遠方より来る	27	夏	時候	麦秋
66	行列の槍五六本麦の秋	28	夏	時候	麦秋
67	兀山のてかてかとして麦の秋	28	夏	時候	麦秋
68	野の道や童蛇打つ麦の秋	29	夏	時候	麦秋
69	城跡や監獄をめぐり麦の秋	30	夏	時候	麦秋
70	野の道や神輿に出あふ麦の秋	30	夏	時候	麦秋
71	馬の荷に筍長し麦の秋	31	夏	時候	麦秋
72	麦秋や樗咲きたる門構	31	夏	時候	麦秋
73	麦秋や壮士村に入る仕込杖	31	夏	時候	麦秋
74	御車や道々民の麦の秋	33	夏	時候	麦秋
75	麦秋や百姓の子の村芝居	33	夏	時候	麦秋
76	六月やお白粉なする脇の下	26	夏	時候	六月
77	六月や太夫となる身罪深し	26	夏	時候	六月
78	六月の海見ゆるなり寺の椽	28	夏	時候	六月
79	六月の海見ゆるなり寺の庭	28	夏	時候	六月
80	六月の雲崩れけり妙義山	28	夏	時候	六月
81	六月や印度通ひの飛脚船	28	夏	時候	六月
82	六月を綺麗な風の吹くことよ	28	夏	時候	六月
83	寝ころんで書読む頃や五六月	29	夏	時候	六月
84	六月の蟻おびたゞし石の陰	29	夏	時候	六月
85	六月の杉の雫や二荒山	32	夏	時候	六月
86	みな月のけしきとも見ぬ白帆哉	25	夏	時候	水無月
87	水無月やお白粉なする脇の下	26	夏	時候	水無月
88	水無月やこゝらあたりは鶯が	26	夏	時候	水無月
89	水無月や根岸涼しき篠の雪	26	夏	時候	水無月
90	山吹の水無月とこそ見えにけれ	26	夏	時候	水無月
91	水無月の傾城並ぶ格子かな	27	夏	時候	水無月
92	水無月の風聞くや石の室	27	夏	時候	水無月
93	水無月の須磨の緑を御らんぜよ	28	夏	時候	水無月
94	水無月の蟻おびたゞし石の陰	29	夏	時候	水無月
95	水無月やうしろはほこり前は池	29	夏	時候	水無月
96	水無月や萩も芒も風の草	30	夏	時候	水無月
97	水無月の涙も氷る思ひ哉	31	夏	時候	水無月
98	水無月の山吹の花にたとふべし	31	夏	時候	水無月
99	水無月の余花を尋ねて桜餅	31	夏	時候	水無月
100	水無月の杉の雫や二荒山	32	夏	時候	水無月
101	木曾川に信濃の入梅の濁り哉	25	夏	天文	入梅
102	犬の子の椽に来て寝る入梅哉	26	夏	天文	入梅
103	鶺鴒つかひの網をつくるふ入梅哉	26	夏	天文	入梅
104	入梅の中人静かなり法花堂	26	夏	天文	入梅
105	入梅や手拭かぶる新内儀	26	夏	天文	入梅
106	梅の実を売り払ひたる入梅哉	31	夏	天文	入梅
107	刈り残す二畝の麦や梅雨に入る	31	夏	天文	入梅
108	梅雨に入る椎の木陰の葵哉	33	夏	天文	入梅
109	長靴のたけに余るや梅雨の泥	25	夏	天文	梅雨
110	玉川に布見ぬ梅雨の日数哉	26	夏	天文	梅雨
111	梅雨淋し障子の外を烏とぶ	26	夏	天文	梅雨

112	一梅雨を羽黒にこもるひじり哉	26	夏	天文	梅雨
113	都にも梅雨ありされど酒もあり	26	夏	天文	梅雨
114	夕飯のきまらぬ梅雨の日頃かな	26	夏	天文	梅雨
115	夏至過ぎて吾に寝ぬ夜の長くなる	29	夏	時候	夏至
116	のびきつて夏至に逢ふたる葵かな	29	夏	時候	夏至
117	木をつみて夜の明やすき小窓かな	18	夏	時候	明け易し
118	だまされて夜は明やすし絹蒲団	26	夏	時候	明け易し
119	松明に夜は明けやすし箱根山	27	夏	時候	明け易し
120	湯釜ぬく汽船の音の明け易し	27	夏	時候	明け易し
121	明け易き頃や鴉の三声程	28	夏	時候	明け易し
122	明け易き頃を麩のいそかしき	28	夏	時候	明け易し
123	明け易き夜頃をいくさ物語	28	夏	時候	明け易し
124	明け易き夜をおもしろの白拍子	28	夏	時候	明け易し
125	明やすき夜を初恋そもとかしき	28	夏	時候	明け易し
126	明け易き夜を初恋のもどかしき	28	夏	時候	明け易し
127	板橋や馬蹄とゞると明け易き	28	夏	時候	明け易し
128	横様に紀の国長し明け易し	28	夏	時候	明け易し
129	明け易き夜頃を桃のまだ苦し	29	夏	時候	明け易し
130	行燈消えて夜は明け易し人の家	29	夏	時候	明け易し
131	うたゝねや遊女の膝の明け易き	29	夏	時候	明け易し
132	江楼や水の光の明け易き	29	夏	時候	明け易し
133	書置の心いそぎに明け易き	29	夏	時候	明け易し
134	きぬぎぬや明け易き夜を葛の風	29	夏	時候	明け易し
135	夕栄の又明け易き茜かな	29	夏	時候	明け易し
136	船をあがる横浜に夜の明け易き	30	夏	時候	明け易し
137	割床や屏風の裏に明易き	30	夏	時候	明け易し
138	明け易き夜頃や富士の鼠色	31	夏	時候	明け易し
139	配達の別れ行く辻明易き	31	夏	時候	明け易し
140	明け易き夢や十九の従弟同士	33	夏	時候	明け易し
141	日の旗に立てかふる夜の明け易き	33	夏	時候	明け易し
142	短夜や話しのこりて夜の明る	21	夏	時候	短夜
143	短夜や話しの尽きて夜の明る	21	夏	時候	短夜
144	短夜は柳に足らぬつゝみ哉	25	夏	時候	短夜
145	短夜や行脚の杖にあけかゝる	25	夏	時候	短夜
146	短夜や砂土手いそぐ小提灯	25	夏	時候	短夜
147	短夜や宿もとらずに又こよい	25	夏	時候	短夜
148	猫の尾の短夜明けぬ台所	26	夏	時候	短夜
149	短夜のうしろに睨む仁王哉	26	夏	時候	短夜
150	短夜の雲もかゝらず信天山	26	夏	時候	短夜
151	短夜の雲をさまらずあたゝらね	26	夏	時候	短夜
152	短夜のまことをしるや一夜妻	26	夏	時候	短夜
153	短夜は大門に明けてしまひけり	26	夏	時候	短夜
154	短夜は碁盤の足に白みけり	26	夏	時候	短夜
155	短夜もあくるけしきは東より	26	夏	時候	短夜
156	短夜や明け残りたる松縄手	26	夏	時候	短夜
157	短夜や逢阪こゆる牛車	26	夏	時候	短夜
158	短夜やたてあふ早出起き残り	26	夏	時候	短夜
159	短夜や波の鼓の音早し	26	夏	時候	短夜
160	短夜や日の岡こゆる牛車	26	夏	時候	短夜
161	短夜や夜明にとゞく足の先	26	夏	時候	短夜
162	短夜のともし火残る湊かな	27	夏	時候	短夜
163	短夜や火をうつ石に火の走り	27	夏	時候	短夜
164	短夜をいそぐ野寺の木魚哉	27	夏	時候	短夜
165	短夜の明方近し雨の音	28	夏	時候	短夜
166	短夜の明けんとしては雨の音	28	夏	時候	短夜
167	短夜の足跡許りぞ残りける	28	夏	時候	短夜

168	短夜の追剥にあふ縄手かな	28	夏	時候	短夜
169	短夜のかあと明けたる烏かな	28	夏	時候	短夜
170	短夜のともし火残る御堂哉	28	夏	時候	短夜
171	短夜の盗人に逢ふ縄手哉	28	夏	時候	短夜
172	短夜のはたと箱根にかゝりけり	28	夏	時候	短夜
173	短夜や或は寝たる草の上	28	夏	時候	短夜
174	短夜やあやまつて月を取り落す	28	夏	時候	短夜
175	短夜や一寸のびる桐の苗	28	夏	時候	短夜
176	短夜や大工火ともす船の底	28	夏	時候	短夜
177	短夜や松明越ゆる星の中	28	夏	時候	短夜
178	短夜やちよろちよろ燃ゆる捨篝	28	夏	時候	短夜
179	短夜や月落ちかゝる鹿の角	28	夏	時候	短夜
180	短夜や眠たき雲の飛んで行く	28	夏	時候	短夜
181	短夜や我物思ふところあり	28	夏	時候	短夜
182	短夜を眠がる人の別れかな	28	夏	時候	短夜
183	早立の短夜明けぬ鈴が森	29	夏	時候	短夜
184	短夜の明けかねて居る靄深み	29	夏	時候	短夜
185	短夜の朝日を拝む船路かな	29	夏	時候	短夜
186	短夜の幽霊多き墓場かな	29	夏	時候	短夜
187	短夜の上に日のさす不二の山	29	夏	時候	短夜
188	短夜の鴉鳴いて天の川白し	29	夏	時候	短夜
189	短夜の恋にはかなき寝さめ哉	29	夏	時候	短夜
190	短夜の背戸より帰りたまひけり	29	夏	時候	短夜
191	短夜のつひに明けたり鈴が森	29	夏	時候	短夜
192	短夜のにわかにもくろけしき哉	29	夏	時候	短夜
193	みしか夜のにわかにあけるけしき哉	29	夏	時候	短夜
194	短夜の闇を動かす出水かな	29	夏	時候	短夜
195	短夜の往来も絶えぬ都かな	29	夏	時候	短夜
196	短夜や幽霊消えて鶏の声	29	夏	時候	短夜
197	短夜や一番汽車に乗りおくれ	29	夏	時候	短夜
198	短夜やうすものかゝる銀屏風	29	夏	時候	短夜
199	短夜や上野の山は明けて居る	29	夏	時候	短夜
200	短夜や鴉鳴いて天の川白し	29	夏	時候	短夜
201	短夜や鴉の声は明けてから	29	夏	時候	短夜
202	短夜や頻りに叩く医者門	29	夏	時候	短夜
203	短夜や四十にして学に志す	29	夏	時候	短夜
204	短夜やしやべりの小僧味噌を摺る	29	夏	時候	短夜
205	短夜や空のなかばの天の川	29	夏	時候	短夜
206	短夜やともし火うつる銀屏風	29	夏	時候	短夜
207	短夜や虎叱りたる虎遣ひ	29	夏	時候	短夜
208	短夜や何煮えあがる鍋の中	29	夏	時候	短夜
209	短夜やにはかに腹の痛み出し	29	夏	時候	短夜
210	短夜やほろほろもゆる馬の骨	29	夏	時候	短夜
211	短夜や焼場の灰のあたゝまり	29	夏	時候	短夜
212	短夜やわりなくなじむ小傾城	29	夏	時候	短夜
213	行燈の消えぬ短夜四時を打つ	30	夏	時候	短夜
214	短夜の明けぬ大井の橋の上	30	夏	時候	短夜
215	短夜の我を見とる人うたゝねす	30	夏	時候	短夜
216	短夜やたまたま寝れば夢苦し	30	夏	時候	短夜
217	短夜やたまたま寝れば夢わるし	30	夏	時候	短夜
218	短夜を洒落多き君初会也	30	夏	時候	短夜
219	短夜をやがて追付参らせん	30	夏	時候	短夜
220	余命いくばくかある夜短し	30	夏	時候	短夜
221	短夜や汽車走り行く枕元	31	夏	時候	短夜
222	短夜を二階に寝たる夫婦哉	31	夏	時候	短夜
223	短夜の鴉鳴いて夢悪し	32	夏	時候	短夜

224	短夜や胃の腑に飯の残りたる	32	夏	時候	短夜
225	短夜の明けて論語を読む子かな	34	夏	時候	短夜
226	短夜の祈り駿なく明けにけり	34	夏	時候	短夜
227	短夜の短さ知るや油さし	34	夏	時候	短夜
228	みしか夜や金商人の高いひき	34	夏	時候	短夜
229	短夜や蓬が宿の恋車	34	夏	時候	短夜
230	短夜を燈明料のかすりかな	34	夏	時候	短夜
231	みしか夜やわれをめぐりて二三人	不詳	夏	時候	短夜
232	七月や漁村をありく貴女紳士	29	夏	時候	七月
233	氷売る声聞きて家のあつさ哉	18	夏	時候	暑
234	あつさをは忘るゝ忘れ草すゞし	19	夏	時候	暑
235	草刈の木陰にはいるあつさ哉	20	夏	時候	暑
236	石の牛の木陰にあへくあつさ哉	21	夏	時候	暑
237	石の牛もあへきそふなるあつさ哉	21	夏	時候	暑
238	鳶なくや木の葉そよかぬ熱さ哉	21	夏	時候	暑
239	山をぬく火の水にかつ熱さ哉	21	夏	時候	暑
240	白砂のきらきらとする熱さ哉	22	夏	時候	暑
241	晴れもせず曇りもはてぬ熱哉	22	夏	時候	暑
242	屋根葺の草履であがる熱哉	22	夏	時候	暑
243	あつさをはさきひろけゝりさるすへり	24	夏	時候	暑
244	ことごとく団扇破れし熱さ哉	24	夏	時候	暑
245	寝かへれば汗のひつゝくあつさ哉	24	夏	時候	暑
246	芦刈の小唄も出ぬ暑さ哉	25	夏	時候	暑
247	息くさき人の近よるあつさ哉	25	夏	時候	暑
248	牛の尾の力も弱るあつさ哉	25	夏	時候	暑
249	薄くらき奥に米つくあつさ哉	25	夏	時候	暑
250	初産の髪みだしたる暑さ哉	25	夏	時候	暑
251	錦繡に身を包みたる熱哉	25	夏	時候	暑
252	此頃は昼寝も出来ぬあつさ哉	25	夏	時候	暑
253	笹の葉の少しよれたる熱さ哉	25	夏	時候	暑
254	囚人の鎖ひきずるあつさ哉	25	夏	時候	暑
255	姫杉の真赤に枯れしあつさ哉	25	夏	時候	暑
256	熱いかと問へども杣のこたへなし	26	夏	時候	暑
257	熱い日は思ひ出だせよふしの山	26	夏	時候	暑
258	あつき名や天竺牡丹日でり草	26	夏	時候	暑
259	あつき日や運座はじまる四畳半	26	夏	時候	暑
260	あつき日や硯の中の砂ほこり	26	夏	時候	暑
261	あつき日や肌もぬがれぬ女客	26	夏	時候	暑
262	熱き夜の寝られぬよその咄かな	26	夏	時候	暑
263	あつき夜や汽車の響きの遠曇り	26	夏	時候	暑
264	熱さ哉八百八町家ばかり	26	夏	時候	暑
265	あつしともの給はぬなり石地蔵	26	夏	時候	暑
266	油画の彩色多きあつさ哉	26	夏	時候	暑
267	海土が家に干魚の臭ふあつさ哉	26	夏	時候	暑
268	雨雲の峯になり行くあつさ哉	26	夏	時候	暑
269	海土は皆海へいでたるあつさ哉	26	夏	時候	暑
270	雨晴れて又あらたまる熱さかな	26	夏	時候	暑
271	雨折々あつさをなぶる山家哉	26	夏	時候	暑
272	あら壁に西日のほてるあつさかな	26	夏	時候	暑
273	息きつて発句もできぬあつさ哉	26	夏	時候	暑
274	幾曲りまがりてあつし二本松	26	夏	時候	暑
275	石原に片足つゝのあつさ哉	26	夏	時候	暑
276	犬の子の草に寝ねたる熱さ哉	26	夏	時候	暑
277	入相を今か今かとあつさ哉	26	夏	時候	暑
278	動かれぬ遊女の罪のあつさ哉	26	夏	時候	暑
279	牛喘ぐ大臣の門のあつさ哉	26	夏	時候	暑

280	牛部屋に西日さしこむ熱さ哉	26	夏	時候	暑
281	薄曇り木陰も同じあつさ哉	26	夏	時候	暑
282	上野から見下す町のあつさ哉	26	夏	時候	暑
283	馬車店先ふさぐあつさ哉	26	夏	時候	暑
284	馬蠅の傘をはなれぬ熱さ哉	26	夏	時候	暑
285	おろす子の泣声あつし石の上	26	夏	時候	暑
286	高楼に見てさへあつし砂煙	26	夏	時候	暑
287	掛茶屋のほこりに座るあつさ哉	26	夏	時候	暑
288	牛肉の鍋おろしたる熱さ哉	26	夏	時候	暑
289	牛肉の鍋にはりつく熱さ哉	26	夏	時候	暑
290	岐阜を出て美濃を真昼の暑哉	26	夏	時候	暑
291	着物干す嘗所の庭の暑さ哉	26	夏	時候	暑
292	行列の町に入りこむあつさ哉	26	夏	時候	暑
293	清書のちゞみあがりし熱さ哉	26	夏	時候	暑
294	金銀の襖にあつき地獄哉	26	夏	時候	暑
295	くたびれを養ひかぬる暑さかな	26	夏	時候	暑
296	鍬たてゝあたり人なき熱さ哉	26	夏	時候	暑
297	雲晴れてあつし雲出て猶熱し	26	夏	時候	暑
298	車屋が語るまことのあつさ哉	26	夏	時候	暑
299	ぐるりからいとしがらるゝ熱さ哉	26	夏	時候	暑
300	観音に人波のうつあつさ哉	26	夏	時候	暑
301	傾城にいつわりのなき熱さ哉	26	夏	時候	暑
302	傾城に可愛がらるゝ暑さ哉	26	夏	時候	暑
303	傾城の寝顔にあつしほつれ髪	26	夏	時候	暑
304	傾城は誠にあつき者なりけり	26	夏	時候	暑
305	けふをこそ限りなるべきあつさ哉	26	夏	時候	暑
306	小格子にほこりのたまる暑哉	26	夏	時候	暑
307	小蒸汽の機械をのぞく暑哉	26	夏	時候	暑
308	小天狗の前に息つく熱さかな	26	夏	時候	暑
309	此のあたり土蔵の多きあつさ哉	26	夏	時候	暑
310	これはこれはこれはことしの熱さかな	26	夏	時候	暑
311	さはるもの蒲団木枕皆あつし	26	夏	時候	暑
312	しかめたるはしたの顔の暑さ哉	26	夏	時候	暑
313	上客に内処見らるゝあつさ哉	26	夏	時候	暑
314	錫杖のさはれば熱し一休み	26	夏	時候	暑
315	しやもの毛のぬけてものうき熱哉	26	夏	時候	暑
316	出立の飯いそぎたるあつさ哉	26	夏	時候	暑
317	順礼の馬子拝みたるあつさ哉	26	夏	時候	暑
318	順礼の松に上りし熱さ哉	26	夏	時候	暑
319	新道は人も通らぬあつさ哉	26	夏	時候	暑
320	新聞にほつくの熱さを見る日哉	26	夏	時候	暑
321	船頭の山に上りしあつさかな	26	夏	時候	暑
322	束髪に結び直したる暑哉	26	夏	時候	暑
323	大仏を見つめかねたる暑哉	26	夏	時候	暑
324	大名になじみの多き熱さ哉	26	夏	時候	暑
325	たゞあつし起てもあてもころんでも	26	夏	時候	暑
326	旅立の事ばかりいふあつさ哉	26	夏	時候	暑
327	旅立をのべて都のあつさ哉	26	夏	時候	暑
328	痰吐けば血のまじりたる暑哉	26	夏	時候	暑
329	頭陀一つこれさへ暑き浮世哉	26	夏	時候	暑
330	手荷物にふんどしさがるあつさ哉	26	夏	時候	暑
331	手をつける天水桶のあつさ哉	26	夏	時候	暑
332	天竺の手紙届きし熱さ哉	26	夏	時候	暑
333	何の木と見わけのつかぬ熱哉	26	夏	時候	暑
334	猶熱し骨と皮とになりてさへ	26	夏	時候	暑
335	鳴りしきる電話の鈴の暑哉	26	夏	時候	暑

336	庭石を草のうめたるあつさ哉	26	夏	時候	暑
337	ぬり直す仁王の色のあつさ哉	26	夏	時候	暑
338	ぬれ足に河原をありく熱さ哉	26	夏	時候	暑
339	のら犬の流しに寝たるあつさ哉	26	夏	時候	暑
340	博奕うつ間のほの暗き暑かな	26	夏	時候	暑
341	裸身の壁にひつゝくあつさ哉	26	夏	時候	暑
342	はたごやに下手の絵を張る暑哉	26	夏	時候	暑
343	花嫁は帯のくづるゝあつさ哉	26	夏	時候	暑
344	浜庇未まはりし熱さ哉	26	夏	時候	暑
345	飛脚一人暑さの中をかけり行	26	夏	時候	暑
346	日照草けふをさかりのあつさ哉	26	夏	時候	暑
347	一しきり雀のへりし熱さ哉	26	夏	時候	暑
348	人にまかす身とは思へど熱さ哉	26	夏	時候	暑
349	ひゝわれて苔なき庭の熱さ哉	26	夏	時候	暑
350	昼顔の花に皺見るあつさ哉	26	夏	時候	暑
351	昼顔はしばむ間もなきあつさ哉	26	夏	時候	暑
352	昼時に酒しひらるゝあつさ哉	26	夏	時候	暑
353	吹殻の石にちりつく熱さ哉	26	夏	時候	暑
354	吹く風の皆ほこりもつ熱さ哉	26	夏	時候	暑
355	腹痛に寝られぬ夜半の熱さ哉	26	夏	時候	暑
356	櫓になる木にも蝉なくあつさ哉	26	夏	時候	暑
357	炎ふくふいごの風のあつさ哉	26	夏	時候	暑
358	松陰はどこも銭出ずあつさかな	26	夏	時候	暑
359	松島の事はかりいふあつさ哉	26	夏	時候	暑
360	真白に石灰やきのあつさ哉	26	夏	時候	暑
361	松の間を亭主の奪ふ熱哉	26	夏	時候	暑
362	松は何と竹は何とわが暑さ哉	26	夏	時候	暑
363	真昼時弁当部屋のあつさ哉	26	夏	時候	暑
364	前後熱さ涼しさ半分づゝ	26	夏	時候	暑
365	店先に車夫汗くさき熱哉	26	夏	時候	暑
366	味噌さげて熱き姿や夕まぐれ	26	夏	時候	暑
367	みちのくの仙台はあつき処哉	26	夏	時候	暑
368	みちのくも町あれは町の暑さ哉	26	夏	時候	暑
369	道々に瓜の皮ちるあつさ哉	26	夏	時候	暑
370	むし熱し鼠でも出よかりて見ん	26	夏	時候	暑
371	紫のさむる茄子のあつさ哉	26	夏	時候	暑
372	門番のひとり寝かねるあつさ哉	26	夏	時候	暑
373	洋犬の耳を垂れたるあつさ哉	26	夏	時候	暑
374	椰子の実の裸で出たる熱哉	26	夏	時候	暑
375	やせ馬の尻ならべたるあつさ哉	26	夏	時候	暑
376	宿引きに袂のかるゝあつさ哉	26	夏	時候	暑
377	屋根葺の日陰へまはるあつさ哉	26	夏	時候	暑
378	やるせなき夕立前のあつさ哉	26	夏	時候	暑
379	破れ垣の隣見えすく熱哉	26	夏	時候	暑
380	破れ尽す鶯籠のあつさ哉	26	夏	時候	暑
381	行先の原渺々とあつさ哉	26	夏	時候	暑
382	夕まぐれ馬叱る町のあつさ哉	26	夏	時候	暑
383	我部屋は茶代も出さぬ熱さ哉	26	夏	時候	暑
384	我宿は女ばかりのあつさ哉	26	夏	時候	暑
385	われ鐘をかゝへて寝たる熱さ哉	26	夏	時候	暑
386	憲兵の赤羅紗さめる暑さかな	27	夏	時候	暑
387	下町や埃を巻いて馬暑し	27	夏	時候	暑
388	すはすはと大地のわれる暑哉	27	夏	時候	暑
389	大仏の身動きもせぬ暑かな	27	夏	時候	暑
390	大名の窓に首出す暑さかな	27	夏	時候	暑
391	立ちつ居つ三百人の暑さかな	27	夏	時候	暑

392	立ちよれば焔のあつし閻魔堂	27	夏	時候	暑
393	地震て大地のさける暑かな	27	夏	時候	暑
394	南瓜の大きくなりし暑かな	27	夏	時候	暑
395	縄も居ぬ離れ小島の暑哉	27	夏	時候	暑
396	真黒に蟻の集りたる暑さかな	27	夏	時候	暑
397	女むれて油の匂ふ暑さかな	27	夏	時候	暑
398	暑からん我に不断の松の風	28	夏	時候	暑
399	熱くとも雨になゝりそ大井河	28	夏	時候	暑
400	雨なくえ閏五月のあつさかな	28	夏	時候	暑
401	雨ほろほろあとのあつさよ砂河原	28	夏	時候	暑
402	あら熱し波を見んとて立ち出づる	28	夏	時候	暑
403	いらいらと暑しや雨のむらかわき	28	夏	時候	暑
404	馬の息人の息市の暑さ哉	28	夏	時候	暑
405	漆かく裸男のあつさ哉	28	夏	時候	暑
406	さまさまに工夫して見る暑哉	28	夏	時候	暑
407	須磨寺に取りつく迄の暑哉	28	夏	時候	暑
408	なまじひに生き残りたる暑哉	28	夏	時候	暑
409	路中に蛇の死たる熱かな	28	夏	時候	暑
410	路はたに蛇の死たる熱さ哉	28	夏	時候	暑
411	村医者 of 洋服着たる暑哉	28	夏	時候	暑
412	井戸堀の浮世へ出たるあつさ哉	28	夏	時候	暑
413	男許り中に女のあつさかな	28	夏	時候	暑
414	朝顔の一輪咲きし熱さかな	29	夏	時候	暑
415	阿蘭陀の駱駝渡りし熱さかな	28	夏	時候	暑
416	今年はと毎年いうてさて熱し	28	夏	時候	暑
417	汐引いて泥に日の照る熱さかな	28	夏	時候	暑
418	沙熱し獅子ものあさる真昼中	28	夏	時候	暑
419	濁世熱し和尚赤裸々所化白裸々	28	夏	時候	暑
420	南京の人とのりあふ暑さ哉	28	夏	時候	暑
421	平内のぐるりに暑し小平内	28	夏	時候	暑
422	暑くるしく乱れ心地や雷を聴く	30	夏	時候	暑
423	この熱さある時死ねと思ひけり	30	夏	時候	暑
424	砂原や脳巔暑く眼眩む	30	夏	時候	暑
425	空熱し鳶は隠れてしまひけり	30	夏	時候	暑
426	逃げて行くことも出来ずに熱哉	30	夏	時候	暑
427	松よりも暑し芒の乱れ髪	30	夏	時候	暑
428	我は下り上りの車熱さうな	30	夏	時候	暑
429	遠雷の雨にもならぬ熱さ哉	30	夏	時候	暑
430	悪き朱に塗られて暑し仁王門	31	夏	時候	暑
431	借家の天井低き暑哉	31	夏	時候	暑
432	二階にも住まれぬ町の暑哉	31	夏	時候	暑
433	塗りかへて暑き色也仁王門	31	夏	時候	暑
434	町暑し蕎麦屋下宿屋君か家	31	夏	時候	暑
435	水かけて子をいつくしむ熱さかな	31	夏	時候	暑
436	暑き日の夕や花に灌ぎけり	32	夏	時候	暑
437	暑き日や池を堀らんと思ひけり	32	夏	時候	暑
438	暑き夜を籠の鶉の眠らざる	32	夏	時候	暑
439	鄙の家に赤き花さく暑哉	32	夏	時候	暑
440	肅山のお相手暑し昼一斗	35	夏	時候	暑
441	生きてをらんならんといふもあつい事	不詳	夏	時候	暑
442	夏の日ひえてしたゝる岩間哉	23	夏	時候	夏の日
443	夏の日の大仏の背を焼きにけり	28	夏	時候	夏の日
444	夏の夜のあけ残りけり吾妻橋	21	夏	時候	夏の夜
445	夏の夜八杜の梢より明にけり	21	夏	時候	夏の夜
446	夏の夜は神の杜より明にけり	21	夏	時候	夏の夜
447	夏の夜や日暮れながらに明る不二	25	夏	時候	夏の夜

448	恐ろしき夢見て夏の夜は明ぬ	26	夏	時候	夏の夜
449	傾城をよぶ声夏の夜は明けぬ	26	夏	時候	夏の夜
450	四方から青みし夏の夜明哉	26	夏	時候	夏の夜
451	三味線の静かに夏の夜は明けぬ	27	夏	時候	夏の夜
452	露ちるや夏の夜明の小松原	28	夏	時候	夏の夜
453	人行くや夏の夜明の小松原	28	夏	時候	夏の夜
454	横雲に夏の夜あける入江哉	28	夏	時候	夏の夜
455	大水に夏の夜を寝ぬ二階かな	29	夏	時候	夏の夜
456	夏の夜やちぎれちぎれの天の川	29	夏	時候	夏の夜
457	眼鏡かけて書を読む夏の夜忙し	30	夏	時候	夏の夜
458	四時に鳥五時に雀夏の夜は明けぬ	30	夏	時候	夏の夜
459	いろいろの夢見て夏の一夜哉	31	夏	時候	夏の夜
460	さまざまの夢見て夏の一夜哉	31	夏	時候	夏の夜
461	熊阪は逃げて夏の夜明けにけり	32	夏	時候	夏の夜
462	夏の夜の廁に行けは明にけり	33	夏	時候	夏の夜
463	野狐に宿借る夏の一夜哉	33	夏	時候	夏の夜
464	山を入れ海をひかへて夏景色	26	夏	時候	夏景色
465	川水の音のすゝしき闇夜哉	21	夏	時候	涼し
466	木のあわひあわひに涼し帆かけ舟	21	夏	時候	涼し
467	涼しさのかたまりしこのこほり哉	21	夏	時候	涼し
468	涼しさのかたまりはこのこほり哉	21	夏	時候	涼し
469	涼しさのこつぶこほるゝ氷かな	21	夏	時候	涼し
470	涼しさのこほるゝなつの氷かな	21	夏	時候	涼し
471	涼しさや汐満かゝる鳥の足	21	夏	時候	涼し
472	涼しさや帆をあけかゝる舟のゆれ	21	夏	時候	涼し
473	涼しさや向ふの岸の笑ひ声	21	夏	時候	涼し
474	雪見にと聞て涼しき夕かな	21	夏	時候	涼し
475	雪見にと読て涼しき夕かな	21	夏	時候	涼し
476	涼しさや鍛冶屋の前の柳蔭	23	夏	時候	涼し
477	寝かへれば机の下に山涼し	23	夏	時候	涼し
478	涼しさの腹に入るまで涼みけり	24	夏	時候	涼し
479	涼しさや行燈消えて水の音	24	夏	時候	涼し
480	涼しさやぎぼしの花をなぶる風	24	夏	時候	涼し
481	涼しさや葉から葉へ散る蓮の露	24	夏	時候	涼し
482	汗かゝぬ女の肌の涼しさよ	25	夏	時候	涼し
483	涼しさに海へなげこむ扇かな	25	夏	時候	涼し
484	涼しさに白帆数ぞふけしき哉	25	夏	時候	涼し
485	涼しさの中に白帆の往来哉	25	夏	時候	涼し
486	涼しさの腹にとほりて秋ちかし	25	夏	時候	涼し
487	涼しさの目にしみこむや水の月	25	夏	時候	涼し
488	涼しさや馬も海向く淡井阪	25	夏	時候	涼し
489	涼しさや音に立ちよる水車	25	夏	時候	涼し
490	涼しさや風にさぼける縄簾	25	夏	時候	涼し
491	涼しさや蛙も蓮にゆられつゝ	25	夏	時候	涼し
492	涼しさや木の間木の間に家一つ	25	夏	時候	涼し
493	涼しさや客もあるじも真裸	25	夏	時候	涼し
494	涼しさや白帆白帆の風の向	25	夏	時候	涼し
495	涼しさや酢にもよごれぬ沖膾	25	夏	時候	涼し
496	涼しさや月汲みあぐる勿釣瓶	25	夏	時候	涼し
497	涼しさや月は浮世のものならず	25	夏	時候	涼し
498	すゝしさやつられた亀のそら泳き	25	夏	時候	涼し
499	涼しさや笈舟笈を取はづし	25	夏	時候	涼し
500	涼しさや友よぶ蟹の磯づたひ	25	夏	時候	涼し
501	涼しさや花火ちりこむ水の音	25	夏	時候	涼し
502	涼しさや一目一目に灯もふゑて	25	夏	時候	涼し
503	涼しさや母呂にかくるゝ後影	25	夏	時候	涼し

504	涼しさや真桑投こむ水の音	25	夏	時候	涼し
505	涼しさや両手になでる雪の鬚	25	夏	時候	涼し
506	涼しさや闇のかたなる滝の音	25	夏	時候	涼し
507	涼しさを手と手に放つ別れ哉	25	夏	時候	涼し
508	涼しさを荷ふて重し団売	25	夏	時候	涼し
509	大仏にはらわたのなき涼しさよ	25	夏	時候	涼し
510	たそがれやながめなくして不二涼し	25	夏	時候	涼し
511	露涼し氷室の山に夏桜	25	夏	時候	涼し
512	どこ見ても涼し神の灯仏の灯	25	夏	時候	涼し
513	波風や涼しき程に吹き申せ	25	夏	時候	涼し
514	富士の影崩れて涼し冷し汁	25	夏	時候	涼し
515	網さげて涼しさうなる雫哉	26	夏	時候	涼し
516	蟻一つ居ぬ下界と見えて不二涼し	26	夏	時候	涼し
517	岩三方麓を走る雲涼し	26	夏	時候	涼し
518	牛のせて涼しや淀の渡し舟	26	夏	時候	涼し
519	うつぶけに涼し河原の左大臣	26	夏	時候	涼し
520	上下の滝の中道袖すゝし	26	夏	時候	涼し
521	風涼し滝のしふきを吹き送る	26	夏	時候	涼し
522	風涼し中に鬚なき一人かな	26	夏	時候	涼し
523	風涼し髭なきは我一人哉	26	夏	時候	涼し
524	風吹てちらちら波の涼しさよ	26	夏	時候	涼し
525	鴉むれて夕日すゝしき野川哉	26	夏	時候	涼し
526	聞てみて涼しや闇の雨三更	26	夏	時候	涼し
527	経の声かすかに涼し杉木立	26	夏	時候	涼し
528	経の声聞えてすゝし杉木立	26	夏	時候	涼し
529	経の声はるかにすゝし杉木立	26	夏	時候	涼し
530	草負ふて背中にすゝし朝の露	26	夏	時候	涼し
531	草枕涼し三千の姫小松	26	夏	時候	涼し
532	雲にぬれて関山こせば袖涼し	26	夏	時候	涼し
533	くりかへし数へて涼し千松島	26	夏	時候	涼し
534	しほ釜は涼しかりしか昔こそ	26	夏	時候	涼し
535	島あれば松あり風の音すゝし	26	夏	時候	涼し
536	白鷺もこえて上野の杜涼し	26	夏	時候	涼し
537	隧道にうしろから吹く風すゝし	26	夏	時候	涼し
538	隧道のはるかに人の影すゝし	26	夏	時候	涼し
539	隧道のはるかに人の声すゝし	26	夏	時候	涼し
540	杉木立土につく手のうらすゝし	26	夏	時候	涼し
541	涼しくもがらすにとほる月夜哉	26	夏	時候	涼し
542	涼しさにうその名所も見て行きぬ	26	夏	時候	涼し
543	涼しさにかたよる桜楓かな	26	夏	時候	涼し
544	涼しさに念仏申すや寺詣り	26	夏	時候	涼し
545	すゝしさに平内石となりけり	26	夏	時候	涼し
546	涼しさにわれも鞍馬の竹伐らん	26	夏	時候	涼し
547	すゝしさの大島よりも小島哉	26	夏	時候	涼し
548	すゝしさの数は見えけり千松島	26	夏	時候	涼し
549	すゝしさのこゝからも眼にあまりけり	26	夏	時候	涼し
550	涼しさのこゝを扇のかなめかな	26	夏	時候	涼し
551	すゝしさの只水くさき匂ひかな	26	夏	時候	涼し
552	すゝしさの魂きたり千まつしま	26	夏	時候	涼し
553	すゝしさの魂出たり千松島	26	夏	時候	涼し
554	すゝしさの隣をとへば正一位	26	夏	時候	涼し
555	涼しさの中に家あり五大堂	26	夏	時候	涼し
556	涼しさの猶ありかたき昔かな	26	夏	時候	涼し
557	涼しさのはてより出たり海の月	26	夏	時候	涼し
558	すゝしさのはなれぬ名也千松島	26	夏	時候	涼し
559	すゝしさの腸にまで通りけり	26	夏	時候	涼し

560	すゝしさの一筋長し最上川	26	夏	時候	涼し
561	涼しさのほのめく闇や千松島	26	夏	時候	涼し
562	すゝしさの真中を下す小舟哉	26	夏	時候	涼し
563	涼しさの昔をかたれしのぶずり	26	夏	時候	涼し
564	すゝしさの眼にちらつくや千松島	26	夏	時候	涼し
565	涼しさは大竹原のそよぎ哉	26	夏	時候	涼し
566	涼しさは下に水行く温泉哉	26	夏	時候	涼し
567	すゝしさは燕のし行く田面哉	26	夏	時候	涼し
568	涼しさは波にゆらるゝ鷗哉	26	夏	時候	涼し
569	すゝしさや足ぶらさげる水の中	26	夏	時候	涼し
570	涼しさやあつさや町の氷みせ	26	夏	時候	涼し
571	すゝしさや海人が言葉も藻汐草	26	夏	時候	涼し
572	すゝしさや雨の音聞く小笹原	26	夏	時候	涼し
573	すゝしさやあるじまつ間の肘枕	26	夏	時候	涼し
574	涼しさや青田の中の一つ松	26	夏	時候	涼し
575	涼しさや行燈うつる夜の山	26	夏	時候	涼し
576	涼しさや池あり木あり鳥啼く	26	夏	時候	涼し
577	涼しさや糸はづしたるつくし琴	26	夏	時候	涼し
578	涼しさや牛つながれて藪の中	26	夏	時候	涼し
579	涼しさや牛のり入れる小谷川	26	夏	時候	涼し
580	涼しさや羽前をのぞく山の穴	26	夏	時候	涼し
581	涼しさや上野の森も庭の中	26	夏	時候	涼し
582	涼しさや上葉下葉の蓮の露	26	夏	時候	涼し
583	すゝしさや馬つなぎたる橋柱	26	夏	時候	涼し
584	涼しさや海にそふたる一郭	26	夏	時候	涼し
585	すゝしさや大島小島右左	26	夏	時候	涼し
586	涼しさや思ひ思ひの牛のさま	26	夏	時候	涼し
587	涼しさや風海面にひろがりて	26	夏	時候	涼し
588	すゝしさや片帆を真帆に取直し	26	夏	時候	涼し
589	涼しさや川打ちわたす馬もなし	26	夏	時候	涼し
590	すゝしさや神と仏の隣同士	26	夏	時候	涼し
591	涼しさやかもめはなれぬ杭の先	26	夏	時候	涼し
592	すゝしさや聞けば昔は鬼の家	26	夏	時候	涼し
593	すゝしさや君があたりを去りかぬる	26	夏	時候	涼し
594	涼しさや君とわれとの胸の中	26	夏	時候	涼し
595	すゝしさや雲湧き起る海三寸	26	夏	時候	涼し
596	すゝしさや此着物さへぬきすてず	26	夏	時候	涼し
597	すゝしさや此山にこの家一つ	26	夏	時候	涼し
598	すゝしさや小舟のりこむ芦の中	26	夏	時候	涼し
599	涼しさや子をよぶ牛も川の中	26	夏	時候	涼し
600	涼しさや鷺も動かぬ杭の先	26	夏	時候	涼し
601	涼しさやさらに月なき千松島	26	夏	時候	涼し
602	涼しさや雲を落す杉の月	26	夏	時候	涼し
603	すゝしさや島あり松あり白帆有り	26	夏	時候	涼し
604	涼しさや島かたふきて松一つ	26	夏	時候	涼し
605	涼しさや島から島へ橋つたひ	26	夏	時候	涼し
606	涼しさや知らぬ顔さへ同じ国	26	夏	時候	涼し
607	涼しさや石碑の数も何木立	26	夏	時候	涼し
608	すゝしさや関山こえて下り道	26	夏	時候	涼し
609	すゝしさや滝ほどばしる家のあひ	26	夏	時候	涼し
610	すゝしさや月になり行く雨の音	26	夏	時候	涼し
611	すゝしさや月に二人の亭主あり	26	夏	時候	涼し
612	涼しさや爪引ならふ舟の中	26	夏	時候	涼し
613	涼しさやともしちらつく五大堂	26	夏	時候	涼し
614	涼しさや名はなくもがなの千松島	26	夏	時候	涼し
615	涼しさやはせをも神にまつられて	26	夏	時候	涼し

616	涼しさや裸でこゆる筈根山	26	夏	時候	涼し
617	涼しさや羽生えさうな腋の下	26	夏	時候	涼し
618	すゝしさや舟うつり行千松島	26	夏	時候	涼し
619	涼しさや湊出て行く真帆片帆	26	夏	時候	涼し
620	すゝしさやむかしの人の汗のあと	26	夏	時候	涼し
621	涼しさや目高追はへる女の子	26	夏	時候	涼し
622	涼しさや山の下道川つたひ	26	夏	時候	涼し
623	涼しさや闇の夜中の水の音	26	夏	時候	涼し
624	涼しさや我船一つ鳩の海	26	夏	時候	涼し
625	涼しさやわれは禅師を夢に見ん	26	夏	時候	涼し
626	涼しさや画にもかゝるゝ五大堂	26	夏	時候	涼し
627	涼しさや雫をこぼす杉の月	26	夏	時候	涼し
628	涼しさを大竹原のそよぎ哉	26	夏	時候	涼し
629	すゝしさを君一人にもどしおく	26	夏	時候	涼し
630	すゝしさを砕けてちるか滝の玉	26	夏	時候	涼し
631	すゝしさを四文にまけて渡し守	26	夏	時候	涼し
632	涼しさをそよぎ出しけり藪の奥	26	夏	時候	涼し
633	涼しさを取にがしたる鯰かな	26	夏	時候	涼し
634	涼しさを裸にしたり座禅堂	26	夏	時候	涼し
635	涼しさを風鈴一つそよぎけり	26	夏	時候	涼し
636	背にうけて朝日すゝしや山の上	26	夏	時候	涼し
637	袖涼し島ちらばつて十八里	26	夏	時候	涼し
638	立ちよれば木の下涼し道祖神	26	夏	時候	涼し
639	ちろちろと焚火涼しや山の家	26	夏	時候	涼し
640	ちろちろと焚火すゝしや山の宿	26	夏	時候	涼し
641	月涼し蛙の声のわきあがる	26	夏	時候	涼し
642	月涼し水干露をこぼすべう	26	夏	時候	涼し
643	つり橋に乱れて涼し雨のあし	26	夏	時候	涼し
644	寺に寝る身の尊さよ涼しさよ	26	夏	時候	涼し
645	とちらから吹いても庵の涼しさよ	26	夏	時候	涼し
646	との窓を見てもすゝしや山の影	26	夏	時候	涼し
647	鳥啼て木を伐る山の奥涼し	26	夏	時候	涼し
648	二階からつかむ木末や風涼し	26	夏	時候	涼し
649	盗人もはいる此家のすゝしさよ	26	夏	時候	涼し
650	盗人のほひる此家の涼しさよ	26	夏	時候	涼し
651	のぞく目に一千年の風涼し	26	夏	時候	涼し
652	野も山もぬれて涼しき夜明かな	26	夏	時候	涼し
653	墓は皆涼しさうなり杉木立	26	夏	時候	涼し
654	袴はく足もと涼し昔ぶり	26	夏	時候	涼し
655	腹涼し袋の風を少しつゝ	26	夏	時候	涼し
656	灯ちらちら人影すゝし五大堂	26	夏	時候	涼し
657	一つ一つ吹く風涼し笛の孔	26	夏	時候	涼し
658	広瀬川細り細りて山すゝし	26	夏	時候	涼し
659	火をともし一村涼し山の陰	26	夏	時候	涼し
660	風鈴に涼しき風の姿かな	26	夏	時候	涼し
661	風鈴のほのかにすゝし竹の奥	26	夏	時候	涼し
662	笛の音の涼しう更くる野道哉	26	夏	時候	涼し
663	舟からは松家からは島すゝし	26	夏	時候	涼し
664	舟に乗る一人は涼し鳩の海	26	夏	時候	涼し
665	布袋涼し袋の風を少しつゝ	26	夏	時候	涼し
666	馬子歌のはるかに涼し木下道	26	夏	時候	涼し
667	窓あけて寝さめ涼しや檐の雲	26	夏	時候	涼し
668	迷ふても迷ふても野の涼しさよ	26	夏	時候	涼し
669	見下せば月にすゝしや四千軒	26	夏	時候	涼し
670	御仏に尻むけ居れば月涼し	26	夏	時候	涼し
671	闇涼し川の向ふの笑ひ声	26	夏	時候	涼し

672	闇涼し灯影ちらつく枕ばし	26	夏	時候	涼し
673	夕雲にちらりと涼し一つ星	26	夏	時候	涼し
674	夜はふけぬ妻は帰りぬ門涼し	26	夏	時候	涼し
675	夜もふけぬ妻も帰りぬ門涼し	26	夏	時候	涼し
676	夜も更けぬ妻も寝入りぬ門涼し	26	夏	時候	涼し
677	われはたゞ旅すゞしかれと祈る也	26	夏	時候	涼し
678	をさ橋に足のうら吹く風涼し	26	夏	時候	涼し
679	朝涼し汁粉くふべき人の顔	27	夏	時候	涼し
680	石抱て樵夫の眠る涼しさよ	27	夏	時候	涼し
681	烏帽子着て汐汲む女裾涼し	27	夏	時候	涼し
682	闇涼し金碧はげて笙の声	27	夏	時候	涼し
683	観ずれば涼しき夢のうき世哉	27	夏	時候	涼し
684	涼し黒し一船は皆丸裸	27	夏	時候	涼し
685	涼しさのはてを見て来よ外か浜	27	夏	時候	涼し
686	涼しさのはや穂に出でゝ早稲の花	27	夏	時候	涼し
687	涼しさは大楠の木のすかたかな	27	夏	時候	涼し
688	涼しさや石に注連張る山の奥	27	夏	時候	涼し
689	涼しさや上野の見ゆる曲り角	27	夏	時候	涼し
690	涼しさや上野の見ゆる町はづれ	27	夏	時候	涼し
691	涼しさや梅も桜も法の風	27	夏	時候	涼し
692	涼しさや水楼を下る白拍子	27	夏	時候	涼し
693	涼しさや人さまさまの不恰好	27	夏	時候	涼し
694	涼しさや人去て鷺舟に立つ	27	夏	時候	涼し
695	涼しさや船八分に傾きて	27	夏	時候	涼し
696	涼しさや都を出づるうしろつき	27	夏	時候	涼し
697	涼しさや柳につなぐ裸馬	27	夏	時候	涼し
698	涼しさや夕波くゞる大鳥居	27	夏	時候	涼し
699	涼しさを追はえつめたり外ヶ浜	27	夏	時候	涼し
700	須磨の浦や松に涼しき裸蟹	27	夏	時候	涼し
701	船に寝れば鷺落ちて来る涼しさよ	27	夏	時候	涼し
702	牧方や蛸は過ぎて風涼し	27	夏	時候	涼し
703	あら涼し松の下陰草もなし	28	夏	時候	涼し
704	幽霊の出るてふあたり昼涼し	28	夏	時候	涼し
705	幽霊の出る町あたり昼涼し	28	夏	時候	涼し
706	家蔵を売つて涼しき夕哉	28	夏	時候	涼し
707	海涼し白鳥向ふより来る	28	夏	時候	涼し
708	うれしさに涼しさに須磨の恋しさに	28	夏	時候	涼し
709	鐘涼し十圍の木に道尽きて	28	夏	時候	涼し
710	蜘蛛の巣の露に涼しき入日哉	28	夏	時候	涼し
711	剣ぬけばあたり涼しや頬の風	28	夏	時候	涼し
712	涼しさのはてを限るや紀伊の山	28	夏	時候	涼し
713	涼しさや淡路をめぐる真帆片帆	28	夏	時候	涼し
714	涼しさや石燈籠の穴も海	28	夏	時候	涼し
715	涼しさや雲に碁を打つ人二人	28	夏	時候	涼し
716	すゞしさや須磨の夕波横うねり	28	夏	時候	涼し
717	涼しさや内裏のあとの小笹原	28	夏	時候	涼し
718	涼しさや竹垂れかゝる橋の上	28	夏	時候	涼し
719	涼しさや波打つ際の藻汐草	28	夏	時候	涼し
720	涼しさや二階をめぐる松の風	28	夏	時候	涼し
721	涼しさや平家亡びし波の音	28	夏	時候	涼し
722	涼しさやほたりほたりと松ふぐり	28	夏	時候	涼し
723	すゞしさや松のうしろの帆掛船	28	夏	時候	涼し
724	涼しさや松の木末を走る真帆	28	夏	時候	涼し
725	涼しさや松の葉ごしの帆掛船	28	夏	時候	涼し
726	涼しさや松這ひ上る雨の蟹	28	夏	時候	涼し
727	涼しさや葎の中の水車	28	夏	時候	涼し

728	涼しさや柳のなかの夕ともし	28	夏	時候	涼し
729	涼しさや夕汐満ちて魚躍る	28	夏	時候	涼し
730	涼しさや吾ねる上に牛の面	28	夏	時候	涼し
731	すゞしさを足に砕けて須磨の波	28	夏	時候	涼し
732	須磨涼しどの旅籠屋に宿とらん	28	夏	時候	涼し
733	ちらちらと燈火涼し木の深み	28	夏	時候	涼し
734	昼中の白雲涼し中禅寺	28	夏	時候	涼し
735	松涼し海に向いたる一くるわ	28	夏	時候	涼し
736	松に波われ画にすゞし須磨の浦	28	夏	時候	涼し
737	宮一つそこらあたりの涼しさよ	28	夏	時候	涼し
738	もつれあふて涼し松風浪の音	28	夏	時候	涼し
739	夕闇や涼しき花は何の草	28	夏	時候	涼し
740	朝涼しはらりはらりと萩動く	29	夏	時候	涼し
741	鬼は熱し餓鬼は涼しと悟らずに	29	夏	時候	涼し
742	鍛冶が家の隣は涼し馬頭尊	29	夏	時候	涼し
743	君一人涼しきさまに塵ほこり	29	夏	時候	涼し
744	樹陰涼しこゝに晚餐の卓並ぶ	29	夏	時候	涼し
745	樹陰涼し茲に晩飯の卓並ぶ	29	夏	時候	涼し
746	下谷区の根岸の奥の風涼し	29	夏	時候	涼し
747	信者五六人花輪かけたる棺涼し	29	夏	時候	涼し
748	涼しげや病なくて何と病院に	29	夏	時候	涼し
749	涼しさうな処をよつて行き給へ	29	夏	時候	涼し
750	涼しさうな羅漢熱さうな羅漢哉	29	夏	時候	涼し
751	涼しさに身の毛もよだつ柳かな	29	夏	時候	涼し
752	涼しさの動く野山の緑かな	29	夏	時候	涼し
753	涼しさの須磨は帆ばかり松ばかり	29	夏	時候	涼し
754	涼しさの中に火を吹く浅間かな	29	夏	時候	涼し
755	涼しさの野を行けば帽飛ばんとす	29	夏	時候	涼し
756	涼しさの身の毛もよだつ柳かな	29	夏	時候	涼し
757	涼しさは鷗ばかりの流れかな	29	夏	時候	涼し
758	涼しさは帆につらさるゝ小舟かな	29	夏	時候	涼し
759	涼しさや雨ならんとして風起る	29	夏	時候	涼し
760	涼しさ荒壁落つる竹の風	29	夏	時候	涼し
761	涼しさや上野の山を吹きまくり	29	夏	時候	涼し
762	涼しさや魚くひつかぬ針のさき	29	夏	時候	涼し
763	涼しさや鶯を出づれば滝の茶屋	29	夏	時候	涼し
764	涼しさや風吹く馬の額髪	29	夏	時候	涼し
765	涼しさや小家の前の麓川	29	夏	時候	涼し
766	涼しさや椎の裏葉を吹き返し	29	夏	時候	涼し
767	涼しさや通りぬけたる滝の裏	29	夏	時候	涼し
768	涼しさや那須山嵐草靡く	29	夏	時候	涼し
769	涼しさや森の木の間に帆が見えて	29	夏	時候	涼し
770	禅寺に何もなきこそ涼しけれ	29	夏	時候	涼し
771	どち風が吹いても庵の涼しよ	29	夏	時候	涼し
772	なかなか思ひたえぬる涼しさよ	29	夏	時候	涼し
773	庭先や夕風うけて萩涼し	29	夏	時候	涼し
774	早く行け涼しき国と聞くからに	29	夏	時候	涼し
775	噴水の水ふりかけて月涼し	29	夏	時候	涼し
776	又けふも涼しき道へ誰が柩	29	夏	時候	涼し
777	もの涼し春日の巫の眼に惚れた	29	夏	時候	涼し
778	風涼しく詩の舟少しおくれたり	30	夏	時候	涼し
779	十字架の涼しく放つ光かな	30	夏	時候	涼し
780	涼しさや滝を茶に煮る滝の茶屋	30	夏	時候	涼し
781	涼しさや芭蕉に起る風の音	30	夏	時候	涼し
782	砂浜に雑魚打あけて月涼し	30	夏	時候	涼し
783	庭涼し小流れ走る山の寺	30	夏	時候	涼し

784	八万の毛穴に滝の風涼し	30	夏	時候	涼し
785	金持は涼しき家に住みにけり	31	夏	時候	涼し
786	神鳴の雲をふまへて星涼し	31	夏	時候	涼し
787	鷺の立つ中洲の草や川涼し	31	夏	時候	涼し
788	涼しさや川を隔つる灯は待乳	31	夏	時候	涼し
789	涼しさやまはり燈籠に灯をともす	31	夏	時候	涼し
790	須磨涼し唐人どもの夕餉時	31	夏	時候	涼し
791	第三の石門涼し雲の上	31	夏	時候	涼し
792	月に水涼しき夕神あらん	31	夏	時候	涼し
793	海に映る一番星や浜涼し	32	夏	時候	涼し
794	手をあてゝ手の腹涼し鐘の疣	32	夏	時候	涼し
795	古沢や月に涼しき鷺の夢	32	夏	時候	涼し
796	修竹千竿灯漏れて暮の音涼し	35	夏	時候	涼し
797	すゝしさの皆打扮や袴能	35	夏	時候	涼し
798	涼しさや青梅の写生、五六枚	不詳	夏	時候	涼し
799	世の土用知らぬ行脚の木曾路哉	25	夏	時候	土用
800	世の土用知らぬ木曾路の行脚哉	25	夏	時候	土用
801	柿の実の青くて細き土用哉	26	夏	時候	土用
802	木枕にわれ目の見ゆる土用哉	26	夏	時候	土用
803	草の葉の黄色勝なる土用哉	26	夏	時候	土用
804	松島に風のさかりの土用哉	26	夏	時候	土用
805	松島の松見に行かん土用の入	26	夏	時候	土用
806	ほろほると朝雨こぼす土用哉	28	夏	時候	土用
807	村医者 of 洋服着たる土用哉	28	夏	時候	土用
808	夜の雨や暁晴れて土用の入	28	夏	時候	土用
809	南京の人とのりあふ土用哉	29	夏	時候	土用
810	星凍る銀明水や土用の入	29	夏	時候	土用
811	土用に入りて雨あり米の上るべく	30	夏	時候	土用
812	土用に入て雨あり米価乱高下	30	夏	時候	土用
813	涌き立つや土用の空の阿波太郎	30	夏	時候	土用
814	蒲焼の土用も過ぎて帰りけり	31	夏	時候	土用
815	湯婆踏で淡雪かむや今土用	35	夏	時候	土用
816	人唇の身は死もせで夏寒し	26	夏	時候	夏寒し
817	夜涼如水三味引キヤメテ下り舟	35	夏	時候	夜の秋
818	秋近き窓のながめや小富士松	25	夏	時候	秋近し
819	朝顔の朝々咲て秋近し	25	夏	時候	秋近し
820	朝顔の一日一日にあき近し	25	夏	時候	秋近し
821	一夜さは物も思ふて秋近し	25	夏	時候	秋近し
822	秋近し桔梗を契る別れ哉	26	夏	時候	秋近し
823	秋近し七夕恋ふる小傾城	26	夏	時候	秋近し
824	鏡見てあるや遊女の秋近き	26	夏	時候	秋近し
825	松が根に小草花さく秋隣	26	夏	時候	秋近し
826	山里や秋を隣に麦をこぐ	26	夏	時候	秋近し
827	夜咄や浦の筈屋の秋近き	26	夏	時候	秋近し
828	秋近く朝顔の花開きけり	28	夏	時候	秋近し
829	ゆふべゆふべ何やら啼いて秋近し	29	夏	時候	秋近し
830	ゆふべゆふべひぐらし鳴いて秋近し	29	夏	時候	秋近し
831	秋近く桔梗は咲てしまひけり	30	夏	時候	秋近し
832	秋近し朝顔の花ニツ咲く	33	夏	時候	秋近し
833	下尽見ゆる座敷や朝の風薫る	21	夏	天文	薫風
834	足もとに絵のしま見えて風薫る	24	夏	天文	薫風
835	かきわける白のゝれんや風薫る	25	夏	天文	薫風
836	かきわける花暖簾や風薫	25	夏	天文	薫風
837	風かをるあとに散りけり青松葉	25	夏	天文	薫風
838	鷺一つ立て青田の風薫	25	夏	天文	薫風
839	すただしに苔ふむたびや風薫	25	夏	天文	薫風

840	夏草や君わけ行けば風薫る	25	夏	天文	薫風
841	夏不二の雪見て居れば風薫る	25	夏	天文	薫風
842	踏みならず橘橋や風かをる	25	夏	天文	薫風
843	松の木に風蘭もありかせ薫	25	夏	天文	薫風
844	招く手の裏を汐風かをりけり	25	夏	天文	薫風
845	雪の鬚なてる手もとや風薫	25	夏	天文	薫風
846	雪の間に小富士の風の薫りけり	25	夏	天文	薫風
847	新らしき垣根つゞきや風かをる	26	夏	天文	薫風
848	国なまり故郷千里の風かをる	26	夏	天文	薫風
849	白百合のかぶりふる時風かをる	26	夏	天文	薫風
850	その人の足あとふめば風かをる	26	夏	天文	薫風
851	滝壺に這ひ出る松の風かをる	26	夏	天文	薫風
852	旅人のいたづらよりぞ風かをる	26	夏	天文	薫風
853	水上に滝白う見えて風かをる	26	夏	天文	薫風
854	良二千石虎行くあとの風かをる	26	夏	天文	薫風
855	石毎に松もつ谷の風薫る	27	夏	天文	薫風
856	風熱く大和心の薫りけり	27	夏	天文	薫風
857	古杉や三百年の風薫る	27	夏	天文	薫風
858	松島や舟は片帆の風かをる	27	夏	天文	薫風
859	破風赤く風緑なり寛永寺	27	夏	天文	薫風
860	御白粉の風薫るなり柳橋	28	夏	天文	薫風
861	薫風や裸の上に松の影	28	夏	天文	薫風
862	古杉の風薫りけり奥の院	28	夏	天文	薫風
863	母屋の御簾に葵の枯葉風薫る	28	夏	天文	薫風
864	絵島見えて夕風薫る衣桁哉	28	夏	天文	薫風
865	春日野や薫風含む巫の袖	29	夏	天文	薫風
866	石菖や薫風起るへごの鉢	29	夏	天文	薫風
867	松風の匂はゞ須磨の朝の内	29	夏	天文	薫風
868	薫風や音羽の滝を吹き散らす	30	夏	天文	薫風
869	薫風や大文字を吹く神の杜	30	夏	天文	薫風
870	薫風や舟を放つてはまち釣	30	夏	天文	薫風
871	脇息に薫風細き腕を吹く	30	夏	天文	薫風
872	鼓聞え謡聞え松の風薫る	30	夏	天文	薫風
873	絵の島や薫風魚の新しき	30	夏	天文	薫風
874	薫風に袂ふくらむ馬上哉	31	夏	天文	薫風
875	薫風や煙草の煙吹ちらす	31	夏	天文	薫風
876	薫風や松島の記をひるかへす	32	夏	天文	薫風
877	薫風や松島の記を吹きがへす	32	夏	天文	薫風
878	薫風や千山の緑寺一つ	33	夏	天文	薫風
879	柴進の表巫敷や風薫る	33	夏	天文	薫風
880	薫風吹くれ袖釣竿担く者は我	35	夏	天文	薫風
881	江の島や薫風魚の新らしき	不詳	夏	天文	薫風
882	真帆片帆どこまで行くぞ青嵐	24	夏	天文	青嵐
883	一村は卯つ木も見えず青嵐	25	夏	天文	青嵐
884	城山の浮ひ上るや青あらし	25	夏	天文	青嵐
885	城山の浮み上るや青嵐	25	夏	天文	青嵐
886	そよそよと山伏ふくや青嵐	25	夏	天文	青嵐
887	野あるきや内で思へは青あらし	25	夏	天文	青嵐
888	白芥のうしろの原や青嵐	25	夏	天文	青嵐
889	一筋に煙草けふるや青嵐	25	夏	天文	青嵐
890	ふしつくは都ふきこす青嵐	25	夏	天文	青嵐
891	山へ来て絵島近し青嵐	25	夏	天文	青嵐
892	うねうねと山脈低し青嵐	25	夏	天文	青嵐
893	汽車見る見る山を上るや青嵐	26	夏	天文	青嵐
894	十万家眼下に低し青嵐	26	夏	天文	青嵐
895	雀細り細りて見えず青嵐	26	夏	天文	青嵐

896	武蔵野の隅に江戸あり青嵐	26	夏	天文	青嵐
897	青嵐大船つくる川辺哉	27	夏	天文	青嵐
898	島一つ見えず広野の青嵐	27	夏	天文	青嵐
899	山もなし只ひろびろと青嵐	27	夏	天文	青嵐
900	片谷へ雲吹き落せ青嵐	28	夏	天文	青嵐
901	真帆片帆右は播磨の青嵐	28	夏	天文	青嵐
902	見下すや城は田中の青嵐	28	夏	天文	青嵐
903	岡の上に馬ひかえたり青嵐	28	夏	天文	青嵐
904	青嵐煙突の煙北へ吹く	29	夏	天文	青嵐
905	住吉は松の中なり青嵐	29	夏	天文	青嵐
906	千住出れば奥街道の青嵐	29	夏	天文	青嵐
907	其中に楠高し青嵐	29	夏	天文	青嵐
908	大仏の頭吹きけり青嵐	29	夏	天文	青嵐
909	大仏の頭吹くなり青嵐	29	夏	天文	青嵐
910	旅人の青嵐の中を下りけり	29	夏	天文	青嵐
911	青嵐上野の杜も庭の内	31	夏	天文	青嵐
912	君みます空のいらかや青嵐	31	夏	天文	青嵐
913	三騎先へ一騎おくるゝ青嵐	31	夏	天文	青嵐
914	青嵐去来や来ると門に立つ	35	夏	天文	青嵐
915	五月雨の晴間や屋根を直す音	22	夏	天文	五月雨
916	五月雨や神経病の直りぎは	22	夏	天文	五月雨
917	つくねんと大仏たつや五月雨	22	夏	天文	五月雨
918	暮の音に壁の落ちけり五月雨	23 ~	夏	天文	五月雨
919	暮丁々荒壁落つる五月雨	24	夏	天文	五月雨
920	五月雨や青葉のそこの窓明り	24	夏	天文	五月雨
921	五月雨や傾城のぞく物の本	24	夏	天文	五月雨
922	日の中に昼も夜もあり五月雨	24	夏	天文	五月雨
923	折りもをり岐岨の旅路を五月雨	24	夏	天文	五月雨
924	大粒になつてはれけり五月雨	25	夏	天文	五月雨
925	梯や水にもおちず五月雨	25	夏	天文	五月雨
926	棧や水へも落ちず五月雨	25	夏	天文	五月雨
927	かけ橋や水より上を五月雨	25	夏	天文	五月雨
928	暮れかけて又日のさすや五月雨	25	夏	天文	五月雨
929	五月雨にいよいよ青し木曾の川	25	夏	天文	五月雨
930	五月雨に菅の笠ぬぐ別れ哉	25	夏	天文	五月雨
931	五月雨に一筋白き幟かな	25	夏	天文	五月雨
932	五月雨に御幸を拝む晴間哉	25	夏	天文	五月雨
933	五月雨の雲やちぎれてほとゝぎす	25	夏	天文	五月雨
934	五月雨は藜の色にしくれけり	25	夏	天文	五月雨
935	五月雨は藜の色を時雨けり	25	夏	天文	五月雨
936	五月雨は杉にかたよる上野哉	25	夏	天文	五月雨
937	五月雨は腹にもあるや腸かたる	25	夏	天文	五月雨
938	五月雨やけふも上野を見てくらす	25	夏	天文	五月雨
939	五月雨や墨田を落す筏舟	25	夏	天文	五月雨
940	五月雨や漁婦ぬれて行くかゝえ帯	25	夏	天文	五月雨
941	五月雨や流しに青む苔の花	25	夏	天文	五月雨
942	五月雨やながめてくらす舞扇	25	夏	天文	五月雨
943	はたごやに蠅うつ客や五月雨	25	夏	天文	五月雨
944	筆につく墨のねばりや五月雨	25	夏	天文	五月雨
945	蓮生の髯ものびけり五月雨	25	夏	天文	五月雨
946	折からの木曾の旅路を五月雨	25	夏	天文	五月雨
947	いたつきに名のつきそむる五月雨	26	夏	天文	五月雨
948	一村は杉の木の間に五月雨	26	夏	天文	五月雨
949	面白や牛のうたひも五月雨	26	夏	天文	五月雨
950	限りなき海のけしきや五月雨	26	夏	天文	五月雨
951	かしこさに禰宜も瘦せけり五月雨	26	夏	天文	五月雨

952	風吹て晴れんとす也五月雨	26	夏	天文	五月雨
953	壁をもる牛の匂ひや五月雨	26	夏	天文	五月雨
954	木曾三日山の中也五月雨	26	夏	天文	五月雨
955	雲か山か不二かあらぬか五月雨	26	夏	天文	五月雨
956	傾城の文とゝきけり五月雨	26	夏	天文	五月雨
957	傾城や年よりそむる五月雨	26	夏	天文	五月雨
958	鷺飛で牛居る沢や五月雨	26	夏	天文	五月雨
959	定めなき身を五月雨の照り曇り	26	夏	天文	五月雨
960	五月雨に瀬のかはりてや鷺の足	26	夏	天文	五月雨
961	五月雨の足駄買ふ事忘れたり	26	夏	天文	五月雨
962	五月雨の哀れを尽す夜鷹哉	26	夏	天文	五月雨
963	五月雨の崩れもやらぬほこら哉	26	夏	天文	五月雨
964	五月雨の隅田見に出る戸口哉	26	夏	天文	五月雨
965	五月雨の茶からもたまる日数哉	26	夏	天文	五月雨
966	五月雨の中に天山星が岡	26	夏	天文	五月雨
967	五月雨や朝日夕日の少しつゝ	26	夏	天文	五月雨
968	さみたれやいつもの窓に琴もなし	26	夏	天文	五月雨
969	五月雨や覚えた謡皆になり	26	夏	天文	五月雨
970	五月雨や亀はひ上る早苗舟	26	夏	天文	五月雨
971	五月雨やくたびれ顔の鹿の妻	26	夏	天文	五月雨
972	五月雨や小牛の角の蝸牛	26	夏	天文	五月雨
973	五月雨や小膝にあまる文の丈	26	夏	天文	五月雨
974	五月雨や五月雨や碑文二千年	26	夏	天文	五月雨
975	五月雨やだまつて早苗とる女	26	夏	天文	五月雨
976	五月雨や田蓑の島の草枕	26	夏	天文	五月雨
977	五月雨や月出るかたの薄明り	26	夏	天文	五月雨
978	五月雨や月出る頃の薄明り	26	夏	天文	五月雨
979	五月雨やともし火もるゝ藪の家	26	夏	天文	五月雨
980	五月雨や檐端を渡る峰の雲	26	夏	天文	五月雨
981	五月雨や糊のはなるゝ花がるた	26	夏	天文	五月雨
982	五月雨や畠にならぶ杉の苗	26	夏	天文	五月雨
983	五月雨や芳原の灯のまばら也	26	夏	天文	五月雨
984	退屈や糸の小口もさみだるゝ	26	夏	天文	五月雨
985	蝸牛の喧嘩見に出ん五月雨	26	夏	天文	五月雨
986	蝸牛の角のぶ頃や五月雨	26	夏	天文	五月雨
987	苦の上に苔の生ひけり五月雨	26	夏	天文	五月雨
988	並杉のくさるかと思ふ五月雨	26	夏	天文	五月雨
989	古くさき咄の多し五月雨	26	夏	天文	五月雨
990	道ふさぐ竹のたわみや五月雨	26	夏	天文	五月雨
991	水瓶に蛙うくなり五月雨	26	夏	天文	五月雨
992	牛若の鞍馬上るや五月雨	27	夏	天文	五月雨
993	うつくしき棺行くなり五月雨	27	夏	天文	五月雨
994	控木に五月雨の茸並びけり	27	夏	天文	五月雨
995	馬で行け和田塩尻の五月雨	27	夏	天文	五月雨
996	大空やどこにたゝへて五月雨	27	夏	天文	五月雨
997	かけ橋や五月雨雲を笠の端	27	夏	天文	五月雨
998	清水のともし火高し五月雨	27	夏	天文	五月雨
999	五月雨三百人の眠気なり	27	夏	天文	五月雨
1000	五月雨に向ふの見えぬ老馬かな	27	夏	天文	五月雨
1001	五月雨の石切り出だす深山哉	27	夏	天文	五月雨
1002	五月雨の岩並びけり妙義山	27	夏	天文	五月雨
1003	五月雨の木曾は面白い処ぞや	27	夏	天文	五月雨
1004	五月雨の木の間に暗し大伽藍	27	夏	天文	五月雨
1005	五月雨の雲許りなり箱根山	27	夏	天文	五月雨
1006	五月雨の*(白+?)生ゆらんか蝶の羽	27	夏	天文	五月雨

1007	五月雨の鳥啼く木立庭広し	27	夏	天文	五月雨
1008	五月雨の化物やしき古にけり	27	夏	天文	五月雨
1009	五月雨のふらんとすなり秩父山	27	夏	天文	五月雨
1010	五月雨や金の小笠の馬印	27	夏	天文	五月雨
1011	五月雨や簀の子の下の大茸	27	夏	天文	五月雨
1012	五月雨や天にひつゝく不二の山	27	夏	天文	五月雨
1013	五月雨や鶏上る大々鼓	27	夏	天文	五月雨
1014	山門や木の枝垂れて五月雨	27	夏	天文	五月雨
1015	城跡の石垣はかり五月雨	27	夏	天文	五月雨
1016	窓掛のがらすに赤し五月雨	27	夏	天文	五月雨
1017	言ひのこす詞のはしぞ五月雨るゝ	28	夏	天文	五月雨
1018	牛追ふて行く藪陰や五月雨	28	夏	天文	五月雨
1019	椽側に棒ふる人や五月雨	28	夏	天文	五月雨
1020	大家や降るとも知らず五月雨	28	夏	天文	五月雨
1021	君が身に五月雨晴れぬきのふけふ	28	夏	天文	五月雨
1022	この二日五月雨なんと降るべからず	28	夏	天文	五月雨
1023	ころしもやけふも病む身にさみだるゝ	28	夏	天文	五月雨
1024	五月雨大井の橋はなかりけり	28	夏	天文	五月雨
1025	五月雨人居て舟の煙りかな	28	夏	天文	五月雨
1026	五月雨の雲を巻きこむ早瀬哉	28	夏	天文	五月雨
1027	五月雨や牛に乗たる宇都の山	28	夏	天文	五月雨
1028	五月雨や蟹の這ひ出る手水鉢	28	夏	天文	五月雨
1029	五月雨や築地をかくす八重葎	28	夏	天文	五月雨
1030	五月雨や泥鱈ふつたる潦	28	夏	天文	五月雨
1031	五月雨や泥鱈湧たる井戸の端	28	夏	天文	五月雨
1032	五月雨や葎の中の古築地	28	夏	天文	五月雨
1033	泥川の海にそゝぐや五月あめ	28	夏	天文	五月雨
1034	人並ぶ寮の廊下や五月雨	28	夏	天文	五月雨
1035	三井寺や湖濛々と五月雨	28	夏	天文	五月雨
1036	赤き薔薇白き薔薇皆さみだるゝ	29	夏	天文	五月雨
1037	街道に馬糞も見えず五月雨	29	夏	天文	五月雨
1038	かち渡る人流れんとす五月雨	29	夏	天文	五月雨
1039	雷の声五月雨これに力得て	29	夏	天文	五月雨
1040	今日も亦君返さじとさみだるゝ	29	夏	天文	五月雨
1041	五月雨三味線を引く隣哉	29	夏	天文	五月雨
1042	五月雨に火種の消えし不動哉	29	夏	天文	五月雨
1043	五月雨の傘ばかりなり仲の町	29	夏	天文	五月雨
1044	五月雨の合羽つゝぱる刀かな	29	夏	天文	五月雨
1045	五月雨の合羽を出たる刀かな	29	夏	天文	五月雨
1046	五月雨のかびや生ゆらん鯉の背	29	夏	天文	五月雨
1047	五月雨の雲這ひわたる那須野哉	29	夏	天文	五月雨
1048	五月雨の小草生えたる土俵哉	29	夏	天文	五月雨
1049	五月雨の竹を羨む檜哉	29	夏	天文	五月雨
1050	五月雨のどしゃぶりに根の抜けんとす	29	夏	天文	五月雨
1051	五月雨のともし少き小村かな	29	夏	天文	五月雨
1052	五月雨の泥を流して海黄なり	29	夏	天文	五月雨
1053	五月雨の眠るが如くふりにけり	29	夏	天文	五月雨
1054	五月雨のはだしで乗りし渡し哉	29	夏	天文	五月雨
1055	五月雨のはだしでのりて渡し哉	29	夏	天文	五月雨
1056	五月雨の晴れなんとして靄深し	29	夏	天文	五月雨
1057	五月雨の早のと菊の手入れかな	29	夏	天文	五月雨
1058	五月雨のみぐるし山とぬかしけり	29	夏	天文	五月雨
1059	五月雨の森の中なり塔一重	29	夏	天文	五月雨
1060	五月雨の宿借りし家に娘あり	29	夏	天文	五月雨
1061	五月雨は人の涙と思ふべし	29	夏	天文	五月雨
1062	五月雨や仮橋ゆるぐ大井川	29	夏	天文	五月雨

1063	五月雨や下駄屋の前で下駄をきる	29	夏	天文	五月雨
1064	五月雨や五里の旅路の桑畠	29	夏	天文	五月雨
1065	五月雨やしとゞ濡れたる恋衣	29	夏	天文	五月雨
1066	五月雨や庄屋にとまる役人衆	29	夏	天文	五月雨
1067	五月雨や三味線をひく隣哉	29	夏	天文	五月雨
1068	五月雨や薄生ひそふ山の道	29	夏	天文	五月雨
1069	五月雨や大木並ぶ窓の外	29	夏	天文	五月雨
1070	五月雨や戸をおろしたる野の小店	29	夏	天文	五月雨
1071	五月雨や榛の木立てる水の中	29	夏	天文	五月雨
1072	五月雨や水汲みに行く下駄の跡	29	夏	天文	五月雨
1073	五月雨や宿屋の膳の干蕨	29	夏	天文	五月雨
1074	五月雨やわつかに月のあり処	29	夏	天文	五月雨
1075	五月雨や岡長々と王子迄	29	夏	天文	五月雨
1076	雪院に黒き虫這ふ五月雨	29	夏	天文	五月雨
1077	大仏やだらりだらりと五月雨	29	夏	天文	五月雨
1078	出女のなじみそめけり五月雨	29	夏	天文	五月雨
1079	何もなき水田の上や五月雨	29	夏	天文	五月雨
1080	抜道は川となりけり五月雨	29	夏	天文	五月雨
1081	抜道は草露けしや五月雨	29	夏	天文	五月雨
1082	野の道を傘往来す五月雨	29	夏	天文	五月雨
1083	橋杭のいとゞ短し五月雨	29	夏	天文	五月雨
1084	橋杭のいよゞ短し五月雨	29	夏	天文	五月雨
1085	蓮池の浮葉水こす五月雨	29	夏	天文	五月雨
1086	船車さみだれぬやうに行きたまへ	29	夏	天文	五月雨
1087	溝川に枝覆ひかゝる五月雨	29	夏	天文	五月雨
1088	目さませば今日も朝からさみたるゝ	29	夏	天文	五月雨
1089	目さむれば今日も朝からさみたるゝ	29	夏	天文	五月雨
1090	五月雨や足駄岩を踏で滝を見る	30	夏	天文	五月雨
1091	今日は又足が痛みぬ五月雨	31	夏	天文	五月雨
1092	五月雨や鬼の血剥る羅生門	31	夏	天文	五月雨
1093	五月雨や小き虫落つ本の上	31	夏	天文	五月雨
1094	五月雨や虫落来る本の上	31	夏	天文	五月雨
1095	地車の轍の跡や五月雨	31	夏	天文	五月雨
1096	一人居る編輯局や五月雨	31	夏	天文	五月雨
1097	山吹の余花に卵の花くだし哉	31	夏	天文	五月雨
1098	草鞋はいて傘買ふ旅の五月雨	31	夏	天文	五月雨
1099	五月雨やちひさき家の土細工	32	夏	天文	五月雨
1100	椎の舎の主病みたり五月雨	32	夏	天文	五月雨
1101	田植見る二階の窓や五月雨	32	夏	天文	五月雨
1102	五月雨や上野の山も見あきたり	34	夏	天文	五月雨
1103	五月雨や背戸に落ちあふ傘と傘	34	夏	天文	五月雨
1104	五月雨や畳に上る青蛙	34	夏	天文	五月雨
1105	五月雨や棚へとりつくものゝ蔓	34	夏	天文	五月雨
1106	根だ揺く川辺の宿や五月雨	34	夏	天文	五月雨
1107	病人に鯛の見舞や五月雨	34	夏	天文	五月雨
1108	病人の枕ならべて五月雨	34	夏	天文	五月雨
1109	この祭いつも卵の花くだしにて	35	夏	天文	五月雨
1110	五月雨や善き硯石借り得たり	35	夏	天文	五月雨
1111	蜘蛛の巣やふじ引かゝる五月晴	23	夏	天文	五月晴
1112	おしあふてくる萍や五月晴	25	夏	天文	五月晴
1113	鼓鳴る芝山内や五月晴	25	夏	天文	五月晴
1114	うれしさや小草影もつ五月晴	26	夏	天文	五月晴
1115	顎の鬚に風あり五月晴	26	夏	天文	五月晴
1116	五月晴やあつい天気にかゝる	26	夏	天文	五月晴
1117	五月晴や窓をひらけば上野山	26	夏	天文	五月晴
1118	五月晴や病の窓の西日影	26	夏	天文	五月晴

1119	見えそめて青雲うれし五月晴	26	夏	天文	五月晴
1120	夕顔の苗売る声や五月晴	26	夏	天文	五月晴
1121	瘦畑や物種栽うる五月晴	27	夏	天文	五月晴
1122	山畑や物種栽る五月晴	27	夏	天文	五月晴
1123	木のまたに朝日出でけり五月晴	29	夏	天文	五月晴
1124	下駄洗ふ音無川や五月晴	30	夏	天文	五月晴
1125	椎の木に鶯鳴きぬ五月晴	30	夏	天文	五月晴
1126	早咲の朝顔赤し五月晴	30	夏	天文	五月晴
1127	一群の托鉢僧や五月晴	34	夏	天文	五月晴
1128	病床をそと移しけり五月晴	34	夏	天文	五月晴
1129	露店の傘負け顔や五月晴	34	夏	天文	五月晴
1130	椎の木に鶯鳴くや五月晴	34	夏	天文	五月晴
1131	満園の露日に動く五月晴	34	夏	天文	五月晴
1132	カナリヤの卵腐りぬ五月晴	35	夏	天文	五月晴
1133	薔薇を剪る鋏刀の音や五月晴	35	夏	天文	五月晴
1134	梅雨晴やとところとに蟻の道	21	夏	天文	梅雨晴
1135	入梅晴やあかるい雲にこのあつさ	24	夏	天文	梅雨晴
1136	梅雨晴にさはるものなし一本木	25	夏	天文	梅雨晴
1137	入梅晴の朝より高し雲の峰	25	夏	天文	梅雨晴
1138	梅雨晴の風に戻りし柳哉	25	夏	天文	梅雨晴
1139	梅雨晴や朝日にけぶる杉の杜	25	夏	天文	梅雨晴
1140	入梅晴や風にもどりし夏柳	25	夏	天文	梅雨晴
1141	梅雨晴やかびにならずふじの雪	25	夏	天文	梅雨晴
1142	梅雨晴やけさ天窓の煤のいろ	25	夏	天文	梅雨晴
1143	梅雨晴やふじひつかゝる蜘蛛の網	25	夏	天文	梅雨晴
1144	梅雨晴や窓を開けば上野山	26	夏	天文	梅雨晴
1145	入梅晴やあつい天気にとりかゝる	26	夏	天文	梅雨晴
1146	梅雨晴や太鼓打ち出す芝居小屋	28	夏	天文	梅雨晴
1147	五月雨晴や大仏の頭あらはるゝ	28	夏	天文	梅雨晴
1148	梅雨晴れて某日夕立来るかな	29	夏	天文	梅雨晴
1149	梅雨晴れて水無月の風窓に吹く	29	夏	天文	梅雨晴
1150	梅雨晴の朝日に松の雫かな	29	夏	天文	梅雨晴
1151	梅雨晴や上野の鶯はいつも鳴く	29	夏	天文	梅雨晴
1152	梅雨晴れんとして上野の鶯の低く舞ふ	29	夏	天文	梅雨晴
1153	降るものにして日和は梅雨のまうけもの	29	夏	天文	梅雨晴
1154	梅雨晴や蝸鳴いて松の風	30	夏	天文	梅雨晴
1155	梅雨晴や蝸鳴くと書く日記	35	夏	天文	梅雨晴
1156	金山に夜の光りやさつき闇	26	夏	天文	五月闇
1157	五月闇あやめもふかぬ軒は哉	26	夏	天文	五月闇
1158	豆腐屋の谷中こゆ也五月闇	26	夏	天文	五月闇
1159	ひらめくや太刀の稲妻五月闇	26	夏	天文	五月闇
1160	夜も昼もうつらうつらと五月闇	26	夏	天文	五月闇
1161	覚束などこ迄いても五月闇	28	夏	天文	五月闇
1162	船の外五月の闇のはてもなし	28	夏	天文	五月闇
1163	ごほごほと海鳴る音や五月闇	29	夏	天文	五月闇
1164	大仏や眼許り光る五月闇	29	夏	天文	五月闇
1165	とんねるに水踏む音や五月闇	29	夏	天文	五月闇
1166	白はえや写字する窓の時明り	32	夏	天文	白南風
1167	白朶や写本の窓の時明り	32	夏	天文	白南風
1168	南風や隣の鯉を吹いて来る	30	夏	天文	南風
1169	青東風や空にたゞよふ天主閣	25	夏	天文	土用東風
1170	土用東風船玄海にかゝりけり	28	夏	天文	土用東風
1171	土用東風船玄海へかゝりけり	28	夏	天文	土用東風
1172	夏嵐机上の白紙飛び尽す	29	夏	天文	夏嵐
1173	夏嵐にわかになる野道哉	29	夏	天文	夏嵐
1174	夏雲や辰巳にあるを阿波太郎	31	夏	天文	夏の雲

1175	秋風はまだこえかねつ雲の峯	22	夏	天文	雲の峯
1176	かちあふて一ツになるや雲の峯	23	夏	天文	雲の峯
1177	鰻まつ間をいく崩れ雲の峯	24	夏	天文	雲の峯
1178	不二山にくづれかゝるや雲の峯	24	夏	天文	雲の峯
1179	井の水につるべとどかず雲のみね	24	夏	天文	雲の峯
1180	赤門に角帽見えす雲の峯	25	夏	天文	雲の峯
1181	雲の峯つひに白帆の上りけり	25	夏	天文	雲の峯
1182	雲の峯に扇をかざす野中哉	25	夏	天文	雲の峯
1183	雲の峯の麓に一人牛房引	25	夏	天文	雲の峯
1184	谷底に見あげて涼し雲の峯	25	夏	天文	雲の峯
1185	野の道に撫子咲きぬ雲の峯	25	夏	天文	雲の峯
1186	むさし野に立ち並びけり雲の峯	25	夏	天文	雲の峯
1187	むさしのや川上遠き雲の峯	25	夏	天文	雲の峯
1188	海へだつ上総は低し雲の峯	26	夏	天文	雲の峯
1189	雲の峯徐福か船は遥かなり	26	夏	天文	雲の峯
1190	雲の峯並んで低し海の上	26	夏	天文	雲の峯
1191	雲の峯ならんで低し海のはて	26	夏	天文	雲の峯
1192	此風が吹き出しさうな雲の峯	26	夏	天文	雲の峯
1193	此枝の山十つみあげて雲の峯	26	夏	天文	雲の峯
1194	昼顔のつるの先なり雲の峯	26	夏	天文	雲の峯
1195	風鈴の音にちりけり雲の峯	26	夏	天文	雲の峯
1196	風鈴の風にちりけり雲の峯	26	夏	天文	雲の峯
1197	船路さて行けとも行けとも雲の峯	26	夏	天文	雲の峯
1198	真黒な蝶の狂ひけり雲の峯	26	夏	天文	雲の峯
1199	真黒な蝶の狂ひや雲の峯	26	夏	天文	雲の峯
1200	見てをれば根から崩れて雲の峯	26	夏	天文	雲の峯
1201	物干のうしろにわくや雲の峯	26	夏	天文	雲の峯
1202	山を出てはしめて高し雲の峯	26	夏	天文	雲の峯
1203	海の果や白帆出て来る雲の峯	27	夏	天文	雲の峯
1204	裏山の出城崩れて雲の峯	27	夏	天文	雲の峯
1205	大島も小島も細し雲の峯	27	夏	天文	雲の峯
1206	雲の峯華巖の滝は涸れにけり	27	夏	天文	雲の峯
1207	雲の峯朦朧雲に隠れ行く	27	夏	天文	雲の峯
1208	雲の峯凌雲閣に並びけり	27	夏	天文	雲の峯
1209	砂漠千里小草も見えず雲の峯	27	夏	天文	雲の峯
1210	電信のはりがね多し雲の峯	27	夏	天文	雲の峯
1211	夕栄や雲の峯々片くづれ	27	夏	天文	雲の峯
1212	かさなるや影と日向の雲の峯	28	夏	天文	雲の峯
1213	雲の峯大路二つに分れけり	28	夏	天文	雲の峯
1214	雲の峯白帆南にむらがれり	28	夏	天文	雲の峯
1215	暮れ行くや影と日向の雲の峯	28	夏	天文	雲の峯
1216	鉄橋に頭出しけり雲の峯	28	夏	天文	雲の峯
1217	一船は皆裸なり雲の峯	28	夏	天文	雲の峯
1218	二色に影と日向の雲の峯	28	夏	天文	雲の峯
1219	帆の多き阿蘭陀船や雲の峯	28	夏	天文	雲の峯
1220	湖や日枝に上れば雲の峯	28	夏	天文	雲の峯
1221	ゆふかたや影と日向の雲の峯	28	夏	天文	雲の峯
1222	夕栄や月も出て居て雲の峯	28	夏	天文	雲の峯
1223	湧き返る人の頭や雲の峯	28	夏	天文	雲の峯
1224	朝晴や箱根出かぬる雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1225	荒海をおさへて立ちぬ雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1226	家もなし棉の畠の雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1227	蟒の住む沼涸れて雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1228	押され来て西へ流れぬ雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1229	雲の峯天龍細く流れけり	29	夏	天文	雲の峯
1230	雲の峯駱駝に水を飲ませけり	29	夏	天文	雲の峯

1231	沙漠草なし獅子ゆうゆうと雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1232	塩竈の煙絶えけり雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1233	菅笠の一つ行くなり雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1234	砂浜の小松も見えず雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1235	赤道の上に並ぶや雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1236	鳥落つる殺生石や雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1237	匹夫にして神と祭られ雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1238	一浜は皆裸なり雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1239	塀越に野社見えて雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1240	山国や一方海に雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1241	山道や出羽に見下す雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1242	夕風に根崩れするや雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1243	夕風や崩れてしまふ雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1244	夕栄や雨に崩れし雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1245	籠城の水の手きれぬ雲の峯	29	夏	天文	雲の峯
1246	煙突や間に低き雲の峯	30	夏	天文	雲の峯
1247	雲の峯硯に蟻の上りけり	30	夏	天文	雲の峯
1248	雲の峯千里の駒の並びけり	30	夏	天文	雲の峯
1249	汗拭ふ向ふに高し雲の峯	31	夏	天文	雲の峯
1250	幽霊の出る井戸涸れて雲の峯	31	夏	天文	雲の峯
1251	犬捨つる川に水無し雲の峯	31	夏	天文	雲の峯
1252	咸陽の焼跡広し雲の峯	31	夏	天文	雲の峯
1253	黄な旗を立てし棺や雲の峯	31	夏	天文	雲の峯
1254	昼中や頭揃える雲の峯	31	夏	天文	雲の峯
1255	雲の峯水なき川を渡りけり	32	夏	天文	雲の峯
1256	焼砂に深き轍や雲の峯	33	夏	天文	雲の峯
1257	剣が峰に夏霧吹て滝の音	30	夏	天文	夏霧
1258	朝顔の花の命や夏の雨	24	夏	天文	夏の雨
1259	負ふた子の一人ぬれけり夏の雨	25	夏	天文	夏の雨
1260	なかなか裸急がず夏の雨	25	夏	天文	夏の雨
1261	龍を叱す其御睡や夏の雨	35	夏	天文	夏の雨
1262	龍を叱す其御*(目偏+毛)や夏の雨	35	夏	天文	夏の雨
1263	大磯のはれてをかしや虎が雨	25	夏	天文	虎が雨
1264	大磯の誠しくるゝ虎が雨	26	夏	天文	虎が雨
1265	夕立やはちすを笠にかぶり行く	18	夏	天文	夕立
1266	夕立や一かたまりの雲の下	20	夏	天文	夕立
1267	夕立やあれもかけこむ其角堂	21	夏	天文	夕立
1268	夕立や今戸わたりて三囲へ	21	夏	天文	夕立
1269	夕立や不尽ははつきり見えなから	21	夏	天文	夕立
1270	夕立をほめてかけこむ雨やとり	21	夏	天文	夕立
1271	夕立の雲いそがしやどこの雨	22	夏	天文	夕立
1272	夕立の下かけぬけし美濃路哉	22	夏	天文	夕立
1273	夕立や松とりまいて五六人	24	夏	天文	夕立
1274	夕立に芸者の小歌くつれけり	25	夏	天文	夕立
1275	夕立に鷺の動かぬ青田かな	25	夏	天文	夕立
1276	ゆふだちにはりあふ宮の太鼓哉	25	夏	天文	夕立
1277	夕立に古井の苔の匂ひかな	25	夏	天文	夕立
1278	夕立に蓑のいきたる筏かな	25	夏	天文	夕立
1279	夕立の押へ付けたり茶の煙	25	夏	天文	夕立
1280	夕立のはづれに青し安房上総	25	夏	天文	夕立
1281	夕立の見る見る過る白帆哉	25	夏	天文	夕立
1282	夕立の見る見るまくる白帆哉	25	夏	天文	夕立
1283	夕立や板屋に崩す一あらし	25	夏	天文	夕立
1284	夕立や君を思へばはだしにて	25	夏	天文	夕立
1285	夕立や雲もみださぬふじの山	25	夏	天文	夕立
1286	夕立やころころ落る梅法師	25	夏	天文	夕立

1287	夕立や算木崩れしト屋算	25	夏	天文	夕立
1288	夕立や蛇の目の傘は思ひもの	25	夏	天文	夕立
1289	夕立や智慧さまさまのかぶり物	25	夏	天文	夕立
1290	夕立や橋の下なる笑ひ声	25	夏	天文	夕立
1291	夕立や干したる衣の裏表	25	夏	天文	夕立
1292	夕立をもみくづしけりト屋算	25	夏	天文	夕立
1293	海原やかたへ夕立つ蟹小舟	26	夏	天文	夕立
1294	見てをれば夕立わたる湖水哉	26	夏	天文	夕立
1295	向ひ地の山は夕立つけしき哉	26	夏	天文	夕立
1296	ものすごくなつて夕立つ山家哉	26	夏	天文	夕立
1297	山奇なり夕立雲の立めくる	26	夏	天文	夕立
1298	夕立にうたるゝ鯉のかしらかな	26	夏	天文	夕立
1299	夕立に行水したる都哉	26	夏	天文	夕立
1300	夕立に猫といたちのさわぎ哉	26	夏	天文	夕立
1301	夕立に宿をねだるや葦の家	26	夏	天文	夕立
1302	夕立のあとから来たり植木売	26	夏	天文	夕立
1303	夕立や傘一本に二三人	26	夏	天文	夕立
1304	夕立の押しよせてくる榛名哉	26	夏	天文	夕立
1305	夕立のくるやあれあれ向ふから	26	夏	天文	夕立
1306	夕立の下に迷ふや温泉の煙	26	夏	天文	夕立
1307	夕立の虹こしらへよ千松島	26	夏	天文	夕立
1308	夕立の又やふりけす不二の雪	26	夏	天文	夕立
1309	夕立の見る見る山を下りけり	26	夏	天文	夕立
1310	夕立や牛の匂ひにむせる村	26	夏	天文	夕立
1311	夕立や枝もたわゝのむら雀	26	夏	天文	夕立
1312	夕立や沖は入日の真帆かた帆	26	夏	天文	夕立
1313	夕立や大路にかゝる牛車	26	夏	天文	夕立
1314	夕立の枝やたわゝのむら雀	26	夏	天文	夕立
1315	夕立や傘一本を二三人	26	夏	天文	夕立
1316	夕立や傘張傘をたゝみあへず	26	夏	天文	夕立
1317	夕立や葛屋の声の消えて行く	26	夏	天文	夕立
1318	夕立や蜘蛛の子ちらす市の人	26	夏	天文	夕立
1319	夕立や衣ほすてふ尼の寺	26	夏	天文	夕立
1320	夕立や雀あつまる櫛の枝	26	夏	天文	夕立
1321	夕立や雀もつるゝ牛の角	26	夏	天文	夕立
1322	夕立や簀戸に押されし小傾城	26	夏	天文	夕立
1323	夕立や殺生石のあたりより	26	夏	天文	夕立
1324	夕立や豆腐片手に走る人	26	夏	天文	夕立
1325	夕立や人声おこる温泉の煙	26	夏	天文	夕立
1326	夕立や人声こもる温泉の煙	26	夏	天文	夕立
1327	夕立や紅筆溝を流れ行	26	夏	天文	夕立
1328	夕立や宿屋の庭の金魚池	26	夏	天文	夕立
1329	夕立や屋根葺すくむ破風の陰	26	夏	天文	夕立
1330	夕立を見下す湯場の二階かな	26	夏	天文	夕立
1331	夕立を道々こぼす小村哉	26	夏	天文	夕立
1332	夕立を見ながら歌の咄かな	26	夏	天文	夕立
1333	海原や夕立さわぐ蟹小舟	27	夏	天文	夕立
1334	大牛の尻に夕立つ山路哉	27	夏	天文	夕立
1335	大櫓夕立雲の下りけり	27	夏	天文	夕立
1336	夕立の石もふるかと鈴鹿山	27	夏	天文	夕立
1337	夕立の雲渦まくや大鳴戸	27	夏	天文	夕立
1338	夕立の波のよる見ゆ飛脚船	27	夏	天文	夕立
1339	夕立の帆柱わたる湊かな	27	夏	天文	夕立
1340	夕立や穴に逃込む豆狸	27	夏	天文	夕立
1341	夕立や近衛の騎兵一大隊	27	夏	天文	夕立
1342	夕立や机に並ぶ大盥	27	夏	天文	夕立

1343	乱れ矢のあとや夕立ついくさ船	28	夏	天文	夕立
1344	夕立に降られて帰る磯辺かな	28	夏	天文	夕立
1345	夕立の足音聞くとや橋の下	28	夏	天文	夕立
1346	夕立の淡路のうしろ通りけり	28	夏	天文	夕立
1347	夕立の鬼もふらずに鈴鹿山	28	夏	天文	夕立
1348	夕立の鬼も降るか鈴鹿山	28	夏	天文	夕立
1349	夕立の笛に蝉鳴く日影かな	28	夏	天文	夕立
1350	夕立の中を押し行く車かな	28	夏	天文	夕立
1351	夕立の船ことごとく裸なり	28	夏	天文	夕立
1352	夕立の横に押し行く武蔵哉	28	夏	天文	夕立
1353	夕立や雲舞ひ下る牛の角	28	夏	天文	夕立
1354	夕立や砂に突き立つ青松葉	28	夏	天文	夕立
1355	夕立や野に残されし牛の声	28	夏	天文	夕立
1356	夕立や一船は皆裸なり	28	夏	天文	夕立
1357	夕立や焼石冷ゆる浅間山	28	夏	天文	夕立
1358	入海や夕立晴れて月低し	29	夏	天文	夕立
1359	心よく夕立つ山の出城かな	29	夏	天文	夕立
1360	青雲や夕立来る椽南	29	夏	天文	夕立
1361	唾せば若し夕立となりやせん	29	夏	天文	夕立
1362	唾せばもし夕立になりやせん	29	夏	天文	夕立
1363	東京へ夕立遣らん唾して	29	夏	天文	夕立
1364	堀越えて夕立北の野から来る	29	夏	天文	夕立
1365	帆おろすや夕立ほつりほつり来る	29	夏	天文	夕立
1366	湯上りに夕立を見る裸かな	29	夏	天文	夕立
1367	夕立に逢ふものならば関の宿	29	夏	天文	夕立
1368	夕立に桐の木多き小寺かな	29	夏	天文	夕立
1369	夕立にはづれはづれの小村かな	29	夏	天文	夕立
1370	夕立に日傘さしたる女かな	29	夏	天文	夕立
1371	夕立の叩き出したる鬮體かな	29	夏	天文	夕立
1372	夕立の沛然として野から来る	29	夏	天文	夕立
1373	夕立のほこりになつてしまひけり	29	夏	天文	夕立
1374	夕立の籠下りたる裾野哉	29	夏	天文	夕立
1375	夕立は晴れて葱の葉かな	29	夏	天文	夕立
1376	夕立は山へかゝりて市の月	29	夏	天文	夕立
1377	夕立は山へかへりて市の月	29	夏	天文	夕立
1378	夕立やあこや清水より返る	29	夏	天文	夕立
1379	夕立や市ちらばつて地藏尊	29	夏	天文	夕立
1380	夕立や動きもならぬ鷺一羽	29	夏	天文	夕立
1381	夕立やかしこ過ぎたる人の簀	29	夏	天文	夕立
1382	夕立や片頬濡れたる石の像	29	夏	天文	夕立
1383	夕立や簾を捲けば三日の月	29	夏	天文	夕立
1384	夕立や並んでさわぐ馬の尻	29	夏	天文	夕立
1385	夕立や逃げそこなひし鷺一羽	29	夏	天文	夕立
1386	夕立や野道を走る人遠し	29	夏	天文	夕立
1387	夕立や広野の中に牛一つ	29	夏	天文	夕立
1388	わらんじをとくや夕立さつと来る	29	夏	天文	夕立
1389	行水や沛然として夕立す	30	夏	天文	夕立
1390	筆に霊ありて夕立を祈るべく	30	夏	天文	夕立
1391	筆霊にして夕立を祈るべく	30	夏	天文	夕立
1392	夕立の音はかりして通りけり	30	夏	天文	夕立
1393	夕立の隣の山に逼りけり	30	夏	天文	夕立
1394	夕立や日のさす方へふつて行く	30	夏	天文	夕立
1395	上州の山は夕立つけしき哉	31	夏	天文	夕立
1396	夕立に蝉の飛び行く西日哉	31	夏	天文	夕立
1397	夕立に蝉の飛び行く日影哉	31	夏	天文	夕立
1398	夕立に蝉の逃げ行く西日哉	31	夏	天文	夕立

1399	夕立に蝉の逃げ行く日影哉	31	夏	天文	夕立
1400	夕立に破れそめたる芭蕉哉	31	夏	天文	夕立
1401	夕立の騒ぎの中へ放れ馬	31	夏	天文	夕立
1402	夕立や南を見れば雲の峰	31	夏	天文	夕立
1403	夕立や蛙の面に三粒程	33	夏	天文	夕立
1404	夕立や君が怒の一しきり	33	夏	天文	夕立
1405	舟一つ虹をくゞつて帰りけり	23	夏	天文	虹
1406	湯上りやつい涼風に寝せらるゝ	21	夏	天文	涼風
1407	湯上りや涼風吹て眠うなる	21	夏	天文	涼風
1408	涼風やわれを山から吹下す	26	夏	天文	涼風
1409	涼風をあびる木の間の床几哉	26	夏	天文	涼風
1410	涼風を輪にして廻る車哉	26	夏	天文	涼風
1411	鞆丸に須磨のすゞ風吹送れ	28	夏	天文	涼風
1412	洞穴や涼風暗く水の音	29	夏	天文	涼風
1413	涼風や愚庵の門は破れたり	29	夏	天文	涼風
1414	涼風の上野吹くらん杉動く	30	夏	天文	涼風
1415	涼風やビードロになる砂を採る	30	夏	天文	涼風
1416	川上にあらひ出しけり夏の月	22	夏	天文	夏の月
1417	鱗ちる雑魚場のあとや夏の月	25	夏	天文	夏の月
1418	くれきらぬ白帆に白し夏の月	25	夏	天文	夏の月
1419	夏の月四條五條の夜半過	25	夏	天文	夏の月
1420	夏の月紙帳の皺も浪と見よ	25	夏	天文	夏の月
1421	夏の月不二は模様に似たりけり	25	夏	天文	夏の月
1422	荷を揚る拍子ふけたり夏の月	25	夏	天文	夏の月
1423	真黒に茄子ひかるや夏の月	25	夏	天文	夏の月
1424	わびしさや藜にかゝる夏の月	25	夏	天文	夏の月
1425	牛になる僧もあるらん夏の月	26	夏	天文	夏の月
1426	木曾を出て材場の檜や夏の月	26	夏	天文	夏の月
1427	傾城は格子の内や夏の月	26	夏	天文	夏の月
1428	月琴にさびしき夏の月見哉	26	夏	天文	夏の月
1429	辻占の声も更けたり夏の月	26	夏	天文	夏の月
1430	夏の月頬黒の多き女哉	26	夏	天文	夏の月
1431	ぬれて行く裸馬あり夏の月	26	夏	天文	夏の月
1432	女二人咄す戸口や夏の月	26	夏	天文	夏の月
1433	三本の帆檣高し夏の月	27	夏	天文	夏の月
1434	尾の道や帆綱をくゞる夏の月	27	夏	天文	夏の月
1435	うさくさをうしろに捨てゝ夏の月	28	夏	天文	夏の月
1436	白の中にすわる人あり夏の月	28	夏	天文	夏の月
1437	甲板に寝る人多し夏の月	28	夏	天文	夏の月
1438	賤が家の琴立ち聞くや夏の月	28	夏	天文	夏の月
1439	砂浜や何に火を焚く夏の月	28	夏	天文	夏の月
1440	夏の月提灯多きちまた哉	28	夏	天文	夏の月
1441	夏の月寝ぬ声一人二人かな	28	夏	天文	夏の月
1442	名どころや海手に細き夏の月	28	夏	天文	夏の月
1443	橋通る人の頭や夏の月	28	夏	天文	夏の月
1444	がやがやと道者帰りぬ夏の月	29	夏	天文	夏の月
1445	琴の音や人垣間見る夏の月	29	夏	天文	夏の月
1446	妻去りし隣淋しや夏の月	29	夏	天文	夏の月
1447	戸の外に蒔織るなり夏の月	29	夏	天文	夏の月
1448	話しながら人通りけり夏の月	29	夏	天文	夏の月
1449	楼上に舟呼ぶ人や夏の月	29	夏	天文	夏の月
1450	金杉や琴かしましき夏の月	30	夏	天文	夏の月
1451	川口や湯舟を出れば夏の月	30	夏	天文	夏の月
1452	木賀を出て箱根に上る夏の月	30	夏	天文	夏の月
1453	中宮祠に滝の音聞く夏の月	30	夏	天文	夏の月
1454	夏の月此横町も琴の音	30	夏	天文	夏の月

1455	夏の月隣の琴の引きやみぬ	30	夏	天文	夏の月
1456	泳ぎ場に人の残りや夏の月	31	夏	天文	夏の月
1457	十年前の夏の三日月此夕	31	夏	天文	夏の月
1458	道ばたの堀かけ井や夏の月	32	夏	天文	夏の月
1459	家のなき人二万人夏の月	33	夏	天文	夏の月
1460	椽端や虫歯抱へて夏の月	34	夏	天文	夏の月
1461	夏の月大長刀の光哉	35	夏	天文	夏の月
1462	夏ノ月京八夜店ノ灯カナ	35	夏	天文	夏の月
1463	草枕の我にこぼれよ夏の星	26	夏	天文	夏の星
1464	日さかりに泡のわきたつ小溝哉	25	夏	時候	日盛
1465	日さかりに泡のわき立田面哉	25	夏	時候	日盛
1466	日さかりに兵卒出たり仲の町	26	夏	時候	日盛
1467	日さかりや蟹か門への大碇	26	夏	時候	日盛
1468	日さかりやうつとりとなる池の鯉	26	夏	時候	日盛
1469	日盛りの八百八町焔立つ	27	夏	時候	日盛
1470	日盛りや砂に短き松の影	28	夏	時候	日盛
1471	早さへ瓜に痩せたるふりもなし	25	夏	時候	旱
1472	ひてりさへ瓜はやせたる顔もなし	25	夏	時候	旱
1473	夕虹の雨氣にうとき早哉	26	夏	時候	旱
1474	海賊の村に水汲む早かな	29	夏	時候	旱
1475	不忍の泥に蓮咲く早かな	29	夏	時候	旱
1476	炎天の色やあく迄深緑	26	夏	時候	炎天
1477	炎天の中にほつちり富士の雪	26	夏	時候	炎天
1478	炎天やあたり木もなき町の中	26	夏	時候	炎天
1479	炎天や青田に動く人の影	26	夏	時候	炎天
1480	炎天や海土が門辺の大碇	26	夏	時候	炎天
1481	炎天や御歯黒どぶの泡の数	26	夏	時候	炎天
1482	炎天や木の影ひえる石だゝみ	26	夏	時候	炎天
1483	炎天をわたるや鷺の只一羽	26	夏	時候	炎天
1484	炎天に聳えて寒き巖哉	27	夏	時候	炎天
1485	炎天に聳て高き巖哉	27	夏	時候	炎天
1486	人絶えて炎天の石壇風渡る	27	夏	時候	炎天
1487	炎天に人のほのほや広小路	28	夏	時候	炎天
1488	炎天や蟻這ひ上る人の足	28	夏	時候	炎天
1489	炎天や浮み出でゝはたまる泡	28	夏	時候	炎天
1490	炎天に菊を養ふあるじ哉	29	夏	時候	炎天
1491	炎天や砂利道行けば蝶の殻	29	夏	時候	炎天
1492	炎天を照り返したる沙漠哉	29	夏	時候	炎天
1493	炎天の道毒水にいでゝ渴す	30	夏	時候	炎天
1494	早起山を越え炎天を茶屋に休む人	30	夏	時候	炎天
1495	炎天に鏡きらめく神輿哉	31	夏	時候	炎天
1496	炎天や草に息つく旅の人	33	夏	時候	炎天
1497	炎天に水無き山の登りかな	34	夏	時候	炎天
1498	五月川心細く水まさりたる	29	夏	地理	五月川
1499	五月川心細さの一夜かな	29	夏	地理	五月川
1500	植糸つけて月にわたせし青田哉	25	夏	地理	青田
1501	鷺一ツ下りて青田の風薫る	25	夏	地理	青田
1502	青田あり川あり白帆五つ六つ	26	夏	地理	青田
1503	青田あり河在白帆画のことし	26	夏	地理	青田
1504	青田あり川あり白帆上り行	26	夏	地理	青田
1505	青田あり川あり白帆つらなれり	26	夏	地理	青田
1506	青田あり川あり白帆つらなりぬ	26	夏	地理	青田
1507	青田ありて又家居あり町はづれ	26	夏	地理	青田
1508	萱草や青田の畦の一ならび	26	夏	地理	青田
1509	さゝ波や湖めぐらして青田哉	26	夏	地理	青田
1510	白鷺の力かましき青田かな	26	夏	地理	青田

1511	峠から見る段々の青田かな	26	夏	地理	青田
1512	田から田へうれしさうなる水の音	26	夏	地理	青田
1513	宙を踏む人や青田の水車	26	夏	地理	青田
1514	中をふむ人や青田の水車	26	夏	地理	青田
1515	日本の国ありがたき青田哉	26	夏	地理	青田
1516	八郎湖のへりを取りたる青田哉	26	夏	地理	青田
1517	稗蒔と殿の見給ふ青田かな	26	夏	地理	青田
1518	町はづれ青田となる鍛冶屋哉	26	夏	地理	青田
1519	むさしのや青田の風の八百里	26	夏	地理	青田
1520	夕風の見えてねぢれる青田哉	26	夏	地理	青田
1521	田舎路は鷺こきませて青田哉	26	夏	地理	青田
1522	学校のあとに淋しき青田かな	27	夏	地理	青田
1523	霧雨のふるや青田の朝朗	27	夏	地理	青田
1524	横雲に朝日の漏るゝ青田哉	27	夏	地理	青田
1525	山門や青田の中の松並木	28	夏	地理	青田
1526	流れ矢の弱りて落ちし青田哉	28	夏	地理	青田
1527	白雲や青く広きは田なるべし	28	夏	地理	青田
1528	夕風の鷺吹き飛ばす青田哉	28	夏	地理	青田
1529	青田稀に畠多きぞ是非もなき	29	夏	地理	青田
1530	洪水のさはるものなき青田哉	29	夏	地理	青田
1531	洪水や青田を流れ海に落つ	29	夏	地理	青田
1532	小路して青田の風に吹かれればや	29	夏	地理	青田
1533	須磨寺のともし火うつる青田哉	29	夏	地理	青田
1534	土手切れて水進る青田哉	29	夏	地理	青田
1535	虹の根に白壁光る青田哉	29	夏	地理	青田
1536	白雲や広く青きは田なるべし	29	夏	地理	青田
1537	二筋に虹の立つたる青田哉	29	夏	地理	青田
1538	ふらりふらり根岸を出れば青田哉	29	夏	地理	青田
1539	夕飯の向ふに見ゆる青田哉	29	夏	地理	青田
1540	青田に出でず御行の松を見て返る	30	夏	地理	青田
1541	小松植ゑて新道直き青田哉	30	夏	地理	青田
1542	巡查見えて裸子逃げる青田哉	30	夏	地理	青田
1543	漠たる青田を横に鷺の飛ぶ	30	夏	地理	青田
1544	田の上や青みのうつる昼の月	31	夏	地理	青田
1545	はつとする博物館や木下闇	25	夏	植物	木下闇
1546	牛帰る木の下闇や村一つ	26	夏	植物	木下闇
1547	木下闇あゝら涼しや恐ろしや	26	夏	植物	木下闇
1548	木下闇簡程の大寺あらんとは	26	夏	植物	木下闇
1549	木下闇ところところの地蔵哉	26	夏	植物	木下闇
1550	下闇に牛をあらそふ二人かな	26	夏	植物	木下闇
1551	下闇にたゞ山百合の白さかな	26	夏	植物	木下闇
1552	下闇や八町奥に大悲閣	26	夏	植物	木下闇
1553	下闇や八町奥の大悲閣	26	夏	植物	木下闇
1554	豆腐屋の谷中こゆ也木下闇	26	夏	植物	木下闇
1555	兵隊の行列白し木下闇	26	夏	植物	木下闇
1556	木下闇電信の柱あたらしき	27	夏	植物	木下闇
1557	木下闇女後推す車かな	27	夏	植物	木下闇
1558	木下闇に皆見下す物見哉	27	夏	植物	木下闇
1559	下闇やびつくりしたる石地蔵	27	夏	植物	木下闇
1560	下闇や一塊まりの蚊のうなり	27	夏	植物	木下闇
1561	猫の塚お伝の塚や木下闇	27	夏	植物	木下闇
1562	猫迷ふ庭の闇路や牛の角	27	夏	植物	木下闇
1563	袋提げて小尼行くなり木下闇	27	夏	植物	木下闇
1564	送られて別れてひとり木下闇	28	夏	植物	木下闇
1565	木下闇人驚かす地蔵かな	28	夏	植物	木下闇
1566	御料地や森の下闇鳥が鳴く	28	夏	植物	木下闇

1567	下やみや池しんとして魚浮たり	28	夏	植物	木下闇
1568	下闇を出でゝ明るし渡月橋	28	夏	植物	木下闇
1569	灯青く廻廊赤し木下闇	28	夏	植物	木下闇
1570	物凄き平家の墓や木下闇	28	夏	植物	木下闇
1571	蛾の飛んで陰気な茶屋や木下闇	29	夏	植物	木下闇
1572	櫛売る婆々の茶店や木下闇	29	夏	植物	木下闇
1573	下闇に宮も鳥居も真赤なり	29	夏	植物	木下闇
1574	下闇や蛇を彫りたる蛇の塚	29	夏	植物	木下闇
1575	花や旗や森の下闇棺行く	29	夏	植物	木下闇
1576	お堂暗く龍の目凄し木下闇	30	夏	植物	木下闇
1577	法螺吹て行者集むる木下闇	30	夏	植物	木下闇
1578	螺吹いて道者集むる木下闇	30	夏	植物	木下闇
1579	下闇にかづら這ひ出て道もなし	31	夏	植物	木下闇
1580	下闇や百万両の鑿の跡	31	夏	植物	木下闇
1581	背二負ヘル天狗ノ面ヤ木下闇	35	夏	植物	木下闇
1582	別荘や膳を向けたる夏の海	29	夏	地理	夏の海
1583	窓あけて顔つきあたる夏のやま	18	夏	地理	夏山
1584	窓あけて鼻の先なり夏のやま	18	夏	地理	夏山
1585	夏山のすずみや海は一里先	25	夏	地理	夏山
1586	蚤蠅の里かけぬけて夏の山	25	夏	地理	夏山
1587	夏山の緑うつりし小窓かな	26	夏	地理	夏山
1588	夏山をめくりて遠し道普請	26	夏	地理	夏山
1589	夏山を廊下づたひの温泉哉	26	夏	地理	夏山
1590	酒売の夏山こゆる車哉	27	夏	地理	夏山
1591	つゝじ咲く夏の木曾山君帰る	27	夏	地理	夏山
1592	躑躅さける夏の木曾山君帰	27	夏	地理	夏山
1593	夏山の重なりあふて不尽の山	27	夏	地理	夏山
1594	夏山の六分通りは畠かな	27	夏	地理	夏山
1595	夏山や笈おろしたる大女	27	夏	地理	夏山
1596	夏山や雲湧いて石横はる	27	夏	地理	夏山
1597	夏山をめぐらして城の郭哉	27	夏	地理	夏山
1598	今百里さらに夏山何百里	28	夏	地理	夏山
1599	今百里さらは夏山何百里	28	夏	地理	夏山
1600	今も百里さらに夏山何百里	28	夏	地理	夏山
1601	大家のうしろに夏の山けはし	28	夏	地理	夏山
1602	夏山に敵の城見る物見かな	28	夏	地理	夏山
1603	夏山に鼻つく馬の歩み哉	28	夏	地理	夏山
1604	夏山に見下す敵の砦かな	28	夏	地理	夏山
1605	夏山にもたれてあるじ何を読む	28	夏	地理	夏山
1606	夏山の雲むらむらと起りけり	28	夏	地理	夏山
1607	夏山のこゝもかしこも名所哉	28	夏	地理	夏山
1608	夏山の病院高し松の中	28	夏	地理	夏山
1609	夏山や一方開く帆の往来	28	夏	地理	夏山
1610	夏山や木の間木の間の神仏	28	夏	地理	夏山
1611	夏山や鳥居の笠木宮の屋根	28	夏	地理	夏山
1612	夏山や万象青く橋赤し	28	夏	地理	夏山
1613	夏山や麓に近き雲の村	28	夏	地理	夏山
1614	夏山やふもとに低き雲の村	28	夏	地理	夏山
1615	椅子に昇れ夏山上る異人かな	29	夏	地理	夏山
1616	きざはしの下や夏山三万里	29	夏	地理	夏山
1617	夏山の麓に見ゆる牧場かな	29	夏	地理	夏山
1618	夏山や岩の上より礫打つ	29	夏	地理	夏山
1619	夏山や湖水青く鳥啼き渡る	29	夏	地理	夏山
1620	洋人や椅子に昇かれて夏の山	29	夏	地理	夏山
1621	大杉の伐りかけてある夏の山	30	夏	地理	夏山
1622	夏山に脚気養ふて滝を見る	30	夏	地理	夏山

1623	夏山を出て北へ向く流れ哉	30	夏	地理	夏山
1624	翠簾捲けば夏山うつる鏡かな	30	夏	地理	夏山
1625	夏山や五十二番は岩屋寺	31	夏	地理	夏山
1626	夏山を出つれば美濃の広哉	31	夏	地理	夏山
1627	夏山や水に乏しき峠茶屋	33	夏	地理	夏山
1628	夏山の骨とも見ゆる巖かな	34	夏	地理	夏山
1629	夏山を出て善光寺平かな	34	夏	地理	夏山
1630	夏山を上り下りの七湯かな	34	夏	地理	夏山
1631	夏山ヤ岩アラハレテ乱麻皴	35	夏	地理	夏山
1632	木の緑したゝる奥の宮居哉	22	夏	地理	滴る
1633	笠一つしたゝる山の中を行く	26	夏	地理	滴る
1634	武蔵野に翠したゝる筑波哉	26	夏	地理	滴る
1635	雨晴れて緑したゝる中に寺	28	夏	地理	滴る
1636	八方の風引きうくる夏野かな	18	夏	地理	夏野
1637	馬士一人ねむりこけたる夏野哉	25	夏	地理	夏野
1638	傾城も石になりたる夏野哉	26	夏	地理	夏野
1639	ちらちらと伏勢見ゆる夏野哉	26	夏	地理	夏野
1640	紫の一本見えぬ夏野哉	26	夏	地理	夏野
1641	わけ行れば虫のとびつく夏野哉	26	夏	地理	夏野
1642	家あるまで夏野六里と聞にけり	27	夏	地理	夏野
1643	家ある迄夏野六里を聞えけり	27	夏	地理	夏野
1644	家もなし夏野の原の石碑哉	27	夏	地理	夏野
1645	限りなく鉄道長き夏野哉	27	夏	地理	夏野
1646	草生ひて牧童迷ふ夏野かな	27	夏	地理	夏野
1647	十二時の大砲ひゞく夏野哉	27	夏	地理	夏野
1648	大砲の車小さき夏野かな	27	夏	地理	夏野
1649	絶えず人いこふ夏野の石一つ	27	夏	地理	夏野
1650	鉄砲の調練見ゆる夏野哉	27	夏	地理	夏野
1651	商人に行き違ふたる夏野哉	28	夏	地理	夏野
1652	旅人の兎追ひ出す夏野哉	28	夏	地理	夏野
1653	見送らん夏野に君の見えぬ迄	28	夏	地理	夏野
1654	笠提げて夏野通るや朝の内	29	夏	地理	夏野
1655	雷の十歩に落つる夏野哉	29	夏	地理	夏野
1656	行列の草に隠るゝ夏野かな	29	夏	地理	夏野
1657	草結ぶ夏野の中の家もなし	29	夏	地理	夏野
1658	国道の普請出来たる夏野哉	29	夏	地理	夏野
1659	電信の棒隠れたる夏野かな	29	夏	地理	夏野
1660	鳥飛ぶや夏野の野末山細し	29	夏	地理	夏野
1661	二軒目の茶店に休む夏野かな	29	夏	地理	夏野
1662	低き木に馬繋ぎたる夏野哉	29	夏	地理	夏野
1663	獵犬の音聞きつける夏野哉	29	夏	地理	夏野
1664	汽車道を横ぎつて行く夏野哉	29	夏	地理	夏野
1665	夏野尽きて道山に入る人力車	30	夏	地理	夏野
1666	かたまりて黄なる花さく夏野哉	32	夏	地理	夏野
1667	がた馬車をやり過したる夏野哉	33	夏	地理	夏野
1668	盗人の昼も出るてふ夏野かな	34	夏	地理	夏野
1669	夏野行ク人や天狗ノ面ヲ負フ	35	夏	地理	夏野
1670	夏川の音にゝむ闇夜哉	21	夏	地理	夏川
1671	夏川の音のすゝしき闇夜哉	21	夏	地理	夏川
1672	夏川に行脚の笠の流れけり	25	夏	地理	夏川
1673	鮎はねて跡静かなり夏の川	26	夏	地理	夏川
1674	くるゝ迄子の遊びけり夏の川	26	夏	地理	夏川
1675	ずんずんと夏を流すや最上川	26	夏	地理	夏川
1676	夏川にそふて面白し下り道	26	夏	地理	夏川
1677	夏川や馬つなぎたる橋柱	26	夏	地理	夏川
1678	夏川や枕にひゞく山の宿	26	夏	地理	夏川

1679	夏川や水の中なる立咄し	26	夏	地理	夏川
1680	酒売の夏川こえて岡越えて	27	夏	地理	夏川
1681	夏川の泥に嘴入るゝ家鴨哉	27	夏	地理	夏川
1682	ざぶざぶと夏川渡る小荷駄哉	28	夏	地理	夏川
1683	何処へなりと遊べ夏山夏の川	28	夏	地理	夏川
1684	夏川に土をつめたる俵哉	28	夏	地理	夏川
1685	夏川やいづくの雨の濁り水	28	夏	地理	夏川
1686	夏川や小橋たわゝに水を打つ	28	夏	地理	夏川
1687	夏川や隨身さきへ牛車	28	夏	地理	夏川
1688	夏川や隨身さきへ水車	28	夏	地理	夏川
1689	笈負ふて夏川渉る朝まだき	29	夏	地理	夏川
1690	裾かゝげ夏川わたる下駄ながら	29	夏	地理	夏川
1691	供一人夏川渡る医者 of 駕	29	夏	地理	夏川
1692	夏川のあなたに友を訪ふ日哉	29	夏	地理	夏川
1693	夏川の境も知らず溢れけり	29	夏	地理	夏川
1694	夏川の砂さらさらと流れけり	29	夏	地理	夏川
1695	夏川や溢れて草を流れこす	29	夏	地理	夏川
1696	夏川や小道に溢れ田に落つる	29	夏	地理	夏川
1697	夏川や高くかゝげし紅の裾	29	夏	地理	夏川
1698	夏川や中流にしてかへり見る	29	夏	地理	夏川
1699	夏川や鍋洗ふべき門構	29	夏	地理	夏川
1700	夏川や橋はあれど馬水を行く	29	夏	地理	夏川
1701	夏川や渡らぬ人の水を行く	29	夏	地理	夏川
1702	夏川や吾れ君を負ふて渡るべし	29	夏	地理	夏川
1703	夏川を滝に落すや山の宿	29	夏	地理	夏川
1704	夏川を二つ渡りて田神山	29	夏	地理	夏川
1705	夏川を二つ渡りて永田村	29	夏	地理	夏川
1706	夏川を渡りつれたる小荷駄かな	29	夏	地理	夏川
1707	日光や夏川走る草の中	29	夏	地理	夏川
1708	橋なくて人立ち戻る夏の川	29	夏	地理	夏川
1709	溯る夏川細く雲起る	30	夏	地理	夏川
1710	夏川や木を流し行く岸の人	30	夏	地理	夏川
1711	夏川や水茶に適すさゝ濁り	30	夏	地理	夏川
1712	夏川を涉りて更へぬ馬の沓	31	夏	地理	夏川
1713	夏川の浅きに浸す紙そかな	32	夏	地理	夏川
1714	青松葉見えつゝ沈む泉哉	26	夏	地理	泉
1715	静かさは砂吹きあぐる泉哉	26	夏	地理	泉
1716	底見えて小魚も住まぬ清水哉	21	夏	地理	清水
1717	心太そへてねのつく清水哉	24	夏	地理	清水
1718	夕立の過ぎて跡なき清水哉	24	夏	地理	清水
1719	金時も熊も来てのむ清水哉	25	夏	地理	清水
1720	菅笠のはしもぬれたる清水かな	25	夏	地理	清水
1721	菅笠の紐ぬらしたる清水かな	25	夏	地理	清水
1722	旅人の名をつけて行く清水かな	25	夏	地理	清水
1723	はらわたにひやつく木曾の清水哉	25	夏	地理	清水
1724	はらわたもひやつく木曾の清水かな	25	夏	地理	清水
1725	一枝は田にはしりこむ清水哉	25	夏	地理	清水
1726	一ツ家の背にはしりこむ清水哉	25	夏	地理	清水
1727	掬ぶ手の甲に冷えつく清水哉	25	夏	地理	清水
1728	横道を行けば果して清水哉	25	夏	地理	清水
1729	岩つかみ片手に結ぶ清水哉	26	夏	地理	清水
1730	馬方の山で飯くふ清水哉	26	夏	地理	清水
1731	車屋のさきにのみたる清水哉	26	夏	地理	清水
1732	先へ行くつれよび戻す清水哉	26	夏	地理	清水
1733	清水にもあるや神の名仏の名	26	夏	地理	清水
1734	巡礼の親子出てくる清水哉	26	夏	地理	清水

1735	しんかんと物すごき山の清水哉	26	夏	地理	清水
1736	すゝしさをこほす岩間の清水哉	26	夏	地理	清水
1737	其底に木葉年ふる清水哉	26	夏	地理	清水
1738	手に結ぶ清水の末の小滝哉	26	夏	地理	清水
1739	とんねるや笠にしたゝる山清水	26	夏	地理	清水
1740	庭先に亀の吐き出す清水哉	26	夏	地理	清水
1741	馬上より手綱ゆるめる清水哉	26	夏	地理	清水
1742	一筋は算にはいる清水かな	26	夏	地理	清水
1743	ひやつくや清水流るゝ右左	26	夏	地理	清水
1744	馬柄杓に草をわけ行清水哉	26	夏	地理	清水
1745	耳に目に谷をへたつる清水哉	26	夏	地理	清水
1746	山の宿に手洗ひ水も清水哉	26	夏	地理	清水
1747	女のむあとの柄杓や岩清水	26	夏	地理	清水
1748	石白く清水湧き出る野中哉	27	夏	地理	清水
1749	雲に立つ不動濡れたり石清水	28	夏	地理	清水
1750	雲に立つ不動の像や石清水	28	夏	地理	清水
1751	絶壁の巖をしぼる清水哉	28	夏	地理	清水
1752	其下に清水流るる芭蕉哉	28	夏	地理	清水
1753	一口に足らぬ清水の尊さよ	28	夏	地理	清水
1754	またくらに白雲起る清水哉	28	夏	地理	清水
1755	山鳥の影うつしたる清水哉	28	夏	地理	清水
1756	笈あけて仏を拝む清水かな	29	夏	地理	清水
1757	釜つけて飯粒沈む清水かな	29	夏	地理	清水
1758	桐掩ふ庭の清水に塵もなし	29	夏	地理	清水
1759	清水ありや婆子曰く茶を喫し去れ	29	夏	地理	清水
1760	茶屋の茶に清水の味はなかりけり	29	夏	地理	清水
1761	濁る世に慣れぬ清水や山の中	29	夏	地理	清水
1762	山陰の小笹の中の清水かな	29	夏	地理	清水
1763	忘れても清水むすぶな高野道	29	夏	地理	清水
1764	石垣に仏彫る寺の清水哉	30	夏	地理	清水
1765	監獄にあたら流れ込む清水哉	30	夏	地理	清水
1766	釵を落して深き清水かな	30	夏	地理	清水
1767	丸薬に清水をむすぶ道のほとり	30	夏	地理	清水
1768	酒冷す清水に近く小店あり	30	夏	地理	清水
1769	さらさらと石を流るゝ清水哉	30	夏	地理	清水
1770	清水のみに柄杓もて来る町はづれ	30	夏	地理	清水
1771	清水のみに椀もつて来る町はづれ	30	夏	地理	清水
1772	清水引て庭に滝あり山の宿	30	夏	地理	清水
1773	脛入れて短く見ゆる清水哉	30	夏	地理	清水
1774	側の岩に仏を刻む清水哉	30	夏	地理	清水
1775	堅横に清水流るゝ小村哉	30	夏	地理	清水
1776	旅人の知らで過ぎ行く清水哉	30	夏	地理	清水
1777	心太の桶に落ち込む清水哉	30	夏	地理	清水
1778	庭清水藤原村の七番戸	30	夏	地理	清水
1779	万籟寂たり清水静に砂を吹く	30	夏	地理	清水
1780	万籟寂然清水静に砂を吹く	30	夏	地理	清水
1781	我顔のうつりて寒き清水哉	30	夏	地理	清水
1782	浅く見えて杓の届かぬ清水哉	31	夏	地理	清水
1783	汗臭き手拭洗ふ清水哉	31	夏	地理	清水
1784	かち栗に喉の乾きや山清水	31	夏	地理	清水
1785	口つけて眉のぬれたる清水哉	31	夏	地理	清水
1786	小柄杓に鎖つけたる清水哉	31	夏	地理	清水
1787	清水引く茶店の庭の算哉	31	夏	地理	清水
1788	旅人の顔洗ひ居る清水哉	31	夏	地理	清水
1789	旅人ののみほして行く清水哉	31	夏	地理	清水
1790	手桶持つ人に清水を尋ねけり	31	夏	地理	清水

1791	ねらはれし魚の命や山清水	31	夏	地理	清水
1792	一隅は清水つめたき小池哉	31	夏	地理	清水
1793	人も居らず瓜ひやしたる清水哉	31	夏	地理	清水
1794	もとかしく片手に掬ふ清水哉	31	夏	地理	清水
1795	夕暮を清水も飲まず急ぎけり	31	夏	地理	清水
1796	苔のなき石を踏場の清水哉	26	夏	地理	苔清水
1797	千代能の桶すてられて苔清水	26	夏	地理	苔清水
1798	二三町温泉を去りて苔清水	28	夏	地理	苔清水
1799	飯くれぬ村はありとも苔清水	28	夏	地理	苔清水
1800	苔清水馬の口籠をはづしけり	29	夏	地理	苔清水
1801	苔清水底砂にして青松葉	30	夏	地理	苔清水
1802	苔ともにすくひあげたる清水哉	31	夏	地理	苔清水
1803	西行の掬ひあまりや苔清水	31	夏	地理	苔清水
1804	滝わくや仰きつふしつ二千丈	24	夏	地理	滝
1805	滝殿のしぶきや料紙硯箱	32	夏	地理	滝
1806	子宝のにぎはふまちや吹きながし	23	夏	人事	幟
1807	子どもらの笑ひも高きのぼりかな	23	夏	人事	幟
1808	雨雲をさそふ嵐の幟かな	26	夏	人事	幟
1809	おもしろくふくらむ風や鯉幟	26	夏	人事	幟
1810	風吹て虚空にひゞく幟哉	26	夏	人事	幟
1811	幟たてゝ嵐のほしき日なりけり	26	夏	人事	幟
1812	山里の幟見て来よ京男	26	夏	人事	幟
1813	大風の俄かに起る幟かな	27	夏	人事	幟
1814	大幟百万石の城下かな	27	夏	人事	幟
1815	大会の小旗にまじる幟かな	27	夏	人事	幟
1816	幟立てる人家は遠し大伽藍	27	夏	人事	幟
1817	朝嵐隣の幟立てにけり	28	夏	人事	幟
1818	ある夜来て梟啼きぬ幟竿	28	夏	人事	幟
1819	傘さして幟見るなり阪の上	28	夏	人事	幟
1820	傘さして幟見るなり橋の上	28	夏	人事	幟
1821	鷹一羽舞ひ上りたる幟哉	28	夏	人事	幟
1822	鷹一羽舞ひ下りたる幟かな	28	夏	人事	幟
1823	幟暮れて五日の月の静かなり	28	夏	人事	幟
1824	山里に雲打払ふ幟哉	28	夏	人事	幟
1825	山里に雲吹きはらふ幟かな	28	夏	人事	幟
1826	大家や幟の風の菖蒲吹く	29	夏	人事	幟
1827	君が代や縮緬の鯉菖蒲の太刀	29	夏	人事	幟
1828	儒者の家に幟立てたり垣隣	29	夏	人事	幟
1829	幟竿物干竿はふんどしが	29	夏	人事	幟
1830	嵐して鯉翻る十万家	30	夏	人事	幟
1831	木多き庭に立てし鯉の吹かれ得ざる	30	夏	人事	幟
1832	鯉高く吹くや上野の山嵐	30	夏	人事	幟
1833	鯉二旒一つは赤くして小し	30	夏	人事	幟
1834	鍾鬼画く鍛冶屋か裏の幟かな	30	夏	人事	幟
1835	野に出でゝ見返る町の幟哉	30	夏	人事	幟
1836	東村の幟西村の幟哉	30	夏	人事	幟
1837	舟に見る膳所の城下の幟哉	30	夏	人事	幟
1838	三鱗の紋を染めたる幟哉	30	夏	人事	幟
1839	夕栄に四五本里の幟哉	30	夏	人事	幟
1840	五女ありて後の男や初幟	32	夏	人事	幟
1841	引きおろす三筋の鯉や風やまず	33	夏	人事	幟
1842	ひるがへる鯉吹抜や遅桜	33	夏	人事	幟
1843	よしあるをそだてまゐらすや内幟	33	夏	人事	幟
1844	連名の座敷幟を贈りけり	33	夏	人事	幟
1845	道々や雫したゝる菖売	29	夏	人事	菖蒲売
1846	風吹て燕の落すあやめかな	26	夏	人事	菖蒲草く

1847	かつまたの池の雫やふきあやめ	26	夏	人事	菖蒲葺く
1848	菖ふいて岡崎女郎衆の薫り哉	26	夏	人事	菖蒲葺く
1849	菖ふくや草だらけなる屋根の上	26	夏	人事	菖蒲葺く
1850	大家に菖葺くなり兜町	27	夏	人事	菖蒲葺く
1851	菖葺くよしもなかなか大伽藍	27	夏	人事	菖蒲葺く
1852	人の妻の菖蒲葺くとて楳子哉	28	夏	人事	菖蒲葺く
1853	明家に菖蒲葺いたる屋主哉	29	夏	人事	菖蒲葺く
1854	いたづらに菖蒲かけたり留守の家	29	夏	人事	菖蒲葺く
1855	かしましく菖葺くなる大家哉	29	夏	人事	菖蒲葺く
1856	菖蒲葺いてつ波来べしと思ひきや	29	夏	人事	菖蒲葺く
1857	東京や菖蒲葺いたる家古し	29	夏	人事	菖蒲葺く
1858	人並に菖蒲葺きけり医者の家	29	夏	人事	菖蒲葺く
1859	古家に五尺の菖かけてけり	29	夏	人事	菖蒲葺く
1860	古家に六日の菖蒲匂ひけり	29	夏	人事	菖蒲葺く
1861	藁屋根に根のつきさうな菖蒲哉	29	夏	人事	菖蒲葺く
1862	いかめしき児のありきや菖蒲太刀	26	夏	人事	菖蒲刀
1863	菖蒲湯や中に交りし菖蒲刈	26	夏	人事	菖蒲湯
1864	風呂の隅に菖蒲かたよせる女哉	28	夏	人事	菖蒲湯
1865	御湯殿に菖蒲投げこむ雑仕哉	29	夏	人事	菖蒲湯
1866	菖蒲湯に菖蒲かぶりし子供哉	29	夏	人事	菖蒲湯
1867	暁の菖蒲湯に入る一人かな	33	夏	人事	菖蒲湯
1868	菖蒲湯に桶の少き風呂屋かな	33	夏	人事	菖蒲湯
1869	菖蒲湯の菖蒲に遊ぶ童哉	33	夏	人事	菖蒲湯
1870	菖蒲湯や病おこたるかんの君	33	夏	人事	菖蒲湯
1871	菖蒲湯や男の子つれたる女親	33	夏	人事	菖蒲湯
1872	昼過や菖蒲湯濁る糠の汁	33	夏	人事	菖蒲湯
1873	湯に入るや湯満ちて菖蒲あふれこす	33	夏	人事	菖蒲湯
1874	湯を抜くや菖蒲ひつゝく風呂の底	33	夏	人事	菖蒲湯
1875	屈原は下戸なりけらし菖蒲酒	26	夏	人事	菖蒲酒
1876	傾城の故郷や思ふ柏餅	26	夏	人事	柏餅
1877	子を祝ふ俳句の会や柏餅	33	夏	人事	柏餅
1878	粽持つ一寸法師のつかひ哉	25	夏	人事	粽
1879	むすぶまでひんとはねたる粽かな	25	夏	人事	粽
1880	霰ふることもありしか笹粽	26	夏	人事	粽
1881	風吹て粽の動く柱かな	26	夏	人事	粽
1882	傾城をかむるとりまく粽哉	26	夏	人事	粽
1883	はで残す赤元結のちまき哉	26	夏	人事	粽
1884	草の戸の粽に蛸来る夜かな	27	夏	人事	粽
1885	あはれさは粽に露もなかりけり	28	夏	人事	粽
1886	思ひよらぬ木末の声やくらべ馬	24	夏	人事	競馬
1887	風吹てほこりにいさむ競馬哉	26	夏	人事	競馬
1888	くらべ馬おくれし一騎あはれなり	28	夏	人事	競馬
1889	中將の娘見初る競馬かな	30	夏	人事	競馬
1890	芦毛より栗毛は早し競馬	31	夏	人事	競馬
1891	我が前に来て見定めぬ競馬哉	31	夏	人事	競馬
1892	蟹の子や男女わかれて印地打	26	夏	人事	印地打
1893	印地やんで五日の月の上りけり	27	夏	人事	印地打
1894	薬日や御殿の屋根の承路盤	26	夏	人事	薬の日
1895	薬ふる日とて仰むく子供かな	26	夏	人事	薬の日
1896	薬降る園や山吹咲き残る	33	夏	人事	薬の日
1897	薬玉にかくれうせたる禿哉	26	夏	人事	薬玉
1898	薬玉のふさふりさばく思ひ哉	26	夏	人事	薬玉
1899	灌仏やはや行水のころになる	23	夏	人事	仏生会
1900	灌仏やうぶ湯の桶に波もなし	25	夏	人事	仏生会
1901	灌仏や酒のみさうな顔はなし	25	夏	人事	仏生会
1902	乾坤をこねて見たれば仏かな	25	夏	人事	仏生会

1903	灌仏や洗ひあげたる箔の色	26	夏	人事	仏生会
1904	灌仏や忍び参りの緋の袴	26	夏	人事	仏生会
1905	灌仏やはだかわらべの晴れ心	26	夏	人事	仏生会
1906	卯の花に仏は暑き赤子哉	27	夏	人事	仏生会
1907	卯の花に仏は黒き赤子哉	27	夏	人事	仏生会
1908	山寺に仏生るゝ日の淋し	27	夏	人事	仏生会
1909	灌仏や尼の子尼になりけり	28	夏	人事	仏生会
1910	涅槃より五十日にして仏生会	29	夏	人事	仏生会
1911	灌仏や浮世は嬰粟の花盛	31	夏	人事	仏生会
1912	灌仏や童集まる朝まだき	31	夏	人事	仏生会
1913	灌仏を覗いて通る旅路哉	31	夏	人事	仏生会
1914	花御堂の花しほれたる夕日哉	31	夏	人事	仏生会
1915	善き人の花の供養や仏生会	31	夏	人事	仏生会
1916	お釈迦様の尻まだ青き産湯哉	33	夏	人事	仏生会
1917	騎射の画や孫あつめて翁物語る	26	夏	人事	騎射
1918	行列の葵の橋にかゝりけり	28	夏	人事	葵祭
1919	下加茂や祭も過ぎて鳩の声	28	夏	人事	葵祭
1920	裾濃むら濃加茂の祭の近づきぬ	29	夏	人事	葵祭
1921	子を抱て葵祭の道の端	31	夏	人事	葵祭
1922	地に落し葵踏み行く祭哉	33	夏	人事	葵祭
1923	鉾をひく牛もいたわるまつり哉	21	夏	人事	祭
1924	鉾をひく牛をいたわるまつり哉	21	夏	人事	祭
1925	旅人や花車に粉るゝ村まつり	25	夏	人事	祭
1926	一日は豆腐もくはぬ祭り哉	26	夏	人事	祭
1927	牛かひや京の祭の桜笠	26	夏	人事	祭
1928	旅僧の面をかくすまつり哉	26	夏	人事	祭
1929	錦着て牛の汗かく祭りかな	26	夏	人事	祭
1930	弁慶の餅くふてみる祭哉	26	夏	人事	祭
1931	夕立の空とぼけなる祭り哉	26	夏	人事	祭
1932	井の水は鏡の如しおきまつり	26	夏	人事	祭
1933	塩釜や祭も過ぎて鳩のこゑ	28	夏	人事	祭
1934	やゝ熱し茶釜も出たる祭哉	30	夏	人事	祭
1935	祭見に物争へる舎人哉	33	夏	人事	祭
1936	鶯も老て根岸の祭かな	35	夏	人事	祭
1937	不消化な料理を夏の祭りかな	35	夏	人事	祭
1938	野も山も動くけしきや神輿捏	25	夏	人事	神輿
1939	夕くれに覚束なしや鍋の数	25	夏	人事	筑摩祭
1940	五つ子も小鍋をかぶりまつり哉	26	夏	人事	筑摩祭
1941	五つ子も小鍋を冠る祭哉	26	夏	人事	筑摩祭
1942	鍋祭鍋に糞する鳥かな	26	夏	人事	筑摩祭
1943	君は今夏に籠るとぞ聞えける	26	夏	人事	夏籠
1944	夏籠りの我をにらむか卓の上	26	夏	人事	夏籠
1945	夏籠に瘦る禿の哀れ也	26	夏	人事	夏籠
1946	夏籠の我をにらむか幕	26	夏	人事	夏籠
1947	夏籠や我は発句を書きためん	26	夏	人事	夏籠
1948	二人ならば夏籠りせんと思ひけり	26	夏	人事	夏籠
1949	夏籠りの我に向ふや卓の上	26	夏	人事	夏籠
1950	夏籠や仏刻まむ志	33	夏	人事	夏籠
1951	俳諧の仏千句の安居哉	35	夏	人事	夏籠
1952	うき人を墨染にせん夏書かな	26	夏	人事	夏書
1953	傾城に起請の外の夏書哉	26	夏	人事	夏書
1954	仁和寺にやごとなき人の夏書哉	27	夏	人事	夏書
1955	いたはしき法親王の夏書哉	28	夏	人事	夏書
1956	かしこくも法親王の夏書哉	28	夏	人事	夏書
1957	小硯に金泥かわく夏書哉	30	夏	人事	夏書
1958	心の字を写すに難き夏書哉	30	夏	人事	夏書

1959	筆を手に夏書の人昼寝哉	31	夏	人事	夏書
1960	瘦せるだけ瘦せよと思ふ夏断哉	26	夏	人事	夏断
1961	肴多き海辺の里に夏断哉	32	夏	人事	夏断
1962	不二垢離にゆふべの夢を洗ひけり	26	夏	人事	富士垢離
1963	富士垢離は俱利迦羅紋の男哉	31	夏	人事	富士垢離
1964	雲の峰いくつこえきて富士詣	24	夏	人事	富士詣
1965	ありあけの白帆を見たり富士詣	25	夏	人事	富士詣
1966	甲斐の雲駿河の雲や不二詣	25	夏	人事	富士詣
1967	九合目へ来て気のせくやふし詣	25	夏	人事	富士詣
1968	空に入る身は軽げなりふし詣	25	夏	人事	富士詣
1969	飛び下りた夢も見る也不二詣	25	夏	人事	富士詣
1970	松原に雪投げつけんふし詣	25	夏	人事	富士詣
1971	松原へ雪投げつけんふし詣	25	夏	人事	富士詣
1972	うたゝねの夢に攀ぢけり額の不二	26	夏	人事	富士詣
1973	紅の朝日すゞしや不二詣	26	夏	人事	富士詣
1974	月も日も夢の下なり不二詣	26	夏	人事	富士詣
1975	不二詣鳥の鳴かぬ朝清し	26	夏	人事	富士詣
1976	不二詣水無月の雪に鰯もかな	26	夏	人事	富士詣
1977	短夜の限りを見たり不二詣	26	夏	人事	富士詣
1978	門を出て見ながら行や不二詣	26	夏	人事	富士詣
1979	雲置くや朝飯冷ゆる不二の室	28	夏	人事	富士詣
1980	遠眼鏡富士行く人を見んとすれど	28	夏	人事	富士詣
1981	富士に寝て巨燧こひしき夜もありし	28	夏	人事	富士詣
1982	富士登る外国人の噂かな	28	夏	人事	富士詣
1983	雪くひに行くとして人の富士詣	29	夏	人事	富士詣
1984	富士行者白衣に雲の匂ひあり	30	夏	人事	富士詣
1985	竹植て嬉しき窓の青み哉	26	夏	人事	竹植る日
1986	竹植系て朋有り遠方より来る	27	夏	人事	竹植る日
1987	竹植系て人仮住居す上根岸	29	夏	人事	竹植る日
1988	竹買ふて竹植うる日に植系にけり	29	夏	人事	竹植る日
1989	御被してはじめて夏のをしき哉	25	夏	人事	みそぎ
1990	牛引て通りかゝるや御被川	26	夏	人事	みそぎ
1991	風吹て口髭そよぐ御被哉	26	夏	人事	みそぎ
1992	爪たてゝ蟹の出てくる御被哉	26	夏	人事	みそぎ
1993	御被して帰るたもとに蚩かな	26	夏	人事	みそぎ
1994	水上はふんどし洗ふ御被哉	26	夏	人事	みそぎ
1995	荻の葉にかゝる御幣や御被川	26	夏	人事	みそぎ
1996	かは風にうしろ吹かるゝ御被哉	27	夏	人事	みそぎ
1997	川風に背中吹かるゝ御被哉	27	夏	人事	みそぎ
1998	雨雲の烏帽子に動く御被哉	28	夏	人事	みそぎ
1999	神鳴の次第に近き御被哉	28	夏	人事	みそぎ
2000	兎に角に御被も過ぎて夜半哉	28	夏	人事	みそぎ
2001	形代に卯の年男とぞ書ける	29	夏	人事	みそぎ
2002	御被して帰れば西に星の飛ぶ	30	夏	人事	みそぎ
2003	御被して星一つ飛ぶ西の空	30	夏	人事	みそぎ
2004	人形の銚にゆらめくいさみ哉	25	夏	人事	祇園会
2005	入相のなり行く上を銚の児	26	夏	人事	祇園会
2006	祇園会や小道小道の人の蟻	26	夏	人事	祇園会
2007	祇園会や錦の上に京の月	26	夏	人事	祇園会
2008	月銚や空に賑ふ乙鳥	26	夏	人事	祇園会
2009	月銚や傘銚かけて虹の橋	27	夏	人事	祇園会
2010	祇園会や紅うつる東山	28	夏	人事	祇園会
2011	祇園会や二階に顔のうづ高き	31	夏	人事	祇園会
2012	銚並ぶ四条通りや朝の雨	31	夏	人事	祇園会
2013	横町や祇園祭の西瓜店	31	夏	人事	祇園会
2014	藪医者先のけしたる茅の輪哉	26	夏	人事	茅の輪

2015	大矢数中にまじりて山法師	26	夏	人事	大矢数
2016	篝燃えて既に矢数の用意かな	34	夏	人事	大矢数
2017	侍のしばし見て去る矢数かな	34	夏	人事	大矢数
2018	名を記す矢数の主のほまれかな	34	夏	人事	大矢数
2019	時鳥聞かず顔なる矢数かな	34	夏	人事	大矢数
2020	やぶ入や真ツ昼中の閻魔堂	26	夏	人事	藪入
2021	ヤブ入ノ小僧ノ群ヤ夏芝居	35	夏	人事	藪入
2022	夏休みの人と見えけり白鹿摺	29	夏	人事	夏休
2023	夏休みの書生に逢ひぬ瀬戸の船	30	夏	人事	夏休
2024	夏休みの書生になじむ船の飯	30	夏	人事	夏休
2025	夏休み来るべく君を待まうけ	31	夏	人事	夏休
2026	夏休ミ夜店二土産ト、ノヘテ	35	夏	人事	夏休
2027	腐り居る暑中見舞の卵かな	32	夏	人事	暑中見舞
2028	見渡せば富士迄つゞく田植哉	22	夏	人事	田植
2029	一日は児も手伝ふて田うゑ哉	25	夏	人事	田植
2030	五月雨に笠のふゑたる田植かな	25	夏	人事	田植
2031	陣笠を着た人もある田植哉	25	夏	人事	田植
2032	女房のとかくおくれる田植哉	25	夏	人事	田植
2033	花嫁の笠きて蓑きて田植哉	25	夏	人事	田植
2034	母の乳を泥手で撫でる田植哉	25	夏	人事	田植
2035	見る限りわが領分の田植哉	25	夏	人事	田植
2036	宿なしの庭ひろひろと田植哉	25	夏	人事	田植
2037	赤阪の御油へつゞく田植哉	26	夏	人事	田植
2038	笠を着て誰に田植の薄化粧	26	夏	人事	田植
2039	兼平の塚を目あてに田植哉	26	夏	人事	田植
2040	兼平の塚をめあての田植哉	26	夏	人事	田植
2041	日焼田に覚束なくも田植哉	26	夏	人事	田植
2042	鎌倉や田植ゑて帰る人若し	27	夏	人事	田植
2043	鎌倉や田植みかへる人若し	27	夏	人事	田植
2044	子を負ふて小川飛びこす田植哉	27	夏	人事	田植
2045	利根川の向ふは遅き田植哉	27	夏	人事	田植
2046	苗植ゑて鯨のたくる小川哉	28	夏	人事	田植
2047	水引くや田川は横にすぢかひに	28	夏	人事	田植
2048	嫁入りて今年植ゑけり隣の田	28	夏	人事	田植
2049	雨の日は雨に興がる田植かな	29	夏	人事	田植
2050	犬も猫も田植の留守の昼寝哉	29	夏	人事	田植
2051	うき人に尻を向けたる田植かな	29	夏	人事	田植
2052	うら若き夫婦二人の田植哉	29	夏	人事	田植
2053	植ゑ残す水田に朝の靄深し	29	夏	人事	田植
2054	大雨の中に四五人田植かな	29	夏	人事	田植
2055	思ひそめぬ雨の田植の夕より	29	夏	人事	田植
2056	傘さして田植見て居る一人哉	29	夏	人事	田植
2057	水深く田植すべくもあらぬ哉	29	夏	人事	田植
2058	やもめ一人月に裾田の早苗とる	29	夏	人事	田植
2059	朝夕に神きこしめず田歌かな	25	夏	人事	田植唄
2060	鎌倉は何とうたふか田植歌	25	夏	人事	田植唄
2061	島原や昼はものうき田植歌	26	夏	人事	田植唄
2062	そばふるやあちらこちらの田植歌	26	夏	人事	田植唄
2063	楼に上れば南郊の雨に田植歌	29	夏	人事	田植唄
2064	早をと女に夏瘦のなきたうとさよ	25	夏	人事	早乙女
2065	さをとめのあやめを抜て戻りけり	25	夏	人事	早乙女
2066	早乙女の黒き色こそ尊けれ	25	夏	人事	早乙女
2067	早乙女の恋するひまもなかりけり	25	夏	人事	早乙女
2068	さをとめの泥をおとせば足軽し	25	夏	人事	早乙女
2069	早乙女の名は落しけり田草取	25	夏	人事	早乙女
2070	早乙女の名を落しけり田草取	25	夏	人事	早乙女

2071	早乙女のむかしを語れ小傾城	25	夏	人事	早乙女
2072	早乙女やとる手うゝる手隙もなき	25	夏	人事	早乙女
2073	早乙女やとる手がゝる手ひまもなき	25	夏	人事	早乙女
2074	早乙女を汽車より見そめ給ひけり	25	夏	人事	早乙女
2075	早乙女のならぶや宮を尻にして	26	夏	人事	早乙女
2076	さをとめの一むれ帰る小道哉	26	夏	人事	早乙女
2077	さをとめや牛は固より黒きもの	26	夏	人事	早乙女
2078	さをとめや泥から生えし足の色	26	夏	人事	早乙女
2079	画にかけば菅笠ばかり植をとめ	26	夏	人事	早乙女
2080	夕月や早乙女うたひつゝかへる	28	夏	人事	早乙女
2081	夕月夜早少女うたひつゝ帰る	28	夏	人事	早乙女
2082	歌もなき雨のさをとめ哀れなり	29	夏	人事	早乙女
2083	早少女に物問ふて居る法師哉	29	夏	人事	早乙女
2084	早乙女の弁当を覗く鴉かな	29	夏	人事	早乙女
2085	早乙女やどの顔見ても姉妹	29	夏	人事	早乙女
2086	六十のそれも早少女とこそ申せ	29	夏	人事	早乙女
2087	田草取きまつた歌はなかりけり	25	夏	人事	田草取
2088	田草とり世のわつらひはまた知らず	25	夏	人事	田草取
2089	我先に穂に出て田草ぬかれけり	25	夏	人事	田草取
2090	我先に穂に出て田草引かれけり	25	夏	人事	田草取
2091	折々は田螺つかみつ田草取	25	夏	人事	田草取
2092	折々は田螺にぎりつ田草取	25	夏	人事	田草取
2093	汽車行くやひんと立たる田草取	26	夏	人事	田草取
2094	菅笠も三番草のふるび哉	26	夏	人事	田草取
2095	稗蒔や百姓鶴に語つて日く	28	夏	人事	稗蒔
2096	夏館異人住むかや赤い花	28	夏	人事	夏館
2097	泉殿に朗詠うたふ声更けぬ	29	夏	人事	泉殿
2098	舟てくる友もありけり夏座敷	21	夏	人事	夏座敷
2099	帆の風を半分もらふて夏座敷	21	夏	人事	夏座敷
2100	帆の風をわけてもらふや夏座敷	21	夏	人事	夏座敷
2101	夏座敷海に白帆の往来あり	24	夏	人事	夏座敷
2102	夏座敷松風を召され候ぞ	27	夏	人事	夏座敷
2103	欄に近く白帆通りぬ夏座敷	33	夏	人事	夏座敷
2104	小娘の団扇つかふや青すだれ	18	夏	人事	青簾
2105	そよそよと風の吹けり青簾	21	夏	人事	青簾
2106	和かな風を生みけり青簾	21	夏	人事	青簾
2107	待乳山ひらりと見えぬ青簾	21	夏	人事	青簾
2108	青すたれかけそめた日や風かほる	24	夏	人事	青簾
2109	青簾光源氏のわらひ声	25	夏	人事	青簾
2110	萱町や裏へまはれば青簾	25	夏	人事	青簾
2111	松の木のすき影黒し青簾	25	夏	人事	青簾
2112	青簾娘をもたぬ家もなし	26	夏	人事	青簾
2113	伊予の名のけふにあひけり青簾	26	夏	人事	青簾
2114	傾城も娘めきたり青簾	26	夏	人事	青簾
2115	御報捨の杓さし出すや青簾	26	夏	人事	青簾
2116	はらはらと衣のさはりや青簾	26	夏	人事	青簾
2117	はらはらと衣のさはるや青すたれ	26	夏	人事	青簾
2118	ひるかへす風のけしきや青簾	26	夏	人事	青簾
2119	議事堂や出口出口の青簾	27	夏	人事	青簾
2120	古家や奈良の都の青簾	27	夏	人事	青簾
2121	青簾かすれかすれの白帆かな	28	夏	人事	青簾
2122	青簾猫かき上げるかげすなり	28	夏	人事	青簾
2123	青簾捲けよ雲見ん岩屋寺	28	夏	人事	青簾
2124	青簾六位の君の笑ひけり	28	夏	人事	青簾
2125	門口や忌中と書きし青簾	29	夏	人事	青簾
2126	古壺に金魚飼ふたり青簾	29	夏	人事	青簾

2127	ほろほろと雨吹きこむや青簾	29	夏	人事	青簾
2128	二階には娘住ませつ青簾	31	夏	人事	青簾
2129	人少きお前の様や青簾	33	夏	人事	青簾
2130	おとなしく風篩ひこむ簾かな	21	夏	人事	簾
2131	簾捲く指図の下けり待乳山	21	夏	人事	簾
2132	捲き上る簾の下や待乳山	21	夏	人事	簾
2133	夕月や簾に動く花の影	23	夏	人事	簾
2134	簾五尺四方の世界哉	26	夏	人事	簾
2135	簾児のいばりの流れけり	26	夏	人事	簾
2136	持ち来るアイスクリームや簾	32	夏	人事	簾
2137	耕した夕くたびれや簾	34	夏	人事	簾
2138	掛香や遊女が親の泥臭き	26	夏	人事	掛香
2139	掛香や車せりあふ物つまうで	26	夏	人事	掛香
2140	掛香やすれ違ひたる宵の闇	28	夏	人事	掛香
2141	三輪の天国香や二輪散る	33	夏	人事	掛香
2142	掛香や紅粉ヤクサゞ、京土産	35	夏	人事	掛香
2143	掛香ヲ人ニクレケリ後家ノ君	35	夏	人事	掛香
2144	上ひとつぬぐやかたゐの更衣	24	夏	人事	更衣
2145	やすんたる日より大工の衣かへ	24	夏	人事	更衣
2146	やせたりといわれてをかし更衣	24	夏	人事	更衣
2147	屋根にあやめ軒にすたれや衣かへ	24	夏	人事	更衣
2148	姉が織り妹が縫ふて更衣	25	夏	人事	更衣
2149	行脚する心に安し衣かへ	25	夏	人事	更衣
2150	着心や妹がしたての衣かへ	25	夏	人事	更衣
2151	気安さや五月になりて更衣	25	夏	人事	更衣
2152	金春や三味の袋も衣かへ	25	夏	人事	更衣
2153	袂には鼻紙もなし更衣	25	夏	人事	更衣
2154	ふんどしも白うなりけり衣がえ	25	夏	人事	更衣
2155	松の木をかゝへて見たり衣更	25	夏	人事	更衣
2156	松の木をかゝへて見たる衣かへ	25	夏	人事	更衣
2157	うき人にあふて恥かし衣かへ	26	夏	人事	更衣
2158	風吹て飛ばんとぞ思ふ衣かへ	26	夏	人事	更衣
2159	衣かへ鏡か浦を見に出たり	26	夏	人事	更衣
2160	天竺の仏は何を衣かへ	26	夏	人事	更衣
2161	飛石へはだして出たり衣かへ	26	夏	人事	更衣
2162	何吹くと定めぬ朝や衣かへ	26	夏	人事	更衣
2163	庭石へ跣足で出たり衣かへ	26	夏	人事	更衣
2164	ぬれ髪を干す日や蠶の衣かへ	26	夏	人事	更衣
2165	身受けせし傾城くやし衣かへ	26	夏	人事	更衣
2166	若殿の立ちぎゞにくし衣かへ	26	夏	人事	更衣
2167	衣更へで飢に泣きたる女かな	27	夏	人事	更衣
2168	是は是は醍醐の君の衣更かへ	27	夏	人事	更衣
2169	更衣城門の大鼓いさましき	27	夏	人事	更衣
2170	衣がへ日本服を着て来れ	27	夏	人事	更衣
2171	衣がへ都見に出る男かな	27	夏	人事	更衣
2172	衣かへ能く似た人の通りけり	27	夏	人事	更衣
2173	衣かへて青空の色めづらしや	27	夏	人事	更衣
2174	衣かへて再び来たり金の友	27	夏	人事	更衣
2175	衣更へて奴の腋のあらはるゝ	27	夏	人事	更衣
2176	船頭や陸へ出る日を衣がへ	27	夏	人事	更衣
2177	更衣少し寒うて気あひよき	28	夏	人事	更衣
2178	衣更へて鼓をあぶる男かな	28	夏	人事	更衣
2179	墨染に衣かへたり最明寺	28	夏	人事	更衣
2180	親はまだ衣更ふべくも見えざりき	29	夏	人事	更衣
2181	極楽は衣も更へず仏だち	29	夏	人事	更衣
2182	更衣草の葉木の葉皆動く	29	夏	人事	更衣

2183	更衣故郷のたより届きけり	29	夏	人事	更衣
2184	更衣此頃銭にうとき哉	29	夏	人事	更衣
2185	更衣知らぬ鳥鳴く庭の木に	29	夏	人事	更衣
2186	更衣蜻蛉も吾になじめかし	29	夏	人事	更衣
2187	更衣無絃の琴を抱えけり	29	夏	人事	更衣
2188	更衣老妓を招く詩会かな	29	夏	人事	更衣
2189	更衣尾長鳥といふを吾見たり	29	夏	人事	更衣
2190	衣更へて愚庵を訪はん東山	29	夏	人事	更衣
2191	衣更へて髭剃つて書生来りけり	29	夏	人事	更衣
2192	其中に衣更へざる一人かな	29	夏	人事	更衣
2193	番頭の衣更へたる出店かな	29	夏	人事	更衣
2194	人は皆衣など更へて来りけり	29	夏	人事	更衣
2195	門前の流に遊ぶ更衣	29	夏	人事	更衣
2196	田舎人の衣更へたる汽車場哉	29	夏	人事	更衣
2197	衣更へつ甲板に出て鱧を見る	30	夏	人事	更衣
2198	衣更へて出女門に出揃ひぬ	30	夏	人事	更衣
2199	法帖の古きに臨む衣がへ	30	夏	人事	更衣
2200	衣かへて愚庵を訪はん東山	31	夏	人事	更衣
2201	更衣狭山の新茶到来す	31	夏	人事	更衣
2202	衣更へて机に向ふうつし物	31	夏	人事	更衣
2203	十年の病癒えけり更衣	31	夏	人事	更衣
2204	雨の日八裕もほしや隅田の夏	21	夏	人事	裕
2205	雨ふれ八裕もほしゝ隅田の夏	21	夏	人事	裕
2206	三津口を又一人行く裕哉	25	夏	人事	裕
2207	ありたけの道具ほり出す裕かな	26	夏	人事	裕
2208	医者の子の木上りしたる裕哉	26	夏	人事	裕
2209	うしろから猫の飛びつく裕哉	26	夏	人事	裕
2210	うれしさに人も留守也裕時	26	夏	人事	裕
2211	松島の心に近き裕哉	26	夏	人事	裕
2212	老僧の錫杖みがく裕哉	26	夏	人事	裕
2213	浅黄とも白ともつかぬ裕かな	27	夏	人事	裕
2214	石橋を踏みならしたる裕哉	27	夏	人事	裕
2215	襟元に蝨這出す裕かな	27	夏	人事	裕
2216	蜻蛉のつまゝれさうな裕哉	27	夏	人事	裕
2217	乗合の大勢になる裕哉	27	夏	人事	裕
2218	故郷のたよりうれしき裕哉	27	夏	人事	裕
2219	若人の眼鏡かけたり絹裕	27	夏	人事	裕
2220	若き人の眼鏡掛けたり絹裕	27	夏	人事	裕
2221	笑はれて又着かへたる裕かな	27	夏	人事	裕
2222	裕着て白き花いけんとぞ思ふ	28	夏	人事	裕
2223	旅人の破鐘たゝく裕かな	28	夏	人事	裕
2224	辻駕につれだつ人の裕かな	28	夏	人事	裕
2225	強弓を引きしぼりたる裕哉	28	夏	人事	裕
2226	裕着て朝日寒がる馬の上	29	夏	人事	裕
2227	裕着て碓氷峠を上りけり	29	夏	人事	裕
2228	裕着て人鞆を試みる	29	夏	人事	裕
2229	裕着て堀に投げたる礫かな	29	夏	人事	裕
2230	裕著て行けばひらひら胡蝶飛ぶ	29	夏	人事	裕
2231	著換売つて路銀にしたる裕哉	29	夏	人事	裕
2232	めづらしく机に向ふ裕哉	29	夏	人事	裕
2233	遠足に犬つれて行く裕かな	29	夏	人事	裕
2234	新しきへこ帯古き裕かな	30	夏	人事	裕
2235	裕着て帰去来を賦す五人扶持	30	夏	人事	裕
2236	京近く旅費の尽きたる裕哉	30	夏	人事	裕
2237	五斗米の望もなく古裕	30	夏	人事	裕
2238	地謡の人並びたる裕哉	30	夏	人事	裕

2239	裕著ておくれしと行くや橋供養	32	夏	人事	裕
2240	裕着て馳せ行くもあり橋供養	32	夏	人事	裕
2241	裕著し犬のお夏や犬芝居	33	夏	人事	裕
2242	歌をよむ従五位の君や絹裕	33	夏	人事	裕
2243	素裕や黒三郎が妾	33	夏	人事	裕
2244	いつきても風孕むなり組の羽織	21	夏	人事	夏羽織
2245	いつきても風を孕むか組の羽織	21	夏	人事	夏羽織
2246	誰が紋をつけて見やうぞ夏羽織	26	夏	人事	夏羽織
2247	夏羽織われをはなれて飛ばんとす	28	夏	人事	夏羽織
2248	脱ぎすてし夏の羽織に風孕む	30	夏	人事	夏羽織
2249	破れ易し人のかたみの夏羽織	31	夏	人事	夏羽織
2250	挨拶や夏の羽織もつくるはず	32	夏	人事	夏羽織
2251	江の島に遊ぶ支度や夏羽織	32	夏	人事	夏羽織
2252	かしこまる角力取供や夏羽織	32	夏	人事	夏羽織
2253	此頃の会社つとめや夏羽織	32	夏	人事	夏羽織
2254	先生の夏羽織脱く揮毫哉	32	夏	人事	夏羽織
2255	ちりかゝる松の落葉や夏羽織	32	夏	人事	夏羽織
2256	夏羽織琵琶湖の風に吹かれけり	32	夏	人事	夏羽織
2257	夏羽織露月は医者になりけり	32	夏	人事	夏羽織
2258	脱いで置く夏の羽織や芝居茶屋	32	夏	人事	夏羽織
2259	薄物の羽織や人のにやけたり	33	夏	人事	夏羽織
2260	めでたさに石投げつけん夏小袖	29	夏	人事	夏小袖
2261	提灯の火影にさきぬ辻が花	26	夏	人事	辻が花
2262	帷子や蝙蝠傘のかいき裏	25	夏	人事	帷子
2263	帷子のあさはか過る郭哉	26	夏	人事	帷子
2264	帷子をこほるゝ肌の匂ひ哉	26	夏	人事	帷子
2265	川風は只帷子の一重哉	26	夏	人事	帷子
2266	帷子のわれを離れてとばんとす	28	夏	人事	帷子
2267	帷子や須磨は松風松の雨	28	夏	人事	帷子
2268	帷子のちゞみあがりて腕白し	29	夏	人事	帷子
2269	帷子に風吹き起る滝の茶屋	30	夏	人事	帷子
2270	帷子に人はしたなき脇臭かな	30	夏	人事	帷子
2271	脱がんとす帷子を松の風が吹く	30	夏	人事	帷子
2272	旅衣ひとへにわれを護り給へ	26	夏	人事	単衣
2273	旅人の単衣かさぬるすゞみ哉	26	夏	人事	単衣
2274	松島の風に吹かれん単もの	26	夏	人事	単衣
2275	山風やそれぬぎすてよ単もの	26	夏	人事	単衣
2276	絶頂に上れば寒しひとへもの	29	夏	人事	単衣
2277	単物飄然として郷を出づ	31	夏	人事	単衣
2278	ひとへものもとより羽織などは著ず	31	夏	人事	単衣
2279	家並に娘見せたる浴衣哉	26	夏	人事	浴衣
2280	旅籠屋に浴衣のそろふ廊下哉	26	夏	人事	浴衣
2281	草鞋といて浴衣きて飯のうまさ哉	29	夏	人事	浴衣
2282	草鞋解いて浴衣着て飯のうまさ哉	29	夏	人事	浴衣
2283	獄を出て浴衣着て腕さすりたる	30	夏	人事	浴衣
2284	日曜や浴衣袖広く委蛇委蛇たり	30	夏	人事	浴衣
2285	家に帰りて汗臭からぬ浴衣哉	31	夏	人事	浴衣
2286	旅にして妓楼に遊ぶ浴衣哉	31	夏	人事	浴衣
2287	浴衣著て遠くに遊ぶ湯治哉	31	夏	人事	浴衣
2288	浴衣著て田舎ノ夜店見二行キヌ	35	夏	人事	浴衣
2289	夏衣十年の蝨未だ死せず	27	夏	人事	羅
2290	夏衣絹の好みはなかりけり	30	夏	人事	羅
2291	夏衣絹を着たるぞあさましき	30	夏	人事	羅
2292	羅の頭巾や老の童顔	33	夏	人事	羅
2293	羅を夜の葵にかぶせはや	33	夏	人事	羅
2294	羅に赤き下著を重ねけり	33	夏	人事	羅

2295	羅に腰の細さよ京女	33	夏	人事	羅
2296	うすものに堪へざる美女の立居かな	33	夏	人事	羅
2297	羅の袖ひるがへす舞子かな	33	夏	人事	羅
2298	薄物をかけし衣桁や風渡る	33	夏	人事	羅
2299	かたがたの身の上きかん白重	25	夏	人事	白重
2300	筆とつて富士や画かん白重	25	夏	人事	白重
2301	曙や眉墨匂ふ白重ね	26	夏	人事	白重
2302	心ある人のすがたや白重	27	夏	人事	白重
2303	夏服は若殿ぶりの馬上哉	31	夏	人事	夏服
2304	夏服に白きチョッキの好みあり	33	夏	人事	夏服
2305	夏衾をし鳥の画もなかりけり	32	夏	人事	夏衾
2306	庵末にして新しきをぞ夏帽子	29	夏	人事	夏帽子
2307	夏帽子人帰省すべきでたち哉	29	夏	人事	夏帽子
2308	夏帽の白きをかぶり八字髻	29	夏	人事	夏帽子
2309	夏帽の対なるをかぶり二三人	29	夏	人事	夏帽子
2310	夏帽の人見送るや蚕が子等	29	夏	人事	夏帽子
2311	夏帽の古きを以て漢法医	29	夏	人事	夏帽子
2312	夏帽も取りあへぬ辞誼の車上哉	29	夏	人事	夏帽子
2313	夏帽や吹き飛ばされて濠に落つ	29	夏	人事	夏帽子
2314	夏帽をかぶつて来たり探訪者	29	夏	人事	夏帽子
2315	アンペラの夏帽古き医師かな	32	夏	人事	夏帽子
2316	夏帽に桔梗さしたる生徒哉	32	夏	人事	夏帽子
2317	夏頭巾口をつぐみて一句なし	33	夏	人事	夏帽子
2318	夏帽ヲ欺カレケリ夜店物	35	夏	人事	夏帽子
2319	夜店ナル安夏帽ヤ買ヒガテヌ	35	夏	人事	夏帽子
2320	麦わらの帽子に杉の落は哉	25	夏	人事	麦稈帽
2321	潮あびる裸の上の藁帽子	29	夏	人事	麦稈帽
2322	足遅きは女なるらん日傘	26	夏	人事	日傘
2323	清水の阪のぼり行く日傘かな	28	夏	人事	日傘
2324	黒雲のにわかに騒ぐ日傘かな	28	夏	人事	日傘
2325	一つ二つ日傘さしたる渡し哉	28	夏	人事	日傘
2326	蚊やつれば蚊?のそよぎや窓の月	24	夏	人事	蚊帳
2327	我庵の儀式につるや破れ蚊帳	25	夏	人事	蚊帳
2328	鼯あり皿も徳利も蚊帳の外	26	夏	人事	蚊帳
2329	瘧落て足ふみのばす蚊帳哉	26	夏	人事	蚊帳
2330	片隅へ机おしやる蚊帳哉	26	夏	人事	蚊帳
2331	蚊帳つれば蚊帳に吹く也松の風	26	夏	人事	蚊帳
2332	蚊帳の風吹きまくらるゝ小供哉	26	夏	人事	蚊帳
2333	はたこ屋に林檎くふ也蚊帳の中	26	夏	人事	蚊帳
2334	ものうしや傾城をまつ蚊帳の中	26	夏	人事	蚊帳
2335	蚊帳の中に書燈かすかに見ゆる哉	27	夏	人事	蚊帳
2336	山寺や蚊帳の波うつ大座敷	27	夏	人事	蚊帳
2337	暁や白帆過ぎ行く蚊帳の外	28	夏	人事	蚊帳
2338	暁や松も白帆も蚊帳の外	28	夏	人事	蚊帳
2339	明夜や蚊帳をはづして一寝入	28	夏	人事	蚊帳
2340	明方の蚊帳はづせども鼯かな	28	夏	人事	蚊帳
2341	明方や蚊帳を外して一寝入	28	夏	人事	蚊帳
2342	蚊帳釣りて書読む人のともし哉	28	夏	人事	蚊帳
2343	蚊帳つりて夜学の人のともし哉	28	夏	人事	蚊帳
2344	峠より風吹きおろす蚊帳哉	28	夏	人事	蚊帳
2345	はつきりと見る夜もなしに?の月	28	夏	人事	蚊帳
2346	人もなし子一人寝たる蚊帳の中	28	夏	人事	蚊帳
2347	藪原や蚊帳をめぐる山の雲	28	夏	人事	蚊帳
2348	病む人の蚊帳にすぎる起居哉	28	夏	人事	蚊帳
2349	病む人の顔にかけたる蚊帳哉	28	夏	人事	蚊帳

2350	夜や更けぬ蚊帳に近き波の音	28	夏	人事	蚊帳
2351	別れとて片隅はづす蚊帳哉	28	夏	人事	蚊帳
2352	暁の簪振ふ蚊帳かな	29	夏	人事	蚊帳
2353	薄曇る夜明を蚊帳にこもりけり	29	夏	人事	蚊帳
2354	家内十人蚊帳三ところに収まりぬ	29	夏	人事	蚊帳
2355	唐人の白き蚊帳釣る寝台哉	29	夏	人事	蚊帳
2356	淋しげに行燈立てり蚊帳の外	29	夏	人事	蚊帳
2357	誰やらの忍びよつたる蚊帳かな	29	夏	人事	蚊帳
2358	血眼に蚊帳を窺ふ抜刀哉	29	夏	人事	蚊帳
2359	月よ風よわれ仰向けに蚊帳の中	29	夏	人事	蚊帳
2360	手探りに日記するすや蚊帳の中	29	夏	人事	蚊帳
2361	鼠入つて四隅を落す蚊帳かな	29	夏	人事	蚊帳
2362	裸身や蚊帳吹きつくる摩耶嵐	29	夏	人事	蚊帳
2363	旅籠屋の蚊帳に夜明けて須磨の海	29	夏	人事	蚊帳
2364	更くる夜の蚊帳啼きめぐる小猫哉	29	夏	人事	蚊帳
2365	夜の明くるけしき見て居る蚊帳の中	29	夏	人事	蚊帳
2366	蚊帳に別れ蚊に眠られぬ夜もありき	30	夏	人事	蚊帳
2367	蚊帳の別れ澁瓶に遠き心かな	30	夏	人事	蚊帳
2368	君を送りて思ふことあり蚊帳に泣く	30	夏	人事	蚊帳
2369	人愚なり雷を恐れて蚊帳に伏す	30	夏	人事	蚊帳
2370	湯あみせし旅草臥や蚊帳の中	32	夏	人事	蚊帳
2371	羅の蚊帳垂れてあり御寝処	33	夏	人事	蚊帳
2372	羅の蚊帳つる君が寝床哉	33	夏	人事	蚊帳
2373	蚊を焼くとて蚊帳を焼いてしまいけり	33	夏	人事	蚊帳
2374	寝処ヲカヘタル蚊帳ノ別カナ	34	夏	人事	蚊帳
2375	二ツ三ツ蚊ノ来ル蚊帳ノ別カナ	34	夏	人事	蚊帳
2376	傾城の文反古まじる紙帳哉	26	夏	人事	紙帳
2377	暁や紙帳に上る松の影	28	夏	人事	紙帳
2378	きんたまのころげて出たる紙帳哉	28	夏	人事	紙帳
2379	別れとて片隅はづす紙帳哉	28	夏	人事	紙帳
2380	草の戸の夜明露けき紙帳かな	29	夏	人事	紙帳
2381	よき風を膝にまとめし団扇哉	21	夏	人事	団扇
2382	涼しさやあふぐ団扇のうらおもて	24	夏	人事	団扇
2383	涼風やあふぐ団扇のうらおもて	24	夏	人事	団扇
2384	小娘ののぞきこんだる団扇かな	25	夏	人事	団扇
2385	母親に夏やせかくす団扇かな	25	夏	人事	団扇
2386	路折て我も人並の団扇哉	25	夏	人事	団扇
2387	家涼し団扇にのせて嵐山	26	夏	人事	団扇
2388	うちはあれとさらにあふかん時もなし	26	夏	人事	団扇
2389	蚊の多きひまな手多き団哉	26	夏	人事	団扇
2390	傾城にあふがれて居る団哉	26	夏	人事	団扇
2391	端居して葱をあふぐ団哉	26	夏	人事	団扇
2392	人をよぶ団扇の音や夕涼み	26	夏	人事	団扇
2393	昔咄団扇の風に薫りけり	26	夏	人事	団扇
2394	京女てんてにかさすうちは哉	27	夏	人事	団扇
2395	米つきの提げて出でけり大団扇	27	夏	人事	団扇
2396	鞆丸をのせて重たき団扇哉	28	夏	人事	団扇
2397	傾城の顔にあてたる団扇哉	28	夏	人事	団扇
2398	禪に団扇さしたる裸哉	28	夏	人事	団扇
2399	松風の村雨を呼ぶ団扇かな	28	夏	人事	団扇
2400	団扇腰に鍬つかひ居るあるじ哉	29	夏	人事	団扇
2401	団扇取つて廊下舞ひ出る酒興かな	29	夏	人事	団扇
2402	団扇持つてありけば駅を出はなれぬ	29	夏	人事	団扇
2403	団扇持つて汽車に乗りたる道者哉	29	夏	人事	団扇
2404	団扇持つて欄に凭れば風楼に入る	29	夏	人事	団扇
2405	団扇もて我に吹き送れ不二の風	29	夏	人事	団扇

2406	裏側は月と薄の団扇哉	29	夏	人事	団扇
2407	川風や団扇持て人遠ありきす	29	夏	人事	団扇
2408	絹団扇端居し居れば虫飛ぶ	29	夏	人事	団扇
2409	此頃や土産にもらふ江戸団扇	29	夏	人事	団扇
2410	権助が名前書きけり洪団扇	29	夏	人事	団扇
2411	盃をのせて出したる団扇哉	29	夏	人事	団扇
2412	二階から屋根舟招く団扇哉	29	夏	人事	団扇
2413	羽団扇に又孟獲を見る日かな	29	夏	人事	団扇
2414	満月の雫を受けん水団扇	29	夏	人事	団扇
2415	水団扇水散点す顔の上	29	夏	人事	団扇
2416	欄干や団扇の下の淡路島	29	夏	人事	団扇
2417	琉球の芭蕉の団扇贈られぬ	29	夏	人事	団扇
2418	団扇出して先づ問ふ加賀は能登は如何	30	夏	人事	団扇
2419	盗み出す女と話す団扇哉	30	夏	人事	団扇
2420	古団扇涙の跡を見らるゝな	30	夏	人事	団扇
2421	団扇さし団扇はさしてなかりけり	31	夏	人事	団扇
2422	団扇持て小庭の月や夕歩行	31	夏	人事	団扇
2423	三代の米つき今に洪団扇	31	夏	人事	団扇
2424	はい原の団扇を送るたより哉	31	夏	人事	団扇
2425	這ひいでし虫おさへたる団扇哉	31	夏	人事	団扇
2426	人まねの団扇を使ふ小猿哉	31	夏	人事	団扇
2427	ひとり酔ふて物謡ひ出す団扇哉	31	夏	人事	団扇
2428	古畳団扇に虫をおさへけり	31	夏	人事	団扇
2429	買ひに往て絵の気に入らぬ団扇かな	34	夏	人事	団扇
2430	団扇二ツ角と雪とを画きけり	35	夏	人事	団扇
2431	村と話す維駒団扇取つて傍に	35	夏	人事	団扇
2432	手すさひの団扇画芭蕉キ角など	35	夏	人事	団扇
2433	破団扇夏も一爐の備哉	35	夏	人事	団扇
2434	誰が扇わすれおきけん松のもと	19	夏	人事	扇
2435	こゝからも風は来るかやかけ扇	21	夏	人事	扇
2436	ここからも風や吹くらんかけ扇	21	夏	人事	扇
2437	剣売て扇さしたるすゞみかな	25	夏	人事	扇
2438	旅人の扇置なり石の上	25	夏	人事	扇
2439	ふしさへも一と夜に出来つ扇折	25	夏	人事	扇
2440	謡師に肩はる癖の扇哉	26	夏	人事	扇
2441	海は扇松島は其絵なりけり	26	夏	人事	扇
2442	かざす顔に紅うつる扇哉	26	夏	人事	扇
2443	京人は男もやさし紅扇	26	夏	人事	扇
2444	傾城にとりかくされし扇哉	26	夏	人事	扇
2445	傾城にものかゝれたる扇哉	26	夏	人事	扇
2446	座敷から扇投げやる小舟哉	26	夏	人事	扇
2447	松島に扇かさしてなかめけり	26	夏	人事	扇
2448	ものいはぬ座頭にくしや京扇	26	夏	人事	扇
2449	夕涼小魚のせたる扇哉	26	夏	人事	扇
2450	草鞋とけて口にくはえる扇哉	26	夏	人事	扇
2451	うつくしや京の女の扇折	27	夏	人事	扇
2452	紅の扇と見ゆれ帯の間	27	夏	人事	扇
2453	贈るべき扇も持たずうき別れ	28	夏	人事	扇
2454	おさらばと扇をたゝむ別れかな	28	夏	人事	扇
2455	これ迄と扇をたゝむ別れ哉	28	夏	人事	扇
2456	たゝみたる扇にはねる蜈蚣かな	28	夏	人事	扇
2457	旅人の破鐘叩く扇かな	28	夏	人事	扇
2458	阿首次郎と裏に書いたる扇哉	29	夏	人事	扇
2459	君絵を画け我句を書かん白扇	29	夏	人事	扇
2460	しひられてもの書きなぐる扇哉	29	夏	人事	扇
2461	塾生の詩を書きたがる扇かな	29	夏	人事	扇

2462	謡ひながら小銭を受くる扇哉	30	夏	人事	扇
2463	扇持たずもとより羽織などは着ず	31	夏	人事	扇
2464	あやまつて清水にぬらす扇哉	31	夏	人事	扇
2465	大岡の訴を聞く扇哉	31	夏	人事	扇
2466	髪結ふて古風な人の扇哉	31	夏	人事	扇
2467	京に来て扇購ふいとま哉	31	夏	人事	扇
2468	京の町にはでな扇を求めけり	31	夏	人事	扇
2469	小扇をはつれて見ゆる寝顔哉	31	夏	人事	扇
2470	たはれをや扇の手わさ小さかしき	31	夏	人事	扇
2471	檜扇に歌も書れぬ思ひ哉	31	夏	人事	扇
2472	紅扇十三にして舞をなす	31	夏	人事	扇
2473	発心の歌書き捨てし扇哉	31	夏	人事	扇
2474	物書いた扇を人に見られけり	31	夏	人事	扇
2475	六十を祝ふて贈る扇哉	31	夏	人事	扇
2476	ざれ歌の手跡めでたき扇哉	32	夏	人事	扇
2477	為山画いて皆が贊する扇哉	32	夏	人事	扇
2478	赤きものを子はめで草のざつ扇	35	夏	人事	扇
2479	風板引け鉢植の花散る程に	35	夏	人事	風板
2480	籠枕頭の下に夜は明けぬ	25	夏	人事	籠枕
2481	あけかたは足でおし出す竹婦人	25	夏	人事	竹婦人
2482	きぬきぬの朝ひやつくや竹婦人	25	夏	人事	竹婦人
2483	抱籠やこの頃肌のふれ具合	25	夏	人事	竹婦人
2484	きぬきぬの心やすさよ竹婦人	26	夏	人事	竹婦人
2485	傾城の名をつけて見ん竹婦人	26	夏	人事	竹婦人
2486	抱籠の一夜はかなき契り哉	26	夏	人事	竹婦人
2487	古妻とよばん去年の竹婦人	26	夏	人事	竹婦人
2488	昔竹取の翁といふあり竹婦人	26	夏	人事	竹婦人
2489	淋しさやいくさの留守の竹婦人	29	夏	人事	竹婦人
2490	抱籠のすねてころげる夜明かな	29	夏	人事	竹婦人
2491	抱籠のすねて夜明くる蚊帳の外	29	夏	人事	竹婦人
2492	年若く湯婆を知らず竹婦人	30	夏	人事	竹婦人
2493	人若く湯婆を知らず竹婦人	30	夏	人事	竹婦人
2494	用みざる抱籠邪魔な置処	33	夏	人事	竹婦人
2495	抱籠の記ありお竹と名を命ず	34	夏	人事	竹婦人
2496	抱籠を抱いて虫歯に泣く夜かな	34	夏	人事	竹婦人
2497	夏の夜の月かすませる蚊遣哉	21	夏	人事	蚊遣
2498	夏の夜の月くもらせる蚊遣哉	21	夏	人事	蚊遣
2499	面白う紙帳をめぐる蚊遣哉	25	夏	人事	蚊遣
2500	蚊遣たく煙の中や垣生今津	25	夏	人事	蚊遣
2501	蚊遣火に涙まぎらす別れ哉	25	夏	人事	蚊遣
2502	楠に二筋われるかやりかな	25	夏	人事	蚊遣
2503	塩浜に夜は蚊遣のけふりかな	25	夏	人事	蚊遣
2504	すじかひにかげろふ門の蚊遣哉	25	夏	人事	蚊遣
2505	短夜のあしたにのこる蚊遣かな	25	夏	人事	蚊遣
2506	夕風に畳はひ行く蚊やり哉	25	夏	人事	蚊遣
2507	留守の家にひとり燃たる蚊遣哉	25	夏	人事	蚊遣
2508	折々はあふいでける蚊やりかな	25	夏	人事	蚊遣
2509	鬼婆々の泪見せたる蚊遣哉	26	夏	人事	蚊遣
2510	大津絵の赤鬼いぶず蚊遣哉	26	夏	人事	蚊遣
2511	風吹て蚊遣にけふる小村哉	26	夏	人事	蚊遣
2512	蚊遣火に宿かる法師色白し	26	夏	人事	蚊遣
2513	蚊遣火の灰に風あり後夜の鐘	26	夏	人事	蚊遣
2514	蚊遣火や長柄の橋の鉋屑	26	夏	人事	蚊遣
2515	傾城の姿あらはす蚊遣哉	26	夏	人事	蚊遣
2516	傾城の手つからくへる蚊遣哉	26	夏	人事	蚊遣
2517	関守が火鉢にくべる蚊遣哉	26	夏	人事	蚊遣

2518	児啼て蚊遣の煙奥くらし	26	夏	人事	蚊遣
2519	燕の巢にふしまどふ蚊遣哉	26	夏	人事	蚊遣
2520	何思ふ姿あらはす蚊遣哉	26	夏	人事	蚊遣
2521	何思ふ室の遊女の蚊遣哉	26	夏	人事	蚊遣
2522	鉢木の謡にむせぶ蚊遣哉	26	夏	人事	蚊遣
2523	船にたく室の遊女の蚊遣哉	26	夏	人事	蚊遣
2524	盆栽に蚊遣の煙かゝりけり	26	夏	人事	蚊遣
2525	窓ならぶ長屋つゞきの蚊遣哉	26	夏	人事	蚊遣
2526	門番の窓にわき出る蚊遣哉	26	夏	人事	蚊遣
2527	藪多き侍町の蚊遣哉	26	夏	人事	蚊遣
2528	山寺の方丈深き蚊遣哉	26	夏	人事	蚊遣
2529	欄干をのぼる伏家の蚊遣哉	26	夏	人事	蚊遣
2530	画姿に誰の廻向の蚊遣哉	26	夏	人事	蚊遣
2531	蚊遣火や暮れて馬子帰ること遅し	27	夏	人事	蚊遣
2532	唐人の煙たかりたる蚊遣りかな	27	夏	人事	蚊遣
2533	何なりと草さしくへる蚊遣哉	27	夏	人事	蚊遣
2534	方丈を蚊遣の煙這ひめくる	27	夏	人事	蚊遣
2535	文机の下を這ひ出る蚊遣哉	27	夏	人事	蚊遣
2536	右へなびき左へなびく蚊遣かな	27	夏	人事	蚊遣
2537	物うつす筆に蚊遣の煙かな	27	夏	人事	蚊遣
2538	蚊遣消えて人もの思ふ風情哉	28	夏	人事	蚊遣
2539	蚊遣して盗人まつや御曹子	28	夏	人事	蚊遣
2540	蚊遣つきて人物思ふ風情哉	28	夏	人事	蚊遣
2541	夕飯や蚊遣もつるゝ箸の先	28	夏	人事	蚊遣
2542	牛小屋に牛のたくらん蚊遣かな	29	夏	人事	蚊遣
2543	親も子も雑魚提げて来る蚊遣哉	29	夏	人事	蚊遣
2544	蚊遣して酒たけなは也小盗人	29	夏	人事	蚊遣
2545	蚊遣して博奕うつ也山の宿	29	夏	人事	蚊遣
2546	蚊遣りすてゝ辻君こもをかゝえ行	29	夏	人事	蚊遣
2547	蚊遣火の煙に跡を隠しけり	29	夏	人事	蚊遣
2548	蚊遣火や赤子煮え居る鍋の中	29	夏	人事	蚊遣
2549	蚊遣火や老母このごろわづらひぬ	29	夏	人事	蚊遣
2550	鷹筆の達磨ふすばる蚊遣かな	29	夏	人事	蚊遣
2551	君待つ夜蚊遣の杉のなくなりぬ	29	夏	人事	蚊遣
2552	小傾城蚊遣に顔をそむけゝり	29	夏	人事	蚊遣
2553	小屏風に人しはぶきす夕蚊遣	29	夏	人事	蚊遣
2554	惟盛をくどきかけたる蚊遣かな	29	夏	人事	蚊遣
2555	辻堂に軒聞ゆる蚊遣かな	29	夏	人事	蚊遣
2556	霧深き賤が伏家の蚊遣かな	29	夏	人事	蚊遣
2557	亡き妻の出よと蚊遣の煙かな	29	夏	人事	蚊遣
2558	亡き妻も出よと蚊遣の煙哉	29	夏	人事	蚊遣
2559	なぐさみに蚊遣す須磨の薄月夜	29	夏	人事	蚊遣
2560	なぐさみに蚊やりす須磨の夕月夜	29	夏	人事	蚊遣
2561	にきやかに貧乏村の蚊やり哉	29	夏	人事	蚊遣
2562	旅籠屋に飯くふそばの蚊遣哉	29	夏	人事	蚊遣
2563	旅籠屋の飯くふそばに蚊遣哉	29	夏	人事	蚊遣
2564	山陰に小家ありて蚊遣煙る也	29	夏	人事	蚊遣
2565	山陰の小家ありて蚊遣煙る也	29	夏	人事	蚊遣
2566	李夫人のあらはれいつる蚊遣哉	29	夏	人事	蚊遣
2567	路次入れば煙うづまく蚊遣かな	29	夏	人事	蚊遣
2568	路次入れば煙がちなる蚊やり哉	29	夏	人事	蚊遣
2569	湧きあがる貧乏村の蚊遣哉	29	夏	人事	蚊遣
2570	海賊の船に蚊遣す博奕哉	30	夏	人事	蚊遣
2571	伽羅の蚊遣羅の団扇彼も一時	30	夏	人事	蚊遣
2572	講武所に蚊遣も焚かず夕化粧	31	夏	人事	蚊遣
2573	喰ひ残す蜜柑の皮の蚊遣哉	31	夏	人事	蚊遣

2574	小芸者の蚊遣も焚かず夕化粧	31	夏	人事	蚊遣
2575	辻君の留守に燃えるたる蚊遣哉	33	夏	人事	蚊遣
2576	蚊遣粉ノ夜店二人ノツドヒケリ	35	夏	人事	蚊遣
2577	山寺の庫裏ものうしや蠅叩	26	夏	人事	蠅叩
2578	山寺や酒のむ罪の蠅にり	26	夏	人事	蠅叩
2579	蠅叩きついでに蚤も叩かばや	27	夏	人事	蠅叩
2580	蠅打てしばらく安し四畳半	28	夏	人事	蠅叩
2581	看護婦やうたゝ寝さめて蠅を打つ	30	夏	人事	蠅叩
2582	蠅打つて座禅の心乱れけり	33	夏	人事	蠅叩
2583	晒し井や釣瓶におよぐ五年鮒	26	夏	人事	晒井
2584	晒し井や蠅引きあまる裏戸口	26	夏	人事	晒井
2585	布さらすこゝは玉川多摩の里	28	夏	人事	晒布
2586	打ちあげた水風蘭に届きけり	25	夏	人事	打ち水
2587	打水のあめふりかゝる曇	25	夏	人事	打ち水
2588	打水の音さらさらと庭の竹	25	夏	人事	打ち水
2589	打水やまだ夕立の足らぬ町	25	夏	人事	打ち水
2590	打ちわくる水や一番二番町	25	夏	人事	打ち水
2591	打水に小庭は苔の匂ひ哉	26	夏	人事	打ち水
2592	打水の力ぬけたる柳哉	26	夏	人事	打ち水
2593	打水や虹を投出す大柄杓	26	夏	人事	打ち水
2594	打水やぬれていてたる竹の月	26	夏	人事	打ち水
2595	水うてば犬の昼寝にとゞきけり	26	夏	人事	打ち水
2596	打水や蘇鉄の雫松の露	28	夏	人事	打ち水
2597	古庭や水打つ夕苔くさき	28	夏	人事	打ち水
2598	水打て石燈籠の雫かな	28	夏	人事	打ち水
2599	三階の屋根に水打つ唧筒哉	29	夏	人事	打ち水
2600	水打つや蝉驚いて飛んで行く	29	夏	人事	打ち水
2601	打水の松に雫す八日月	30	夏	人事	打ち水
2602	うち水や上野の山へとゞけとて	30	夏	人事	打ち水
2603	裏町や水打さして馬車を見る	30	夏	人事	打ち水
2604	裏町や水打やめて馬車を見る	30	夏	人事	打ち水
2605	片側は水を撒きけり広小路	30	夏	人事	打ち水
2606	行列のあとに水打つほこり哉	30	夏	人事	打ち水
2607	長松と長吉ときそひ水を打	30	夏	人事	打ち水
2608	庭前に水打て月山の上	30	夏	人事	打ち水
2609	埃立て水まく人の行へかな	30	夏	人事	打ち水
2610	水打つや上野の山にとゞけとて	30	夏	人事	打ち水
2611	水打つや上野の山の禁路	30	夏	人事	打ち水
2612	盛砂や水打つ門の人さわぐ	30	夏	人事	打ち水
2613	夕栄に水打つ松の木未哉	30	夏	人事	打ち水
2614	出陣に似たる日もあり土用干	25	夏	人事	土用干
2615	白無垢の一本すゞし土用干	25	夏	人事	土用干
2616	土用干うその鎧もならびけり	25	夏	人事	土用干
2617	ほその緒や親の手跡の土用干	25	夏	人事	土用干
2618	虫干の小袖に蝶のとまりけり	25	夏	人事	土用干
2619	虫干の塵や百年二百年	25	夏	人事	土用干
2620	虫干や花見月見の衣の数	25	夏	人事	土用干
2621	やかれたる夏や鞆丸の土用干	25	夏	人事	土用干
2622	風吹て本面白や土用干	26	夏	人事	土用干
2623	血のついた物の具多し土用干	26	夏	人事	土用干
2624	土用干や裸になつて旅ころも	26	夏	人事	土用干
2625	土用干や裸になりて旅ころも	26	夏	人事	土用干
2626	政宗の眼もあらん土用干	26	夏	人事	土用干
2627	虫干の風に昔のひほひ哉	26	夏	人事	土用干
2628	虫干の魂入れる鎧かな	26	夏	人事	土用干
2629	虫干や牛を飼ふたる先祖あり	26	夏	人事	土用干

2630	虫干や傾城の文親の文	26	夏	人事	土用干
2631	虫干や幻住庵の蓑と笠	26	夏	人事	土用干
2632	虫干や釈迦と遊女のとなりあひ	26	夏	人事	土用干
2633	虫干の数に入りけり土器石器	27	夏	人事	土用干
2634	虫干の仏の顔ぞ見忘れし	28	夏	人事	土用干
2635	虫干やきのふにかはる今日は武具	28	夏	人事	土用干
2636	涅槃像又虫干に出たりけり	29	夏	人事	土用干
2637	虫干の本見てくらす一日哉	29	夏	人事	土用干
2638	虫干の吉野龍田を蒔絵哉	29	夏	人事	土用干
2639	虫干や再び出たる涅槃像	29	夏	人事	土用干
2640	虫干を片よせて客と話しけり	29	夏	人事	土用干
2641	関が原の鎧も出たり土用干	30	夏	人事	土用干
2642	血に染みし従軍の合羽土用干	30	夏	人事	土用干
2643	血のつきし従軍の合羽土用干	30	夏	人事	土用干
2644	土用干や軍書虫ばみて煙草の葉	30	夏	人事	土用干
2645	土用干や本箱に虫のひそみたる	30	夏	人事	土用干
2646	虫干のついでに見する本尊哉	30	夏	人事	土用干
2647	虫干の一日に尽きて何もなし	30	夏	人事	土用干
2648	虫干やけふは俳書の家集の部	30	夏	人事	土用干
2649	虫干や虫を追ひ出す古葛籠	30	夏	人事	土用干
2650	洛外や又この寺も土用干	30	夏	人事	土用干
2651	わが物も昔になりぬ土用干	30	夏	人事	土用干
2652	家に蔵す甲冑朽ちて土用干	31	夏	人事	土用干
2653	虫干や洋書の間枯桜	31	夏	人事	土用干
2654	虫干に蕪村の偽筆掛りけり	32	夏	人事	土用干
2655	虫くひの系図の本も干されけり	34	夏	人事	土用干
2656	書を干すや昔なつかしの不審紙	30	夏	人事	曝書
2657	書を干すや昔わが張りし不審紙	30	夏	人事	曝書
2658	風入や五位の司の奈良下り	31	夏	人事	曝書
2659	氣遣はし雨乞の碑も花の陰	20	夏	人事	雨乞
2660	雨乞の中の一人やわたし守	24	夏	人事	雨乞
2661	雨こひの帰りは天をにらみけり	25	夏	人事	雨乞
2662	雨乞の天までとゞく願ひかな	25	夏	人事	雨乞
2663	あま乞や祈らぬ里にふりはしめ	25	夏	人事	雨乞
2664	雨乞や次第に近き雲の脚	25	夏	人事	雨乞
2665	雨乞や天にひゞけと打つ大鼓	25	夏	人事	雨乞
2666	雨こひや領分外の一くもり	25	夏	人事	雨乞
2667	雨こひや絵かきは雨をかひている	25	夏	人事	雨乞
2668	雨乞や折々のぞく宮の外	25	夏	人事	雨乞
2669	雨乞をよそ事にいふ左官かな	25	夏	人事	雨乞
2670	雨乞や歌よみさうな賤の顔	26	夏	人事	雨乞
2671	雨乞やをさな心におそろしき	28	夏	人事	雨乞
2672	月赤し雨乞踊見に行かん	29	夏	人事	雨乞
2673	蚊の口もまじりて赤き汗痂哉	25	夏	人事	汗
2674	汗氷る山陰行けば風もなし	26	夏	人事	汗
2675	汗ふくや背にかばんの紐のあと	26	夏	人事	汗
2676	汗ふくや仙台は木もあるところ	26	夏	人事	汗
2677	汗わくや動きもやらぬ牛車	26	夏	人事	汗
2678	いわけなや牛ひきかへる兎の汗	26	夏	人事	汗
2679	傾城の重ね着苦し汗の玉	26	夏	人事	汗
2680	葱摺我旅衣汗くさし	26	夏	人事	汗
2681	千両の石の重さや牛の汗	26	夏	人事	汗
2682	やせ馬の背に汗流すあつさ哉	26	夏	人事	汗
2683	我もはや汗かゝぬ迄に老にけり	26	夏	人事	汗
2684	汗くさしうしろ向たる小傾城	27	夏	人事	汗
2685	鞆丸の汗かいて居るあはれ也	28	夏	人事	汗

2686	罪深き京の女や綺羅の汗	28	夏	人事	汗
2687	休らへば汗につめたき背中哉	28	夏	人事	汗
2688	汗ふく親銭数ふる子舟は着きぬ	29	夏	人事	汗
2689	十年の汗を道後の温泉に洗へ	29	夏	人事	汗
2690	汗臭き着物脱ぎけり山の宿	30	夏	人事	汗
2691	汗しとゞ苦しき夢はさめてけり	30	夏	人事	汗
2692	汗にしみて紅さめし襦袢哉	30	夏	人事	汗
2693	稽古場の面をかぶれば汗臭き	30	夏	人事	汗
2694	汗くさき遊女と寝たり狭き花筵	31	夏	人事	汗
2695	汗くさき行者の宿や夏の月	31	夏	人事	汗
2696	汗を吹く茶屋の松風蝉時雨	31	夏	人事	汗
2697	旅人の汗の玉散る清水哉	31	夏	人事	汗
2698	つくつくと汗の香に飽く旅寝哉	31	夏	人事	汗
2699	焼土に汗たらし行車力哉	31	夏	人事	汗
2700	老車夫の汗を憐む酒手哉	31	夏	人事	汗
2701	舌頭に干転するや汗の玉	33	夏	人事	汗
2702	汗拭を草に干しけり葱摺	26	夏	人事	汗巾
2703	くひちぎる折もありけり汗拭	26	夏	人事	汗巾
2704	汗拭香水の香をなつかしむ	30	夏	人事	汗巾
2705	旅人や杖に干し行く汗拭	31	夏	人事	汗巾
2706	夏やせを蚤にくはれるあつさかな	24	夏	人事	夏瘦
2707	夏やせの腮にいたし笠の紐	25	夏	人事	夏瘦
2708	夏やせの歌かきつける団扇哉	25	夏	人事	夏瘦
2709	夏やせの御姿見ゆるくらさ哉	25	夏	人事	夏瘦
2710	夏瘦の名にも立ちけり裸不二	25	夏	人事	夏瘦
2711	夏やせや海水浴の姫御前	25	夏	人事	夏瘦
2712	夏やせをかくしかねたる団扇哉	25	夏	人事	夏瘦
2713	夏瘦をすなはち恋のはじめ哉	25	夏	人事	夏瘦
2714	夏やせをなでつさすりつ蚊屋の中	25	夏	人事	夏瘦
2715	夏瘦をなでつさすりつ一人哉	25	夏	人事	夏瘦
2716	夏やせを肌みせぬ妹の思ひかな	25	夏	人事	夏瘦
2717	夏瘦を見せまゐらせ度候かしく	25	夏	人事	夏瘦
2718	夏瘦の腋血叩く団扇哉	26	夏	人事	夏瘦
2719	夏瘦の僧芦の葉に乗て見よ	26	夏	人事	夏瘦
2720	夏瘦のつもつて老ぬかく許り	26	夏	人事	夏瘦
2721	夏瘦の直れとぞ思ふ温泉哉	26	夏	人事	夏瘦
2722	夏瘦の外に淋しや瘤のあと	26	夏	人事	夏瘦
2723	夏瘦は涼しきものと知りたまへ	26	夏	人事	夏瘦
2724	夏瘦は野に伏し山に寝る身哉	26	夏	人事	夏瘦
2725	夏瘦や男の上にいぢらしき	26	夏	人事	夏瘦
2726	夏瘦を藜の杖に恥にけり	26	夏	人事	夏瘦
2727	夏瘦を親に泣かるゝ遊女哉	26	夏	人事	夏瘦
2728	夏瘦を風に吹かるゝ法衣哉	26	夏	人事	夏瘦
2729	夏瘦を人の見はつすをとめ哉	26	夏	人事	夏瘦
2730	夏瘦を藪医者殿に見られけり	26	夏	人事	夏瘦
2731	夏やせとしもなき象の姿かな	27	夏	人事	夏瘦
2732	此春は花に肥えしか夏やせぬ	28	夏	人事	夏瘦
2733	夏瘦か否かと問へば維摩黙	28	夏	人事	夏瘦
2734	夏瘦せて大めし喰ふ男かな	28	夏	人事	夏瘦
2735	夏瘦の命と聞けば恐るしき	28	夏	人事	夏瘦
2736	夏瘦の骨にとゞまる命かな	28	夏	人事	夏瘦
2737	夏やせや命と聞けば恐るしき	28	夏	人事	夏瘦
2738	夏瘦やきん丸許り平気也	28	夏	人事	夏瘦
2739	夏瘦や枕にいたきものゝ本	28	夏	人事	夏瘦
2740	夏瘦をしたかたとへば維摩黙	28	夏	人事	夏瘦
2741	忍ぶれど夏瘦にけり我恋は	29	夏	人事	夏瘦

2742	夏毎に瘦せ行く老の思ひかな	29	夏	人事	夏瘦
2743	夏瘦の思ひつめたる命かな	29	夏	人事	夏瘦
2744	夏やせや風ふき入るゝ老か膝	29	夏	人事	夏瘦
2745	夏瘦や風吹き入るゝ老の膝	29	夏	人事	夏瘦
2746	夏瘦やつゝみかねたる指の尖	29	夏	人事	夏瘦
2747	ふらんすに夏瘦なんどなかるべし	29	夏	人事	夏瘦
2748	うたてさは夏瘦したる脚気哉	30	夏	人事	夏瘦
2749	夏瘦や牛乳に飽て粥薄し	30	夏	人事	夏瘦
2750	麦飯や小豆や脚気夏瘦す	30	夏	人事	夏瘦
2751	夢苦しわれ夏瘦の骨を痛み	30	夏	人事	夏瘦
2752	夏瘦の朝飯くはぬ男かな	31	夏	人事	夏瘦
2753	田舎路の馬車馬瘦せぬ草いきれ	31	夏	人事	夏瘦
2754	夏瘦の君に勤む泥亀の血一杯	33	夏	人事	夏瘦
2755	夏瘦の僧都の像や鉦作	33	夏	人事	夏瘦
2756	行水や鷺もからすとかはりけり	21	夏	人事	行水
2757	行水をこぼすや草の露涼し	25	夏	人事	行水
2758	行水の雷臍を驚かす	29	夏	人事	行水
2759	朝顔の垣のあなたに行水す	30	夏	人事	行水
2760	垣まはらに行水すべき隈もなし	30	夏	人事	行水
2761	気持よや行水過ぎて雨を見る	30	夏	人事	行水
2762	行水に夫呼ぶ背戸の畑哉	30	夏	人事	行水
2763	行水の肌白うして痣を見る	30	夏	人事	行水
2764	行水や背中にそよぐ櫓の影	30	夏	人事	行水
2765	行水や盥に遊ぶ児二人	30	夏	人事	行水
2766	行水を出て梳る椽の端	30	夏	人事	行水
2767	宵月や黍の葉かくれ行水す	30	夏	人事	行水
2768	行水の後の夕餉や養老酒	33	夏	人事	行水
2769	行水の盥や何や新世帯	33	夏	人事	行水
2770	行水や秋海棠の湯の雫	33	夏	人事	行水
2771	行水や犬田が痣の在処	33	夏	人事	行水
2772	行水や美人住みける裏長屋	33	夏	人事	行水
2773	行水や再び汗の細工事	33	夏	人事	行水
2774	行水や虫干の書のしまひさし	33	夏	人事	行水
2775	此頃や退公遅く行水す	33	夏	人事	行水
2776	霍乱の廝にこもるあつさかな	25	夏	人事	霍乱
2777	霍乱や天井の板のせゝかまし	25	夏	人事	霍乱
2778	霍乱ややけ砂はしる赤跣	25	夏	人事	霍乱
2779	蓮うへる家に霍乱は来さりけり	25	夏	人事	霍乱
2780	読む本を其まゝ顔に昼寝哉	20	夏	人事	昼寝
2781	木の枝に頭陀かけてそこに昼寝哉	20	夏	人事	昼寝
2782	白帆をは見送りながら昼寝哉	21	夏	人事	昼寝
2783	白き帆を見送りながら昼寝哉	21	夏	人事	昼寝
2784	昼寝して見れば小舟の通りけり	21	夏	人事	昼寝
2785	昼寝してゐれば小舟の通りけり	21	夏	人事	昼寝
2786	木の枝に荷物八かけて昼寝哉	23	夏	人事	昼寝
2787	妻が昼寝たりと亭主小言いひ	23	夏	人事	昼寝
2788	人の来て浮世にかへる昼寝かな	23	夏	人事	昼寝
2789	昼寝して夢路に夏はなかりけり	23	夏	人事	昼寝
2790	百姓へあつさ預けて昼寝哉	24	夏	人事	昼寝
2791	百姓へあつさあつける昼寝かな	24	夏	人事	昼寝
2792	傘張は傘の陰なる昼寝かな	25	夏	人事	昼寝
2793	恋人の肌はつかしきひるね哉	25	夏	人事	昼寝
2794	掛茶屋は芦生に似たる昼寝哉	26	夏	人事	昼寝
2795	風吹て枕はつれし昼寝哉	26	夏	人事	昼寝
2796	傾城の昼寝はあつし金屏風	26	夏	人事	昼寝
2797	一山をこして禁の昼寝かな	26	夏	人事	昼寝

2798	昼めしの腹を風吹く昼寝哉	26	夏	人事	昼寝
2799	傘張の傘に隠るゝ昼寝哉	27	夏	人事	昼寝
2800	板敷や昼寝をめぐる山の蟻	28	夏	人事	昼寝
2801	講習の袴をぬぎて昼寝哉	28	夏	人事	昼寝
2802	ことづてよ須磨の浦わに昼寝すと	28	夏	人事	昼寝
2803	昼寝して臍に雲おく清水越	28	夏	人事	昼寝
2804	世の中の重荷おろして昼寝哉	28	夏	人事	昼寝
2805	夜を起きて人の昼寝ぞすさまじき	28	夏	人事	昼寝
2806	歌書俳書紛然として昼寝哉	29	夏	人事	昼寝
2807	口あけて昼寝の人のうつゝなし	29	夏	人事	昼寝
2808	機織の機にもたれて昼寝かな	29	夏	人事	昼寝
2809	足しひれて邯鄲の昼寝夢さめぬ	30	夏	人事	昼寝
2810	楽遠くなり邯鄲の昼寝夢さめぬ	30	夏	人事	昼寝
2811	滝の茶屋にそゞる昼寝の足寒し	30	夏	人事	昼寝
2812	内閣を辞して薩摩に昼寝哉	30	夏	人事	昼寝
2813	昼寝して須磨に遊ばんか松島か	30	夏	人事	昼寝
2814	禪を滝にひたして昼寝哉	30	夏	人事	昼寝
2815	霊山や昼寝の軒雲起る	30	夏	人事	昼寝
2816	馬方は鞍に昼寝や馬歩む	31	夏	人事	昼寝
2817	号外や昼寝の夢を驚かす	31	夏	人事	昼寝
2818	学校の試験過ぎたる昼寝哉	31	夏	人事	昼寝
2819	雷をさそふ昼寝の軒哉	31	夏	人事	昼寝
2820	山門に旅商人の昼寝哉	31	夏	人事	昼寝
2821	竹娑婆と昼寝の床に動きけり	31	夏	人事	昼寝
2822	地震して昼寝さめたり蒸暑き	31	夏	人事	昼寝
2823	茶屋女芦生の昼寝起しけり	31	夏	人事	昼寝
2824	寺しんと昼寝の軒聞えけり	31	夏	人事	昼寝
2825	西日さす昼寝の腹や中二階	31	夏	人事	昼寝
2826	昼寝さめて腕さするや畳の目	31	夏	人事	昼寝
2827	昼寝さめて湖畔の森に遊ひけり	31	夏	人事	昼寝
2828	昼寝する人も見えけり須磨の里	31	夏	人事	昼寝
2829	文机に顔押しつけて昼寝哉	31	夏	人事	昼寝
2830	渋紙に渋引く人や昼寝起	32	夏	人事	昼寝
2831	昼寝してネハンの相を示しけり	32	夏	人事	昼寝
2832	鞆丸の大きな人の昼寝かな	33	夏	人事	昼寝
2833	昼寝の日面会の日と分ちけり	33	夏	人事	昼寝
2834	弓引きし朝の労れの昼寝かな	33	夏	人事	昼寝
2835	画き終へて昼寝も出来ぬ疲れかな	35	夏	人事	昼寝
2836	李斯伝を風吹きかへす昼寝かな	35	夏	人事	昼寝
2837	携へし避暑案内や汽車の中	32	夏	人事	避暑
2838	避暑さきや行逢ふ人の見知顔	32	夏	人事	避暑
2839	避暑に来る西洋人の夫婦哉	32	夏	人事	避暑
2840	避暑の地に行逢ふ人や見知顔	32	夏	人事	避暑
2841	米人の避暑に伴ふ書生哉	32	夏	人事	避暑
2842	松風を得意で売るや納涼茶屋	18	夏	人事	納涼
2843	川水の音をすゝみの闇夜哉	21	夏	人事	納涼
2844	隅田人となりてことしは納涼哉	21	夏	人事	納涼
2845	夏川の音をすゝみの闇夜哉	21	夏	人事	納涼
2846	舟てくる友もありけり川住居	21	夏	人事	納涼
2847	夜すゝみやひるのあつさの埋合せ	21	夏	人事	納涼
2848	夜すゝみやひるのあつさをとりかへす	21	夏	人事	納涼
2849	ゆすつたる所に風たつ涼み哉	24	夏	人事	納涼
2850	いさかひのくづれて門の涼み哉	25	夏	人事	納涼
2851	烏帽子着て加茂の宮守涼みけり	25	夏	人事	納涼
2852	おのが田のそよぎ見てある涼哉	25	夏	人事	納涼
2853	追剥に着物とられて涼み哉	25	夏	人事	納涼

2854	算にも滝と名のつく涼みかな	25	夏	人事	納涼
2855	片足に安房をふまへし涼み哉	25	夏	人事	納涼
2856	神に燈をあげて戻りの涼み哉	25	夏	人事	納涼
2857	九合目へ来て気のせくや涼み台	25	夏	人事	納涼
2858	吹殻の水に音ある涼みかな	25	夏	人事	納涼
2859	涼めとて床几もて来る涼み哉	25	夏	人事	納涼
2860	吸殻の水に音ある涼み哉	25	夏	人事	納涼
2861	立よりにて杉の皮はく涼み哉	25	夏	人事	納涼
2862	玉章を門でうけとる涼み哉	25	夏	人事	納涼
2863	ぬけ裏をぬけて川べのすゞみかな	25	夏	人事	納涼
2864	芭蕉もつ手に風すくるすゞみかな	25	夏	人事	納涼
2865	初恋の背合せけり涼み台	25	夏	人事	納涼
2866	葉柳をふつては見たる涼み哉	25	夏	人事	納涼
2867	風鈴を動かして居る涼哉	25	夏	人事	納涼
2868	ふんどしのいろさまさまや夕すゞみ	25	夏	人事	納涼
2869	松陰に蚤とる僧のすゞみ哉	25	夏	人事	納涼
2870	松の木をぐるりぐるりと涼み哉	25	夏	人事	納涼
2871	溝川に小鮒ふまへし涼み哉	25	夏	人事	納涼
2872	温泉上りに氷かみわる涼み哉	25	夏	人事	納涼
2873	畦道に涼みけり牛よけたまゝ	26	夏	人事	納涼
2874	蠶の子の遊女うらやむすゞみ哉	26	夏	人事	納涼
2875	うき人と松をへだてゝすゞみ哉	26	夏	人事	納涼
2876	うたてやなわれも老木の下涼	26	夏	人事	納涼
2877	嘯殿に鳥の名をきく涼みかな	26	夏	人事	納涼
2878	掛茶屋に風追分のすゞみ哉	26	夏	人事	納涼
2879	かしこまる玉座の前のすゞみ哉	26	夏	人事	納涼
2880	風筋に頭あつむる涼み哉	26	夏	人事	納涼
2881	川中に二人立たり夕涼み	26	夏	人事	納涼
2882	髪つんで頭の風や夕涼	26	夏	人事	納涼
2883	蚊遣火に月見ぬ家の涼み哉	26	夏	人事	納涼
2884	木のもとにふんどし洗ふ涼み哉	26	夏	人事	納涼
2885	観音も仮の契りや一涼み	26	夏	人事	納涼
2886	傾城にふられてひとりすゞみ哉	26	夏	人事	納涼
2887	傾城の海を見て居る夕涼み	26	夏	人事	納涼
2888	傾城や客に買はれて夕涼み	26	夏	人事	納涼
2889	公園に旅人ひとり涼みけり	26	夏	人事	納涼
2890	此山に此家はかりのすゞみ哉	26	夏	人事	納涼
2891	山僧の市へ出でたる納涼哉	26	夏	人事	納涼
2892	下涼み牛飼牛を放ちつゝ	26	夏	人事	納涼
2893	島の数かぞへてくれるすゞみ哉	26	夏	人事	納涼
2894	順礼の松に札張る涼みかな	26	夏	人事	納涼
2895	食堂を出て涼みけりこゝかしこ	26	夏	人事	納涼
2896	城跡をよき涼み場や宮の下	26	夏	人事	納涼
2897	涼みながら君話さんか一書生	26	夏	人事	納涼
2898	月に寝ば魂松島にすゞみせん	26	夏	人事	納涼
2899	なき人を相手にかたるすゞみ哉	26	夏	人事	納涼
2900	なき人を相手にほしきすゞみ哉	26	夏	人事	納涼
2901	根岸かな琴にもたれて端涼ミ	26	夏	人事	納涼
2902	晩鐘を数へて闇のすゞみかな	26	夏	人事	納涼
2903	人は居ず山見てもどる涼みかな	26	夏	人事	納涼
2904	広しきに僧と二人の涼み哉	26	夏	人事	納涼
2905	不二見えて火の見櫓の涼み哉	26	夏	人事	納涼
2906	ふわふわとなき魂こゝに来て涼め	26	夏	人事	納涼
2907	平蔵にあめりか語るすゞみかな	26	夏	人事	納涼
2908	薪わりしあとを山家の涼み哉	26	夏	人事	納涼
2909	松島に足ぶらさげる涼みかな	26	夏	人事	納涼

2910	松島に目のくたびれしすゝみかな	26	夏	人事	納涼
2911	松島の闇を見てゐる涼みかな	26	夏	人事	納涼
2912	松の木に提灯さげて夕涼み	26	夏	人事	納涼
2913	松の木を叩いてまはるすゝみかな	26	夏	人事	納涼
2914	丸山に船の目利のすゝみかな	26	夏	人事	納涼
2915	みちのくへ涼みに行くや下駄はいて	26	夏	人事	納涼
2916	山樫の木陰に賤のすゝみ哉	26	夏	人事	納涼
2917	行きあたる宿に落ちつく涼みかな	26	夏	人事	納涼
2918	行きついた宿におちつくすゝみかな	26	夏	人事	納涼
2919	夕すゝみ四角な庭をながめけり	26	夏	人事	納涼
2920	夕涼松風とめされ候そ	26	夏	人事	納涼
2921	夕涼み物見の松に上りけり	26	夏	人事	納涼
2922	夕涼み山に茶屋あり松もあり	26	夏	人事	納涼
2923	夜涼みや川に落ちたる人の音	26	夏	人事	納涼
2924	女つれて四条へいそぐすゝみ哉	26	夏	人事	納涼
2925	石の上に人あり茶あり夕涼	27	夏	人事	納涼
2926	大山に我座して居る涼み哉	27	夏	人事	納涼
2927	苫に立ちて帆をつかまえる涼み哉	27	夏	人事	納涼
2928	盗人の錠おろし行く涼み哉	27	夏	人事	納涼
2929	盗人の鎖おろし行涼みかな	27	夏	人事	納涼
2930	秀吉の頼朝なぶる涼み哉	27	夏	人事	納涼
2931	昼涼み摺鉢山に腰かけて	27	夏	人事	納涼
2932	商人やしばらく涼む橋の上	28	夏	人事	納涼
2933	ある人の平家鼻肩や夕涼	28	夏	人事	納涼
2934	おろしおく筧に雲おく涼かな	28	夏	人事	納涼
2935	おろしたる筧に雲おく涼み哉	28	夏	人事	納涼
2936	鞆丸の邪魔になつたる涼み哉	28	夏	人事	納涼
2937	ことよせて君を諫むる納涼哉	28	夏	人事	納涼
2938	子は寝たり飯はくふたり夕涼	28	夏	人事	納涼
2939	五六町空に上りてすゝみかな	28	夏	人事	納涼
2940	すゝみがてら君を送らんそこら迄	28	夏	人事	納涼
2941	二文投げて寺の椽借る涼み哉	28	夏	人事	納涼
2942	花折て夕闇戻る涼みかな	28	夏	人事	納涼
2943	分捕の軍艦見ゆる涼みかな	28	夏	人事	納涼
2944	真夜中や涼みも過ぎて波の音	28	夏	人事	納涼
2945	湖に足ぶらさげて涼みかな	28	夏	人事	納涼
2946	湖に足ぶらさげる涼みかな	28	夏	人事	納涼
2947	御仏も扉をあけて涼みかな	28	夏	人事	納涼
2948	瘦骨の風に吹かるゝ涼みかな	28	夏	人事	納涼
2949	山伏の筧に雲おく涼み哉	28	夏	人事	納涼
2950	夕されば皆屋根に出る涼み哉	28	夏	人事	納涼
2951	夕涼月欄干にのぼりけり	28	夏	人事	納涼
2952	夕涼み仲居に文字を習はする	28	夏	人事	納涼
2953	えらい人になつたさうなと夕涼	29	夏	人事	納涼
2954	おこし絵に灯をともしけり夕涼	29	夏	人事	納涼
2955	三尺の木陰に涼む二人哉	29	夏	人事	納涼
2956	書に倦まばお堀の松を見て涼め	29	夏	人事	納涼
2957	涼みながら木陰に寝たり日半日	29	夏	人事	納涼
2958	松風や吾を涼ませて琴に落つ	29	夏	人事	納涼
2959	見ぬ友や幾人涼む不二の陰	29	夏	人事	納涼
2960	湯上りや乳房吹かるゝ端涼み	29	夏	人事	納涼
2961	夜涼みや欠落二人見つけたり	29	夏	人事	納涼
2962	奥の院へ十町と記す石に涼む	30	夏	人事	納涼
2963	鴨川や涼みも更けて水の音	30	夏	人事	納涼
2964	新内に入たかりする門涼	30	夏	人事	納涼
2965	たまたまに花火あくるや川涼	30	夏	人事	納涼

2966	夕涼君鯉を切る腕まくり	30	夏	人事	納涼
2967	夕涼み子供花火音すなり	30	夏	人事	納涼
2968	夕涼小供花火の聞ゆるなる	30	夏	人事	納涼
2969	夕涼み線香花火の匂ひかな	30	夏	人事	納涼
2970	夕涼み花火線香の匂ひ哉	30	夏	人事	納涼
2971	夜涼の門を過けりト師	30	夏	人事	納涼
2972	驚沢な人の涼みや柳橋	31	夏	人事	納涼
2973	灯をともし廻り燈籠や夕涼	31	夏	人事	納涼
2974	盆栽の蓮に向ふや夕涼	31	夏	人事	納涼
2975	夕涼石炭くさき風が吹く	31	夏	人事	納涼
2976	星の名を善く知る人や門涼	32	夏	人事	納涼
2977	大声で話す涼みや滝の茶屋	33	夏	人事	納涼
2978	露月匙を投げ肋骨剣を解く涼み	33	夏	人事	納涼
2979	誰やらの思ひものあり涼み舟	21	夏	人事	納涼舟
2980	月の出るまではしつかやすゝみ舟	21	夏	人事	納涼舟
2981	夏の夜やあの声はみなすゝみ舟	21	夏	人事	納涼舟
2982	夏の夜やさく声はみなすゝみ舟	21	夏	人事	納涼舟
2983	業平の思ふ人あり涼み舟	21	夏	人事	納涼舟
2984	海人の子や櫂もはづして夕涼	24	夏	人事	納涼舟
2985	見渡した闇に月あり涼み舟	24	夏	人事	納涼舟
2986	足伸へて不二をつゝくや涼み舟	25	夏	人事	納涼舟
2987	いろいろの灯ともし舟のすゝみ哉	25	夏	人事	納涼舟
2988	大川へ田舟押し出すすゝみ哉	25	夏	人事	納涼舟
2989	のりあげた舟に汐まつ涼み哉	25	夏	人事	納涼舟
2990	一つつゝ流れ行きけり涼み舟	25	夏	人事	納涼舟
2991	一つ一つ流れ行きけり涼み舟	25	夏	人事	納涼舟
2992	渡し守客のこぬまを涼み哉	25	夏	人事	納涼舟
2993	旅人の見て通りけり涼み船	26	夏	人事	納涼船
2994	釣舟に魚つりあぐむ涼みかな	26	夏	人事	納涼船
2995	ともし火の島かくれ行く涼み船	26	夏	人事	納涼船
2996	涼み舟団扇の風に帆をかけん	27	夏	人事	納涼船
2997	涼み舟川下遠く流れけり	28	夏	人事	納涼船
2998	涼みにも袖へ隠して運座舟	30	夏	人事	納涼船
2999	たまたまに花火あぐるや涼船	30	夏	人事	納涼船
3000	涼み舟団扇の端をぬらしけり	31	夏	人事	納涼船
3001	大坂の芝居くさすや涼み舟	33	夏	人事	納涼船
3002	網ノ舟料理ノ舟ヤ舟遊ビ	35	夏	人事	舟遊び
3003	舟遊ビ愛宕ノ塔ヲ右ニ見テ	35	夏	人事	舟遊び
3004	水泳き鷺もからすとかはり行	21	夏	人事	泳ぎ
3005	ともづなにあまの子ならばおよぎ哉	25	夏	人事	泳ぎ
3006	ぬれ髪を木陰にさばくおよぎ哉	25	夏	人事	泳ぎ
3007	川中にあたまそろへておよぎ哉	26	夏	人事	泳ぎ
3008	蟹の子や並んで泳ぐ八九人	30	夏	人事	泳ぎ
3009	おかこひに泳ぎの人のつとひけり	30	夏	人事	泳ぎ
3010	大川や流されながら人泳ぐ	30	夏	人事	泳ぎ
3011	木の末に櫓見えけり水練場	30	夏	人事	泳ぎ
3012	瓢を抱て浅瀬に泳ぎ習ふ人	30	夏	人事	泳ぎ
3013	山の池にひとり泳ぐ子膽太き	30	夏	人事	泳ぎ
3014	大男の頭の上を蝦およぎ	23	夏	人事	海水浴
3015	山を手のにのせて波間のゆあみかな	23	夏	人事	海水浴
3016	もしほたるゝ京の娘のおよぎ哉	28	夏	人事	海水浴
3017	鶺鴒のむれて子舟ひつはる早せ哉	25	夏	人事	鶺鴒
3018	おそろしや闇に乱るゝ鶺鴒の簞	25	夏	人事	鶺鴒
3019	月の出る裏へ裏へと鶺鴒舟哉	25	夏	人事	鶺鴒
3020	はらはらと風にはちくや鶺鴒の簞	25	夏	人事	鶺鴒
3021	鶺鴒舟雨になりぬるうれしさよ	26	夏	人事	鶺鴒

3022	面白やはつと放せばあら鵜とも	26	夏	人事	鵜飼
3023	風吹て篝のくらき鵜川哉	26	夏	人事	鵜飼
3024	昼の鵜の来てとまりけり牛の鞍	26	夏	人事	鵜飼
3025	闇の夜を鵜飼の妻の泣く頃か	26	夏	人事	鵜飼
3026	篝火に鵜のいさむこそ哀れなれ	27	夏	人事	鵜飼
3027	瀬をはやみ入り乱れつゝ鵜の篝	27	夏	人事	鵜飼
3028	いさましく早瀬に向ふ鵜舟哉	28	夏	人事	鵜飼
3029	いそがしや鵜飼たくみに縄さばき	28	夏	人事	鵜飼
3030	いかにしてこよひ乱るる鵜縄哉	29	夏	人事	鵜飼
3031	鵜飼やんで淋しく月の上りけり	29	夏	人事	鵜飼
3032	うしろより月になりぬる鵜舟哉	29	夏	人事	鵜飼
3033	鵜舟早し篝こぼるゝ水の上	29	夏	人事	鵜飼
3034	鵜も鮎も鵜匠も後の月夜哉	29	夏	人事	鵜飼
3035	君来ませり月に鵜飼の暇あれや	29	夏	人事	鵜飼
3036	子と見えて四羽の鵜遣ふ哀れ也	29	夏	人事	鵜飼
3037	月や多き闇や少き鵜飼舟	29	夏	人事	鵜飼
3038	傾城の娘もちける鵜匠哉	26	夏	人事	鵜匠
3039	ほうほうと鵜を放ちたる翁かな	29	夏	人事	鵜匠
3040	顔の上に篝ふかるゝ鵜匠哉	29	夏	人事	鵜匠
3041	たのみなく見ゆる鵜匠の白髪哉	29	夏	人事	鵜匠
3042	たのみなく見ゆる鵜飼の白髪哉	29	夏	人事	鵜匠
3043	吹きつける鵜匠の顔の篝かな	29	夏	人事	鵜匠
3044	顔赤く髻銀の如き鵜匠哉	30	夏	人事	鵜匠
3045	篝火や荒鵜を叱る眼の光	30	夏	人事	鵜匠
3046	川狩や脇指さして水の中	26	夏	人事	川狩
3047	川狩そ脇指さして水の中	26	夏	人事	川狩
3048	川狩や有明近き人の脛	27	夏	人事	川狩
3049	川狩の鉄輪を見たるはなし哉	28	夏	人事	川狩
3050	川狩や人におとろく夜の鳥	28	夏	人事	川狩
3051	川狩やしきりに痒き蛭の口	30	夏	人事	川狩
3052	川狩や仏の顔の見えぬ夜に	33	夏	人事	川狩
3053	松魚舟おくれさきだつ勢ひ哉	28	夏	人事	鰹舟
3054	藻刈舟雨ふるかたへ帰りけり	26	夏	人事	藻刈舟
3055	藻を刈るや女にばけるのら狐	26	夏	人事	藻刈舟
3056	照射する山のあなたや宵月夜	25	夏	人事	照射
3057	照射見て恐ろしき夜の嵐哉	25	夏	人事	照射
3058	不二は朝裾野は暗のともし哉	25	夏	人事	照射
3059	雨雲のうら照り返す照射哉	26	夏	人事	照射
3060	一里来て二里来て見えぬ照射哉	26	夏	人事	照射
3061	獲物多き照射の夢はさめにけり	26	夏	人事	照射
3062	傾城の夢に殿御の照射哉	26	夏	人事	照射
3063	蚊の声す照射の留守の人もなし	29	夏	人事	照射
3064	酒に酔ひて照射すべき夜を寝過しぬ	29	夏	人事	照射
3065	照射してひそみ居れば虫顔に飛ぶ	29	夏	人事	照射
3066	やごとなき客伴ひぬ狙ひ狩	29	夏	人事	照射
3067	松の木に吹きつけらるゝ火串哉	25	夏	人事	火串
3068	火串ふつて闇の真中を上り行	26	夏	人事	火串
3069	火串消えて鹿の嗅ぎよるあした哉	28	夏	人事	火串
3070	暁や火串に焦げし草の花	29	夏	人事	火串
3071	丑三ツの雨雲垂るゝ火串哉	29	夏	人事	火串
3072	驚いて鳥啼きうつる火串かな	29	夏	人事	火串
3073	椎の葉の夜露をこぼす火串哉	29	夏	人事	火串
3074	鉄砲の音に消えたる火串哉	29	夏	人事	火串
3075	人影のちらと見えたる火串哉	29	夏	人事	火串
3076	火串振つて鹿担ひ来る小道哉	29	夏	人事	火串
3077	夜嵐の火串に狙ひ定まらず	29	夏	人事	火串

3078	筑波山上りて見れば雲の上	22	夏	人事	登山
3079	立山の剣の峯を攀ぢ行けば	23	夏	人事	登山
3080	夕間暮石槌詣りけり	31	夏	人事	登山
3081	藍刈は小唄も出でぬあつさ哉	25	夏	人事	藍刈る
3082	藍刈や一里四方に木も見えず	25	夏	人事	藍刈る
3083	藍刈るや誰が行末の紺しぼり	25	夏	人事	藍刈る
3084	藍刈や阿波の鳴門に波もなし	26	夏	人事	藍刈る
3085	藍刈やこゝも故郷に似たる哉	26	夏	人事	藍刈る
3086	藍干や一筋あけてはいり口	26	夏	人事	藍干
3087	川狩にふみこまれたる真菰哉	25	夏	人事	真菰刈る
3088	真菰負ふて真菰を出でぬ真菰刈	26	夏	人事	真菰刈る
3089	物いへば女なりけり真菰刈	26	夏	人事	真菰刈る
3090	大沼や雨の夕を真菰刈	28	夏	人事	真菰刈る
3091	夏引その乱れや二十八天下	32	夏	人事	夏麻引く
3092	暑キ日ノ暮レテ著ク町ノ夜店カナ	35	夏	人事	夜店
3093	団扇手に田舎の夜店見に行きぬ	35	夏	人事	夜店
3094	腐リタル松魚ヲ照ス夜店カナ	35	夏	人事	夜店
3095	坂本八夏菊少シ夜店カナ	35	夏	人事	夜店
3096	なき魂の空におとろく花火哉	21	夏	人事	花火
3097	木にひびき山にこたへて花火かな	24	夏	人事	花火
3098	雨雲に入りては開く花火かな	28	夏	人事	花火
3099	鳥飛んで日の落際の花火哉	28	夏	人事	花火
3100	雨雲の中へ打ちこむ花火かな	29	夏	人事	花火
3101	釣花火又唐松かな薄哉	30	夏	人事	花火
3102	氷屋に白きが中の小堤灯	26	夏	人事	氷屋
3103	暗き町やたまたま床屋氷店	31	夏	人事	氷屋
3104	橋詰や此頃出来し氷店	32	夏	人事	氷屋
3105	氷屋の軒並べたる納涼哉	35	夏	人事	氷屋
3106	氷屋ノ夜店出シタル始メカナ	35	夏	人事	氷屋
3107	遠クカラ見エシ此松氷茶屋	35	夏	人事	氷屋
3108	木にかける氷の旗や荷ひ茶屋	26	夏	人事	氷の旗
3109	氷売手先はかりのひやさ哉	25	夏	人事	氷売る
3110	氷売や北海道の水の味	25	夏	人事	氷売る
3111	氷売る橋の袂のともし哉	26	夏	人事	氷売る
3112	氷売る柳の陰の出茶屋かな	27	夏	人事	氷売る
3113	一銭の氷少き野茶屋かな	28	夏	人事	氷売る
3114	夏氷かむにあそこに不二の雪	21	夏	人事	夏氷
3115	富士の雪見なからくふや夏氷	21	夏	人事	夏氷
3116	君か代や親が所望の夏氷	25	夏	人事	夏氷
3117	君か代や親の病気に夏氷	25	夏	人事	夏氷
3118	傾城の噛み砕きけり夏氷	26	夏	人事	夏氷
3119	夏氷はかなくたのむ命哉	26	夏	人事	夏氷
3120	やき芋の行燈あつし夏氷	26	夏	人事	夏氷
3121	一匙のアイスクリームや蘇る	32	夏	人事	夏氷
3122	三尺の鯛生きてあり夏氷	35	夏	人事	夏氷
3123	冷風の口にたまるや氷水	25	夏	人事	氷水
3124	町走る人見ゆわれは氷水	26	夏	人事	氷水
3125	門前の店や櫛と氷水	31	夏	人事	氷水
3126	傾城の腹をひやさん氷餅	26	夏	人事	氷餅
3127	氷餅煮えかへる湯をそゝぎけり	33	夏	人事	氷餅
3128	酒を断つ土用の入や氷餅	33	夏	人事	氷餅
3129	花守と同じ男よ氷室守	25	夏	人事	氷室
3130	氷室守花の都へといそき候	25	夏	人事	氷室
3131	氷室守富士をしらすと申しけり	25	夏	人事	氷室
3132	あけるよりはやひやひやと氷室哉	26	夏	人事	氷室
3133	杉檜朝日つめたき氷室山	26	夏	人事	氷室

3134	一山は風のひやつく氷室哉	26	夏	人事	氷室
3135	氷室さへあるべき山のいでゆ哉	26	夏	人事	氷室
3136	氷室だにあるべき山のいで湯かな	26	夏	人事	氷室
3137	氷室より氷つけ行く荷馬哉	26	夏	人事	氷室
3138	水無月の初時鳥氷室守	27	夏	人事	氷室
3139	たえずしも白雲おこる氷室守	28	夏	人事	氷室
3140	ひやひやと白気の上る氷室かな	28	夏	人事	氷室
3141	ハツタイヤ褒*(女偏+以)笑八又事五年	35	夏	人事	はったい
3142	ラムネ屋も此頃出来て別荘地	35	夏	人事	ラムネ
3143	あんどんは客の書きけり一夜酒	25	夏	人事	一夜酒
3144	だまされて子供のなくや一夜酒	25	夏	人事	一夜酒
3145	ふしか根の雪汁煮てや一夜酒	25	夏	人事	一夜酒
3146	舟あつし船頭見えず一夜酒	26	夏	人事	一夜酒
3147	味噌つくる余り麹や一夜酒	34	夏	人事	一夜酒
3148	松風に甘酒さます出茶屋かな	21	夏	人事	甘酒
3149	松風に甘酒わかす出茶屋かな	21	夏	人事	甘酒
3150	松風の甘酒を吹く出茶屋哉	21	夏	人事	甘酒
3151	甘酒の甘きをにくむ我下戸ぞ	30	夏	人事	甘酒
3152	甘酒の釜の光や昔店	34	夏	人事	甘酒
3153	甘酒も飴湯も同じ樹陰かな	34	夏	人事	甘酒
3154	甘酒や曇口探る小僧二人	34	夏	人事	甘酒
3155	人の親の甘酒売を呼びにけり	34	夏	人事	甘酒
3156	壺の底たゝくや古き茶の名残	26	夏	人事	古茶
3157	俳諧の虚実を見たり古茶新茶	25	夏	人事	新茶
3158	よと河や宇治の新茶の流れかす	25	夏	人事	新茶
3159	京へ出る新茶の荷あり十団子	26	夏	人事	新茶
3160	旅僧をよびこむ庵の新茶哉	26	夏	人事	新茶
3161	白き花活けて新茶の客を待つ	29	夏	人事	新茶
3162	新茶青く古茶黒し我れ古茶飲まん	29	夏	人事	新茶
3163	紙切に包む手製の新茶哉	31	夏	人事	新茶
3164	したゝかに新茶のみけり蛙の夜	31	夏	人事	新茶
3165	渋紙や新茶干したる椽の先	31	夏	人事	新茶
3166	新茶入るゝ袋に古茶の名残哉	31	夏	人事	新茶
3167	新茶撰る僧と話すや小百姓	31	夏	人事	新茶
3168	新茶積む馬も来て居る汽車場哉	31	夏	人事	新茶
3169	玉川の門に新茶の使哉	31	夏	人事	新茶
3170	茶袋に新茶と書いて吊したり	31	夏	人事	新茶
3171	老僧の文と新茶と筍と	31	夏	人事	新茶
3172	謡ヲ談シ俳句ヲ談ス新茶哉	33	夏	人事	新茶
3173	小包を解けば新茶のこぼれけり	33	夏	人事	新茶
3174	新しき茶を煎じけり玉の露	34	夏	人事	新茶
3175	次韻して謝する新茶の絶句かな	34	夏	人事	新茶
3176	羊羹の甘きを好む新茶かな	34	夏	人事	新茶
3177	隠逸のものとはいはず梅法師	25	夏	人事	梅干す
3178	梅干の雫落ちやむあつさ哉	25	夏	人事	梅干す
3179	梅干の雫もよわるあつさ哉	25	夏	人事	梅干す
3180	梅干の中にまきれて小石哉	25	夏	人事	梅干す
3181	梅干やあふないところに牛の鼻	25	夏	人事	梅干す
3182	梅干や夕がほひらく屋根の上	25	夏	人事	梅干す
3183	梅の木に近く其木の梅を干す	30	夏	人事	梅干す
3184	梅干すや撫子弱る日の盛	30	夏	人事	梅干す
3185	梅干すや庭にしたゝる紫蘇の汁	32	夏	人事	梅干す
3186	鎌倉や別荘のうらにふのり干	26	夏	人事	海蘿干
3187	温泉上りに三津の肴のなます哉	23	夏	人事	沖膾
3188	腰蓑の雫も涼し沖膾	25	夏	人事	沖膾
3189	さゝ波をきりそるへけり沖膾	25	夏	人事	沖膾

3190	船頭は此名もしらず沖膾	25	夏	人事	沖膾
3191	大名の御手料理なり沖膾	25	夏	人事	沖膾
3192	大名の御手料理もやおきなます	25	夏	人事	沖膾
3193	苫に来て烏啼もおき膾	25	夏	人事	沖膾
3194	はね鯛を取て押えて沖膾	25	夏	人事	沖膾
3195	夕立のたまるも清し沖膾	25	夏	人事	沖膾
3196	若殿の庖刀取て沖膾	25	夏	人事	沖膾
3197	沖膾したゝる海の霰かな	26	夏	人事	沖膾
3198	沖膾小皿の如き舟の中	28	夏	人事	沖膾
3199	沖膾信州の僕を召し具せん	28	夏	人事	沖膾
3200	沖膾澁刺として口の中	28	夏	人事	沖膾
3201	沖膾都の鯛のくさり時	35	夏	人事	沖膾
3202	腸の塵を洗はん沖膾	35	夏	人事	沖膾
3203	ビードロに洗ひ鱸を並べけり	32	夏	人事	洗膾
3204	洗ひ鯉山紫水明楼の夕	33	夏	人事	洗膾
3205	琵琶亭に一座の客や洗ひ鯉	33	夏	人事	洗膾
3206	手料理の大きな皿や洗ひ鯉	34	夏	人事	洗膾
3207	水飯や弁慶殿の喰ひ残し	26	夏	人事	水飯
3208	花もなき卯木の垣や洗ひ飯	26	夏	人事	水飯
3209	代る代る水飯くふや舟の人	29	夏	人事	水飯
3210	水飯の残りを捨てる泉かな	29	夏	人事	水飯
3211	水飯や石きり五六人つどふ	29	夏	人事	水飯
3212	水飯や白糸の滝を汲んで来る	29	夏	人事	水飯
3213	水飯や裸て座る簀子椽	29	夏	人事	水飯
3214	水飯や比枝山風腹を吹く	29	夏	人事	水飯
3215	水飯や臍まさに風を生ぜんとす	29	夏	人事	水飯
3216	水飯や目まひ止みたる四ツ下り	29	夏	人事	水飯
3217	僧来ませり水飯なりと参らせん	29	夏	人事	水飯
3218	六十にして水飯を参らるゝ	29	夏	人事	水飯
3219	水飯や京なつかしき京の水	34	夏	人事	水飯
3220	水飯を君にすゝむる旅路かな	34	夏	人事	水飯
3221	姫百合に軋飯こぼす垣根かな	25	夏	人事	干飯
3222	鳴焼の律師と申し徳高し	30	夏	人事	鳴焼
3223	酒を煮る男も弟子の発句づくり	35	夏	人事	酒煮る
3224	酒を煮る男も弟子の発句よみ	35	夏	人事	酒煮る
3225	沈んだる苔も見ゆるやとてん	25	夏	人事	心太
3226	ちりこんだ杉の落葉や心ふと	25	夏	人事	心太
3227	風吹てさゝ波つくる心太	26	夏	人事	心太
3228	漣は馬の鼻息心太	26	夏	人事	心太
3229	道灌にすゝめ参らす心太	26	夏	人事	心太
3230	立ちながら心太くふ飛脚哉	26	夏	人事	心太
3231	心太水にもならず明けにけり	26	夏	人事	心太
3232	心太龍宮城のはしら立て	26	夏	人事	心太
3233	庭先の清水に白し心太	26	夏	人事	心太
3234	婆々の留守海月にやならん心太	26	夏	人事	心太
3235	みちのくの水の味しれ心太	26	夏	人事	心太
3236	茶屋ありや山辺の水の心太	28	夏	人事	心太
3237	名物のこゝろぶとめせのう御僧	28	夏	人事	心太
3238	名物の心太めせこゝろぶと	28	夏	人事	心太
3239	心太ありと申すにぞ心太	29	夏	人事	心太
3240	心太屋に向いてござるよ石仏	29	夏	人事	心太
3241	くたびれや心太くふて茶屋に寝る	30	夏	人事	心太
3242	茶屋を見て走りついたる心太	30	夏	人事	心太
3243	心太の店にラムネを問へば無し	30	夏	人事	心太
3244	山風や桶浅く心太動く	30	夏	人事	心太
3245	啜るへし心太木曾の青嵐に	不詳	夏	人事	心太

3246	鮎のをらぬ上総の国や鱈汁	34	夏	人事	泥鱈汁
3247	西行のもてなされけり冷汁	26	夏	人事	冷汁
3248	冷麦や見れば白滝くへば雪	25	夏	人事	冷麦
3249	冷麦喰ふ僧は文覚の行かあらぬか	26	夏	人事	冷麦
3250	冷麦喰ふ僧は文覚の行にさも似たり	26	夏	人事	冷麦
3251	友は皆寄てなれしかはしら鮎	21	夏	人事	鮎
3252	友は皆寄て駢るゝやはしら鮎	23	夏	人事	鮎
3253	垣ごしや隣へくばる小鱈鮎	25	夏	人事	鮎
3254	精進につかへさうなり鮎の鮎	25	夏	人事	鮎
3255	鯛鮎や一門三十五六人	25	夏	人事	鮎
3256	鎌倉や誰が石す糸を鮎の庄	26	夏	人事	鮎
3257	傾城のなるゝ柱も一夜鮎	26	夏	人事	鮎
3258	琴やめて殿へ使ひのすもじ哉	26	夏	人事	鮎
3259	旅僧よ鮎魚といはず参られよ	26	夏	人事	鮎
3260	一つ来て蝶のとまるや鮎の庄	26	夏	人事	鮎
3261	人問はゞ鮎屋の裏と答ふべし	26	夏	人事	鮎
3262	早鮎や出舟を呼ばる人の声	27	夏	人事	鮎
3263	古家や苔蒸す石を鮎の庄	27	夏	人事	鮎
3264	ふるさとや親すこやかに鮎の味	28	夏	人事	鮎
3265	うつくしきものふりかけぬちらし鮎	29	夏	人事	鮎
3266	きぬぎぬのはなれがたさや鮎の庄	29	夏	人事	鮎
3267	山上の茶屋に鮎ありそれを喰ひぬ	29	夏	人事	鮎
3268	鮎のおし取るや小竹に風渡る	29	夏	人事	鮎
3269	鮎の庄取れば小笹に風渡る	29	夏	人事	鮎
3270	鮎店にほの聞く人の行方かな	29	夏	人事	鮎
3271	鮎店や白衣の道者八九人	29	夏	人事	鮎
3272	野の店や鮎に掛けたる赤木綿	29	夏	人事	鮎
3273	早鮎や東海の魚背戸の蓼	29	夏	人事	鮎
3274	鮎鮎や瀬田の夕照三井の鐘	29	夏	人事	鮎
3275	待ちかねて鮎の庄取る夕哉	29	夏	人事	鮎
3276	約ありて来らず鮎の庄低し	29	夏	人事	鮎
3277	山北や鮎の鮎買ふ汽車の中	29	夏	人事	鮎
3278	山の家や留守に雲起る鮎の石	29	夏	人事	鮎
3279	夕立や簀子に近き鮎の桶	29	夏	人事	鮎
3280	よせ席の鮎古くさき匂ひ哉	29	夏	人事	鮎
3281	われ愛すわが予州松山の鮎	29	夏	人事	鮎
3282	われに法あり君をもてなすもぶり鮎	29	夏	人事	鮎
3283	ある時は鮎をおしある時は又	30	夏	人事	鮎
3284	鮎の匂を題す鮎屋の団扇哉	31	夏	人事	鮎
3285	鮎つけて同郷人を集めけり	34	夏	人事	鮎
3286	鮎鮎や考槃亭をかりの宿	34	夏	人事	鮎
3287	名物や古風な鮎の今に猶	34	夏	人事	鮎
3288	新川の酒腐りけり鮎の蓼	35	夏	人事	鮎
3289	吹き出しの水葛餅を流れけり	29	夏	人事	葛餅
3290	青さしや清少納言有てより	26	夏	人事	青ざし
3291	ころがつて腹を見せたる鹿子哉	25	夏	動物	鹿の子
3292	松の根にまたがつてなく小鹿哉	25	夏	動物	鹿の子
3293	よべばくる程に鹿の子のなれにけり	26	夏	動物	鹿の子
3294	うつとりと人見る奈良の鹿子哉	28	夏	動物	鹿の子
3295	背戸へ来て粥すゝり居る鹿子哉	28	夏	動物	鹿の子
3296	一むれのあとになりさきに鹿子哉	28	夏	動物	鹿の子
3297	大仏の扉をのぞく鹿の子哉	29	夏	動物	鹿の子
3298	一雨にのびるや鹿のふくろ角	26	夏	動物	鹿の袋角
3299	蝙蝠や薄墨にしむふしの山	25	夏	動物	蝙蝠
3300	蝙蝠やぬす人屋敷塀もなし	25	夏	動物	蝙蝠
3301	蝙蝠や又束髪のまざれ行く	25	夏	動物	蝙蝠

3302	蝙蝠や闇を尋ねていそがしき	25	夏	動物	蝙蝠
3303	かはほりや闇を尋ねて急はし	25	夏	動物	蝙蝠
3304	宵月や蝙蝠つかむ豆狸	25	夏	動物	蝙蝠
3305	蝙蝠や髪そりつかふ手くらがり	26	夏	動物	蝙蝠
3306	蝙蝠や塔のはづれに月細し	26	夏	動物	蝙蝠
3307	蝙蝠や辻講釈のくづれ時	26	夏	動物	蝙蝠
3308	蝙蝠に辻講釈のくづれ哉	26	夏	動物	蝙蝠
3309	奥殿や大蝙蝠のかけ廻る	27	夏	動物	蝙蝠
3310	蝙蝠やこゝに泥棒屋敷あり	27	夏	動物	蝙蝠
3311	蝙蝠や大仏殿の昼暗し	27	夏	動物	蝙蝠
3312	そばふるや蝙蝠翔ける堂の奥	27	夏	動物	蝙蝠
3313	明家の鼠蝙蝠とはなりけらし	28	夏	動物	蝙蝠
3314	蝙蝠に錨投げ込む音暗し	28	夏	動物	蝙蝠
3315	蝙蝠の飛ぶ音暗し蔵の中	28	夏	動物	蝙蝠
3316	蝙蝠の物に驚く姿あり	28	夏	動物	蝙蝠
3317	蝙蝠や按摩の鼻を去る一寸	28	夏	動物	蝙蝠
3318	蝙蝠や異人の館灯ともれり	28	夏	動物	蝙蝠
3319	蝙蝠や異人の館窓あかり	28	夏	動物	蝙蝠
3320	蝙蝠や空に明るき雲の峰	28	夏	動物	蝙蝠
3321	鼠老いて蝙蝠となる空屋哉	28	夏	動物	蝙蝠
3322	明家の鼠蝙蝠となりけらし	29	夏	動物	蝙蝠
3323	大寺や椽の下より蚊喰鳥	29	夏	動物	蝙蝠
3324	蝙蝠や翅がくれに三日の月	29	夏	動物	蝙蝠
3325	底暗く蝙蝠飛ぶや井の中	29	夏	動物	蝙蝠
3326	簾取つて小僧蝙蝠を打たんとす	29	夏	動物	蝙蝠
3327	蝙蝠にもがりは居らずなりにけり	31	夏	動物	蝙蝠
3328	蝙蝠に草鞋投げたる童哉	31	夏	動物	蝙蝠
3329	蝙蝠の飛んで出でける扉哉	31	夏	動物	蝙蝠
3330	蝙蝠のぶら下りたる真昼哉	31	夏	動物	蝙蝠
3331	蝙蝠は飛んで五重の塔黒し	31	夏	動物	蝙蝠
3332	蝙蝠をうちそこなひぬ三日の月	31	夏	動物	蝙蝠
3333	蝙蝠を捕へて来たる博士哉	31	夏	動物	蝙蝠
3334	五智如来蝙蝠飛で無住なり	31	夏	動物	蝙蝠
3335	松明に蝙蝠さわぐ窟かな	31	夏	動物	蝙蝠
3336	手ごたへのして蝙蝠を打落す	31	夏	動物	蝙蝠
3337	夕栄に蝙蝠飛ぶや浜の町	31	夏	動物	蝙蝠
3338	小*(口偏+婁)*(口偏+羅)の山を下るや蚊喰鳥	33	夏	動物	蝙蝠
3339	蝙蝠や暮るゝをながめ坂の上	34	夏	動物	蝙蝠
3340	蝙蝠や人をあざむく古著売	34	夏	動物	蝙蝠
3341	蝙蝠や貧乏町の夜学校	34	夏	動物	蝙蝠
3342	樋の口にせかれて鳴くや雨蛙	25	夏	動物	雨蛙
3343	樋の口やせかれて鳴や雨蛙	25	夏	動物	雨蛙
3344	千年の松をかゝへて雨蛙	26	夏	動物	雨蛙
3345	雨蛙啼くや月に雲かゝるまで	27	夏	動物	雨蛙
3346	梅ヶ枝にしかみつきけり雨蛙	27	夏	動物	雨蛙
3347	官の為に鳴く雨蛙枝蛙	27	夏	動物	雨蛙
3348	水鉢や木の枝垂れて雨蛙	31	夏	動物	雨蛙
3349	園茂み傘に飛びつく青蛙	34	夏	動物	雨蛙
3350	竹椽や青き色なる雨蛙	34	夏	動物	雨蛙
3351	笠を手にいそぐ夕や河鹿鳴ク	25	夏	動物	河鹿
3352	河鹿鳴いて石ころ多き小川哉	27	夏	動物	河鹿
3353	河鹿鳴く宿と答へて山探し	28	夏	動物	河鹿
3354	獺にふみつけられて河鹿鳴く	28	夏	動物	河鹿
3355	蚊の声を分て出たりひきかへる	25	夏	動物	暮
3356	盆栽に水やり時や暮	25	夏	動物	暮
3357	夕くれにのそのそ出たり暮	25	夏	動物	暮

3358	宵闇や月を吐き出す暮の口	25	夏	動物	暮
3359	我庵に不二を吐き出す暮の口	25	夏	動物	暮
3360	牛部屋の闇から出たり暮	26	夏	動物	暮
3361	長居してふみつぶされな暮	26	夏	動物	暮
3362	吹殻をたべて見せるや暮	26	夏	動物	暮
3363	世の中を悟らずもがな暮	26	夏	動物	暮
3364	蛙三百其真中の暮	27	夏	動物	暮
3365	暮一つ寄てたかつてつゝきけり	27	夏	動物	暮
3366	つらつらと面ならべて暮	27	夏	動物	暮
3367	暮蠅取蜘蛛をねらひけり	27	夏	動物	暮
3368	一足に踏みつぶされぬ暮	27	夏	動物	暮
3369	蓬生や露をわけ出る暮	27	夏	動物	暮
3370	水打って飛び出せ藪の暮	28	夏	動物	暮
3371	水打ってよび出せ藪の暮	28	夏	動物	暮
3372	よつて来て話聞き居る暮	28	夏	動物	暮
3373	草の雨暮も主も古りにけり	29	夏	動物	暮
3374	狸さへ暮さへ住まずなりにけり	31	夏	動物	暮
3375	狸さへ暮さへ居らずなりにけり	31	夏	動物	暮
3376	草を踏んでまむし恐るゝ単物	31	夏	動物	娘
3377	なめくぢの夢見て脱ぐや蛇の皮	25	夏	動物	蛇の衣
3378	誰か暮そ恨をのこす蛇の衣	26	夏	動物	蛇の衣
3379	蛇塚や蛇死して蛇のから白し	27	夏	動物	蛇の衣
3380	あさましや櫛笥の中の蛇の衣	28	夏	動物	蛇の衣
3381	此道や迷ひて蛇の殻多き	30	夏	動物	蛇の衣
3382	明寺によしなく入りて蛇の衣	31	夏	動物	蛇の衣
3383	岩清水掬ばんとすれば蛇の衣	31	夏	動物	蛇の衣
3384	草むらやちぎれちぎれに蛇の衣	31	夏	動物	蛇の衣
3385	下闇や花かと思れば蛇の衣	31	夏	動物	蛇の衣
3386	撫子の花にあはれや蛇の衣	31	夏	動物	蛇の衣
3387	蛇のから荊棘足を傷る旅	31	夏	動物	蛇の衣
3388	蛇のから滝を見ずして返りけり	31	夏	動物	蛇の衣
3389	蛇のから山の小路に横はる	31	夏	動物	蛇の衣
3390	道連の逡巡として蛇のから	31	夏	動物	蛇の衣
3391	蛇のから何を力に抜け出でし	34	夏	動物	蛇の衣
3392	闇の夜や塔のあふなき杜宇	21	夏	動物	時鳥
3393	闇の夜や塔のあふなし杜宇	21	夏	動物	時鳥
3394	行燈を月の夜にせん杜鵑	22	夏	動物	時鳥
3395	川向ひどこのやしきへ時鳥	22	夏	動物	時鳥
3396	五月雨を思ふてなくか子規	22	夏	動物	時鳥
3397	それと聞くそら耳もかな杜宇	22	夏	動物	時鳥
3398	提灯の空にせんなし郭公	22	夏	動物	時鳥
3399	一声は月かないたかほゝときす	22	夏	動物	時鳥
3400	ほとゝきす顔の出されぬ格子哉	22	夏	動物	時鳥
3401	ほとゝきす啼くや湖水のさゝにこり	22	夏	動物	時鳥
3402	往て還るほどは夜もなし子規	22	夏	動物	時鳥
3403	治頭社の杜にきてなげ子規	23	夏	動物	時鳥
3404	みつまたの上や血になくほとゝぎす	23	夏	動物	時鳥
3405	都まで幾行帰り子規	23	夏	動物	時鳥
3406	うたゝねの本落しけり時鳥	24	夏	動物	時鳥
3407	ひるすぎてうつかりしたり時鳥	24	夏	動物	時鳥
3408	ほとゝきす木曾はこの頃山つゝじ	24	夏	動物	時鳥
3409	子規なきけり傘の紙一重	24	夏	動物	時鳥
3410	郭公のきの雫のほつりほつり	24	夏	動物	時鳥
3411	目にちらり木曾の谷間の子規	24	夏	動物	時鳥
3412	山々は萌黄浅黄やほとゝきす	24	夏	動物	時鳥
3413	ラムネの栓天井について時鳥	24	夏	動物	時鳥

3414	朝起は妻にまけたりほとゝきす	25	夏	動物	時鳥
3415	幾人の命とりけんほとゝきす	25	夏	動物	時鳥
3416	歌よまぬ身におほけなし時鳥	25	夏	動物	時鳥
3417	思ふ事なげになきけりほととぎす	25	夏	動物	時鳥
3418	闇に出て行き違ひけり鶺鴒	25	夏	動物	時鳥
3419	聞くまではこゝを動かじ時鳥	25	夏	動物	時鳥
3420	行列の空よこぎるや時鳥	25	夏	動物	時鳥
3421	九段阪魂祭るころの時鳥	25	夏	動物	時鳥
3422	此頃の牡丹の天や時鳥	25	夏	動物	時鳥
3423	これもうしめざめ給へや時鳥	25	夏	動物	時鳥
3424	島原や草の中なる時鳥	25	夏	動物	時鳥
3425	杉谷や山三方にほとゝきす	25	夏	動物	時鳥
3426	菅笠の生国名のれほとゝきす	25	夏	動物	時鳥
3427	谷間や屋根飛こゆるほとゝきす	25	夏	動物	時鳥
3428	挑灯の次第に遠し時鳥	25	夏	動物	時鳥
3429	飛び飛びに闇を縫ひけり時鳥	25	夏	動物	時鳥
3430	茄子にも瓜にもつかず時鳥	25	夏	動物	時鳥
3431	夏山を右にうけたり時鳥	25	夏	動物	時鳥
3432	ひだるさに寝られぬ夜半や鶺鴒	25	夏	動物	時鳥
3433	一声は夢よりはかな時鳥	25	夏	動物	時鳥
3434	一こへは夢よりもろし時鳥	25	夏	動物	時鳥
3435	一声や捨子の上の時鳥	25	夏	動物	時鳥
3436	吹き乱す花の中より子規	25	夏	動物	時鳥
3437	筆もつて寝たるあるじや時鳥	25	夏	動物	時鳥
3438	故さとに入る夜は月よ郭公	25	夏	動物	時鳥
3439	故郷へ入る夜は月よほとゝきす	25	夏	動物	時鳥
3440	時鳥上野をもとる汽車の音	25	夏	動物	時鳥
3441	時鳥御目はさめて候か	25	夏	動物	時鳥
3442	時鳥千本卒塔婆宵月夜	25	夏	動物	時鳥
3443	ほとゝきす其声入れん蓄音器	25	夏	動物	時鳥
3444	郭公太閤様をぢらしけり	25	夏	動物	時鳥
3445	時鳥なきやむ頃やひきかへる	25	夏	動物	時鳥
3446	時鳥鳴くやどこぞに昼の月	25	夏	動物	時鳥
3447	郭公馬車や車の広小路	25	夏	動物	時鳥
3448	時鳥一かたまりのはなれ雲	25	夏	動物	時鳥
3449	時鳥ひよとり越を逆落し	25	夏	動物	時鳥
3450	時鳥不二の雪まだ六合目	25	夏	動物	時鳥
3451	時鳥右の耳より左より	25	夏	動物	時鳥
3452	頬杖の鉄扇いたし時鳥	25	夏	動物	時鳥
3453	御簀の腹なと見せよ杜宇	25	夏	動物	時鳥
3454	水無月の虚空に涼し時鳥	25	夏	動物	時鳥
3455	湯豆腐のこげつくかざや時鳥	25	夏	動物	時鳥
3456	茄子にも麦にもつかず郭公	25	夏	動物	時鳥
3457	雨の夜や根岸へ帰る郭公	26	夏	動物	時鳥
3458	あら海や月にきこえむほとゝきす	26	夏	動物	時鳥
3459	有明の山は豊後かほとゝきす	26	夏	動物	時鳥
3460	いそがしや星をよけよけ時鳥	26	夏	動物	時鳥
3461	一の糸ふつゝときれて子規	26	夏	動物	時鳥
3462	命なり佐夜の中山ほとゝきす	26	夏	動物	時鳥
3463	うしろむく人もありけり郭公	26	夏	動物	時鳥
3464	うちかけの振り向き難しほとゝきす	26	夏	動物	時鳥
3465	太秦や山ほとゝきす古遊女	26	夏	動物	時鳥
3466	奥州の墓はいづくに時鳥	26	夏	動物	時鳥
3467	御子良子のともし火細しほとゝきす	26	夏	動物	時鳥
3468	恐ろしきやり手の声や鶺鴒	26	夏	動物	時鳥
3469	恐ろしや起請百枚鶺鴒	26	夏	動物	時鳥

3470	お茶壺の上を鳴き行く時鳥	26	夏	動物	時鳥
3471	をばしまや物思ひをれば時鳥	26	夏	動物	時鳥
3472	大空は四隅もなくて時鳥	26	夏	動物	時鳥
3473	大原や雨の中より時鳥	26	夏	動物	時鳥
3474	かけ物の隅に鳴きけり時鳥	26	夏	動物	時鳥
3475	風吹て竹さわぐ夜や時鳥	26	夏	動物	時鳥
3476	君か代の不足をいへば時鳥	26	夏	動物	時鳥
3477	金屏に筆投げつけつ時鳥	26	夏	動物	時鳥
3478	郭には大鼓のさかりほとゝきす	26	夏	動物	時鳥
3479	傾城の躰おそろしほとゝきす	26	夏	動物	時鳥
3480	傾城の耳たぶ広しほとゝきす	26	夏	動物	時鳥
3481	此頃の日記や雨と時鳥	26	夏	動物	時鳥
3482	四海皆鳴りを静めて時鳥	26	夏	動物	時鳥
3483	叱られて禿泣く也ほとゝきす	26	夏	動物	時鳥
3484	四枚五枚八枚九枚郭公	26	夏	動物	時鳥
3485	須磨寺にわが泣きをれば子規	26	夏	動物	時鳥
3486	雪院にこもる人たれ子規	26	夏	動物	時鳥
3487	僧ぬれたり時雨の亭の時鳥	26	夏	動物	時鳥
3488	大仏の臍のあたりやほとゝきす	26	夏	動物	時鳥
3489	大名の生るゝ時かほとゝぎす	26	夏	動物	時鳥
3490	竹垣や傘すぼめる時ほとゝきす	26	夏	動物	時鳥
3491	たそがれの崑崙閻魔ほとゝきす	26	夏	動物	時鳥
3492	叩く時ひさご飛び出せ時鳥	26	夏	動物	時鳥
3493	塔見えて一痕の新月時鳥	26	夏	動物	時鳥
3494	たまきはる女の声か郭公	26	夏	動物	時鳥
3495	血の流れ屍の山や郭公	26	夏	動物	時鳥
3496	塚一つ松一つなりほとゝきす	26	夏	動物	時鳥
3497	月並は何と聞くらん子規	26	夏	動物	時鳥
3498	月もなし時鳥もなし風の音	26	夏	動物	時鳥
3499	つくばねにつきあたりけり時鳥	26	夏	動物	時鳥
3500	辻占の引声長し時鳥	26	夏	動物	時鳥
3501	床柱鼻もうたずに郭公	26	夏	動物	時鳥
3502	飛んで入る焰あやなし時鳥	26	夏	動物	時鳥
3503	鳴かぬなら鳴かぬと鳴けよ鶺鴒	26	夏	動物	時鳥
3504	鳴き立つる雀にくらし時鳥	26	夏	動物	時鳥
3505	泣き給ふ声の細さよ郭公	26	夏	動物	時鳥
3506	鳴く時はきつと鳴きけり郭公	26	夏	動物	時鳥
3507	二の声は淡路をこえつ子規	26	夏	動物	時鳥
3508	軒らんぶ店は閉ぢたりほとゝきす	26	夏	動物	時鳥
3509	春をきのふはや鳴けほとゝほとゝきす	26	夏	動物	時鳥
3510	万人の命の上を郭公	26	夏	動物	時鳥
3511	ひさごから出して見せうか時鳥	26	夏	動物	時鳥
3512	一声や大空かけてほとゝきす	26	夏	動物	時鳥
3513	一声や屏風倒れて子規	26	夏	動物	時鳥
3514	一声や山つんざけて郭公	26	夏	動物	時鳥
3515	一月に二夜の闇や時鳥	26	夏	動物	時鳥
3516	病人に一つ徳あり時鳥	26	夏	動物	時鳥
3517	噴き出す灰の中より郭公	26	夏	動物	時鳥
3518	吹つける禪の夜風やほとゝきす	26	夏	動物	時鳥
3519	踏み切りや戸をしめられて鶺鴒	26	夏	動物	時鳥
3520	蛇入て埜のさわぎや時鳥	26	夏	動物	時鳥
3521	時鳥上野でぬれし人あらん	26	夏	動物	時鳥
3522	時鳥江戸に旅寝の雨夜哉	26	夏	動物	時鳥
3523	時鳥鐘つき堂の白みけり	26	夏	動物	時鳥
3524	時鳥廬にこもる人はたれ	26	夏	動物	時鳥
3525	子規顔を格子におしあてる	26	夏	動物	時鳥

3526	時鳥寒暖計の下りぎは	26	夏	動物	時鳥
3527	郭公頻りに耳のなる日哉	26	夏	動物	時鳥
3528	時鳥僧正坊は寝入りけり	26	夏	動物	時鳥
3529	郭公只一声の夜明哉	26	夏	動物	時鳥
3530	時鳥茶漬かきこむ里の朝	26	夏	動物	時鳥
3531	時鳥東海道をいくとまり	26	夏	動物	時鳥
3532	時鳥なくや雨夜のほの明り	26	夏	動物	時鳥
3533	時鳥なくや夜明の善光寺	26	夏	動物	時鳥
3534	郭公何の夢見る陰陽師	26	夏	動物	時鳥
3535	時鳥名のれ越後は後家の数	26	夏	動物	時鳥
3536	郭公はてなき海へ鳴て行く	26	夏	動物	時鳥
3537	郭公一声毎に十里つゝ	26	夏	動物	時鳥
3538	時鳥昼もぬれたる寺の屋根	26	夏	動物	時鳥
3539	時鳥昼も穂麦のそよぎかな	26	夏	動物	時鳥
3540	時鳥二声嵐三声雨	26	夏	動物	時鳥
3541	時鳥ものゝ匂ひの一しきり	26	夏	動物	時鳥
3542	時鳥夜を白鬚の白みけり	26	夏	動物	時鳥
3543	待ちもせぬ時鳥聞き参らせ候	26	夏	動物	時鳥
3544	窓推すや其時遅し時鳥	26	夏	動物	時鳥
3545	三日月は見えぬふり也時鳥	26	夏	動物	時鳥
3546	水無月をもてなされけり郭公	26	夏	動物	時鳥
3547	宮島や鳥居をくゞるほとゝぎす	26	夏	動物	時鳥
3548	宮守の烏帽子直すや時鳥	26	夏	動物	時鳥
3549	山畑や真昼のころの郭公	26	夏	動物	時鳥
3550	ゆゝしさや武士にまたれて鶺鴒	26	夏	動物	時鳥
3551	横雲をこほれて一つ時鳥	26	夏	動物	時鳥
3552	夜を眠る葉つれなし子規	26	夏	動物	時鳥
3553	落城の曉寒し時鳥	26	夏	動物	時鳥
3554	落城の昔に似たり時鳥	26	夏	動物	時鳥
3555	我庵は汽車の夜嵐時鳥	26	夏	動物	時鳥
3556	君が代や不足をいへばほとゝぎす	26	夏	動物	時鳥
3557	鳥さしの棹もとゝかず時鳥	26	夏	動物	時鳥
3558	時鳥御願かけ誰が朝まゐり	26	夏	動物	時鳥
3559	雨風や鳴く音細りし時鳥	27	夏	動物	時鳥
3560	有明の並木かくれや時鳥	27	夏	動物	時鳥
3561	あれ聞けよたしかに今の時鳥	27	夏	動物	時鳥
3562	うたてやな喪にこもる頃の時鳥	27	夏	動物	時鳥
3563	海の名を聞けば鳴海そ時鳥	27	夏	動物	時鳥
3564	裏店の喧嘩の中を時鳥	27	夏	動物	時鳥
3565	椽側へ耳突き出すや時鳥	27	夏	動物	時鳥
3566	汽車道の丹後へ鳴くや時鳥	27	夏	動物	時鳥
3567	木曽路にも鉄道かけたか時鳥	27	夏	動物	時鳥
3568	気にかゝる雲のけしきや時鳥	27	夏	動物	時鳥
3569	霧島やほのほの中の時鳥	27	夏	動物	時鳥
3570	けしからぬ鳥の声や時鳥	27	夏	動物	時鳥
3571	ごふくめの垢つく頃や時鳥	27	夏	動物	時鳥
3572	雑談に耳やすませて時鳥	27	夏	動物	時鳥
3573	石門の中に月あり時鳥	27	夏	動物	時鳥
3574	それでなくとそれにして置け鶺鴒	27	夏	動物	時鳥
3575	笋の雲にとゞいて時鳥	27	夏	動物	時鳥
3576	竹槍の穂先に鳴くや時鳥	27	夏	動物	時鳥
3577	血に啼くや草嚙む女時鳥	27	夏	動物	時鳥
3578	名乗れ名乗れ議案の数を時鳥	27	夏	動物	時鳥
3579	万人の夢の上なり時鳥	27	夏	動物	時鳥
3580	灯は消て夜明の窓を時鳥	27	夏	動物	時鳥
3581	灯は消えて夜舟の窓を時鳥	27	夏	動物	時鳥

3582	時鳥雨の裏店女泣く	27	夏	動物	時鳥
3583	時鳥表は馬車のひゞき哉	27	夏	動物	時鳥
3584	時鳥胡瓜のさきに花もつて	27	夏	動物	時鳥
3585	時鳥木曾の裏山馬嘶ふ	27	夏	動物	時鳥
3586	時鳥消ゆやちらちら鯉船	27	夏	動物	時鳥
3587	時鳥首の浮たる温泉哉	27	夏	動物	時鳥
3588	時鳥芝山内の喧嘩かな	27	夏	動物	時鳥
3589	時鳥島田三郎斬られたり	27	夏	動物	時鳥
3590	時鳥將軍山を出でゝ来る	27	夏	動物	時鳥
3591	時鳥將軍山を出でゝ行く	27	夏	動物	時鳥
3592	時鳥人馬の細き麓かな	27	夏	動物	時鳥
3593	時鳥杉一本の野の広き	27	夏	動物	時鳥
3594	時鳥千三百人と名のりけり	27	夏	動物	時鳥
3595	時鳥千住あたりは月夜哉	27	夏	動物	時鳥
3596	時鳥空一はいの月夜かな	27	夏	動物	時鳥
3597	時鳥千代田の城は堀一重	27	夏	動物	時鳥
3598	時鳥月を尋ぬる女かな	27	夏	動物	時鳥
3599	時鳥鳴かぬ程こそゆかしけれ	27	夏	動物	時鳥
3600	時鳥鳴くなど申人もあり	27	夏	動物	時鳥
3601	時鳥鳴くや局の銀屏風	27	夏	動物	時鳥
3602	時鳥鳴くや物干竿高し	27	夏	動物	時鳥
3603	時鳥八百八町鳴渡る	27	夏	動物	時鳥
3604	時鳥盆傾くる雨の中	27	夏	動物	時鳥
3605	時鳥待つとばかりもことづてん	27	夏	動物	時鳥
3606	時鳥都大路の人通り	27	夏	動物	時鳥
3607	時鳥闇の神戸のともしかな	27	夏	動物	時鳥
3608	時鳥横町横町の巡查哉	27	夏	動物	時鳥
3609	時鳥六派の勝を名のりけり	27	夏	動物	時鳥
3610	時鳥笑ふて聞かぬ人もあり	27	夏	動物	時鳥
3611	待ちにけり其一声の郭公	27	夏	動物	時鳥
3612	望月の欠げて猶鳴く時鳥	27	夏	動物	時鳥
3613	ものすごき空のけしきや時鳥	27	夏	動物	時鳥
3614	山駕籠や屋根の上より時鳥	27	夏	動物	時鳥
3615	山里や大時鳥大月夜	27	夏	動物	時鳥
3616	山里や蚊遣の上を時鳥	27	夏	動物	時鳥
3617	山寺や昼寝の鼾時鳥	27	夏	動物	時鳥
3618	夕月の地にひつゝいてほとゝきす	27	夏	動物	時鳥
3619	夕闇の雲吹き落せ時鳥	27	夏	動物	時鳥
3620	横浜の阜頭の崩れや時鳥	27	夏	動物	時鳥
3621	淀川の大三日月や時鳥	27	夏	動物	時鳥
3622	蓬生を飛んで出でけり時鳥	27	夏	動物	時鳥
3623	雨が降るあひの土山時鳥	28	夏	動物	時鳥
3624	馬通る三方か原や時鳥	28	夏	動物	時鳥
3625	大風に飛びこむ声や時鳥	28	夏	動物	時鳥
3626	帰るさや野糞しながら時鳥	28	夏	動物	時鳥
3627	今日はまた誰をだまさん時鳥	28	夏	動物	時鳥
3628	四月二十八日初時鳥	28	夏	動物	時鳥
3629	四月二十八日を初時鳥	28	夏	動物	時鳥
3630	須磨の灯か明石のともし鶺鴒	28	夏	動物	時鳥
3631	説教にけがれた耳を時鳥	28	夏	動物	時鳥
3632	船頭の呼声長し時鳥	28	夏	動物	時鳥
3633	魂消たり木曾の棧時鳥	28	夏	動物	時鳥
3634	寝て糞をひる時死出の時鳥	28	夏	動物	時鳥
3635	此枝は雨三井は曇りて時鳥	28	夏	動物	時鳥
3636	時鳥あれと隣の初音かな	28	夏	動物	時鳥
3637	時鳥命捨てんとする女あり	28	夏	動物	時鳥

3638	時鳥紀の海荒れて月もなし	28	夏	動物	時鳥
3639	時鳥椎は車を外れけり	28	夏	動物	時鳥
3640	時鳥それなら寝るのぢやなかつたに	28	夏	動物	時鳥
3641	時鳥月帆檣の中にあり	28	夏	動物	時鳥
3642	時鳥寺の表の鉄行燈	28	夏	動物	時鳥
3643	時鳥啼くや伽藍の屋根許り	28	夏	動物	時鳥
3644	時鳥啼くやちぎれし月の雲	28	夏	動物	時鳥
3645	時鳥鳴くや二の谷三の谷	28	夏	動物	時鳥
3646	時鳥跣足参りの女かな	28	夏	動物	時鳥
3647	時鳥蛤を焚く桑名かな	28	夏	動物	時鳥
3648	時鳥蛤を焼く桑名哉	28	夏	動物	時鳥
3649	時鳥待つや小道の夕占問	28	夏	動物	時鳥
3650	時鳥山手通と覚えけり	28	夏	動物	時鳥
3651	時鳥山手通りと覚えたり	28	夏	動物	時鳥
3652	時鳥われより上に山もなし	28	夏	動物	時鳥
3653	無住寺にものゝさわぎや時鳥	28	夏	動物	時鳥
3654	山間や声折り曲る時鳥	28	夏	動物	時鳥
3655	横雲をこぼれて須磨の時鳥	28	夏	動物	時鳥
3656	今頃は蓮にすわつて時鳥	29	夏	動物	時鳥
3657	川上は月代已にほとゝぎす	29	夏	動物	時鳥
3658	げんげんの実になる頃や時鳥	29	夏	動物	時鳥
3659	松明に檣の雫や時鳥	29	夏	動物	時鳥
3660	提灯で大仏見るや時鳥	29	夏	動物	時鳥
3661	月の出の草に風吹く時鳥	29	夏	動物	時鳥
3662	夏に入りて啼かずなりけり時鳥	29	夏	動物	時鳥
3663	ふりあぐる槌や其時時鳥	29	夏	動物	時鳥
3664	時鳥雨をあびたる小寺かな	29	夏	動物	時鳥
3665	時鳥蛙を捨てに出る夕	29	夏	動物	時鳥
3666	時鳥鴉は死ねと起請書く	29	夏	動物	時鳥
3667	時鳥君が車を呼び返す	29	夏	動物	時鳥
3668	時鳥きよつきよと許り鳴きにけり	29	夏	動物	時鳥
3669	時鳥救へ救へと声急なり	29	夏	動物	時鳥
3670	時鳥鳴く時杜若白し	29	夏	動物	時鳥
3671	時鳥鳴くや浅間の露の中	29	夏	動物	時鳥
3672	時鳥鳴くや行燈の花が散る	29	夏	動物	時鳥
3673	時鳥鳴くや上野の森の上	29	夏	動物	時鳥
3674	時鳥鳴くやともしに風が来る	29	夏	動物	時鳥
3675	時鳥横川の坊の垣根より	29	夏	動物	時鳥
3676	黙座すれば吾名を呼びぬ時鳥	29	夏	動物	時鳥
3677	夜鳴くを時鳥とこそ覚えたれ	29	夏	動物	時鳥
3678	しまひ汽車に乗りおくれたか時鳥	30	夏	動物	時鳥
3679	時鳥しはらくあつて雨到る	30	夏	動物	時鳥
3680	時鳥毎晩鳴て足痛し	30	夏	動物	時鳥
3681	時鳥昔此頃此峠	30	夏	動物	時鳥
3682	時鳥夜滝を見る山の道	30	夏	動物	時鳥
3683	山を行く君この月に子規	30	夏	動物	時鳥
3684	鶯は婆アとなりぬ時鳥	31	夏	動物	時鳥
3685	匆卒に手を分ちけり時鳥	31	夏	動物	時鳥
3686	鉢植の花なくなりぬ時鳥	31	夏	動物	時鳥
3687	時鳥一尺の鮎串にあり	31	夏	動物	時鳥
3688	時鳥雲にぬれたる朝の窓	31	夏	動物	時鳥
3689	時鳥しはぶき聞ゆ堂の隅	31	夏	動物	時鳥
3690	時鳥癩をさまりし夜明方	31	夏	動物	時鳥
3691	床の間の牡丹の闇や時鳥	32	夏	動物	時鳥
3692	血判の誓紙裂きけり時鳥	33	夏	動物	時鳥
3693	鉢植の梅の実黄なり時鳥	33	夏	動物	時鳥

3694	ホトゝギス月ガラス戸ノ隅ニアリ	33	夏	動物	時鳥
3695	提灯を返せ返せと時鳥	34	夏	動物	時鳥
3696	時鳥辞世の一句なかりしや	35	夏	動物	時鳥
3697	時鳥啼かず卯の花くだしつゝ	35	夏	動物	時鳥
3698	鶯の老をたのむや神のもり	26	夏	動物	老鶯
3699	鶯や鬱金の陰に老い初る	26	夏	動物	老鶯
3700	老鶯若時鳥今年竹	26	夏	動物	老鶯
3701	尋常に鶯老いる小藪哉	26	夏	動物	老鶯
3702	鶯や老いて深山の石に鳴く	27	夏	動物	老鶯
3703	鶯や日比谷が原に老を鳴く	27	夏	動物	老鶯
3704	骨折りて鳴く鶯ぞ老いたりし	28	夏	動物	老鶯
3705	鶯の老いたるを尋ね三河島	29	夏	動物	老鶯
3706	大山や鶯老いて女阪	29	夏	動物	老鶯
3707	百円の鶯早く老いにけり	30	夏	動物	老鶯
3708	鶯の老いたるが多き山路哉	31	夏	動物	老鶯
3709	鶯の老を鳴くなり遅桜	31	夏	動物	老鶯
3710	鶯の会は過ぎけり老いにけり	31	夏	動物	老鶯
3711	鶯の藤咲く山に老いにける	31	夏	動物	老鶯
3712	鶯や鴉は老いぬものなりけり	31	夏	動物	老鶯
3713	老いばれし鶯なくやきよときよと	31	夏	動物	老鶯
3714	老いばれし鶯なくや野の小寺	31	夏	動物	老鶯
3715	橋に鶯老いぬ初瀬の里	31	夏	動物	老鶯
3716	旅人の老鶯を聞いて居る	31	夏	動物	老鶯
3717	藪寺や鶯老いて音にうとき	31	夏	動物	老鶯
3718	鶯の音を入にけり軽業師	26	夏	動物	鶯音を入れる
3719	音を入れた鶯飛ぶやそれそこに	26	夏	動物	鶯音を入れる
3720	音を入れた鶯山へ逃て行	26	夏	動物	鶯音を入れる
3721	川蝉のあとへきて鳴く行々子	25	夏	動物	翡翠
3722	涼しさや又川蝉の杭うつり	25	夏	動物	翡翠
3723	川蝉は目に見えてみて行々子	26	夏	動物	翡翠
3724	翡翠や鶯のかくれしあたりより	26	夏	動物	翡翠
3725	川せみやながめくれたる杭の先	26	夏	動物	翡翠
3726	川蝉や柳静かに池深し	26	夏	動物	翡翠
3727	翡翠やながめくれたる水の面	26	夏	動物	翡翠
3728	翡翠や浅妻舟の人もなし	27	夏	動物	翡翠
3729	翡翠や水澄んで池の魚深し	27	夏	動物	翡翠
3730	古池や翡翠来べき杭の形	27	夏	動物	翡翠
3731	翡翠の池の上飛ぶ夕日哉	28	夏	動物	翡翠
3732	古池や翡翠去つて魚浮ぶ	28	夏	動物	翡翠
3733	芦二三本杭に翡翠を画きたり	29	夏	動物	翡翠
3734	池やあらん川せみ土手を越えて飛ぶ	29	夏	動物	翡翠
3735	川蝉にねらはれてゐる小魚哉	29	夏	動物	翡翠
3736	翡翠や芦間隠れの捨小舟	29	夏	動物	翡翠
3737	川せみやおのれみめよくて魚沈む	29	夏	動物	翡翠
3738	川せみや口ばし長くしていやなり	29	夏	動物	翡翠
3739	川蝉や小魚くはへて飛んで行く	29	夏	動物	翡翠
3740	翡翠や小魚をくはへ飛て行	29	夏	動物	翡翠
3741	川蝉や水澄んで遊ぶ魚深し	29	夏	動物	翡翠
3742	川せみや水澄んで遊ぶ魚涼し	29	夏	動物	翡翠
3743	川蝉や柳垂れ芦生ふる処	29	夏	動物	翡翠
3744	川せみや夕日にぬれし羽の色	29	夏	動物	翡翠
3745	しんとして川せみ飛ぶや山の池	29	夏	動物	翡翠
3746	水楼の絃歌ひる絶えて翡翠飛ぶ	29	夏	動物	翡翠
3747	水楼の絃歌昼絶えて翡翠飛ぶ	29	夏	動物	翡翠
3748	古池や川蝉去つて暮遅し	29	夏	動物	翡翠
3749	古池や川せみ去つて日暮れたり	29	夏	動物	翡翠

3750	翡翠の魚捕へたる水浅し	32	夏	動物	翡翠
3751	御庭池川セミ去ツテ鷺来ル	35	夏	動物	翡翠
3752	川セミノ足場ヲエラブ柳哉	35	夏	動物	翡翠
3753	川セミノ池ヲ巡リテ皆柳	35	夏	動物	翡翠
3754	川セミノ魚銜ミ去ル夕日カナ	35	夏	動物	翡翠
3755	川蝉ノ魚ヲ覗フ柳カナ	35	夏	動物	翡翠
3756	川セミノ来ル柳ヲ愛スカナ	35	夏	動物	翡翠
3757	川セミノ来ヌ日柳ノ嵐カナ	35	夏	動物	翡翠
3758	川セミノ去テ柳ノ夕日哉	35	夏	動物	翡翠
3759	川セミノ飛デシマヒシ柳カナ	35	夏	動物	翡翠
3760	川セミノネラヒ誤ル濁カナ	35	夏	動物	翡翠
3761	川セミモ鷺モ来テ居ル柳哉	35	夏	動物	翡翠
3762	川セミヤ池ヲ巡リテ皆柳	35	夏	動物	翡翠
3763	翡翠や芙蓉の枝に羽つくるひ	35	夏	動物	翡翠
3764	柳伐テ川セミ魚ヲ取ラズナリヌ	35	夏	動物	翡翠
3765	柳伐テ川セミ遂ニ来ズナリヌ	35	夏	動物	翡翠
3766	枝川や立ち別れ鳴く行々子	25	夏	動物	行々子
3767	不尽崩す舟の行来や行々子	25	夏	動物	行々子
3768	よしきりの声につゝこむ小舟哉	25	夏	動物	行々子
3769	剖葦の声の嵐や捨小舟	25	夏	動物	行々子
3770	芦の葉と共になひくや行々子	26	夏	動物	行々子
3771	芦原の中に家あり行々子	26	夏	動物	行々子
3772	葭切や水三つまたの別れきは	26	夏	動物	行々子
3773	枝川の其枝川も行々子	27	夏	動物	行々子
3774	兎に角に世はかしがまし行々子	27	夏	動物	行々子
3775	鳴けはうし鳴かねは寂し行々子	27	夏	動物	行々子
3776	舟引の歌も聞えず行々子	27	夏	動物	行々子
3777	葦剖や芦の中行く舟一つ	27	夏	動物	行々子
3778	別荘や裏は隅田の行々子	28	夏	動物	行々子
3779	別荘や隅田を前に行々子	28	夏	動物	行々子
3780	飯まいて呼ぶや雀の三番子	30	夏	動物	雀の子
3781	出つ入つ数定まらぬ小かもかな	26	夏	動物	子鴨
3782	日あたりの入江にたまる小鴨哉	26	夏	動物	子鴨
3783	鴨の子の面白がりて蓮の中	27	夏	動物	子鴨
3784	夜を鳴いて昼を寝て居る小鴨哉	29	夏	動物	子鴨
3785	分れけり小鴨は小鴨鴨は鴨	30	夏	動物	子鴨
3786	鴨の子の泳ぎぞめする濁り哉	32	夏	動物	子鴨
3787	鴨の子の流れんとする水嵩哉	32	夏	動物	子鴨
3788	鴨の子の羽ばたきしたる浅み哉	32	夏	動物	子鴨
3789	鴨の子を二つ握りし童かな	32	夏	動物	子鴨
3790	居る程の小鴨動かぬ浮寝かな	34	夏	動物	子鴨
3791	鳩の子の親の真似して潜りけり	32	夏	動物	鳩の子
3792	鳩の子の泳ぎぞめする濁りかな	32	夏	動物	鳩の子
3793	鳩の子は親の真似してくゞりけり	32	夏	動物	鳩の子
3794	水鶏とは知りながら出る妻戸哉	19	夏	動物	水鶏
3795	ある時は叩きそこなふ水鶏哉	25	夏	動物	水鶏
3796	垣こえて雨戸を叩く水鶏かな	25	夏	動物	水鶏
3797	蛙よりある夜は近き水鶏哉	25	夏	動物	水鶏
3798	水鶏叩き鼠答へて夜は明ぬ	25	夏	動物	水鶏
3799	水鶏なき鼠答へて夜は明ぬ	25	夏	動物	水鶏
3800	新場処や紙搗きやめはなく水鶏	25	夏	動物	水鶏
3801	竹藪の外から叩く水鶏哉	25	夏	動物	水鶏
3802	叩けとて水鶏にとさすいほり哉	25	夏	動物	水鶏
3803	一つ家の表も背戸もくみかな	25	夏	動物	水鶏
3804	一つ家を毎晩たゞく水鶏哉	25	夏	動物	水鶏
3805	見合せて又叩き出す水鶏かな	25	夏	動物	水鶏

3806	犬吼てあと静かなる水鶏哉	26	夏	動物	水鶏
3807	水鶏きて毎晩たゞく明家かな	26	夏	動物	水鶏
3808	新発意が寝ならふ頃の水鶏哉	26	夏	動物	水鶏
3809	月の出て背戸をとびのく水鶏哉	26	夏	動物	水鶏
3810	虎がなく寢覚寢覚の水鶏哉	26	夏	動物	水鶏
3811	古沢や家居の中に水鶏鳴く	26	夏	動物	水鶏
3812	古沢や家居の中に鳴く水鶏	26	夏	動物	水鶏
3813	吉原や水鶏にさむる人もなし	26	夏	動物	水鶏
3814	宵々に小督驚くくみかな	26	夏	動物	水鶏
3815	大門を夜な夜なたゞく水鶏かな	27	夏	動物	水鶏
3816	敲きあへで帰る雨夜の水鶏かな	27	夏	動物	水鶏
3817	掛乞かあらず水鶏のにくさ哉	28	夏	動物	水鶏
3818	山里や水鶏啼き罷んで犬遠し	28	夏	動物	水鶏
3819	いたづらに叩く水鶏や墓の門	29	夏	動物	水鶏
3820	水鶏やんで山僧門を叩きけり	29	夏	動物	水鶏
3821	狸来ずなりぬ水鶏や戸を叩く	29	夏	動物	水鶏
3822	戸敲くは水鶏か八百屋か豆腐屋か	29	夏	動物	水鶏
3823	沼浅く藺生ふるところ水鶏鳴く	29	夏	動物	水鶏
3824	花藺田に水鶏鳴くべき小雨哉	33	夏	動物	水鶏
3825	鶴ありく川杭がくれたそがるゞ	26	夏	動物	鶴
3826	鶺鴒の首の蛇とも見へて恐ろしき	25	夏	動物	鶺鴒
3827	烏羽玉の闇の色なるあら鶺鴒哉	26	夏	動物	鶺鴒
3828	暁やうかごにねむる鶺鴒のつかれ	28	夏	動物	鶺鴒
3829	雨来り風添ひあら鶺鴒散乱す	29	夏	動物	鶺鴒
3830	いしづみの跡に啼けり閑子鳥	25	夏	動物	閑古鳥
3831	浮世への筧一すぢ閑子鳥	25	夏	動物	閑古鳥
3832	聞に出てぬれてもとるや閑古鳥	25	夏	動物	閑古鳥
3833	しんしんと泉わきけり閑子鳥	25	夏	動物	閑古鳥
3834	すめはすむ人もありけり閑子鳥	25	夏	動物	閑古鳥
3835	竹杖のしわる峠や閑古鳥	25	夏	動物	閑古鳥
3836	どの村へかよふ筧ぞ閑子鳥	25	夏	動物	閑古鳥
3837	並松へふし見に来たか閑古鳥	25	夏	動物	閑古鳥
3838	並松やそれからそれへ閑子鳥	25	夏	動物	閑古鳥
3839	松の木にすうと入りけり閑子鳥	25	夏	動物	閑古鳥
3840	閑子鳥心細さに啼きしきる	26	夏	動物	閑古鳥
3841	閑子鳥扱も発句師のかしましき	26	夏	動物	閑古鳥
3842	閑子鳥なかねば淋し山の庵	26	夏	動物	閑古鳥
3843	かんこ鳥なくや山行く武者修行	26	夏	動物	閑古鳥
3844	淋しさに鏡を見るや閑子鳥	26	夏	動物	閑古鳥
3845	淋しさの声はありけり閑呼鳥	26	夏	動物	閑古鳥
3846	夕月は木の間に青しかつこ鳥	26	夏	動物	閑古鳥
3847	閑子鳥氷のやうな石ありけり	27	夏	動物	閑古鳥
3848	汽車と云ものが出来るぞ閑子鳥	27	夏	動物	閑古鳥
3849	矢の跡や石に来て鳴く閑古鳥	27	夏	動物	閑古鳥
3850	閑古鳥竹の御茶屋の人もなし	28	夏	動物	閑古鳥
3851	橋一つ渡れば木曾の閑古鳥	28	夏	動物	閑古鳥
3852	山中の池物凄し閑古鳥	28	夏	動物	閑古鳥
3853	奥山に石切る音や閑子鳥	29	夏	動物	閑古鳥
3854	石尊の大太刀古りて閑子鳥	29	夏	動物	閑古鳥
3855	閑古鳥かなどゞ思へば旅淋し	30	夏	動物	閑古鳥
3856	木乃伊取る人は帰らず閑古鳥	31	夏	動物	閑古鳥
3857	魯智深は坊主になりぬ閑古鳥	33	夏	動物	閑古鳥
3858	魯智深は山に入りけり閑子鳥	33	夏	動物	閑古鳥
3859	閑子鳥三個ノ秘事八伝絶エヌ	35	夏	動物	閑古鳥
3860	山がらの薄をのぼる手際かな	25	夏	動物	山雀
3861	山雀の来る時は四五羽来りけり	28	夏	動物	山雀

3862	山雀を送る雀の夫婦かな	32	夏	動物	山雀
3863	満潮や寝る水鳥の床かはる	21	夏	動物	水鳥の巢
3864	水鳥に水鳥の巢は知られけり	32	夏	動物	水鳥の巢
3865	雨の夜や浮巢めくりて鳩のなく	25	夏	動物	浮巢
3866	子になつて浮巢は月に流れけり	25	夏	動物	浮巢
3867	風吹て浮巢流るゝ瀬田の橋	26	夏	動物	浮巢
3868	旅鳥浮巢にのつて流れけり	26	夏	動物	浮巢
3869	流さるゝ浮巢に鳩の声悲し	28	夏	動物	浮巢
3870	人すぎる屋根も浮巢のたくひ哉	29	夏	動物	浮巢
3871	何鳥と知らぬ浮巢の卵かな	32	夏	動物	浮巢
3872	ちいちいと絶え入る声や練雲雀	25	夏	動物	練雲雀
3873	武者一騎ながめ入たり羽抜鳥	25	夏	動物	羽抜鳥
3874	其の下を汽車が通るぞ羽抜鳥	27	夏	動物	羽抜鳥
3875	羽抜鳥友呼ぶ声か山淋し	28	夏	動物	羽抜鳥
3876	羽抜鳥覚束なくも飛びにけり	29	夏	動物	羽抜鳥
3877	羽抜鳥腰ぬけ鳥は人なりけり	29	夏	動物	羽抜鳥
3878	原通人見て鳴くや羽抜鳥	29	夏	動物	羽抜鳥
3879	灯ともして又夏虫をまつ夜哉	25	夏	動物	夏虫
3880	夏虫の死で落ちけり本の上	28	夏	動物	夏虫
3881	おのが火をたよりか一ツ飛ぶ蛍	23	夏	動物	蛍
3882	草の露これも蛍になるやらん	23	夏	動物	蛍
3883	草の葉のほたるゆれるや水の音	23	夏	動物	蛍
3884	手の下をくゝつてにげる蛍かな	23	夏	動物	蛍
3885	姫だちも団扇で出るや蛍狩	23	夏	動物	蛍
3886	吹く風をとらへかねたるほたる哉	23	夏	動物	蛍
3887	蛍火にもゆる草葉や雨の岸	23	夏	動物	蛍
3888	水音をはさむ蛍の屏風哉	23	夏	動物	蛍
3889	水にはきえ露にはもゆる蛍かな	23	夏	動物	蛍
3890	瓜小屋に音なきよるの蛍哉	25	夏	動物	蛍
3891	大蛍ふわふわとして風低し	25	夏	動物	蛍
3892	山門に蛍逃げこむしまり哉	25	夏	動物	蛍
3893	静かさに地をすつてとぶ蛍かな	25	夏	動物	蛍
3894	涼しさや月出るまでの蛍がり	25	夏	動物	蛍
3895	露となり蛍となりて消にけり	25	夏	動物	蛍
3896	趙氏連城壁と見て前川に満る蛍哉	25	夏	動物	蛍
3897	手の内に蛍つめたき光かな	25	夏	動物	蛍
3898	盗人の闇に見すかず蛍かな	25	夏	動物	蛍
3899	人去てかせの下行く蛍哉	25	夏	動物	蛍
3900	蛍から蛍へ風のうつりけり	25	夏	動物	蛍
3901	蛍狩袋の中の闇夜かな	25	夏	動物	蛍
3902	路つけて藺の中くゝる蛍かな	25	夏	動物	蛍
3903	藻を刈てはひでる舟の蛍哉	25	夏	動物	蛍
3904	藻を刈るや蛍はひ出る舟の端	25	夏	動物	蛍
3905	手のうらに蛍つめたき光哉	25	夏	動物	蛍
3906	芦の葉にすかりてなひく蛍哉	26	夏	動物	蛍
3907	あなどって蛍とびこす庵哉	26	夏	動物	蛍
3908	余り追はゞ蛍困りて消やせん	26	夏	動物	蛍
3909	石山の闇を抱込む蛍哉	26	夏	動物	蛍
3910	市中に蛍一つのさわき哉	26	夏	動物	蛍
3911	風の前で蛍又消え又明り	26	夏	動物	蛍
3912	風吹て橋こえ窓に蛍哉	26	夏	動物	蛍
3913	風吹て乱れ立つ江の蛍哉	26	夏	動物	蛍
3914	傾城の団扇に這はす蛍哉	26	夏	動物	蛍
3915	露よりもさきにこぼるゝ蛍哉	26	夏	動物	蛍
3916	隣から追はれて来たる蛍哉	26	夏	動物	蛍
3917	ぬれて来て地蔵にとまる蛍哉	26	夏	動物	蛍

3918	羽黒山蛍一つの闇夜哉	26	夏	動物	蛍
3919	ふわふわと早瀬を渡る蛍哉	26	夏	動物	蛍
3920	蛍飛ぶ中洲の芦のそよぎ哉	26	夏	動物	蛍
3921	雪洞はきえて蛍のさかり哉	26	夏	動物	蛍
3922	蓬生に蛍みだるゝ夜風哉	26	夏	動物	蛍
3923	石垣や石のあはひの大蛍	27	夏	動物	蛍
3924	石山の石の裏飛ぶ蛍かな	27	夏	動物	蛍
3925	板塀にそふて飛び行く蛍哉	27	夏	動物	蛍
3926	浮草に流れ流れて蛍かな	27	夏	動物	蛍
3927	裏つたひ雨夜の蛍静かなり	27	夏	動物	蛍
3928	大蛍ものすごき夜のけしき哉	27	夏	動物	蛍
3929	消えて見てやゝあつて光る蛍かな	27	夏	動物	蛍
3930	竹藪やものにさはらず飛ぶ蛍	27	夏	動物	蛍
3931	たそがれの川上遠く蛍飛ぶ	27	夏	動物	蛍
3932	火は消えて雨の夜を啼く蛍かな	27	夏	動物	蛍
3933	ふわふわと蛍一つの闇夜かな	27	夏	動物	蛍
3934	蛍飛ぶ中を夜舟のともし哉	27	夏	動物	蛍
3935	すよすよと舟の側飛ぶ蛍かな	28	夏	動物	蛍
3936	竹垣の外飛ぶ雨の蛍哉	28	夏	動物	蛍
3937	次の夜は蛍痩せたり籠の中	28	夏	動物	蛍
3938	豆腐屋の門に夜とぶ縄哉	28	夏	動物	蛍
3939	葉隠れて蛍飛ぶなり竹の雨	28	夏	動物	蛍
3940	蛍飛ぶ背戸の小橋を渡りけり	28	夏	動物	蛍
3941	蛍飛ぶ宿へ帰りぬ白拍子	28	夏	動物	蛍
3942	逢阪や人絶えて蛍低く飛ぶ	29	夏	動物	蛍
3943	義安寺は袋ごしにもいちじるき	29	夏	動物	蛍
3944	尽く蛍死にけり籠の中	29	夏	動物	蛍
3945	此頃は蛍を見てもあはれなり	29	夏	動物	蛍
3946	三寸の苗に蛍や籠の中	29	夏	動物	蛍
3947	静かさに蛍飛ぶなり淵の上	29	夏	動物	蛍
3948	その上を蛍飛ぶ也水車	29	夏	動物	蛍
3949	釣鐘にとまりて光る蛍かな	29	夏	動物	蛍
3950	釣瓶にとまつて光る蛍哉	29	夏	動物	蛍
3951	墓原の櫓に光る蛍かな	29	夏	動物	蛍
3952	吹かれ来て蛍あぶなし水車	29	夏	動物	蛍
3953	古庭に水打つて蛍呼ばんとす	29	夏	動物	蛍
3954	蛇を恐れ蚯蚓をにくみ蛍狩	29	夏	動物	蛍
3955	蛇を恐れ蚯蚓をにくむほたる哉	29	夏	動物	蛍
3956	蛍打たばうすものゝ団扇塗木履	29	夏	動物	蛍
3957	鼓虫の夜は化けて出て蛍哉	29	夏	動物	蛍
3958	善き人の被にとまる蛍かな	29	夏	動物	蛍
3959	思ひ出す蛍が飛んで去年也	30	夏	動物	蛍
3960	人寝ねて蛍飛ぶ也蚊帳の中	30	夏	動物	蛍
3961	川風の蛍吹きこむ二階哉	31	夏	動物	蛍
3962	たはれをの袂に包む蛍哉	31	夏	動物	蛍
3963	蛍籠に昼は死んたる蛍哉	31	夏	動物	蛍
3964	夕風の蛍吹きこむ二階哉	31	夏	動物	蛍
3965	十年の苦学を想ふ蛍哉	32	夏	動物	蛍
3966	蛍籠行燈に遠くつるしけり	32	夏	動物	蛍
3967	死蛍を選び分けて居る車胤かな	33	夏	動物	蛍
3968	蛍狩早苗を盗み帰りけり	33	夏	動物	蛍
3969	各の紙袋持つ蛍狩	34	夏	動物	蛍
3970	名どころの蛍大きな光かな	34	夏	動物	蛍
3971	晴天やおきぬうちから蝉の声	21	夏	動物	蝉
3972	晴天やふしてとく知る蝉の声	21	夏	動物	蝉
3973	目の覚めぬうちから聞や蝉の声	21	夏	動物	蝉

3974	蝉すゞし牛頭天王の杉のもり	24	夏	動物	蝉
3975	蝉なくや田中に細き土饅頭	24	夏	動物	蝉
3976	せみのなく木かげや馬頭観世音	24	夏	動物	蝉
3977	船頭の舟には居らず蝉のこゑ	24	夏	動物	蝉
3978	脳病の頭にひゞくせみの声	24	夏	動物	蝉
3979	聞きそめた日よりかしまし蝉の声	25	夏	動物	蝉
3980	初蝉の声ひきたらぬ夕日哉	25	夏	動物	蝉
3981	花も月も見しらぬ蝉のかしましき	25	夏	動物	蝉
3982	朝露を乾かして鳴く蝉の声	26	夏	動物	蝉
3983	鶯の蝉にせりあふ木末哉	26	夏	動物	蝉
3984	笠とるや杜の下道蝉時雨	26	夏	動物	蝉
3985	風吹て涼しき蝉の初音哉	26	夏	動物	蝉
3986	囚人の鎖重たし蝉の声	26	夏	動物	蝉
3987	蝉させば竿にもつるゝ柳哉	26	夏	動物	蝉
3988	蝉の声絶えて水音山深し	26	夏	動物	蝉
3989	僧正の榎かしまし蝉の声	26	夏	動物	蝉
3990	電信の柱にあつし蝉の声	26	夏	動物	蝉
3991	飛びあてる木に落付て蝉の声	26	夏	動物	蝉
3992	葉柳にふられて鳴くか蝉の声	26	夏	動物	蝉
3993	風流は苦しきものぞ蝉の声	26	夏	動物	蝉
3994	帆柱のさきに蝉鳴く入江哉	26	夏	動物	蝉
3995	みちのくの玉川蝉の名所哉	26	夏	動物	蝉
3996	行けは熱し休めば涼し蝉の声	26	夏	動物	蝉
3997	行けばあつしやめれば涼し蝉の声	26	夏	動物	蝉
3998	明家の門に蝉鳴く夕日哉	27	夏	動物	蝉
3999	大木の注縄に蝉啼く社哉	27	夏	動物	蝉
4000	いろいろの売声絶えて蝉の昼	28	夏	動物	蝉
4001	棧やかづらにすがる蝉の声	28	夏	動物	蝉
4002	着物干す上は蝉鳴く一の谷	28	夏	動物	蝉
4003	蝉鳴くや寒暖計は九十九度	28	夏	動物	蝉
4004	蝉なくや砂に短き松の影	28	夏	動物	蝉
4005	蝉鳴くや寺は石橋杉木立	28	夏	動物	蝉
4006	たまたまに蝉鳴く松の林哉	28	夏	動物	蝉
4007	鳴きやめて飛ぶ時蝉の見ゆる也	28	夏	動物	蝉
4008	名も知らぬ大木多し蝉の声	28	夏	動物	蝉
4009	一本に蝉の集まる野中哉	29	夏	動物	蝉
4010	上野から庭の木へ来て蝉の声	29	夏	動物	蝉
4011	御殿場や並杉老いて蝉稀也	29	夏	動物	蝉
4012	椎の影蝉鳴く椽の柱哉	29	夏	動物	蝉
4013	須磨の浦やうしろの山に蝉の声	29	夏	動物	蝉
4014	蝉鳴くや野中の井のはね釣瓶	29	夏	動物	蝉
4015	蝉の声しばらく汽車に押されけり	29	夏	動物	蝉
4016	蝉の声共に吹かるゝ梢かな	29	夏	動物	蝉
4017	庭の木にらんぷとゞいて夜の蝉	29	夏	動物	蝉
4018	昼中や雲いらいらと蝉の声	29	夏	動物	蝉
4019	昼中や蝉の集まる大榎	29	夏	動物	蝉
4020	みちのくや出羽へ出ても蝉の声	29	夏	動物	蝉
4021	夜明から熱いことかな蝉の声	29	夏	動物	蝉
4022	夜明から熱い天氣に蝉の声	29	夏	動物	蝉
4023	童等の蝉さしにくる社かな	29	夏	動物	蝉
4024	蝉鳴くや行水時の豆腐売	30	夏	動物	蝉
4025	鳴きさして蝉の飛行く夕日哉	30	夏	動物	蝉
4026	一筋の夕日に蝉の飛んで行	30	夏	動物	蝉
4027	雷晴れて一樹の夕日蝉の声	30	夏	動物	蝉
4028	蝉なくや物売絶ゆる昼餉過	31	夏	動物	蝉
4029	蝉に遠く蛙に近し裏二階	31	夏	動物	蝉

4030	蝉鳴くや団扇に画く滝の音	33	夏	動物	蝉
4031	飛んで来てとまるやすぐに蝉の声	33	夏	動物	蝉
4032	男蝉小便すれば女蝉も小便す	33	夏	動物	蝉
4033	蝉ナクヤ五尺二足ラ又庭ノ松	34	夏	動物	蝉
4034	アナガマノ声ヤ手ノ蝉袖ノ蝉	35	夏	動物	蝉
4035	蝉始メテ鳴ク鮪釣る頃の水絵空	35	夏	動物	蝉
4036	山深ク見馴レヌ花ヤ蝉モ鳴カズ	35	夏	動物	蝉
4037	ふぎもせぬ風に落ちけり蝉のから	24	夏	動物	蝉の殻
4038	足六つ不足もなしに蝉の殻	25	夏	動物	蝉の殻
4039	さかしまに残る力や蝉のから	25	夏	動物	蝉の殻
4040	淋しさにころげて見るや蝉の殻	25	夏	動物	蝉の殻
4041	せみのからわつて見たれは雫哉	25	夏	動物	蝉の殻
4042	古池やさかさに浮ぶ蝉のから	25	夏	動物	蝉の殻
4043	睨まれて閻魔の堂の蝉の殻	27	夏	動物	蝉の殻
4044	ぬげがらの君うつせみのうつゝなや	29	夏	動物	蝉の殻
4045	蝉時雨仰むく口や木の雫	26	夏	動物	蝉時雨
4046	人力の森に這入るや蝉時雨	31	夏	動物	蝉時雨
4047	玉虫ノ穴ヲ出タル光哉	35	夏	動物	玉虫
4048	終止めて僧のさとぬ火取虫	21	夏	動物	火取虫
4049	月の夜を教てくれた火取虫	21	夏	動物	火取虫
4050	灯取虫ころさぬためや火もおかす	21	夏	動物	火取虫
4051	灯取虫羽はたきするやからす窓	21	夏	動物	火取虫
4052	灯取虫の羽はたきするやからす窓	21	夏	動物	火取虫
4053	火を取りて命取られぬ火取虫	21	夏	動物	火取虫
4054	火を取りて命取らるる火取虫	21	夏	動物	火取虫
4055	火を取りて身も取られけり火取虫	21	夏	動物	火取虫
4056	我庵は月夜となりぬ火取虫	21	夏	動物	火取虫
4057	我庵を月夜にしたり火取虫	21	夏	動物	火取虫
4058	あばらやは戸じまりもなし火取虫	25	夏	動物	火取虫
4059	あはれさやらんぷをにる灯取虫	25	夏	動物	火取虫
4060	いろいろの迷ひや螢灯取むし	25	夏	動物	火取虫
4061	面白やわれも月なる火取虫	25	夏	動物	火取虫
4062	燈籠としらずに来たり灯取虫	25	夏	動物	火取虫
4063	灯取虫おのが闇路に迷ひけり	25	夏	動物	火取虫
4064	灯取虫すてる命のいくつある	25	夏	動物	火取虫
4065	吹かれきつ吹きそらされつ灯取虫	25	夏	動物	火取虫
4066	焼けしぬるおのが思ひや灯取虫	25	夏	動物	火取虫
4067	我庵をめかけて来るか火取むし	25	夏	動物	火取虫
4068	傾城に死んで見せけり火取虫	26	夏	動物	火取虫
4069	火取虫書よむ人の罪深し	26	夏	動物	火取虫
4070	火取虫仏の灯にも焼かれけり	26	夏	動物	火取虫
4071	山を見る窓より来たり火取虫	26	夏	動物	火取虫
4072	灯取虫我身の上をもえにけり	28	夏	動物	火取虫
4073	白や赤や黄や色々の灯取虫	29	夏	動物	火取虫
4074	灯取虫思ひつめたるぞ是非もなき	29	夏	動物	火取虫
4075	ある時は空を行きけり水すまし	25	夏	動物	水澄し
4076	唾はけばはつと散りけり水馬	25	夏	動物	水澄し
4077	水馬水にさからふすべりかな	25	夏	動物	水澄し
4078	世の中をまひまひ丸うまはりけり	25	夏	動物	水澄し
4079	水馬流れんとして飛び返る	26	夏	動物	水澄し
4080	川上へ頭そろへて水馬	27	夏	動物	水澄し
4081	まはれまはれまはれまひまひくるくと	27	夏	動物	水澄し
4082	水馬枯葉かゝえて遡る	27	夏	動物	水澄し
4083	まひまひは水に数かくたぐひ哉	28	夏	動物	水澄し
4084	夕暮の小雨に似たり水すまし	28	夏	動物	水澄し
4085	山里に夏蚕飼ふらん桑畠	29	夏	動物	夏蚕

4086	刈残す一畝の桑や夏蚕	35	夏	動物	夏蚕
4087	神前の鳥居を上る毛虫哉	27	夏	動物	毛虫
4088	あさましく松くひあらず毛虫哉	31	夏	動物	毛虫
4089	子供等の毛虫葬る遊び哉	31	夏	動物	毛虫
4090	思はずの葉裏に居たる毛虫哉	33	夏	動物	毛虫
4091	片枝に毛虫つきたる若木哉	33	夏	動物	毛虫
4092	人をして毛虫取らしむ庭の松	33	夏	動物	毛虫
4093	折り棄てし萩の毛虫を踏付ぬ	33	夏	動物	毛虫
4094	生きかへるなかれと毛虫ふみつけぬ	35	夏	動物	毛虫
4095	毛虫殺す毛虫きらひの男哉	35	夏	動物	毛虫
4096	ひらひらと蛾の飛ぶ藪の小道哉	29	夏	動物	蛾
4097	藪陰やうつくしき白蛾よゝと飛ぶ	29	夏	動物	蛾
4098	黒塚や傘にむらがる夏の蜂	26	夏	動物	夏の蜂
4099	蚊をかたき風を身方のすゝみ哉	21	夏	動物	蚊
4100	念仏のとぎれけり蚊をたゝく音	24	夏	動物	蚊
4101	親の血を吸てとぶ蚊のにくさ哉	25	夏	動物	蚊
4102	蚊の声の中に子の泣く伏屋哉	25	夏	動物	蚊
4103	蚊の声は床のあやめに群れにけり	25	夏	動物	蚊
4104	墓拝む間を藪蚊の命哉	25	夏	動物	蚊
4105	昼の蚊やぐつとくひ入る一思ひ	25	夏	動物	蚊
4106	我顔を蚊にくはせたる思ひかな	25	夏	動物	蚊
4107	暁やまだ血にあかぬ蚊のうなり	26	夏	動物	蚊
4108	蚊の狂ふたそかれ時の化粧哉	26	夏	動物	蚊
4109	蚊のくるや本箱のすき壁のやれ	26	夏	動物	蚊
4110	蚊の声にらんぷの暗きはたごかな	26	夏	動物	蚊
4111	蚊の声にらんぷの暗き宿屋哉	26	夏	動物	蚊
4112	蚊の死んで本のあはひに哀れ也	26	夏	動物	蚊
4113	蚊のむれて暮打二人を喰ひけり	26	夏	動物	蚊
4114	蚊をたゝくいそがはしさよ写し物	26	夏	動物	蚊
4115	傾城の在所をきけば藪蚊哉	26	夏	動物	蚊
4116	血ふくれて畳する蚊のにくさ哉	26	夏	動物	蚊
4117	病人の蚊にうち負し団哉	26	夏	動物	蚊
4118	本堂の隅にかたまる藪蚊哉	26	夏	動物	蚊
4119	本堂の隅に蚊のなく真昼かな	26	夏	動物	蚊
4120	待つ夜半を蚊になぶられて端居哉	26	夏	動物	蚊
4121	簑かけて座敷にも蚊の宿り哉	26	夏	動物	蚊
4122	夕風に蚊の流れ行く座敷哉	26	夏	動物	蚊
4123	宵の月蚊をやくひまに隠れけり	26	夏	動物	蚊
4124	大風のあとを蚊の出る山家哉	27	夏	動物	蚊
4125	蚊か蠅か蚤か蝨か子子か	27	夏	動物	蚊
4126	蚊の声もよわる小道の夜明哉	27	夏	動物	蚊
4127	蚊の声や夜更くる程に太りける	27	夏	動物	蚊
4128	蚊の中に問ひつ答へつ人二人	27	夏	動物	蚊
4129	蚊の中に孀めしくふ一人かな	27	夏	動物	蚊
4130	蚊の居らぬ月見て沖の楳枕	27	夏	動物	蚊
4131	昼の蚊の来てはとまるや種が鳥	27	夏	動物	蚊
4132	皆来れ日本の者は蚊も蚤も	27	夏	動物	蚊
4133	わきかへる藪蚊の中や家一つ	27	夏	動物	蚊
4134	蚊の声に雨雲かゝる小村哉	28	夏	動物	蚊
4135	是非もなや足を蚊のさす写し物	28	夏	動物	蚊
4136	一つづゝ殺せども蚊のへらざりき	28	夏	動物	蚊
4137	灯ともすや蚊の声さわぐ石燈籠	28	夏	動物	蚊
4138	昼の蚊の廻向し居ればさしに来る	28	夏	動物	蚊
4139	昼の蚊の廻向し居れば我をさす	28	夏	動物	蚊
4140	松白帆されど蚊も居り蠅も居る	28	夏	動物	蚊
4141	泉屋の壓(マ)に蚊の鳴く夕哉	29	夏	動物	蚊

4142	入相を藪蚊は藪に帰りけり	29	夏	動物	蚊
4143	うかと来て喰ひ殺されな庵の蚊に	29	夏	動物	蚊
4144	蚊も居らず出水のあとの淋しさよ	29	夏	動物	蚊
4145	蚊を打つて軍書の上に血を印す	29	夏	動物	蚊
4146	草の戸や君に逢ふ夜を蚊の多き	29	夏	動物	蚊
4147	血ぶくれて蚊のはひありく夜明哉	29	夏	動物	蚊
4148	昼の蚊や円休寺借屋と申して	29	夏	動物	蚊
4149	物書きさして蚊を焼く夜半の気狂はし	29	夏	動物	蚊
4150	うつらうつら蚊の声耳の根を去らず	30	夏	動物	蚊
4151	蚊の多き一新講の宿屋哉	30	夏	動物	蚊
4152	蚊を燃くや君か寝顔のうつゝなき	30	夏	動物	蚊
4153	首塚や蜻蛉の如き藪蚊飛ぶ	30	夏	動物	蚊
4154	だんだらの蚊など出る也昼の鐘	30	夏	動物	蚊
4155	寺の蚊の瘦せて参詣の人を刺す	30	夏	動物	蚊
4156	念仏や蚊にさゝれたる足の裏	30	夏	動物	蚊
4157	墓原や昼の蚊群れて足をさす	30	夏	動物	蚊
4158	灯ともせば蚊の騒ぎ立つ祠かな	30	夏	動物	蚊
4159	病床に心いらちて蚊を叩く	30	夏	動物	蚊
4160	蔭折れば昼の蚊さわぎ暮出でぬ	30	夏	動物	蚊
4161	三井の蚊の叡山の蚊を追ひかくる	30	夏	動物	蚊
4162	物のけの消えて屏風に蚊の声す	30	夏	動物	蚊
4163	夕暮や闇灯ともさぬ蚊のうなり	30	夏	動物	蚊
4164	夕暮や闇灯ともさぬ蚊の狂ひ	30	夏	動物	蚊
4165	我宿は椎の木深く蚊の多き	30	夏	動物	蚊
4166	蚊にくはれ政党論を草しけり	31	夏	動物	蚊
4167	蚊に馴れて能く寝る室の遊女哉	31	夏	動物	蚊
4168	蚊の多き根岸の庵や小説家	31	夏	動物	蚊
4169	蚊の声に馴れて遊女の眠り哉	31	夏	動物	蚊
4170	蚊の声やうつゝに叩く写し物	31	夏	動物	蚊
4171	君に侷む酒に儺しや蚊の屍	31	夏	動物	蚊
4172	草の戸や蚊の餌に足らぬ一人者	31	夏	動物	蚊
4173	草の戸や蚊の餌に足らぬ吾一人	31	夏	動物	蚊
4174	書を読むや蚊にさゝれたる足の裏	31	夏	動物	蚊
4175	病人の起きて蚊を焼く夜半哉	31	夏	動物	蚊
4176	水捨る草むらを蚊の鳴て出る	31	夏	動物	蚊
4177	夜学して蚊にくはれけり試験前	31	夏	動物	蚊
4178	夜一夜蚊にくはれけり試験前	31	夏	動物	蚊
4179	足の蚊を焼くや足の毛を焼きにけり	33	夏	動物	蚊
4180	鼾声雷ノ如シ蚊にくはれ居る酔倒れ	33	夏	動物	蚊
4181	蚊を叩く音も更けたる夜学哉	33	夏	動物	蚊
4182	蚊を焼くや寝顔に蠅を落しけり	33	夏	動物	蚊
4183	氏祭これより根岸蚊の多き	35	夏	動物	蚊
4184	蚊柱や蚊遣の煙のよけ具合	21	夏	動物	蚊柱
4185	夕立の来て蚊柱を崩しけり	21	夏	動物	蚊柱
4186	蚊柱やほつれほつれてふしの山	25	夏	動物	蚊柱
4187	あふがれて蚊柱ゆがむ軒端哉	26	夏	動物	蚊柱
4188	あふがれて蚊柱ゆがむ夕哉	26	夏	動物	蚊柱
4189	うすうすと蚊柱動く松の月	26	夏	動物	蚊柱
4190	蚊はしらの川わたりゆくゆふへ哉	26	夏	動物	蚊柱
4191	蚊柱の見事立ちけり池の上	26	夏	動物	蚊柱
4192	蚊柱や楠の幹にも立ならひ	26	夏	動物	蚊柱
4193	蚊柱やふとしきたてゝ宮造り	26	夏	動物	蚊柱
4194	蚊柱の下にかしまし三百人	27	夏	動物	蚊柱
4195	蚊柱の中に相撲とる童かな	27	夏	動物	蚊柱
4196	蚊柱やくづれては又くづれては	27	夏	動物	蚊柱
4197	蚊柱や丁稚ものよむ椽の先	27	夏	動物	蚊柱

4198	蚊柱や漁村尽くつぶれたり	29	夏	動物	蚊柱
4199	蚊柱や夕栄広き須磨の浦	29	夏	動物	蚊柱
4200	子子の源とへはしみすかな	23	夏	動物	子子
4201	寝いるまを子子虫の沈みけり	25	夏	動物	子子
4202	子子の藪蚊見送る別れ哉	25	夏	動物	子子
4203	子子や水に天地の裏表	25	夏	動物	子子
4204	子子や水や天地の裏表	25	夏	動物	子子
4205	子子の生れ処の涼しさよ	26	夏	動物	子子
4206	子子の蚊になる頃や何学士	26	夏	動物	子子
4207	子子の底に沈まるあつさ哉	26	夏	動物	子子
4208	子子のはねずにすみぬ浮世哉	26	夏	動物	子子
4209	子子も金魚も同じ浮世かな	26	夏	動物	子子
4210	子子や汲んで幾日の鬮迦の水	28	夏	動物	子子
4211	子子や須磨の宿屋の手水鉢	28	夏	動物	子子
4212	明家や子子池の杜若	29	夏	動物	子子
4213	炎天や子子水をまきちらし	29	夏	動物	子子
4214	蝶ともならずあら子子の業因や	29	夏	動物	子子
4215	子子のこゝを吉原と申すぞや	29	夏	動物	子子
4216	子子の沈むや鶯は空に鳴く	29	夏	動物	子子
4217	子子の泥にかくれし早かな	29	夏	動物	子子
4218	子子やうちしづまればもとの垢	29	夏	動物	子子
4219	子子やお齒黒どぶの昼過ぎたり	29	夏	動物	子子
4220	子子や松葉の沈む手水鉢	29	夏	動物	子子
4221	子子の籠とならず蚊と落ちぶれし	30	夏	動物	子子
4222	青蠅の朝魚にたかる熱さ哉	25	夏	動物	蠅
4223	蠅さえも打つ気になればよりつかず	25	夏	動物	蠅
4224	蠅憎し打つ気になればよりつかず	25	夏	動物	蠅
4225	蠅逃げて馬より牛にうつりけり	25	夏	動物	蠅
4226	身動きに蠅のむらたつひるね哉	25	夏	動物	蠅
4227	洗ふたる飯櫃に蠅あはれなり	26	夏	動物	蠅
4228	蠅の舞ふ中に酒のむ車力哉	26	夏	動物	蠅
4229	蠅むれて虚空に飛ぶや馬の市	26	夏	動物	蠅
4230	入ること十歩都の蠅をはなれけり	27	夏	動物	蠅
4231	牛馬の尻並べけり蠅の中	27	夏	動物	蠅
4232	風渡る孔雀の羽や小蠅舞ふ	27	夏	動物	蠅
4233	里長や蠅の牛部屋蚊の木部屋	27	夏	動物	蠅
4234	雪院の戸は破れたり蠅の声	27	夏	動物	蠅
4235	鉄道に何を群れたる五月蠅ぞや	27	夏	動物	蠅
4236	蠅たまる水道尻の小家哉	27	夏	動物	蠅
4237	蠅舞ふや太平洋の船の中	27	夏	動物	蠅
4238	原中や酒売いこふ蠅の声	27	夏	動物	蠅
4239	一つ逐へは又一つ来るめしの蠅	27	夏	動物	蠅
4240	飯粒の一粒づゝに蠅とまる	27	夏	動物	蠅
4241	こゝ迄に蠅居らずなりぬ馬返し	28	夏	動物	蠅
4242	蠅を打つ人の心の細さかな	28	夏	動物	蠅
4243	ものものし蠅を打つ手の力瘤	28	夏	動物	蠅
4244	馬蠅の吾にうつるや山の道	29	夏	動物	蠅
4245	本陣に蠅うつわざを御覧ずる	29	夏	動物	蠅
4246	我心蠅一匹に狂はんとす	29	夏	動物	蠅
4247	心清ししばらく蠅もよりつかず	30	夏	動物	蠅
4248	眠らんとす汝静に蠅を打て	30	夏	動物	蠅
4249	蠅打を持って居眠るみとりかな	30	夏	動物	蠅
4250	蠅を打ち蚊を焼き病む身罪深し	30	夏	動物	蠅
4251	愛憎は蠅打つて蟻に与へけり	31	夏	動物	蠅
4252	酒臭き車夫の昼ねや蠅の中	31	夏	動物	蠅
4253	石像に蠅もとまらぬ鏡哉	31	夏	動物	蠅

4254	蠅どもは時を得顔や君逝きぬ	31	夏	動物	蠅
4255	正宗の刃にさはる蠅もなし	31	夏	動物	蠅
4256	火箸もて障子に蠅を追窮す	33	夏	動物	蠅
4257	活きた目をつゝきに来るか蠅の声	35	夏	動物	蠅
4258	活きた目をつゝきに来るか蠅の飛ぶ	35	夏	動物	蠅
4259	三尺乃鯛や蠅飛ぶ台所	35	夏	動物	蠅
4260	大さわぎ書生両手て蚤おさへ	23	夏	動物	蚤
4261	蚤昼寝時々油断見すまされ	23	夏	動物	蚤
4262	提灯をふつて蚤とるかごや哉	25	夏	動物	蚤
4263	蚤と蚊に一夜やせたる思ひ哉	25	夏	動物	蚤
4264	蚤に手のとゝきかねたり相撲取	25	夏	動物	蚤
4265	洋服の背中に蚤のいたき哉	25	夏	動物	蚤
4266	木賃とは蚤にせゝられ鶏の声	26	夏	動物	蚤
4267	きぬぎぬに蚤の飛び出す蒲団哉	26	夏	動物	蚤
4268	旅やすし蚤の寝巻の袖たゝみ	26	夏	動物	蚤
4269	松島や名所の蚤のわれをくふ	26	夏	動物	蚤
4270	あちへ逃げこちへ逃げ蚤のにくらしき	27	夏	動物	蚤
4271	お僧見られよ庵は大蚤大蟲	27	夏	動物	蚤
4272	傾城のぬけ殻に蚤のはねる哉	27	夏	動物	蚤
4273	しふねくも喰ひつく蚤の力かな	27	夏	動物	蚤
4274	大粒な蚤とびありく置哉	28	夏	動物	蚤
4275	どこまでも追ひつめて見ん舟の蚤	28	夏	動物	蚤
4276	蚤飛んで仲間部屋の人もなし	28	夏	動物	蚤
4277	蚤に足らず蟲にあまる力かな	28	夏	動物	蚤
4278	灯ともしてひとり蚤取る小先達	29	夏	動物	蚤
4279	いまだ天下を取らず蚤と蚊に病みし	30	夏	動物	蚤
4280	店先の猿餌に飽きて蚤を取る	30	夏	動物	蚤
4281	蚤とり粉の広告を読む床の中	31	夏	動物	蚤
4282	猿芝居猿の蚤取る楽屋哉	33	夏	動物	蚤
4283	敷革の毛わくる蚤のゆくへ哉	33	夏	動物	蚤
4284	言巧二蚤取粉売ル夜店カナ	35	夏	動物	蚤
4285	力入レテ蚤ノ卵ヲツブシケリ	35	夏	動物	蚤
4286	蚤共二卵ツブルゝ音高シ	35	夏	動物	蚤
4287	尼一人蝨の名処を帰り行く	26	夏	動物	蝨
4288	日光や蝨は居れどもよい処	26	夏	動物	蝨
4289	旅籠屋に投げ出す足や蝨の跡	26	夏	動物	蝨
4290	世の中よすそかゝぐれば蝨のくふ	26	夏	動物	蝨
4291	裾山や蝨の飛びかふ八重葎	27	夏	動物	蝨
4292	飯呼べど来らず蝨の跡を掻く	35	夏	動物	蝨
4293	蜘蛛の子やそも人間の始りは	25	夏	動物	蜘蛛
4294	古壁の隅に動かずはらみ蜘蛛	25	夏	動物	蜘蛛
4295	人ばらばら蜘蛛の子を散らすごとくなり	27	夏	動物	蜘蛛
4296	古家の槍長刀や孕蜘蛛	31	夏	動物	蜘蛛
4297	蜘蛛の子を散らすなかれと伏魔殿	33	夏	動物	蜘蛛
4298	雨水のしのぶつたふやかたつぶり	24	夏	動物	蝸牛
4299	一日の旅路しるきや蝸牛	24	夏	動物	蝸牛
4300	蝸牛と風雅の主や竹の垣	25	夏	動物	蝸牛
4301	生れるといはぬ身を恥よ蝸牛	25	夏	動物	蝸牛
4302	大釜の底をはひけり蝸牛	25	夏	動物	蝸牛
4303	此頃は居らなくなりぬ蝸牛	25	夏	動物	蝸牛
4304	声あらは何となくらん蝸牛	25	夏	動物	蝸牛
4305	ちゞまれば広き天地ぞ蝸牛	25	夏	動物	蝸牛
4306	蝸牛を風雅の主や竹の杓	25	夏	動物	蝸牛
4307	蝸牛明家の錠のくさりけり	26	夏	動物	蝸牛
4308	傾城のうらやまれけり蝸牛	26	夏	動物	蝸牛
4309	五月雨や小牛の角に蝸牛	26	夏	動物	蝸牛

4310	蝸牛の角のさきなり安芸愛媛	26	夏	動物	蝸牛
4311	石の上に重なりあふて蝸牛	27	夏	動物	蝸牛
4312	蝸牛それさへ文字はならひけり	27	夏	動物	蝸牛
4313	殻ともに踏みつぶされて蝸牛	27	夏	動物	蝸牛
4314	其角の長さくらべん蝸牛	27	夏	動物	蝸牛
4315	竹椽や嵐のあとの蝸牛	27	夏	動物	蝸牛
4316	朝鮮は蝸牛程の大きさよ	27	夏	動物	蝸牛
4317	蝸牛の角ふりわけよ幾ところ	27	夏	動物	蝸牛
4318	蝸牛の隣の喧嘩のぞきける	27	夏	動物	蝸牛
4319	蝸牛や寺の屋陰の大楳子	27	夏	動物	蝸牛
4320	ぬらくらと蝸牛の文字の覚束な	27	夏	動物	蝸牛
4321	蝸牛や雨雲さそふ角のさき	28	夏	動物	蝸牛
4322	蝸牛やおほつかなくもにしり書	28	夏	動物	蝸牛
4323	我画いて雲に乗り去る蝸牛	28	夏	動物	蝸牛
4324	長明の車が来たぞ蝸牛	29	夏	動物	蝸牛
4325	蝸牛の頭もたけしにも似たり	35	夏	動物	蝸牛
4326	あとはかりあつて消けりなめくじり	25	夏	動物	蛞蝓
4327	夕くれになれは消けりなめくじり	25	夏	動物	蛞蝓
4328	なめくじり寺の礎落ちこみぬ	26	夏	動物	蛞蝓
4329	我足にまけな朽木の*(虫偏+?) 蛭	28	夏	動物	蛞蝓
4330	傘さして売家見るやなめくじり	32	夏	動物	蛞蝓
4331	笠の音山蛭落ちて首を縮む	30	夏	動物	蛭
4332	笠の音山蛭落ちて首を縮む	30	夏	動物	蛭
4333	蛭多き野川に小鮒なんど得つ	30	夏	動物	蛭
4334	水に遊んで蛭を恐るゝ股の上	30	夏	動物	蛭
4335	森三里山蛭落ちて人に逢はず	30	夏	動物	蛭
4336	一吹や羽蟻くづるゝ不二風	25	夏	動物	羽蟻
4337	天人の羽衣すつる羽蟻哉	26	夏	動物	羽蟻
4338	鉄拐の吹きだしたる羽蟻哉	29	夏	動物	羽蟻
4339	我書て紙魚くふ程に成にけり	26	夏	動物	紙魚
4340	反故出せば蠹の糞あり古葛籠	29	夏	動物	紙魚
4341	長嘯か生れ代りの蠹もあらん	30	夏	動物	紙魚
4342	屋根虫を掃き下したる箒哉	29	夏	動物	屋根虫
4343	行燈の丁字よあすは初松魚	25	夏	動物	初鯉
4344	一日は都の水やはつ松魚	25	夏	動物	初鯉
4345	初松魚生れ変らば富士の龍	25	夏	動物	初鯉
4346	初松魚実に実に好きな人は誰レ	25	夏	動物	初鯉
4347	初松魚ひつこむ跡や夏氷	25	夏	動物	初鯉
4348	見事にも命すてけり初松魚	25	夏	動物	初鯉
4349	見ン事に命すてけり初松魚	25	夏	動物	初鯉
4350	傾城の発句名高し初松魚	26	夏	動物	初鯉
4351	誰人の糞になるらん初松魚	26	夏	動物	初鯉
4352	日本橋や曙の富士初松魚	26	夏	動物	初鯉
4353	初松魚江戸の口には四季の花	26	夏	動物	初鯉
4354	初松魚貴人の前ではねにけり	26	夏	動物	初鯉
4355	初松魚死すとも可也此ゆふべ	26	夏	動物	初鯉
4356	初松魚羽が生えたり江戸の空	26	夏	動物	初鯉
4357	初松魚見るに血しほの迸る	26	夏	動物	初鯉
4358	婿殿を買ひにやりけり初松魚	26	夏	動物	初鯉
4359	初松魚蠣殻町を通りけり	27	夏	動物	初鯉
4360	初松魚片肉に江戸の月夜哉	27	夏	動物	初鯉
4361	初松魚片身は人に買れけり	27	夏	動物	初鯉
4362	初松魚只一声の夜明哉	27	夏	動物	初鯉
4363	江戸ツ児は江戸で生れて初鯉	28	夏	動物	初鯉
4364	初松魚江戸といひしは昔なり	28	夏	動物	初鯉

4365	初松魚べらぼうと申す言葉あり	28	夏	動物	初鰹
4366	江戸人の江戸誇るらく初松魚	30	夏	動物	初鰹
4367	鎌倉や日蓮去つて初堅魚	32	夏	動物	初鰹
4368	二度までは初の字つける松魚哉	23	夏	動物	鰹
4369	生きている様な声なり松魚売	23 ~ 25	夏	動物	鰹
4370	鰹くふ人にもあらず松魚売	25	夏	動物	鰹
4371	鎌倉と名のつて死る松魚哉	26	夏	動物	鰹
4372	一夜さに海山こえて松魚哉	26	夏	動物	鰹
4373	押し分けて群衆の中を松魚売	27	夏	動物	鰹
4374	大松魚昔の都荒れにけり	27	夏	動物	鰹
4375	草の戸や鰹一切れ月半分	27	夏	動物	鰹
4376	草の戸や五尺の鰹四日の月	29	夏	動物	鰹
4377	三尺の家に五尺の松魚哉	29	夏	動物	鰹
4378	重衡がはしめて見たる松魚哉	30	夏	動物	鰹
4379	重衡のはじめて見たるかつを哉	30	夏	動物	鰹
4380	暁の第一声や松魚売	35	夏	動物	鰹
4381	鎌倉は堅魚もなくして小鰹かな	35	夏	動物	鰹
4382	鮎とんで出よ手をすけて我待つぞ	26	夏	動物	鮎
4383	鮎はねて月に眠るや渡し守	26	夏	動物	鮎
4384	膳の上に鮎やくるみや山の宿	26	夏	動物	鮎
4385	山里や尺に満ちたる鮎のたけ	26	夏	動物	鮎
4386	洪水のことしは鮎も居らずなりぬ	28	夏	動物	鮎
4387	鮎はまだ上らずといひぬ渡し守	29	夏	動物	鮎
4388	網を手に入鮎を覗くけはひ哉	31	夏	動物	鮎
4389	鮎釣の鮎釣の籠を覗きけり	31	夏	動物	鮎
4390	鮎釣の焼場を戻る夕哉	31	夏	動物	鮎
4391	鮎飛んで昼静かなり長柄川	31	夏	動物	鮎
4392	鮎の背に苔や生ふらん淵の色	31	夏	動物	鮎
4393	玉川の鮎にくひあく一日哉	31	夏	動物	鮎
4394	一群の鮎眼を過ぎぬ水の色	31	夏	動物	鮎
4395	故郷の鮎くひに行く休暇哉	31	夏	動物	鮎
4396	簾捲けは山緑なり鮎膾	31	夏	動物	鮎
4397	水尾涸て鮎の死たる旱哉	31	夏	動物	鮎
4398	鮎釣つてなりはひとする翁かな	34	夏	動物	鮎
4399	鮎漁の獲物少なき不興かな	34	夏	動物	鮎
4400	水引いて鮎のよる瀬のvariりけり	34	夏	動物	鮎
4401	鮎釣らんか如かずドンコを釣らんには	35	夏	動物	鮎
4402	くれ涼し大路にならふ金魚売	27	夏	動物	金魚
4403	取り逃がし掴み崩して海月取	26	夏	動物	海月
4404	夏の葉に春の匂ひやさくら餅	21	夏	植物	葉桜
4405	葉桜や花さきしとも見えぬ枝	23	夏	植物	葉桜
4406	葉になれば桜もたゞの木なりけり	23	夏	植物	葉桜
4407	葉桜や傾城しらぬ夏の景	24	夏	植物	葉桜
4408	葉桜や来年おもふ枝ののび	24	夏	植物	葉桜
4409	葉桜とよびかへられしさくら哉	25	夏	植物	葉桜
4410	葉桜の上野は闇となりけり	25	夏	植物	葉桜
4411	葉さくらや枯枝かくす一枝哉	25	夏	植物	葉桜
4412	葉桜や折のこされて一盛り	25	夏	植物	葉桜
4413	葉さくらや折残されて一茂り	25	夏	植物	葉桜
4414	雨の日や葉桜垂れて傘うつり	26	夏	植物	葉桜
4415	葉桜や祇王仏の面がはり	26	夏	植物	葉桜
4416	葉桜や冷酒あをる鬢奴	26	夏	植物	葉桜
4417	葉桜や窓を開けば角田川	26	夏	植物	葉桜
4418	葉桜や衛士の簷も木隠れて	26	夏	植物	葉桜
4419	葉桜に馬馳せ違ふ議員哉	27	夏	植物	葉桜
4420	葉桜に人千人のさわぎかな	27	夏	植物	葉桜

4421	葉桜や人影所々なり	27	夏	植物	葉桜
4422	葉桜はつまらぬものよ隅田川	29	夏	植物	葉桜
4423	十日早くばと思ふ葉桜の道もあり	30	夏	植物	葉桜
4424	葉桜に夜は茶屋無し隅田川	31	夏	植物	葉桜
4425	葉桜に夜は茶屋無し向島	31	夏	植物	葉桜
4426	葉桜や昔の人と立咄	31	夏	植物	葉桜
4427	夏桜石を火に焚く山家哉	27	夏	植物	夏桜
4428	上野山余花を尋ねて吟行す	31	夏	植物	余花
4429	実桜や吉野の御所に鳥の糞	26	夏	植物	桜の実
4430	紫を玉にぬく実の系桜	28	夏	植物	桜の実
4431	木母寺や実桜落ちて児もなし	28	夏	植物	桜の実
4432	葉柳に日の力なきゆふべかな	25	夏	植物	葉柳
4433	葉柳の風は中から起りけり	25	夏	植物	葉柳
4434	葉柳の五本はあまる庵哉	25	夏	植物	葉柳
4435	葉柳やもつれてのこる三日の月	25	夏	植物	葉柳
4436	葉柳をつかまへかねし小舟哉	26	夏	植物	葉柳
4437	葉柳や風はらひあへずほこりつむ	28	夏	植物	葉柳
4438	葉柳や病気の窓に夕ながめ	28	夏	植物	葉柳
4439	葉柳や病の窓の夕ながめ	28	夏	植物	葉柳
4440	葉柳に水撒車片よせぬ	30	夏	植物	葉柳
4441	葉柳に埃をかぶる車上哉	31	夏	植物	葉柳
4442	風吹けば三日の月あり夏柳	21	夏	植物	夏柳
4443	ともし火の数定まらず夏柳	26	夏	植物	夏柳
4444	夏柳吹く程吹て静かなり	26	夏	植物	夏柳
4445	花嫁や見る見るふとる夏柳	26	夏	植物	夏柳
4446	むしられて見返り柳夏瘦せぬ	26	夏	植物	夏柳
4447	桜田に夕栄すなり夏柳	27	夏	植物	夏柳
4448	車道狭く埃捲くなり夏柳	27	夏	植物	夏柳
4449	車道広く埃捲くなり夏柳	27	夏	植物	夏柳
4450	田の畦や二尺許りの夏柳	27	夏	植物	夏柳
4451	夏柳家鴨養ふ小池哉	27	夏	植物	夏柳
4452	夏柳異人の館灯ともれり	28	夏	植物	夏柳
4453	野が見ゆる町の出口の夏柳	29	夏	植物	夏柳
4454	野の家や吹きまくらるゝ夏柳	29	夏	植物	夏柳
4455	拳を打二階の影や夏柳	31	夏	植物	夏柳
4456	嵐山葉桜はあれと若楓	25	夏	植物	若楓
4457	ふらこゝや雨に濡れたる若楓	27	夏	植物	若楓
4458	若楓軒のともしのうつり哉	27	夏	植物	若楓
4459	鹿はまだ角芽ぐむ頃や若楓	29	夏	植物	若楓
4460	茶屋静かに鹿徘徊す若楓	29	夏	植物	若楓
4461	盤台に鯉生きたり若楓	29	夏	植物	若楓
4462	石橋や水平かに若楓	30	夏	植物	若楓
4463	四阿に日の影動く若楓	34	夏	植物	若楓
4464	寺を見て茶のもてなしや若楓	34	夏	植物	若楓
4465	若楓案内の小僧可愛げに	34	夏	植物	若楓
4466	若楓仮名巧なる写し物	34	夏	植物	若楓
4467	若楓築山ノ亭荒ニケリ	35	夏	植物	若楓
4468	岩々のわれめわれめや山つゞじ	24	夏	植物	夏つつじ
4469	青き中に五月つゞじの盛り哉	26	夏	植物	夏つつじ
4470	案内する小僧すばやし夏つゞじ	29	夏	植物	夏つつじ
4471	卯の花をめかけてきたかほとゝきす	22	夏	植物	卯の花
4472	卯の花や妹か垣根の朝ほらけ	24	夏	植物	卯の花
4473	卯の花にかくるゝ庵の夜明哉	25	夏	植物	卯の花
4474	卯の花に雲のはなるゝ夜明かな	25	夏	植物	卯の花
4475	卯の花に雲のはなれし夜明哉	25	夏	植物	卯の花
4476	卯の花に白波さわぐ山路哉	25	夏	植物	卯の花

4477	卯の花に不二ゆりこぼす峠哉	25	夏	植物	卯の花
4478	卯の花にふじを結びこむ垣根哉	25	夏	植物	卯の花
4479	卯の花の宿とばかりもことづてん	25	夏	植物	卯の花
4480	卯の花や月夜となればこぼれ立つ	25	夏	植物	卯の花
4481	卯の花をこぼさすはいれ豆腐売	25	夏	植物	卯の花
4482	おしあふて又卯の花の咲きこぼれ	25	夏	植物	卯の花
4483	卯の花のかたへふすぼる捨篝	26	夏	植物	卯の花
4484	卯の花の雪やこぼれて水の上	26	夏	植物	卯の花
4485	卯の花や牛叱りたる御隨身	26	夏	植物	卯の花
4486	卯の花や月にはうとき松の闇	26	夏	植物	卯の花
4487	卯の花や町のとまりは善光寺	26	夏	植物	卯の花
4488	卯の花や弱法師の袖に蝨ちる	26	夏	植物	卯の花
4489	山駕籠や片よせて昇く花卯木	26	夏	植物	卯の花
4490	我思ふ人の姿よ花卯木	26	夏	植物	卯の花
4491	明け行くや卯の花月夜しんしんと	27	夏	植物	卯の花
4492	卯の花に泣きあかしけり尼一人	27	夏	植物	卯の花
4493	卯の花の闇を吠ゆるや翁丸	27	夏	植物	卯の花
4494	卯の花や雨夜の月は傾きぬ	27	夏	植物	卯の花
4495	泥川や卯の花垣根結びつゞく	27	夏	植物	卯の花
4496	山里の卯の花月夜鳥啼く	27	夏	植物	卯の花
4497	卯の花に経よむ声のなまめかし	28	夏	植物	卯の花
4498	外の花の垣なつかしみおとづれん	28	夏	植物	卯の花
4499	卯の花の里を氷のやけど哉	28	夏	植物	卯の花
4500	卯の花に鍋を干したが糞匂かや	29	夏	植物	卯の花
4501	卯の花の中から牛の角二つ	29	夏	植物	卯の花
4502	卯の花に尿のかゝる闇夜かな	33	夏	植物	卯の花
4503	そもさんか卯の花が達磨の骨なるか	33	夏	植物	卯の花
4504	糞づまりならば卯の花下しませ	35	夏	植物	卯の花
4505	あれ家や茨花さく白の上	25	夏	植物	茨の花
4506	窓かけや臙に匂ふ花いばら	25	夏	植物	茨の花
4507	宵月や牛くひ残す花茨	25	夏	植物	茨の花
4508	傘はいる茨の花垣奥深し	26	夏	植物	茨の花
4509	茨さくや根岸の里の貸本屋	26	夏	植物	茨の花
4510	茨咲くや岡凹うして牛遊ぶ	26	夏	植物	茨の花
4511	牧笛の陂下るや花茨	26	夏	植物	茨の花
4512	宵闇に牛の匂ひや茨の花	26	夏	植物	茨の花
4513	うき人の深く隠れし茨哉	27	夏	植物	茨の花
4514	茨咲くや蛇細道によこたはる	27	夏	植物	茨の花
4515	山城の石垣残る茨かな	27	夏	植物	茨の花
4516	搦手の勿橋凄し花茨	28	夏	植物	茨の花
4517	灯ちらちら茨の花垣たそがるゝ	28	夏	植物	茨の花
4518	古城のもる人なしに茨かな	28	夏	植物	茨の花
4519	古城の守る人なしに茨咲く	28	夏	植物	茨の花
4520	見とゞけしかたきの宿や茨の花	28	夏	植物	茨の花
4521	かいま見ん茨咲く宿の隠し妻	29	夏	植物	茨の花
4522	きぬぎぬを茨が袖ひく花茨が	29	夏	植物	茨の花
4523	茨咲いて狐束髪に化け習ふ	29	夏	植物	茨の花
4524	古道の岡に上るところ茨白し	30	夏	植物	茨の花
4525	野茨の花白うして蛇の衣	31	夏	植物	茨の花
4526	花茨惜むべき香を吹き棄つる	34	夏	植物	茨の花
4527	ビール苦く葡萄酒渋し薔薇の花	25	夏	植物	薔薇
4528	赤薔薇や萌黄の蜘蛛の這ふて居る	29	夏	植物	薔薇
4529	家富んで門高し薔薇乱れ咲く	29	夏	植物	薔薇
4530	妹は薔薇赤く姉は百合白し	29	夏	植物	薔薇
4531	遅咲の薔薇赤うして散り易き	29	夏	植物	薔薇
4532	草むらむら薔薇黄なるあり赤きあり	29	夏	植物	薔薇

4533	草むらむら薔薇の黄なるあり赤きあり	29	夏	植物	薔薇
4534	会堂や結婚式の薔薇の鉢	29	夏	植物	薔薇
4535	白薔薇の花をつめたる棺かな	29	夏	植物	薔薇
4536	とげ赤し葉赤し薔薇の枝若し	29	夏	植物	薔薇
4537	薔薇剪つて手づから活けし書斎哉	29	夏	植物	薔薇
4538	薔薇一枝美人の胸にしぼみけり	29	夏	植物	薔薇
4539	薔薇深くびあの間ゆる薄月夜	29	夏	植物	薔薇
4540	夕風や白薔薇の花皆動く	29	夏	植物	薔薇
4541	我庭の薔薇も葵も咲きにけり	29	夏	植物	薔薇
4542	翌しらぬ身をながらへ居れば薔薇が散る	30	夏	植物	薔薇
4543	蜘蛛の巣に一ひら薔薇の花赤し	30	夏	植物	薔薇
4544	子雀や薔薇の垣根にちよろちよろす	30	夏	植物	薔薇
4545	障子あけて病間あり薔薇を見る	30	夏	植物	薔薇
4546	たれこめて薔薇ちることも知らさりき	30	夏	植物	薔薇
4547	葉かくれて朝鮮薔薇の花赤し	30	夏	植物	薔薇
4548	椅子を置くや薔薇に膝の触るゝ処	31	夏	植物	薔薇
4549	阿蘭陀の昔更紗や薔薇の形	31	夏	植物	薔薇
4550	庭荒れて蜘蛛の困多き薔薇咲ぬ	31	夏	植物	薔薇
4551	薔薇くれし姫みまかり薔薇咲ぬ	31	夏	植物	薔薇
4552	薔薇咲いて夏橙を貰ひけり	31	夏	植物	薔薇
4553	薔薇散て萩の葉青き小庭哉	31	夏	植物	薔薇
4554	薔薇の花マリーと呼ぶは妹なり	31	夏	植物	薔薇
4555	薔薇を見る眼の草臥や病ミ上り	31	夏	植物	薔薇
4556	薔薇の画のかきさしてある画室哉	32	夏	植物	薔薇
4557	赤薔薇と白薔薇と枝を交へけり	33	夏	植物	薔薇
4558	一盆の薔薇の匂や室に満つ	33	夏	植物	薔薇
4559	一輪ざしに活けたる薔薇の二輪哉	33	夏	植物	薔薇
4560	枝低き朝鮮薔薇の薔哉	33	夏	植物	薔薇
4561	傘さして馬車を下りけり薔薇の花	33	夏	植物	薔薇
4562	傘さして馬車を下りるやばらの雨	33	夏	植物	薔薇
4563	伐りこみし薔薇に薔の多き哉	33	夏	植物	薔薇
4564	心よき薔薇のずは枝や二尺あまり	33	夏	植物	薔薇
4565	咲き咲きて乏しき薔薇の薔哉	33	夏	植物	薔薇
4566	束髪にして袴つけたり薔薇の花	33	夏	植物	薔薇
4567	築地青く薔薇紅の館かな	33	夏	植物	薔薇
4568	薔薇いけし喫煙室の机かな	33	夏	植物	薔薇
4569	薔薇の香の粉々として眠られず	33	夏	植物	薔薇
4570	薔薇の花に鼻つけて嗅ぐ香の薄き	33	夏	植物	薔薇
4571	薔薇胸にピアノに向ふひとり哉	33	夏	植物	薔薇
4572	薔薇を画く花は易く葉は難かりき	33	夏	植物	薔薇
4573	満園の緑や薔薇二三輪	33	夏	植物	薔薇
4574	病癒えて力無き手や薔薇を折る	33	夏	植物	薔薇
4575	病癒えて手づから薔薇を手折りけり	33	夏	植物	薔薇
4576	一輪の牡丹咲きたる小庭哉	23	夏	植物	牡丹
4577	花ひとつ蝶二羽来る牡丹かな	23	夏	植物	牡丹
4578	植木屋の門口狭き牡丹哉	25	夏	植物	牡丹
4579	金箱のうなりに開く牡丹哉	25	夏	植物	牡丹
4580	小娘ののぞきこんだる牡丹哉	25	夏	植物	牡丹
4581	白牡丹ある夜の月に崩れけり	25	夏	植物	牡丹
4582	とりついて小供尻つく牡丹かな	25	夏	植物	牡丹
4583	女房は金の入歯や深見草	25	夏	植物	牡丹
4584	花一つ一つ風持つ牡丹哉	25	夏	植物	牡丹
4585	一本の牡丹を庵の妾かな	25	夏	植物	牡丹
4586	不尽は見ぬ家構也白牡丹	25	夏	植物	牡丹
4587	松の木にそふて咲たる牡丹哉	25	夏	植物	牡丹
4588	植木屋におちぶれ顔の牡丹哉	26	夏	植物	牡丹

4589	鬼神はあるまじき世の牡丹哉	26	夏	植物	牡丹
4590	大きさは禿の顔の牡丹哉	26	夏	植物	牡丹
4591	合奏の琴にくづれし牡丹哉	26	夏	植物	牡丹
4592	金屏や一輪牡丹瓶の中	26	夏	植物	牡丹
4593	傾城の瓶にしぼみし牡丹哉	26	夏	植物	牡丹
4594	紙燭とつて女案内す小夜牡丹	26	夏	植物	牡丹
4595	白牡丹三十六宮の夕哉	26	夏	植物	牡丹
4596	仁と義はなくて花さく牡丹哉	26	夏	植物	牡丹
4597	ちる時は風もさはらず白牡丹	26	夏	植物	牡丹
4598	中々に女はいやし白牡丹	26	夏	植物	牡丹
4599	牡丹咲て美人の躰聞えけり	26	夏	植物	牡丹
4600	雪洞に一輪うつる牡丹哉	26	夏	植物	牡丹
4601	椰子の陰に語れ牡丹を芍薬を	26	夏	植物	牡丹
4602	夕風ににくや牡丹のあちらむく	26	夏	植物	牡丹
4603	義仲のうれしがりけり紅牡丹	26	夏	植物	牡丹
4604	世の中は牡丹の花に牛の角	26	夏	植物	牡丹
4605	宵月のたしかに暮るゝ黒牡丹	26	夏	植物	牡丹
4606	欄干に楊貴妃眠る牡丹哉	26	夏	植物	牡丹
4607	赫奕と牡丹の開く御庭哉	27	夏	植物	牡丹
4608	唐国の王子来ませし牡丹哉	27	夏	植物	牡丹
4609	草の戸や都のあとの白牡丹	27	夏	植物	牡丹
4610	紅白の牡丹朝日に開きけり	27	夏	植物	牡丹
4611	咲きにけり唐紅の大牡丹	27	夏	植物	牡丹
4612	玉程にふとる牡丹の蒼かな	27	夏	植物	牡丹
4613	人も無し牡丹活けたる大座敷	27	夏	植物	牡丹
4614	舟つけて裏門入れば牡丹哉	27	夏	植物	牡丹
4615	牡丹咲いて大此枝風来る夜かな	27	夏	植物	牡丹
4616	牡丹散て長白山の狼煙かな	27	夏	植物	牡丹
4617	待ちかねてちるや廿日の赤牡丹	27	夏	植物	牡丹
4618	夕風や牡丹崩るゝ石の上	27	夏	植物	牡丹
4619	善き人の皆金くさき牡丹かな	27	夏	植物	牡丹
4620	いたづらに牡丹の花の崩れけり	28	夏	植物	牡丹
4621	豁然と牡丹伐りたる遊女かな	28	夏	植物	牡丹
4622	廃院の牡丹小さく咲きにけり	28	夏	植物	牡丹
4623	廃苑の牡丹小さくさきにけり	28	夏	植物	牡丹
4624	牡丹咲く賤が垣根か内裏跡	28	夏	植物	牡丹
4625	牡丹載せて今戸へ帰る小舟かな	28	夏	植物	牡丹
4626	世の人の上を崩るゝ牡丹哉	28	夏	植物	牡丹
4627	一どきに崩れてしまふ牡丹哉	29	夏	植物	牡丹
4628	薄月夜牡丹の露のこぼれけり	29	夏	植物	牡丹
4629	篝火の燃えやうつらん白牡丹	29	夏	植物	牡丹
4630	宰相の詩会催す牡丹哉	29	夏	植物	牡丹
4631	七宝の花瓶に活けし牡丹哉	29	夏	植物	牡丹
4632	白牡丹咲かばといひし君を待つ	29	夏	植物	牡丹
4633	白牡丹さくや四国の片すみに	29	夏	植物	牡丹
4634	白牡丹さくや四国の片ほとり	29	夏	植物	牡丹
4635	しんとして牡丹崩るゝ夜中哉	29	夏	植物	牡丹
4636	その笠の裏には牡丹開くべく	29	夏	植物	牡丹
4637	卓一脚香消えなんとする牡丹哉	29	夏	植物	牡丹
4638	寺に座して村を見下す牡丹哉	29	夏	植物	牡丹
4639	鳥一羽立つや牡丹の畠から	29	夏	植物	牡丹
4640	何もなし庭広く兀と牡丹哉	29	夏	植物	牡丹
4641	塗盆に崩れ牡丹をかむるかな	29	夏	植物	牡丹
4642	廃苑に蜘蛛のみ閉づる牡丹哉	29	夏	植物	牡丹
4643	花震ふ大雨の中の牡丹哉	29	夏	植物	牡丹
4644	美服して牡丹に媚びる心あり	29	夏	植物	牡丹

4645	昼中の雲影移る牡丹哉	29	夏	植物	牡丹
4646	更くる夜を牡丹の蕾はぜかゝる	29	夏	植物	牡丹
4647	更る夜を牡丹の蕾咲きかゝる	29	夏	植物	牡丹
4648	牡丹伐つて其夜嵐の音すなり	29	夏	植物	牡丹
4649	牡丹咲いて僧つどひけり興福寺	29	夏	植物	牡丹
4650	廊下より手燭さし出す牡丹哉	29	夏	植物	牡丹
4651	凜として牡丹動かず真昼中	29	夏	植物	牡丹
4652	銀屏に燃ゆるが如き牡丹哉	30	夏	植物	牡丹
4653	後苑の牡丹に猫の目午なり	30	夏	植物	牡丹
4654	しづ心牡丹崩れてしまひけり	30	夏	植物	牡丹
4655	白牡丹五日の月をつぼみけり	30	夏	植物	牡丹
4656	青楼の壁に牡丹の詩を題す	30	夏	植物	牡丹
4657	牡丹剪て十日の酔のさめにけり	30	夏	植物	牡丹
4658	牡丹剪つて二日の酔のさめにけり	30	夏	植物	牡丹
4659	牡丹剪るべく手を傷つけぬ張麗華	30	夏	植物	牡丹
4660	楊貴妃の寝起顔なる牡丹哉	30	夏	植物	牡丹
4661	二階には牡丹生けたり姉の部屋	31	夏	植物	牡丹
4662	一枝の牡丹酬ゆる新茶哉	31	夏	植物	牡丹
4663	牡丹剪て朝日淋しき小庭哉	31	夏	植物	牡丹
4664	あらたまる病の床のぼたん哉	32	夏	植物	牡丹
4665	一輪の牡丹かゝやく病間哉	32	夏	植物	牡丹
4666	薄様に花包みある牡丹哉	32	夏	植物	牡丹
4667	人力に乗せて牡丹のゆるぎ哉	32	夏	植物	牡丹
4668	二片散つて牡丹の形変りけり	32	夏	植物	牡丹
4669	鉢植の牡丹もらひし病哉	32	夏	植物	牡丹
4670	牡丹画いて絵具は皿に残りけり	32	夏	植物	牡丹
4671	牡丹咲く浄土の寺に絵踏かな	32	夏	植物	牡丹
4672	牡丹散つて芭蕉の像そ残りける	32	夏	植物	牡丹
4673	牡丹ちる病の床の静かさよ	32	夏	植物	牡丹
4674	政宗の額の下なり牡丹鉢	32	夏	植物	牡丹
4675	三日にして牡丹散りたる句録哉	32	夏	植物	牡丹
4676	蓑笠をかけし古家の牡丹かな	32	夏	植物	牡丹
4677	厄月の庭に咲いたる牡丹哉	32	夏	植物	牡丹
4678	薄色の牡丹久しく保ちけり	33	夏	植物	牡丹
4679	かいなでに牡丹描くや泥絵の具	33	夏	植物	牡丹
4680	銀屏や崩れんとする白牡丹	33	夏	植物	牡丹
4681	散らまくの花びら垂れし牡丹哉	33	夏	植物	牡丹
4682	雨晴れて牡丹の傘をたゝみけり	34	夏	植物	牡丹
4683	雨ふると傘立てゝやる牡丹かな	34	夏	植物	牡丹
4684	傘立てゝ雨だれかゝる牡丹かな	34	夏	植物	牡丹
4685	傘立てゝ雨横しづく牡丹かな	34	夏	植物	牡丹
4686	傘立てゝ置けば雨ふる牡丹かな	34	夏	植物	牡丹
4687	風吹いて花びら動く牡丹かな	34	夏	植物	牡丹
4688	ガラヌ越しに灯うつりたる牡丹かな	34	夏	植物	牡丹
4689	三年目に蕾たのもし牡丹の芽	34	夏	植物	牡丹
4690	土かはで置きしが咲きし牡丹かな	34	夏	植物	牡丹
4691	手燭して見する月夜の牡丹かな	34	夏	植物	牡丹
4692	寝床から見ゆる小庭の牡丹かな	34	夏	植物	牡丹
4693	灯のうつる牡丹色薄く見えにけり	34	夏	植物	牡丹
4694	昼中は散るべく見えし牡丹かな	34	夏	植物	牡丹
4695	二人して牡丹の鉢を移しけり	34	夏	植物	牡丹
4696	吾庭にはじめて咲ける牡丹かな	34	夏	植物	牡丹
4697	京八夜店サレド牡丹八売ラヌ也	35	夏	植物	牡丹
4698	猩臙脂に何ませて見ん牡丹かな	35	夏	植物	牡丹
4699	土一塊牡丹いけたる其下に	35	夏	植物	牡丹
4700	引き出だす弊に牡丹の飾り花車	35	夏	植物	牡丹

4701	虻飛んで蜜柑の花のこぼれけり	32	夏	植物	蜜柑の花
4702	柚の花や座つてひろふ女の子	25	夏	植物	柚の花
4703	吸物にいさゝか匂ふ花柚哉	28	夏	植物	柚の花
4704	柚の花や琴かきならず医者妻	29	夏	植物	柚の花
4705	歌もそはで只大木の檜哉	26	夏	植物	棟の花
4706	夜芝居の小屋をかけたる檜哉	26	夏	植物	棟の花
4707	薄曇り檜の花の散りにけり	28	夏	植物	棟の花
4708	仮小屋の柱になりし檜かな	28	夏	植物	棟の花
4709	見返るや門の檜の見えぬ迄	28	夏	植物	棟の花
4710	人寄せる馬車の喇叭や花檜	31	夏	植物	棟の花
4711	ほす衣の袖にも一つ栗の花	24	夏	植物	栗の花
4712	くりのはな覚束なくもこぼれけり	25	夏	植物	栗の花
4713	栗の花笥の水の細りけり	25	夏	植物	栗の花
4714	栗の花つひて落ちけり蛇の皮	25	夏	植物	栗の花
4715	栗三年花咲く程に成りにけり	26	夏	植物	栗の花
4716	栗の花茶屋一軒を隠しけり	26	夏	植物	栗の花
4717	毛虫にもならで落ちけり栗の花	26	夏	植物	栗の花
4718	よすがらや花栗匂ふ山の宿	26	夏	植物	栗の花
4719	藁屋根や年々くさる栗の花	26	夏	植物	栗の花
4720	栗の花小窓をくゞる煙哉	27	夏	植物	栗の花
4721	栗の花飲まれぬ水の流れけり	28	夏	植物	栗の花
4722	雨暗き木立に栗の花白し	29	夏	植物	栗の花
4723	大釜の湯気立ち上る栗の花	29	夏	植物	栗の花
4724	風さつと花動く栗の梢かな	29	夏	植物	栗の花
4725	蚊帳明けてほのかに白し栗の花	29	夏	植物	栗の花
4726	栗の花落ちてきたなき小庭哉	29	夏	植物	栗の花
4727	栗の花納所自ら洗濯す	29	夏	植物	栗の花
4728	栗の花山猫和尚となん呼べる	29	夏	植物	栗の花
4729	毛虫にはせじと掃きけり栗の花	29	夏	植物	栗の花
4730	天窓やたまたま落つる栗の花	29	夏	植物	栗の花
4731	合歡いまだ覚めず栗の花旭に映ず	29	夏	植物	栗の花
4732	乗懸や花栗匂ふ山の道	29	夏	植物	栗の花
4733	霽かゝる山の木立や栗の花	29	夏	植物	栗の花
4734	栗の花筍飯は過ぎにけり	31	夏	植物	栗の花
4735	団栗の花散る檐や朝煙	31	夏	植物	団栗の花
4736	団栗の花掃き寄せる戸口哉	31	夏	植物	団栗の花
4737	くちなしの蟻ぞ槐の下涼み	25	夏	植物	山梔子の花
4738	うす月夜花梔子の匂ひ哉	28	夏	植物	山梔子の花
4739	薄月夜花くちなしの匂ひけり	28	夏	植物	山梔子の花
4740	誰が魂の夢をさくらん合歡の花	25	夏	植物	合歡の花
4741	いかめしき櫨の木立や合歡の花	26	夏	植物	合歡の花
4742	海棠は眠り過ぎたり合歡の花	26	夏	植物	合歡の花
4743	目がさめた頃かよ合歡の花が散る	26	夏	植物	合歡の花
4744	眼のさめた頃かよ合歡の花が散る	26	夏	植物	合歡の花
4745	ものうげに老木さきけり合歡花	27	夏	植物	合歡の花
4746	行水や背戸口狭きねむの花	28	夏	植物	合歡の花
4747	おのが秋を鳥の落す柿の花	26	夏	植物	柿の花
4748	風吹て庇にたまる柿の花	26	夏	植物	柿の花
4749	咲きそめた年覚束な柿の花	26	夏	植物	柿の花
4750	柿の花土堀の上にこぼれけり	28	夏	植物	柿の花
4751	柿の花土堀の上にこぼれたり	28	夏	植物	柿の花
4752	二三町柿の花散る小道かな	28	夏	植物	柿の花
4753	柿の花八十八を祝ひけり	33	夏	植物	柿の花
4754	浮いて居る小便桶や柿の花	34	夏	植物	柿の花
4755	柿の花散るや仕官の暇なき	35	夏	植物	柿の花
4756	岩陰や水にかたよる椎の花	25	夏	植物	椎の花

4757	馬の背や風吹きこぼす椎の花	25	夏	植物	椎の花
4758	こぼるゝや日傘の上の椎の花	27	夏	植物	椎の花
4759	風吹て注繩に花ある榎哉	26	夏	植物	榎の花
4760	忍冬に眼薬売る裏家哉	29	夏	植物	忍冬の花
4761	紫陽花や壁のくづれをしぶく雨	24	夏	植物	紫陽花
4762	あぢさいや花と露との重みにて	24	夏	植物	紫陽花
4763	紫陽花に浅黄の闇は見えにけり	25	夏	植物	紫陽花
4764	紫陽花にあやしき蝶のはなだ哉	25	夏	植物	紫陽花
4765	紫陽花にかぶせかゝるや今年竹	25	夏	植物	紫陽花
4766	紫陽花に吸ひこむ松の雫哉	25	夏	植物	紫陽花
4767	紫陽花や壁の破れをしぶく雨	25	夏	植物	紫陽花
4768	あぢさいや神の灯深き竹の奥	25	夏	植物	紫陽花
4769	紫陽花や花さき重り垂れ重り	25	夏	植物	紫陽花
4770	あぢさいや一かたまりの露の音	25	夏	植物	紫陽花
4771	うつむいて紫陽花泥によこれけり	25	夏	植物	紫陽花
4772	押あけてあぢさいこぼす戸びら哉	25	夏	植物	紫陽花
4773	抱起す手に紫陽花のこほれけり	25	夏	植物	紫陽花
4774	たれすぎて紫陽花泥によこれけり	25	夏	植物	紫陽花
4775	紫陽花や赤にならぬが面白き	26	夏	植物	紫陽花
4776	紫陽花やきのふの誠けふの嘘	26	夏	植物	紫陽花
4777	紫陽花やけふはをかしな色に咲く	26	夏	植物	紫陽花
4778	紫陽花や源氏車の破れ窓	26	夏	植物	紫陽花
4779	紫陽花や舌を見せたる小傾城	26	夏	植物	紫陽花
4780	紫陽花や染物かわく藪の裏	26	夏	植物	紫陽花
4781	紫陽花やはなだにかはるきのふけふ	26	夏	植物	紫陽花
4782	紫陽花やはなだになりしきのふけふ	26	夏	植物	紫陽花
4783	けふや切らんあすや紫陽花何の色	26	夏	植物	紫陽花
4784	紫陽花やあしたは何の色を咲く	27	夏	植物	紫陽花
4785	紫陽花や紫陽花に似た花もあり	27	夏	植物	紫陽花
4786	紫陽花や女なまめく片折戸	27	夏	植物	紫陽花
4787	紫陽花に絵の具こぼせしあるじ哉	28	夏	植物	紫陽花
4788	紫陽花に絵の具をこぼす主哉	28	夏	植物	紫陽花
4789	紫陽花や一輪たるゝ手水鉢	28	夏	植物	紫陽花
4790	紫陽花や一ふさ垂るゝ手水鉢	28	夏	植物	紫陽花
4791	思ひ出して又紫陽花の染めかふる	28	夏	植物	紫陽花
4792	紫陽花の雨に浅黄に月に青し	29	夏	植物	紫陽花
4793	紫陽花の色かふるべき日取哉	29	夏	植物	紫陽花
4794	紫陽花の何に変わるぞ色の順	29	夏	植物	紫陽花
4795	紫陽花のはなだになつてしまひけり	29	夏	植物	紫陽花
4796	念入れて紫陽花の花染めかふる	29	夏	植物	紫陽花
4797	念入れて又紫陽花の染め返す	29	夏	植物	紫陽花
4798	紫陽花や紫尽きて浅緑	30	夏	植物	紫陽花
4799	紫陽花や赤に化けたる雨上り	31	夏	植物	紫陽花
4800	紫陽花の庵二年経る俳士哉	32	夏	植物	紫陽花
4801	扶け起す紫陽花の枝倒れけり	32	夏	植物	紫陽花
4802	紫陽花にきのふ紅さして今日はいかに	33	夏	植物	紫陽花
4803	南天の実になる花と思はれず	25	夏	植物	南天の花
4804	鬼の子のまだ頑是なし花石榴	26	夏	植物	柘榴の花
4805	下闇や力がましき花石榴	26	夏	植物	柘榴の花
4806	花石榴久しう咲いて忘れし	28	夏	植物	柘榴の花
4807	わひしさややねにころかる桐の花	25	夏	植物	桐の花
4808	新道や人馬の中の桐の花	26	夏	植物	桐の花
4809	茶畑に一本高し桐の花	27	夏	植物	桐の花
4810	何代の壁の壊れや桐の花	27	夏	植物	桐の花
4811	桐の花さくや都の古屋敷	28	夏	植物	桐の花
4812	花桐の琴屋を待てば下駄屋哉	29	夏	植物	桐の花

4813	藪医者の玄関荒れて桐の花	29	夏	植物	桐の花
4814	藪医者や玄関荒れて桐の花	29	夏	植物	桐の花
4815	唐紙や銀箔兀し桐の花	32	夏	植物	桐の花
4816	桐老いて琴にもならず花咲きぬ	32	夏	植物	桐の花
4817	桐の花めでたき事のある小家	32	夏	植物	桐の花
4818	城跡や麦の畑の桐の花	32	夏	植物	桐の花
4819	日光の古き宿屋や桐の花	32	夏	植物	桐の花
4820	花桐の蒔絵ゆかしき手箱哉	32	夏	植物	桐の花
4821	花桐や賞を賜はる村の長	32	夏	植物	桐の花
4822	花桐を蒔絵にしたる手箱哉	32	夏	植物	桐の花
4823	古庭や桐の花散る井戸の蓋	32	夏	植物	桐の花
4824	塀の内に桐の花咲く明地哉	32	夏	植物	桐の花
4825	屋根低き物置小屋や桐の花	32	夏	植物	桐の花
4826	凌霄や煉瓦造りの共うつり	25	夏	植物	凌霄花
4827	名も知らぬ木に凌霄のさかり哉	26	夏	植物	凌霄花
4828	凌霄やからまる縁の小傾城	26	夏	植物	凌霄花
4829	凌霄や一つる垂れし花かつら	26	夏	植物	凌霄花
4830	家毎に凌霄咲ける温泉かな	28	夏	植物	凌霄花
4831	凌霄の花に蝉鳴く真昼哉	31	夏	植物	凌霄花
4832	凌霄や温泉の宿の裏二階	31	夏	植物	凌霄花
4833	これそげに夏の花なる百日紅	24	夏	植物	百日紅
4834	青嵐百日紅を中にして	25	夏	植物	百日紅
4835	栗の樹と背あはせやさるすへり	25	夏	植物	百日紅
4836	此頃は薄墨になりぬ百日白	25	夏	植物	百日紅
4837	百日紅九十九日はなくも哉	25	夏	植物	百日紅
4838	百日紅ちらは扇にうけて見ん	25	夏	植物	百日紅
4839	白かべの薄あからみやさるすへり	25	夏	植物	百日紅
4840	青天に咲きひろげゞり百日紅	25	夏	植物	百日紅
4841	又しても百日紅の暑さ哉	25	夏	植物	百日紅
4842	又しても百日紅の長さ哉	25	夏	植物	百日紅
4843	夏に籠る傾城もあり百日紅	26	夏	植物	百日紅
4844	てらてらと小鳥も鳴かず百日紅	26	夏	植物	百日紅
4845	無住寺と人はいふなり百日紅	26	夏	植物	百日紅
4846	学校の昼静かなり百日紅	27	夏	植物	百日紅
4847	築山の芝の青きに百日紅	27	夏	植物	百日紅
4848	きらきらと照るや野寺の百日紅	28	夏	植物	百日紅
4849	百日紅梢ばかりの寒さ哉	28	夏	植物	百日紅
4850	通夜堂や緑の中の百日紅	28	夏	植物	百日紅
4851	赤々と百日紅の早かな	29	夏	植物	百日紅
4852	てらてらと百日紅の早かな	29	夏	植物	百日紅
4853	雨乞のしるしも見えず百日紅	29	夏	植物	百日紅
4854	小祭の獅子舞はせけり百日紅	29	夏	植物	百日紅
4855	酒好の昼から飲むや百日紅	29	夏	植物	百日紅
4856	百日紅咲くや小村の駄菓子店	29	夏	植物	百日紅
4857	百日紅咲くや真昼の閻魔堂	29	夏	植物	百日紅
4858	石塔の上にこぼれぬ百日紅	29	夏	植物	百日紅
4859	寺焼けて土塀の隅の百日紅	29	夏	植物	百日紅
4860	野の中の小寺や百日紅咲けり	29	夏	植物	百日紅
4861	半里さきに見ゆや庄屋の百日紅	29	夏	植物	百日紅
4862	まぎれなき百日紅や森の中	29	夏	植物	百日紅
4863	世の中やひとり花咲く百日紅	29	夏	植物	百日紅
4864	棕櫚の花闇の空より匂ひけり	26	夏	植物	棕櫚の花
4865	棕櫚の花闇の夜頃を匂ひけり	26	夏	植物	棕櫚の花
4866	筒組んで兵隊休む棕櫚の花	29	夏	植物	棕櫚の花
4867	蜘蛛のいの高き梢や棕櫚の花	34	夏	植物	棕櫚の花
4868	棕櫚の花梯子とゞかぬ高さかな	34	夏	植物	棕櫚の花

4869	村落に洋館ありて棕櫚の花	34	夏	植物	棕櫚の花
4870	吾も亦愛す吾廬や棕櫚の花	34	夏	植物	棕櫚の花
4871	玉巻の芭蕉ゆるみし暑さ哉	25	夏	植物	芭蕉の巻葉
4872	雨の音巻葉とけたる芭蕉哉	31	夏	植物	芭蕉の巻葉
4873	入口や芭蕉玉巻く黄檗寺	31	夏	植物	芭蕉の巻葉
4874	移し植ゑて巻葉憐む芭蕉哉	31	夏	植物	芭蕉の巻葉
4875	竿触れて芭蕉の巻葉折らしけり	31	夏	植物	芭蕉の巻葉
4876	其中に兀と芭蕉の巻葉哉	31	夏	植物	芭蕉の巻葉
4877	たのもしく巻葉ののびる芭蕉哉	31	夏	植物	芭蕉の巻葉
4878	庭を覆ふて芭蕉の巻葉とけにけり	31	夏	植物	芭蕉の巻葉
4879	二葉垂れて一葉玉巻く芭蕉哉	31	夏	植物	芭蕉の巻葉
4880	巻葉がちに一葉広がる芭蕉哉	31	夏	植物	芭蕉の巻葉
4881	巻葉とけて庭に塞がる芭蕉哉	31	夏	植物	芭蕉の巻葉
4882	丸き窓に巻葉のびたる芭蕉哉	31	夏	植物	芭蕉の巻葉
4883	門破れて芭蕉漸く二葉半	31	夏	植物	芭蕉の巻葉
4884	連翹は散つて玉巻く芭蕉哉	31	夏	植物	芭蕉の巻葉
4885	墨汁のかわく芭蕉の巻葉かな	35	夏	植物	芭蕉の巻葉
4886	麦藁の籠に盛りたるゆすら哉	31	夏	植物	ゆすらの実
4887	苔の上にこぼれて赤しゆすらの実	33	夏	植物	ゆすらの実
4888	ゆふ立にふりまじりたる杏哉	25	夏	植物	杏
4889	霊聖女来らず杏腐り落つ	29	夏	植物	杏
4890	夕立にふりまじりたる李かな	25	夏	植物	李
4891	店さきに幾日を経たる李哉	26	夏	植物	李
4892	虫はみて一枝赤き李かな	26	夏	植物	李
4893	むらむらと闇にみたるゝ李かな	27	夏	植物	李
4894	故郷近く夏橙を船に売る	30	夏	植物	夏蜜柑
4895	山吹ノ返り花アリ夏蜜柑	33	夏	植物	夏蜜柑
4896	病床に夏橙を分ちけり	33	夏	植物	夏蜜柑
4897	青梅の落て拾はぬあき家哉	25	夏	植物	青梅
4898	花の皆青梅になる若木かな	25	夏	植物	青梅
4899	花は皆青梅になる若木哉	25	夏	植物	青梅
4900	青梅の音して傘をころげけり	26	夏	植物	青梅
4901	青梅の猶たふとしや神の庭	26	夏	植物	青梅
4902	青梅や黄梅やうつる軒らんぷ	26	夏	植物	青梅
4903	青梅や傾城老いて洗ひもの	26	夏	植物	青梅
4904	青梅をくふて泣きけり杜樊川	26	夏	植物	青梅
4905	よもすがら青梅落つる嵐哉	26	夏	植物	青梅
4906	青梅ややもり火に透く門らんぷ	27	夏	植物	青梅
4907	青梅のすゞなりけらし神の前	28	夏	植物	青梅
4908	青梅や神下りたまふ井のほとり	30	夏	植物	青梅
4909	青梅に塩売を呼ぶ戸口哉	31	夏	植物	青梅
4910	青梅に筍高し明家敷	31	夏	植物	青梅
4911	青梅に檐の曇りや時鳥	31	夏	植物	青梅
4912	青梅の下に集る童かな	31	夏	植物	青梅
4913	青梅や行軍を見る里の雨	31	夏	植物	青梅
4914	青梅や梅園の戸は鎖したる	31	夏	植物	青梅
4915	垣越に青梅盗む月夜哉	31	夏	植物	青梅
4916	青梅や病より起つ林和靖	32	夏	植物	青梅
4917	青梅をかきはじめなり菓物帖	35	夏	植物	青梅
4918	梅の実の落て黄なるあり青きあり	26	夏	植物	梅の実
4919	たまたまに葉のつく梅のゆかしさよ	30	夏	植物	梅の実
4920	梅の実の落ちて乏しき老木哉	31	夏	植物	梅の実
4921	梅の実の小さき核やかみ砕く	33	夏	植物	梅の実
4922	木の上にひとり枇杷くふ童かな	29	夏	植物	枇杷
4923	枇杷の実に蟻のたかりや盆の上	31	夏	植物	枇杷
4924	くひながら夏桃売のいそぎけり	26	夏	植物	夏桃

4925	夏桃はまだ毛の多き苦さ哉	26	夏	植物	夏桃
4926	時計屋も夏桃店も埃哉	31	夏	植物	夏桃
4927	桑の実や木曾にわづらふ子順礼	26	夏	植物	桑の実
4928	あら恋し木曾の桑の実くふ君は	27	夏	植物	桑の実
4929	ありきながら桑の実くらふ木曾路哉	28	夏	植物	桑の実
4930	桑の実の毛虫に似たる恨み哉	28	夏	植物	桑の実
4931	垣を成す桑の木老いて実の多き	30	夏	植物	桑の実
4932	桑の実をくはさる君にジャボン哉	31	夏	植物	桑の実
4933	兎の手を無理にあくれば青山椒	25	夏	植物	青山椒
4934	兎の手を無理にあければ青山椒	25	夏	植物	青山椒
4935	夏の日の色としもなし青山椒	26	夏	植物	青山椒
4936	馬繫ぐ奥街道の新樹かな	29	夏	植物	新樹
4937	湯治場や床几を移す新樹陰	31	夏	植物	新樹
4938	年とつた木もたちかへる若葉哉	21	夏	植物	若葉
4939	年ふるき木もたちかえる若葉哉	21	夏	植物	若葉
4940	花さかぬ木に春来る若葉かな	21	夏	植物	若葉
4941	若葉かなさては吉野も只の山	23	夏	植物	若葉
4942	若葉をもあみこむいろや青簾	23	夏	植物	若葉
4943	見具合の春とは変る若葉かな	24	夏	植物	若葉
4944	傘はいる若葉の底の家居哉	25	夏	植物	若葉
4945	絶間より人馬の通ふ若葉哉	25	夏	植物	若葉
4946	旅人の歌上りゆく若葉哉	25	夏	植物	若葉
4947	鼓鳴る能楽堂の若葉かな	25	夏	植物	若葉
4948	白雲や青葉若葉の三十里	25	夏	植物	若葉
4949	ふりかへる都のかたも若は哉	25	夏	植物	若葉
4950	見あぐれば信濃につゞく若葉哉	25	夏	植物	若葉
4951	鎌倉は村と呼ぶるゝ若葉哉	25	夏	植物	若葉
4952	朝まだき書読む窓の若葉哉	26	夏	植物	若葉
4953	あつ盛のかたみを拜む若葉哉	26	夏	植物	若葉
4954	あひ傘のふりむきもせぬ若葉哉	26	夏	植物	若葉
4955	雨の日を雀の遊ぶわかばかな	26	夏	植物	若葉
4956	雨晴て雲に月ある若葉哉	26	夏	植物	若葉
4957	一日に遊女の老いる若葉哉	26	夏	植物	若葉
4958	討死のあとに経よむ若葉哉	26	夏	植物	若葉
4959	つつくしき名は散りはてゝ若葉哉	26	夏	植物	若葉
4960	奥深く鈴鳴る宮の若葉哉	26	夏	植物	若葉
4961	奥まりて碑くらき若葉かな	26	夏	植物	若葉
4962	かけ橋の橋杭かくす若葉哉	26	夏	植物	若葉
4963	傘たゝむ玄関深き若葉哉	26	夏	植物	若葉
4964	鐘もなき鐘つき堂の若葉哉	26	夏	植物	若葉
4965	庫裏あけて煙のこもる若葉哉	26	夏	植物	若葉
4966	琴の音の雨に木深き若葉哉	26	夏	植物	若葉
4967	権現に古葉が中の若葉哉	26	夏	植物	若葉
4968	零せよ若葉か下の石灯籠	26	夏	植物	若葉
4969	捨て草鞋薦の若葉のはひかゝる	26	夏	植物	若葉
4970	たのもしくのびる榭の若葉哉	26	夏	植物	若葉
4971	提灯の紅はげる若葉哉	26	夏	植物	若葉
4972	ところどころ若葉にこもるともし哉	26	夏	植物	若葉
4973	隣さへ若葉の奥となりにけり	26	夏	植物	若葉
4974	鳥啼て石を打こむ若葉哉	26	夏	植物	若葉
4975	鳥居より内は鳥啼く若葉哉	26	夏	植物	若葉
4976	野の中にやしろやしろの若葉哉	26	夏	植物	若葉
4977	はかなさやわきすてらるゝ芥子若葉	26	夏	植物	若葉
4978	鳩の餌を雀のひろふ若葉哉	26	夏	植物	若葉
4979	張りかへた窓に若葉の青さ哉	26	夏	植物	若葉
4980	一雨にみがきあげたる若葉哉	26	夏	植物	若葉

4981	人もなし上野は雨の若葉哉	26	夏	植物	若葉
4982	火のともる片側町のわか葉哉	26	夏	植物	若葉
4983	山城の石かけくえし若葉哉	26	夏	植物	若葉
4984	山寺に女首出すわか葉かな	26	夏	植物	若葉
4985	行過て旅は若葉となりけり	26	夏	植物	若葉
4986	行過て若葉になりぬ花の旅	26	夏	植物	若葉
4987	嫁達の化粧気安き若葉哉	26	夏	植物	若葉
4988	よりあふて若葉がもとの咄哉	26	夏	植物	若葉
4989	若葉して白帆つらなる川一筋	26	夏	植物	若葉
4990	若葉ふく雨の奥なり知恩院	26	夏	植物	若葉
4991	若葉道曲り曲りの電気燈	26	夏	植物	若葉
4992	若葉よなあゝら花恋し人恋し	26	夏	植物	若葉
4993	我を訪ふ故人心ありうら若葉	26	夏	植物	若葉
4994	赤鳥居若葉の社古りにけり	27	夏	植物	若葉
4995	新らしき墓の出来たる若葉哉	27	夏	植物	若葉
4996	雨晴れて汽車道濡るゝ若葉かな	27	夏	植物	若葉
4997	家あつて若葉家あつて若葉哉	27	夏	植物	若葉
4998	うれしさは旅より戻る若葉哉	27	夏	植物	若葉
4999	大弓の的を掛けたる若葉哉	27	夏	植物	若葉
5000	かたよりにて右は箕輪の若葉哉	27	夏	植物	若葉
5001	小雨ふる家のあはひの若葉かな	27	夏	植物	若葉
5002	酒樽のそれより小さき若葉かな	27	夏	植物	若葉
5003	大木の幹に矢の立つ若葉哉	27	夏	植物	若葉
5004	天窓の若葉日のさすうがひ哉	27	夏	植物	若葉
5005	何の木と知れぬ若葉の林哉	27	夏	植物	若葉
5006	何の木も彼の木もなしに若葉かな	27	夏	植物	若葉
5007	舟よせて鳥居を仰ぐ若葉哉	27	夏	植物	若葉
5008	三井寺は三千坊の若葉哉	27	夏	植物	若葉
5009	村まばら野寺の若葉見ゆる哉	27	夏	植物	若葉
5010	山に沿ひて汽車走り行く若葉哉	27	夏	植物	若葉
5011	若葉して都を下る隠士哉	27	夏	植物	若葉
5012	暁の山は若葉の匂ひかな	28	夏	植物	若葉
5013	雨雲の谷にをさまる若葉哉	28	夏	植物	若葉
5014	岩鼻に城下見下す若葉哉	28	夏	植物	若葉
5015	剛力になりおほせたる若葉かな	28	夏	植物	若葉
5016	汽車過ぎて煙うづまく若葉哉	28	夏	植物	若葉
5017	きらきらと若葉に光る午後の風	28	夏	植物	若葉
5018	きらきらと若葉に光る午時の風	28	夏	植物	若葉
5019	東海道若葉の雨となりけり	28	夏	植物	若葉
5020	とうとうと太鼓の響く若葉かな	28	夏	植物	若葉
5021	鳥飛んで山門深き若葉哉	28	夏	植物	若葉
5022	馬関迄歸りて若葉めづらしや	28	夏	植物	若葉
5023	風雲の谷吹き渡る若葉哉	28	夏	植物	若葉
5024	伏籠出てひよこちゝめく若葉哉	28	夏	植物	若葉
5025	満山の若葉にうつる朝日哉	28	夏	植物	若葉
5026	見あぐれば橋危うして若葉哉	28	夏	植物	若葉
5027	山越えて城下見おろす若葉哉	28	夏	植物	若葉
5028	山ごしに白帆見下す若葉哉	28	夏	植物	若葉
5029	若葉して家ありとしも見えぬ哉	28	夏	植物	若葉
5030	若葉して煙の立たぬ砦かな	28	夏	植物	若葉
5031	商人の越後へこゆる若葉哉	29	夏	植物	若葉
5032	案内させて奥の滝見る若葉哉	29	夏	植物	若葉
5033	雨さつとおろす礁氷の若葉哉	29	夏	植物	若葉
5034	あらたかな神のしづまる若葉哉	29	夏	植物	若葉
5035	蟻むれる椎の小枝の若葉哉	29	夏	植物	若葉
5036	青桐のちよぼりちよぼりと若葉哉	29	夏	植物	若葉

5037	青葉若葉煙突多き王子かな	29	夏	植物	若葉
5038	青葉若葉昼中の鐘なりわたる	29	夏	植物	若葉
5039	榎枯れて側に小苗の若葉哉	29	夏	植物	若葉
5040	門口へ出れば上野の若葉哉	29	夏	植物	若葉
5041	心安し若葉の風に汽車が行く	29	夏	植物	若葉
5042	此頃や若葉に曇る朝な朝な	29	夏	植物	若葉
5043	さるかけは枯木に似たる若葉哉	29	夏	植物	若葉
5044	三千の兵たてこもる若葉哉	29	夏	植物	若葉
5045	山門に雲を吹きこむ若葉哉	29	夏	植物	若葉
5046	椎の木に並びて柿の若葉哉	29	夏	植物	若葉
5047	藁々たる桃の若葉や君娶る	29	夏	植物	若葉
5048	杉老いて雨の中なる若葉哉	29	夏	植物	若葉
5049	背戸の山白雲わたる若葉哉	29	夏	植物	若葉
5050	背戸山に白雲わたる若葉哉	29	夏	植物	若葉
5051	岨道の家危うして若葉哉	29	夏	植物	若葉
5052	大木に低き小枝の若葉哉	29	夏	植物	若葉
5053	たちまちにこはゞる椎の若葉哉	29	夏	植物	若葉
5054	袂吹く若葉の風の千住迄	29	夏	植物	若葉
5055	日暮里の岡長うして若葉哉	29	夏	植物	若葉
5056	野の中に一かたまりの若葉哉	29	夏	植物	若葉
5057	白雲や萩の若葉の上を飛ぶ	29	夏	植物	若葉
5058	灯ちらちら絶えず若葉に風渡る	29	夏	植物	若葉
5059	ひらめかす斧の光やむら若葉	29	夏	植物	若葉
5060	ふり上る斧の光りやむら若葉	29	夏	植物	若葉
5061	古杉の間に光る若葉かな	29	夏	植物	若葉
5062	宮か寺か若葉深く灯のともれるは	29	夏	植物	若葉
5063	病起窓に倚れば若葉に風が吹く	29	夏	植物	若葉
5064	若葉して海神怒る何事ぞ	29	夏	植物	若葉
5065	若葉して白雲近し東山	29	夏	植物	若葉
5066	わけもなや若葉の風に汽車が行く	29	夏	植物	若葉
5067	五年にして国に帰れば若葉哉	30	夏	植物	若葉
5068	滝二筋若葉の上に見ゆる哉	30	夏	植物	若葉
5069	古杉の中にくの木若葉哉	30	夏	植物	若葉
5070	むら若葉嶮なる皆白き旗	30	夏	植物	若葉
5071	若葉して路頭の禿倉新しき	30	夏	植物	若葉
5072	朝雲の谷に収まる若葉哉	31	夏	植物	若葉
5073	椅子を移す若葉の陰に空を見る	31	夏	植物	若葉
5074	昼の月風は若葉の上にある	31	夏	植物	若葉
5075	夕栄や若葉の風の上そよぎ	31	夏	植物	若葉
5076	若葉陰袖に毛虫をはらひけり	31	夏	植物	若葉
5077	若葉風病後の足のおほつかな	31	夏	植物	若葉
5078	若葉風病後の足の定まらず	31	夏	植物	若葉
5079	花散りし藤の若葉の毛虫哉	33	夏	植物	若葉
5080	門を入りて車走らす若葉かな	34	夏	植物	若葉
5081	魚ノ齒二萩ノ若葉ノヤハラカキ	35	夏	植物	若葉
5082	馬ノ齒ニヤハラカキ萩ノ若葉カナ	35	夏	植物	若葉
5083	修復成る神杉若葉藤の花	35	夏	植物	若葉
5084	若葉青葉魚のぞきつゝ遡る	35	夏	植物	若葉
5085	鎌くらの村とよばるゝ青葉哉	25	夏	植物	青葉
5086	鎌倉は村とよばるゝ青葉かな	25	夏	植物	青葉
5087	ふりかへる都のかたも青葉哉	25	夏	植物	青葉
5088	瘦馬もいさむ朝日の青葉かな	25	夏	植物	青葉
5089	鳩餌あれは雀もひらぶ青葉かな	26	夏	植物	青葉
5090	雪を出でそれから直に青葉かな	26	夏	植物	青葉
5091	我窓にうつる青葉の青さ哉	26	夏	植物	青葉
5092	いかめしき土蔵の間の青葉かな	27	夏	植物	青葉

5093	心よき青葉の風や旅姿	28	夏	植物	青葉
5094	日光もとほさぬ杉のしげりかな	19	夏	植物	茂
5095	洋人の手を引て行く茂り哉	25	夏	植物	茂
5096	大仏のねむたさうなる茂り哉	26	夏	植物	茂
5097	のぞきこむ下に舟行く茂り哉	26	夏	植物	茂
5098	のぞきこむ底に船行く茂り哉	26	夏	植物	茂
5099	のび給ひ茂り給ひぬ三輪の杉	26	夏	植物	茂
5100	かたよりにて右は箕輪の茂り哉	27	夏	植物	茂
5101	松見ゆる戸口に鶯の茂り哉	27	夏	植物	茂
5102	宮様のお邸高き茂り哉	27	夏	植物	茂
5103	山伏の法螺吹き立つる茂り哉	27	夏	植物	茂
5104	先供のはるかに高き茂り哉	28	夏	植物	茂
5105	獅子の子を谷間に落す茂り哉	28	夏	植物	茂
5106	道ばたに只一本の茂り哉	28	夏	植物	茂
5107	我見しより久しきひよんの茂哉	28	夏	植物	茂
5108	門口に櫓の下枝の茂りかな	29	夏	植物	茂
5109	銃殺の丸それで飛ぶ茂りかな	29	夏	植物	茂
5110	丈の低き老木茂りぬ原の中	29	夏	植物	茂
5111	富士も見え塔も見えたる茂り哉	29	夏	植物	茂
5112	思ひかけず茂りの中の二階建	31	夏	植物	茂
5113	五年見ぬ山の茂りや両大師	31	夏	植物	茂
5114	低き枝に子の吊りてある茂りかな	31	夏	植物	茂
5115	渡し場に灯をともしたる茂り哉	31	夏	植物	茂
5116	一門は皆四位五位の茂り哉	33	夏	植物	茂
5117	五百枝茂る榊の下の御契	33	夏	植物	茂
5118	咲ク花ノ乏シキ園ノ茂リカナ	33	夏	植物	茂
5119	芦茂る水清うして魚居らず	35	夏	植物	茂
5120	市中ノ山ノ茂リヤ煉瓦塔	35	夏	植物	茂
5121	一老樹這枝茂リテ下二茶店	35	夏	植物	茂
5122	植木屋八来ラズ庭ノ茂リカナ	35	夏	植物	茂
5123	翡翠ヲ隠ス柳ノ茂リカナ	35	夏	植物	茂
5124	楓茂リ桜茂リテ寺暗シ	35	夏	植物	茂
5125	辛崎ノ松八片カレ片茂リ	35	夏	植物	茂
5126	辛崎ノ松八枯レツ、茂リツ、	35	夏	植物	茂
5127	草花ヲ圧スル木々ノ茂リカナ	35	夏	植物	茂
5128	金ピラノ社ヲカクス茂カナ	35	夏	植物	茂
5129	椎ノ木ノ茂リテ見エヌ上野カナ	35	夏	植物	茂
5130	釣床ニ夕日漏リ来ル茂リカナ	35	夏	植物	茂
5131	天狗住ンデ斧入ラシメズ木ノ茂リ	35	夏	植物	茂
5132	日光ハ杉茂リ箔ノ光カナ	35	夏	植物	茂
5133	墓ノ木ハ茂リヌ玉ヤ腐ルラン	35	夏	植物	茂
5134	柱ニモナラデ茂リヌ五百年	35	夏	植物	茂
5135	八方へ茂り広ガル松二杖	35	夏	植物	茂
5136	八方へ茂レル松ヤ杖百本	35	夏	植物	茂
5137	八方へ松ノ茂リヤ杖百本	35	夏	植物	茂
5138	人住マヌ湖中ノ島ノ茂カナ	35	夏	植物	茂
5139	目印ノ喬木茂ル小村カナ	35	夏	植物	茂
5140	門ヲ入りテ木々ノ茂リヤ家遠シ	35	夏	植物	茂
5141	こゝか風出処なれや夏木立	21	夏	植物	夏木立
5142	涼風の出処なるや夏木立	21	夏	植物	夏木立
5143	青々と風にしまあり夏木立	24	夏	植物	夏木立
5144	小窓から円く見えけり夏木立	24	夏	植物	夏木立
5145	板絵馬のごふんはげたり夏木立	25	夏	植物	夏木立
5146	遠不二の姿かりるや夏木立	25	夏	植物	夏木立
5147	下草にくひ入る牛や夏木立	26	夏	植物	夏木立
5148	城もなし寺もこぼちぬ夏木立	26	夏	植物	夏木立

5149	立つくす写生の絵師や夏木立	26	夏	植物	夏木立
5150	夏木立一茶の生れ在所哉	26	夏	植物	夏木立
5151	夏木立観音堂は枯れにけり	26	夏	植物	夏木立
5152	夏木立中に稲荷の禿倉あり	26	夏	植物	夏木立
5153	夏木立宮ありさうな処哉	26	夏	植物	夏木立
5154	二三軒はづれて見ゆや夏木立	26	夏	植物	夏木立
5155	水音の葎はしる夏木立	26	夏	植物	夏木立
5156	大寺の破風見ゆる夏木立	27	夏	植物	夏木立
5157	汽車過ぎて山静かなり夏木立	27	夏	植物	夏木立
5158	驟雨去て跡静かなり夏木立	27	夏	植物	夏木立
5159	其上に城見ゆるなり夏木立	27	夏	植物	夏木立
5160	大仏のうしろに高し夏木立	27	夏	植物	夏木立
5161	鉄道のうねりくねりや夏木立	27	夏	植物	夏木立
5162	鉄道の左右になかし夏木立	27	夏	植物	夏木立
5163	夏木立朱の鳥居の見ゆる哉	27	夏	植物	夏木立
5164	夏木立故郷へ近くなりけり	27	夏	植物	夏木立
5165	夏木立朝鮮人の墳墓あり	27	夏	植物	夏木立
5166	夏木立鉄軌十文字に走りけり	27	夏	植物	夏木立
5167	夏木立とろとろ阪の暗さかな	27	夏	植物	夏木立
5168	夏木立故郷近くなりけり	27	夏	植物	夏木立
5169	夏木立本堂古りて朱兀げたり	27	夏	植物	夏木立
5170	夏木立村あるべくも見えぬ哉	27	夏	植物	夏木立
5171	池隔つ本郷台の夏木立	28	夏	植物	夏木立
5172	御本社につきあたりけり夏木立	28	夏	植物	夏木立
5173	城跡や一かたまりの夏木立	28	夏	植物	夏木立
5174	石塔に漏るゝ日影や夏木立	28	夏	植物	夏木立
5175	石塔に漏れし日影や夏木立	28	夏	植物	夏木立
5176	田の中や只四五本の夏木立	28	夏	植物	夏木立
5177	徳川の代はほろびけり夏木立	28	夏	植物	夏木立
5178	夏木立四五町欠げて白帆哉	28	夏	植物	夏木立
5179	夏木立道尽きて川に橋もなし	28	夏	植物	夏木立
5180	湯の湖見ゆる夏の木立のあはひ哉	28	夏	植物	夏木立
5181	画でおくれ奈良の寺々夏木立	28	夏	植物	夏木立
5182	大水の余り流るゝ夏木立	29	夏	植物	夏木立
5183	北窓やあまりに近き夏木立	29	夏	植物	夏木立
5184	阪町や家のうしろの夏木立	29	夏	植物	夏木立
5185	芝山や灯のともしたる夏木立	29	夏	植物	夏木立
5186	城跡や崖にかたよる夏木立	29	夏	植物	夏木立
5187	しんしんとして夏木立中禅寺	29	夏	植物	夏木立
5188	つらつらと上野飛鳥の夏木立	29	夏	植物	夏木立
5189	鳥啼くや草屋をめぐる夏木たち	29	夏	植物	夏木立
5190	夏木立入りにし人の跡もなし	29	夏	植物	夏木立
5191	夏木立官林の鳥は官に鳴く	29	夏	植物	夏木立
5192	夏木立幻住庵はなかりけり	29	夏	植物	夏木立
5193	夏木立鳥啼き絶えて神子の鈴	29	夏	植物	夏木立
5194	夏木立深き処池あらんとは	29	夏	植物	夏木立
5195	何もなし只夏木立古やしる	29	夏	植物	夏木立
5196	鳴神の掻きむしりたる夏木哉	29	夏	植物	夏木立
5197	白雲や湯の湖をめぐる夏木立	29	夏	植物	夏木立
5198	踏み込んで奥を探らん夏木立	29	夏	植物	夏木立
5199	陵と見えて四五本夏木立	29	夏	植物	夏木立
5200	瘦村や遠く望めば夏木立	29	夏	植物	夏木立
5201	山火事のむどくなりしよ夏木立	29	夏	植物	夏木立
5202	煙硝の臭ひ残りぬ夏木立	30	夏	植物	夏木立
5203	夏木立左不動の滝と記す	30	夏	植物	夏木立
5204	野の中や焼場を隠す夏木立	30	夏	植物	夏木立

5205	道細く人にも逢はず夏木立	30	夏	植物	夏木立
5206	旅人を載せたる馬車や夏木立	31	夏	植物	夏木立
5207	梟の昼寝の夢や夏木立	31	夏	植物	夏木立
5208	玉巻の葛や裏葉のちなみもまだ	25	夏	植物	玉巻く葛
5209	白砂に熊手の波やちり松葉	25	夏	植物	散り松葉
5210	滝壺や風ふるひこむ散り松葉	26	夏	植物	散り松葉
5211	ふりかゝる松の落葉や雀鳴く	26	夏	植物	散り松葉
5212	風にちるやたゞ古松葉青松葉	27	夏	植物	散り松葉
5213	松葉落ちて雀鳴くなり観音寺	27	夏	植物	散り松葉
5214	人もなし木陰の椅子の散松葉	28	夏	植物	散り松葉
5215	崩れたる石の鳥居や散松葉	29	夏	植物	散り松葉
5216	竹椽や松葉ちらばつて蟻太し	29	夏	植物	散り松葉
5217	散松葉数寄屋へ通ふ小道哉	29	夏	植物	散り松葉
5218	下駄である宮の廊下や散松葉	33	夏	植物	散り松葉
5219	下駄である社の椽や散松葉	33	夏	植物	散り松葉
5220	砂白く松の落葉や数ふべし	33	夏	植物	散り松葉
5221	砂白く松の落葉や数ふべく	33	夏	植物	散り松葉
5222	鉢に植ゑし二尺の松の落葉哉	33	夏	植物	散り松葉
5223	松葉散る白砂道や三穂神社	33	夏	植物	散り松葉
5224	松葉散る松の緑の伸びにけり	33	夏	植物	散り松葉
5225	真黒な毛虫の糞や散松葉	35	夏	植物	散り松葉
5226	石壇は常磐木の落葉許りなり	27	夏	植物	常磐木落葉
5227	ほろほろと櫂の落葉や山凄し	27	夏	植物	常磐木落葉
5228	雲やどる杉の下葉のこぼれけり	28	夏	植物	常磐木落葉
5229	常盤木の落葉に鳥の声凄し	29	夏	植物	常磐木落葉
5230	常盤木の落葉重なり山深し	33	夏	植物	常磐木落葉
5231	常盤木の落葉十句や我勝ちぬ	33	夏	植物	常磐木落葉
5232	百ヶ日杉の落葉を掃ひけり	33	夏	植物	常磐木落葉
5233	木犀の落葉掃きけり白丁花	33	夏	植物	常磐木落葉
5234	木柵の落葉掃きたる茶の日哉	33	夏	植物	常磐木落葉
5235	木柵の落葉掃きたる茶の湯哉	33	夏	植物	常磐木落葉
5236	木柵の落葉を掃ふ茶の湯かな	33	夏	植物	常磐木落葉
5237	竹の子も裸になつてあつさ哉	22	夏	植物	筍
5238	竹の子のきほひや日々に二三寸	24	夏	植物	筍
5239	うるはしや竹の子竹になりおふせ	25	夏	植物	筍
5240	すゝしさや竹の子竹になりおふせ	25	夏	植物	筍
5241	竹の子にかならずや根のくねり	25	夏	植物	筍
5242	竹の子のごみつきあげるきほひ哉	25	夏	植物	筍
5243	筍はまた根ばかりの重さ哉	25	夏	植物	筍
5244	筍はまだ根ばかりの太さかな	25	夏	植物	筍
5245	筍やずんずんとのびて藪の上	25	夏	植物	筍
5246	竹の子や隣としらぬはえ処	25	夏	植物	筍
5247	竹奴夢に七賢と遊びけり	25	夏	植物	筍
5248	はらはらと落て音あり竹の皮	25	夏	植物	筍
5249	ほきほきと筍ならぶすごさ哉	25	夏	植物	筍
5250	明寺の筍ぬすむ女かな	26	夏	植物	筍
5251	君が墓筍のびて二三間	26	夏	植物	筍
5252	筍や垣の横腹つんぬいて	26	夏	植物	筍
5253	筍や御殿の椽のこぼれ土	26	夏	植物	筍
5254	筍や行末はたが床柱	26	夏	植物	筍
5255	庭先に筍ならぶ明家哉	26	夏	植物	筍
5256	石垣や筍横に生えて出る	27	夏	植物	筍
5257	石かけや筍横に生えてでる	27	夏	植物	筍
5258	筍の左右へ手を出す梢哉	27	夏	植物	筍
5259	はたゝ神筍竹になる夜哉	27	夏	植物	筍
5260	人瘦せて筍程の手足かな	27	夏	植物	筍

5261	藪跡や筍生える薔薇の側	27	夏	植物	筍
5262	藪一つ大笋のけしき哉	27	夏	植物	筍
5263	筍に雲もさはらぬ日和かな	28	夏	植物	筍
5264	筍に頭出したるうれしさよ	28	夏	植物	筍
5265	筍のへんてつもなく伸びにけり	28	夏	植物	筍
5266	藪垣や筍出たる道のはた	28	夏	植物	筍
5267	雨の中筍堀りてくはせけり	29	夏	植物	筍
5268	大藪や筍のびて物すごき	29	夏	植物	筍
5269	喰ひなれて筍くらふ異人哉	29	夏	植物	筍
5270	竹籠に筍三ツ葉など入れぬ	29	夏	植物	筍
5271	筍に楮子すべくもあらぬ哉	29	夏	植物	筍
5272	筍に発句題して帰りけり	29	夏	植物	筍
5273	筍のすうとのびけり五六間	29	夏	植物	筍
5274	筍の並ぶものなくのびにけり	29	夏	植物	筍
5275	筍や鮓の五月となりにけり	29	夏	植物	筍
5276	筍や藪をはなれて小屋の前	29	夏	植物	筍
5277	筍や藪をはなれて二三間	29	夏	植物	筍
5278	筍や横筋かひに垣根より	29	夏	植物	筍
5279	筍や田舎の叔母の来よといひし	29	夏	植物	筍
5280	筍を小荷駄につけて土産哉	29	夏	植物	筍
5281	筍を四五本つけてあやぎ売	29	夏	植物	筍
5282	筍をにり落ちたる小猫哉	29	夏	植物	筍
5283	筍を剥いて発句を題せんか	29	夏	植物	筍
5284	禿倉荒れて筍細し庭の隅	29	夏	植物	筍
5285	藪寺や筍のびる経の声	29	夏	植物	筍
5286	塀の上に筍見えて明屋敷	30	夏	植物	筍
5287	去年買ひし筍売の来りけり	31	夏	植物	筍
5288	掃除屋の長き筍くれにけり	31	夏	植物	筍
5289	嵯峨を行く筍藪の月夜哉	31	夏	植物	筍
5290	筍と和尚の文と法華経と	31	夏	植物	筍
5291	筍の一本長し罌粟の畑	31	夏	植物	筍
5292	筍の一本生えぬ罌粟の畑	31	夏	植物	筍
5293	筍の十丈にしてさみたるゝ	31	夏	植物	筍
5294	筍の縄ゆるびたる途中哉	31	夏	植物	筍
5295	筍の桶にたゝふる甘茶哉	31	夏	植物	筍
5296	鉢植の竹に筍見え初めし	31	夏	植物	筍
5297	山里や筍に飽く麦の飯	31	夏	植物	筍
5298	筍と鎌と笠とを画きけり	32	夏	植物	筍
5299	竹の子の子もつどふ祝哉	33	夏	植物	筍
5300	西隣陸の筍伸びにけり	33	夏	植物	筍
5301	筍に木の芽をあえて祝ひかな	35	夏	植物	筍
5302	竹の子も鳥の子も只やすやすと	35	夏	植物	筍
5303	筍哉虞美人草の蕾哉	35	夏	植物	筍
5304	筍や目黒の美人ありやなし	35	夏	植物	筍
5305	歯が抜けて筍堅く烏賊こはし	35	夏	植物	筍
5306	若竹の色より青きすだれかな	23	夏	植物	若竹
5307	若竹をおさへはづすや雀の子	24	夏	植物	若竹
5308	心見に雀とまれや今年竹	25	夏	植物	若竹
5309	声なしに動いてゐるや今年竹	25	夏	植物	若竹
5310	つま立て月にとゞくや今年竹	25	夏	植物	若竹
5311	万代をしらぬしないや今年竹	25	夏	植物	若竹
5312	若竹や色もちあふて青簾	25	夏	植物	若竹
5313	若竹や雀たわめてつくは山	25	夏	植物	若竹
5314	若竹や稍薄青きふしの山	25	夏	植物	若竹
5315	うつくしやまだ蚊の居らぬ今年竹	26	夏	植物	若竹
5316	阿新といふ蛙あり今年竹	26	夏	植物	若竹

5317	煤はきのありともしらず今年竹	26	夏	植物	若竹
5318	若竹の雨になやめる姿哉	26	夏	植物	若竹
5319	若竹の直を心とのびる哉	26	夏	植物	若竹
5320	若竹の筆になるべき細り哉	26	夏	植物	若竹
5321	若竹の筆になるべき細りかや	26	夏	植物	若竹
5322	若竹の昔によるや雀ずし	26	夏	植物	若竹
5323	若竹やあどない顔の雀の子	26	夏	植物	若竹
5324	今年竹膝いるゝだけの庵かな	27	夏	植物	若竹
5325	若竹のくねりて出たり石の下	27	夏	植物	若竹
5326	若竹のすらりすらりとのびる哉	27	夏	植物	若竹
5327	若竹や節それぞれの長短	27	夏	植物	若竹
5328	若竹や四五寸茂る椽の下	28	夏	植物	若竹
5329	若竹や四五寸のびる椽の下	28	夏	植物	若竹
5330	若竹や四五本青き庭の隅	28	夏	植物	若竹
5331	若竹や豆腐一丁米二合	28	夏	植物	若竹
5332	犬の子のくゝと啼く也今年竹	29	夏	植物	若竹
5333	千代迄と若竹杖に参らせん	29	夏	植物	若竹
5334	一藪は若竹勝に見ゆるかな	29	夏	植物	若竹
5335	若竹に嵐のわたる夕かな	29	夏	植物	若竹
5336	若竹の刺竹の御子をほぎまつる	33	夏	植物	若竹
5337	俗客の去つて閑なり今年竹	34	夏	植物	若竹
5338	日一日暮を打つ音や今年竹	34	夏	植物	若竹
5339	若竹や髪刈らしむる庭の椅子	34	夏	植物	若竹
5340	竹の宿雀の留守の落葉哉	26	夏	植物	竹落葉
5341	さらさらと竹の落葉の音凄し	27	夏	植物	竹落葉
5342	やさしくも菖蒲さく也木曾の山	24	夏	植物	菖蒲
5343	風吹てそよそよのびる菖蒲哉	26	夏	植物	菖蒲
5344	御鎌取て菖蒲刈らうよ泥干湯	26	夏	植物	菖蒲
5345	折られたる菖を原の栞哉	26	夏	植物	菖蒲
5346	五六反背戸の菖蒲の夜明かな	27	夏	植物	菖蒲
5347	菖蒲提げて女行くなり柳橋	28	夏	植物	菖蒲
5348	出る時の傘に落ちたる菖蒲かな	28	夏	植物	菖蒲
5349	雨だれの菖蒲したゝる幾処	29	夏	植物	菖蒲
5350	家も人も餅も菖蒲の匂ひ哉	29	夏	植物	菖蒲
5351	小障子に菖蒲の影や夕月夜	29	夏	植物	菖蒲
5352	東京や菖蒲掛けたる家古し	29	夏	植物	菖蒲
5353	猫や過ぎし風なくて菖蒲落ちたるは	29	夏	植物	菖蒲
5354	町中に菖蒲吹き散る嵐哉	29	夏	植物	菖蒲
5355	蓬菖蒲菊作る家の門口に	29	夏	植物	菖蒲
5356	とめ桶に菖蒲入れたる童哉	33	夏	植物	菖蒲
5357	病人の寝床に掛けし菖蒲かな	33	夏	植物	菖蒲
5358	菖蒲提て鳴雪の翁来たまひし	不詳	夏	植物	菖蒲
5359	花ひとつ折れて流るゝ菖蒲かな	24	夏	植物	花菖蒲
5360	人の来て咲くといふ也花菖蒲	26	夏	植物	花菖蒲
5361	打ちまじり咲きけり菖蒲燕子花	27	夏	植物	花菖蒲
5362	堀切や菖蒲花咲く百姓家	29	夏	植物	花菖蒲
5363	片隅に菖蒲花咲く門田哉	29	夏	植物	花菖蒲
5364	鄙の家に翡翠来るや花菖蒲	32	夏	植物	花菖蒲
5365	花菖蒲に銭取る鄙の庭構	33	夏	植物	花菖蒲
5366	屋のむねのあやめゆるくや石の臼	24	夏	植物	あやめ
5367	やさしくもあやめ咲きけり木曾の山	24	夏	植物	あやめ
5368	あやめ売すゝめるふりもなかりけり	25	夏	植物	あやめ
5369	討死の甲に匂ふあやめかな	25	夏	植物	あやめ
5370	萎みたる花に花さく杜若	21	夏	植物	杜若
5371	すつと出て蒼見ゆるや杜若	21	夏	植物	杜若
5372	花と葉の折合ゆゝしかきつはた	23	夏	植物	杜若

5373	紫の水も蜘蛛手に杜若	23	夏	植物	杜若
5374	杜若画をうつしたる溝のさび	24	夏	植物	杜若
5375	水汲んだあとの濁りや杜若	24	夏	植物	杜若
5376	思ひよるいづれかあやめかきつはた	25	夏	植物	杜若
5377	思ひよる姿やあやめかきつはた	25	夏	植物	杜若
5378	燕子花覚束なくも水の上	25	夏	植物	杜若
5379	すてられて又さく花や杜若	25	夏	植物	杜若
5380	たそかれや御馬先の杜若	25	夏	植物	杜若
5381	露上手際を見はやかきつばた	25	夏	植物	杜若
5382	白水の押し出す背戸や杜若	25	夏	植物	杜若
5383	淀川や一すぢ引て燕子花	25	夏	植物	杜若
5384	牛飼ふや濠はうもれて燕子花	26	夏	植物	杜若
5385	牛引て立とまりけり燕子花	26	夏	植物	杜若
5386	うつくしき目高のむれや燕子花	26	夏	植物	杜若
5387	傾城が筆のすさひや燕子花	26	夏	植物	杜若
5388	花一つ泥に折れこむ燕子花	26	夏	植物	杜若
5389	人の来て咲くといふなり杜若	26	夏	植物	杜若
5390	葡萄酒の徳利にいけん杜若	26	夏	植物	杜若
5391	紫の泪か露か燕子花	26	夏	植物	杜若
5392	尼若し薄紫の燕子花	27	夏	植物	杜若
5393	枝川や舟つゝこめば杜若	27	夏	植物	杜若
5394	大水のあとや蒼の杜若	27	夏	植物	杜若
5395	杜若咲くや五月の濁り水	27	夏	植物	杜若
5396	つるつると水のほるなり杜若	27	夏	植物	杜若
5397	古沢や蒼勝なる燕子花	27	夏	植物	杜若
5398	古沼や葎がくれの杜若	27	夏	植物	杜若
5399	牧童の牛乗り入れぬ杜若	27	夏	植物	杜若
5400	杜若尼寺あれて人もなし	28	夏	植物	杜若
5401	古溝や只一輪の杜若	28	夏	植物	杜若
5402	三河路や名もなき橋の杜若	28	夏	植物	杜若
5403	八橋を売る茶店あり杜若	28	夏	植物	杜若
5404	かきつばた剪らんと人の泥の中	29	夏	植物	杜若
5405	かきつばた咲くや水田の露の中	29	夏	植物	杜若
5406	古溝や花低うして杜若	30	夏	植物	杜若
5407	尼寺の庭に井あり杜若	31	夏	植物	杜若
5408	病僧や杜若剪る手のふるへ	31	夏	植物	杜若
5409	百姓の背戸に咲けり杜若	32	夏	植物	杜若
5410	わりなしや一八蛇のすみかとは	26	夏	植物	一八
5411	一八の水にひたりてしどろなり	28	夏	植物	一八
5412	一八の屋根ならびたる小村かな	28	夏	植物	一八
5413	一八の白きを活けて達磨の画	29	夏	植物	一八
5414	萱草や茶屋のつき山苔もなし	26	夏	植物	萱草の花
5415	湯治場や黄なる萱草得て帰る	27	夏	植物	萱草の花
5416	萱草に雷遠き日かげかな	28	夏	植物	萱草の花
5417	誰が家ぞ萱草さけるおのづから	28	夏	植物	萱草の花
5418	けしちるや夕暮淋し朝淋し	23	夏	植物	芥子の花
5419	朝々のふし見て散るやけしの花	25	夏	植物	芥子の花
5420	汽車道にそふて咲けりけしの花	25	夏	植物	芥子の花
5421	けしちるや桶の*(竹冠+輪)輪のはぢく音	25	夏	植物	芥子の花
5422	白芥子のちりかゝりけり梅法師	25	夏	植物	芥子の花
5423	開いても開いてもちるけしの花	25	夏	植物	芥子の花
5424	此夏もめでたうちりぬけしの花	26	夏	植物	芥子の花
5425	ちる時の見事也けり芥子の花	26	夏	植物	芥子の花
5426	花芥子に親子五人の世帯哉	26	夏	植物	芥子の花
5427	破壁に首出す牛やけしの花	26	夏	植物	芥子の花
5428	心中の沙汰は誠か芥子の花	26	夏	植物	芥子の花

5429	明寺や葎まじりの芥子の花	27	夏	植物	芥子の花
5430	家三ツ四ツ花芥子見えぬ古戦場	27	夏	植物	芥子の花
5431	汽車道の此頃出来ぬ芥子の花	27	夏	植物	芥子の花
5432	芥子の花悟らぬ内に散りにけり	27	夏	植物	芥子の花
5433	上り帆のうしろに近し芥子の花	27	夏	植物	芥子の花
5434	一畝は誰が散らして芥子の花	27	夏	植物	芥子の花
5435	故郷の畑に散りけり芥子の花	27	夏	植物	芥子の花
5436	来年は台場や出来ん芥子の花	27	夏	植物	芥子の花
5437	芥子咲いて其日の風に散りにけり	28	夏	植物	芥子の花
5438	けしの花楷子倒れて散りにけり	28	夏	植物	芥子の花
5439	戸口から身通す背戸やけしの花	28	夏	植物	芥子の花
5440	花芥子の上を過ぎ行く白帆哉	28	夏	植物	芥子の花
5441	花芥子の開くや遅き散るや疾き	28	夏	植物	芥子の花
5442	けしの花とめどもなしにこぼれけり	29	夏	植物	芥子の花
5443	けし畠牛蒡と並びけり	29	夏	植物	芥子の花
5444	音もなし覗いて見ればけしが散る	31	夏	植物	芥子の花
5445	けしの花大きな蝶のとまりけり	34	夏	植物	芥子の花
5446	百姓の年々つくるけしの花	34	夏	植物	芥子の花
5447	罌粟さくや尋ねあてたる智月庵	35	夏	植物	芥子の花
5448	けしの花余り坊主になり易き	25	夏	植物	芥子坊主
5449	一休や芥子の坊主を見せにくる	26	夏	植物	芥子坊主
5450	入相や法体したる芥子坊主	26	夏	植物	芥子坊主
5451	咲きにけり散りにけり芥子の坊主哉	27	夏	植物	芥子坊主
5452	芥子散るや薬王丸は坊主なり	28	夏	植物	芥子坊主
5453	白けしも坊主赤けしも坊主かな	34	夏	植物	芥子坊主
5454	芍薬は遊女の知らぬさかり哉	26	夏	植物	芍薬
5455	芍薬は少しすねたる若衆哉	26	夏	植物	芍薬
5456	官邸の芍薬ある夜散りにけり	27	夏	植物	芍薬
5457	芍薬や翡翠の月の朝ぼらけ	27	夏	植物	芍薬
5458	芍薬や兵士宿かる大伽藍	28	夏	植物	芍薬
5459	芍薬や兵士宿とる支那の寺	28	夏	植物	芍薬
5460	芍薬や兵士宿とる大伽藍	28	夏	植物	芍薬
5461	君が祝ひ芍薬園の掃除せん	29	夏	植物	芍薬
5462	石門や内をのぞけば芍薬花	29	夏	植物	芍薬
5463	芍薬の衰へて在り枕もと	35	夏	植物	芍薬
5464	芍薬の開く天気や二眠起	35	夏	植物	芍薬
5465	芍薬は散りて硯の埃かな	35	夏	植物	芍薬
5466	芍薬を画く牡丹に似も似ずも	35	夏	植物	芍薬
5467	日まはりを植糸塞げたる裏家哉	29	夏	植物	向日葵
5468	日まはりに朝日よくあたる裏家哉	30	夏	植物	向日葵
5469	日まはりの花心がちに大いなり	30	夏	植物	向日葵
5470	のびたらで花にみじかきあふひ哉	24	夏	植物	花葵
5471	屏の上へさきのほりけり花葵	24	夏	植物	花葵
5472	堀の上に咲きのほりけり花葵	24	夏	植物	花葵
5473	一本の葵や虻ののぼりおり	25	夏	植物	花葵
5474	上までは鼻もとゝかぬ葵かな	25	夏	植物	花葵
5475	御湯殿の窓から覗く葵哉	26	夏	植物	花葵
5476	賤が家の物干低し花葵	26	夏	植物	花葵
5477	順々に開くてもなき葵哉	26	夏	植物	花葵
5478	簾ごし幾筋赤き葵哉	26	夏	植物	花葵
5479	鶏の堀にのほりし葵哉	26	夏	植物	花葵
5480	花一つ一つ虻もつ葵哉	26	夏	植物	花葵
5481	花一つ一つ虻居る葵かな	26	夏	植物	花葵
5482	花葵米屋の埃かゝりけり	27	夏	植物	花葵
5483	百姓の堀に窓ある葵かな	28	夏	植物	花葵
5484	枯れ尽す葵の末や花一つ	29	夏	植物	花葵

5485	杉垣を摘みぬ隣の立葵	29	夏	植物	花葵
5486	花葵上野の森は曇りけり	29	夏	植物	花葵
5487	花葵隣の嫁の洗濯す	29	夏	植物	花葵
5488	垣摘で隣の葵猶高し	30	夏	植物	花葵
5489	枯れんとして伐り倒す葵花一つ	30	夏	植物	花葵
5490	尽く花になりぬる葵かな	30	夏	植物	花葵
5491	来年や葵さいてもあはれまし	30	夏	植物	花葵
5492	咲き満つる葵の花や梅雨に入る	31	夏	植物	花葵
5493	半日の嵐に折るゝ葵かな	31	夏	植物	花葵
5494	麦藁のたばよせかけし葵哉	31	夏	植物	花葵
5495	薄物を夜の葵にかぶせばや	33	夏	植物	花葵
5496	咯血のやむ頃庭の葵哉	33	夏	植物	花葵
5497	行く未は誰とか契る紅の花	24	夏	植物	紅花
5498	行未は誰をかちぎる紅の花	24	夏	植物	紅花
5499	をさな子やはやなめそむる紅の花	25	夏	植物	紅花
5500	傾城にとへども知らず紅の花	26	夏	植物	紅花
5501	傾城の罪をつくるや紅の花	26	夏	植物	紅花
5502	唇や格子に開く紅粉の花	27	夏	植物	紅花
5503	したゝかに紅の花咲く小庭哉	28	夏	植物	紅花
5504	奈良へ通ふ商人住めり紅の花	28	夏	植物	紅花
5505	わが恋は未摘む花の蒼かな	29	夏	植物	紅花
5506	うつくしや若竹藪の夏薊	29	夏	植物	夏薊
5507	夏菊は籬へゆつりてかきつばた	24	夏	植物	夏菊
5508	夏菊に木曾の旅人やせにけり	25	夏	植物	夏菊
5509	夏菊の露ともいはず咲にけり	25	夏	植物	夏菊
5510	夏菊や木曾の旅人やせにけり	25	夏	植物	夏菊
5511	夏菊や旅人やせる木曾の宿	25	夏	植物	夏菊
5512	夏菊や土蔵の陰に瘦せてけり	26	夏	植物	夏菊
5513	人知らずわれ夏菊を愛す也	26	夏	植物	夏菊
5514	ひとり世に瘦せたる夏の黄菊哉	28	夏	植物	夏菊
5515	夏菊に葉の露もなかりけり	29	夏	植物	夏菊
5516	箒木やありといはれて消えかゝる	25	夏	植物	箒木草
5517	鎌丸八箒木ノ舎ト名ノリケリ	35	夏	植物	箒木草
5518	箒木ノ四五本同ジ形カナ	35	夏	植物	箒木草
5519	箒木ノ舎八鎌丸ノ舎号カナ	35	夏	植物	箒木草
5520	国々や臭ひことなる蚊遣草	26	夏	植物	蚊遣草
5521	妹か顔青鬼灯の青さかな	25	夏	植物	青鬼灯
5522	行水や児の手を出ず青鬼灯	25	夏	植物	青鬼灯
5523	叢に鬼灯青き空家かな	28	夏	植物	青鬼灯
5524	石竹や吾妻の森に雨晴れぬ	29	夏	植物	石竹
5525	蕾ながら石竹の葉は針の如し	29	夏	植物	石竹
5526	石竹の葉勝に赤き花一つ	30	夏	植物	石竹
5527	なてしこは妹がかへ名かありかたや	24	夏	植物	撫子
5528	咲てから又撫し子のやせにけり	25	夏	植物	撫子
5529	なでしこにざうとこけたり竹釣瓶	25	夏	植物	撫子
5530	なでしこに蝶ぶらさがるたわみ哉	25	夏	植物	撫子
5531	なでしこにぶらさがりたるこてふ哉	25	夏	植物	撫子
5532	なてしこの小石ましりに咲にけり	25	夏	植物	撫子
5533	なてしこのこけて其まゝ咲にけり	25	夏	植物	撫子
5534	撫子は月にも日にも細りけり	25	夏	植物	撫子
5535	撫し子や人には見えぬ笠のうら	25	夏	植物	撫子
5536	なてし子や皆のらはべのいくゝねり	25	夏	植物	撫子
5537	なてし子をつかんで眠る小ども哉	25	夏	植物	撫子
5538	撫し子を横にくはへし野馬哉	25	夏	植物	撫子
5539	撫子を折る旅人もなかりけり	25	夏	植物	撫子
5540	井戸端に妹が撫し子あれにけり	25	夏	植物	撫子

5541	井戸はたにいもの撫子あれにけり	25	夏	植物	撫子
5542	朝見れば撫し子多し草枕	26	夏	植物	撫子
5543	喘ぎ喘ぎ撫し子の上に倒れけり	26	夏	植物	撫子
5544	牛の子の床なつかしや野撫子	26	夏	植物	撫子
5545	児も居らず愛子の村の野撫子	26	夏	植物	撫子
5546	撫し子の河原も広し大井河	26	夏	植物	撫子
5547	撫し子のはかなや石に根を持って	26	夏	植物	撫子
5548	撫し子の我から伏して咲にけり	26	夏	植物	撫子
5549	撫し子や壁落ちかゝる牛の小屋	26	夏	植物	撫子
5550	撫し子やものなつかしき昔ぶり	26	夏	植物	撫子
5551	花勝に撫し子咲きし山家哉	26	夏	植物	撫子
5552	撫子に蝶々白し誰の魂	28	夏	植物	撫子
5553	撫子や若き女の世すて人	28	夏	植物	撫子
5554	撫子や吾に昔の心あり	28	夏	植物	撫子
5555	思ひあまり撫子瘦せぬ小石原	29	夏	植物	撫子
5556	撫し子に馬けつまづく河原かな	29	夏	植物	撫子
5557	撫子に白布晒す河原哉	29	夏	植物	撫子
5558	撫子や出水にさわぐ土手の人	29	夏	植物	撫子
5559	小屏風の撫子見ても子を思ふ	30	夏	植物	撫子
5560	蝶一つ撫子の花を去り得ざる	30	夏	植物	撫子
5561	撫子に雷ふるふ小庭かな	30	夏	植物	撫子
5562	撫子に踏みそこねるな右の足	30	夏	植物	撫子
5563	撫子に禪乾く夕日哉	30	夏	植物	撫子
5564	撫子は昼顔恨む姿あり	30	夏	植物	撫子
5565	絵屏風の撫子赤し子を憶ふ	30	夏	植物	撫子
5566	撫子や上野の夕日照り返す	31	夏	植物	撫子
5567	垣ごしに丁子の花の匂ひかな	23	夏	植物	丁子草
5568	丁字草花甘さうに咲きにけり	29	夏	植物	丁子草
5569	十葉や何を植糸ても出来ぬ土地	26	夏	植物	十葉
5570	十葉や露や茗荷や庵の庭	26	夏	植物	十葉
5571	一藪をたゞ十葉の匂ひ哉	26	夏	植物	十葉
5572	藪跡の十葉匂ふ明地かな	27	夏	植物	十葉
5573	風吹くや釣鐘動く花の形	26	夏	植物	釣鐘草
5574	風吹てぎぼうしの花砕けり	26	夏	植物	擬宝珠の花
5575	山に木なし玉簪花花咲く滝の道	30	夏	植物	擬宝珠の花
5576	うつふいて落ちぬを百合のつよみ哉	24	夏	植物	百合
5577	門さきにうつむきあふや百合の花	24	夏	植物	百合
5578	うつむいた恨みはやさし百合の花	25	夏	植物	百合
5579	重たさを首で垂れけりゆりの花	25	夏	植物	百合
5580	のびきつた余りをたれて百合の花	25	夏	植物	百合
5581	うつむくは思案に似たり百合の花	26	夏	植物	百合
5582	鬼百合や蒟蒻玉の一むしろ	26	夏	植物	百合
5583	面白き塀の崩れや百合の花	26	夏	植物	百合
5584	白百合をさげて行きけり辻が花	26	夏	植物	百合
5585	つき山に松より高し百合の花	26	夏	植物	百合
5586	のびすぎてうつむきそめつ百合の花	26	夏	植物	百合
5587	結ひこんで垣より高し百合の花	26	夏	植物	百合
5588	白百合の覚束なげに咲にけり	27	夏	植物	百合
5589	白百合や蛇逃げて山静かなり	27	夏	植物	百合
5590	蛇逃げて山静かなり百合の花	27	夏	植物	百合
5591	うつぶけに白百合さきぬ岩の鼻	28	夏	植物	百合
5592	うつむいて何を思案の百合の花	28	夏	植物	百合
5593	隠れ家のものものしさよ百合の花	28	夏	植物	百合
5594	いろいろの名もおもしろや百合の花	29	夏	植物	百合
5595	植替し百合の弱りや昼下り	31	夏	植物	百合
5596	百合活けて百合の歌詠む湯治哉	32	夏	植物	百合

5597	一列二十本バカリユリノ花	35	夏	植物	百合
5598	驟雨欲来五尺ノ百合ヲ吹ク嵐	35	夏	植物	百合
5599	宣教師ノ妻君百合ヲ好ミケリ	35	夏	植物	百合
5600	伸ビ足ヲ又百合ニ大キナ蕾カナ	35	夏	植物	百合
5601	畑モアリ百合ナド咲イテ島ユタカ	35	夏	植物	百合
5602	花売ノ親爺ニ問ヘバ鉄砲百合	35	夏	植物	百合
5603	鄙ノ様家南向イテユリノ花	35	夏	植物	百合
5604	姫百合ヤ余リ短キ筒ノ中	35	夏	植物	百合
5605	姫百合ヤ日本ノ女丈低シ	35	夏	植物	百合
5606	百姓ノ土堀ニ沿フテ百合ノ花	35	夏	植物	百合
5607	百姓ノ麦打ツ庭ヤユリノ花	35	夏	植物	百合
5608	百合ノ花田舎臭キヲ愛スカナ	35	夏	植物	百合
5609	百合ノ花田舎臭キヲ好ムナリ	35	夏	植物	百合
5610	百合持ツテ来タル田舎ノ使カナ	35	夏	植物	百合
5611	用アリテ在所へ行ケバ百合ノ花	35	夏	植物	百合
5612	六尺ノ百合三尺ノ土堀カナ	35	夏	植物	百合
5613	山百合や水進る龍の口	25	夏	植物	山百合
5614	山百合や崩れて残る岨の道	26	夏	植物	山百合
5615	山百合や蛇橋の跡と申すなり	28	夏	植物	山百合
5616	御所拝観の時鉄仙の咲けりしか	29	夏	植物	鉄線花
5617	朝顔の苗に水やる真昼哉	31	夏	植物	朝顔の苗
5618	ひる顔やぬれふんとしのほし処	23	夏	植物	昼顔
5619	ひる顔に雨のあとなき砂路哉	25	夏	植物	昼顔
5620	昼顔のついそれなりに萎みけり	25	夏	植物	昼顔
5621	昼顔の真ツ昼中を開きけり	25	夏	植物	昼顔
5622	昼顔の物干竿を上りけり	25	夏	植物	昼顔
5623	鼓子花は蝶のあそばぬさかり哉	25	夏	植物	昼顔
5624	ひるかほやはひつくはつたひきかへる	25	夏	植物	昼顔
5625	ひる顔や真昼中をさきにけり	25	夏	植物	昼顔
5626	昼顔や水くむ女かいまみる	25	夏	植物	昼顔
5627	迷ひ子の昼顔でふく涙かな	25	夏	植物	昼顔
5628	こちへ来て余所の昼顔花咲きぬ	26	夏	植物	昼顔
5629	杉垣に昼顔痩せて開きけり	26	夏	植物	昼顔
5630	昼顔に傾城眠きさかり哉	26	夏	植物	昼顔
5631	昼顔に茶色の蝶の狂ひ哉	26	夏	植物	昼顔
5632	昼顔はつくらぬものゝ盛り哉	26	夏	植物	昼顔
5633	昼顔や女肌ぬぐ垣となり	26	夏	植物	昼顔
5634	山里の桑に昼顔あはれなり	26	夏	植物	昼顔
5635	玄關に昼顔咲くや村役場	27	夏	植物	昼顔
5636	昼顔の秋をものうき姿かな	27	夏	植物	昼顔
5637	昼顔の朝から咲て焼場かな	27	夏	植物	昼顔
5638	昼顔の朝から咲ける焼場哉	27	夏	植物	昼顔
5639	昼顔の花さかりなり野雪隠	27	夏	植物	昼顔
5640	昼顔にたまるほこりや馬車	28	夏	植物	昼顔
5641	昼顔に草鞋を直す別れ哉	28	夏	植物	昼顔
5642	昼顔の咲くや砂地の麦畑	28	夏	植物	昼顔
5643	昼顔や土橋の上に這ひかゝる	28	夏	植物	昼顔
5644	昼顔にからむ藻屑や波の跡	29	夏	植物	昼顔
5645	昼顔にからむ藻屑や波の音	29	夏	植物	昼顔
5646	昼顔に昼寝夕顔に夕寝す	29	夏	植物	昼顔
5647	昼顔の上に火を焚く野茶屋哉	29	夏	植物	昼顔
5648	昼顔や安達太郎雨を催さず	29	夏	植物	昼顔
5649	旧道や昼顔咲て小石がち	30	夏	植物	昼顔
5650	昼顔の花に乾くや通り雨	31	夏	植物	昼顔
5651	昼顔や襦袢をしぼる汗時雨	31	夏	植物	昼顔
5652	昼顔や砂に吸はるゝ昼の雨	31	夏	植物	昼顔

5653	昼顔やきのふ崩せし芝居小屋	33	夏	植物	昼顔
5654	夕かほや顔子も居らん裏長屋	23	夏	植物	夕顔
5655	夕顔に顔子住みたる長屋哉	23	夏	植物	夕顔
5656	夕顔に顔子住みたる裏屋哉	23	夏	植物	夕顔
5657	夕顔や顔子も居らん裏借家	23	夏	植物	夕顔
5658	夕顔の露に裸の男かな	24	夏	植物	夕顔
5659	夕かほの露やはだかの高筵	24	夏	植物	夕顔
5660	妻も子も来て夕顔に涼みけり	25	夏	植物	夕顔
5661	泥水に夕顔の花よごれけり	25	夏	植物	夕顔
5662	夕顔に行脚の僧をとゞめけり	25	夏	植物	夕顔
5663	夕顔にまぶれて白し三日の月	25	夏	植物	夕顔
5664	夕かほのやみもの凄き裸かな	25	夏	植物	夕顔
5665	夕顔は画にかいてさへあはれなり	25	夏	植物	夕顔
5666	夕顔や闇吹き入れる三日の月	25	夏	植物	夕顔
5667	夕顔に旅と名のつく硯かな	26	夏	植物	夕顔
5668	夕顔に何懺悔せん粟の飯	26	夏	植物	夕顔
5669	夕顔に昔の小唄あはれなり	26	夏	植物	夕顔
5670	夕顔にめしくふ女ふたのかな	26	夏	植物	夕顔
5671	夕顔に女世帯の小家かな	26	夏	植物	夕顔
5672	夕顔やあら壁落ちて琴の腹	26	夏	植物	夕顔
5673	夕顔や牛を尋ぬる笛の声	26	夏	植物	夕顔
5674	夕顔や裏口のぞく僧一人	26	夏	植物	夕顔
5675	夕顔やどこの遊女のなれのはて	26	夏	植物	夕顔
5676	夕顔のたそかれを君来ませとや	27	夏	植物	夕顔
5677	夕顔や隨身誰をかいまみる	27	夏	植物	夕顔
5678	夕顔に西行も来よ宿かさん	28	夏	植物	夕顔
5679	夕顔にとられて琴の糸もなし	28	夏	植物	夕顔
5680	夕顔に取られて琴のつるもなし	28	夏	植物	夕顔
5681	夕顔に平壤のいくさ物語れ	28	夏	植物	夕顔
5682	夕顔や平壤のいくさ物語れ	28	夏	植物	夕顔
5683	夕顔に牛洗ひ居る女かな	29	夏	植物	夕顔
5684	夕顔に牛洗ひみる娘哉	29	夏	植物	夕顔
5685	夕顔に傾きかゝる大家かな	29	夏	植物	夕顔
5686	夕顔に家内五人皆裸なり	29	夏	植物	夕顔
5687	夕顔に車寄せたる垣根かな	29	夏	植物	夕顔
5688	夕顔に都なまりの女かな	29	夏	植物	夕顔
5689	夕顔に物問ひたげの法師かな	29	夏	植物	夕顔
5690	夕顔に女湯あみすあからさま	29	夏	植物	夕顔
5691	夕顔の戸叩けば女応と呼ぶ	29	夏	植物	夕顔
5692	夕顔や客載せて来る女馬士	29	夏	植物	夕顔
5693	夕顔や簾古りたる須磨の家	29	夏	植物	夕顔
5694	夕顔に手鍋さげんと契るへし	31	夏	植物	夕顔
5695	夕顔に夕飯いそぐ蚊遣哉	31	夏	植物	夕顔
5696	夕顔の花を画きたる扇哉	31	夏	植物	夕顔
5697	夕顔の花にさめたる暑哉	32	夏	植物	夕顔
5698	夕顔ノ垣根覗キソ美人禅	34	夏	植物	夕顔
5699	刈ル蓼や引きぬく藍もましりけり	25	夏	植物	蓼
5700	うき人にくはせて見たき葉蓼哉	26	夏	植物	蓼
5701	蓼の葉や泥鱧隠るゝ薄濁り	28	夏	植物	蓼
5702	蓼噛んでひとりこらえる思ひ哉	29	夏	植物	蓼
5703	廟堂に蓼の味知る人はあらし	29	夏	植物	蓼
5704	ことごとく虫の穴ある葉蓼哉	31	夏	植物	蓼
5705	老かほで藜の杖にのこしけり	25	夏	植物	藜
5706	隠れ家に夏も藜の紅葉哉	25	夏	植物	藜
5707	幕木にまじりて青き藜哉	25	夏	植物	藜
5708	かたばみの花をめぐるや蟻の道	31	夏	植物	酸漿草の花

5709	荒庭や昼照草の咲きつる	30	夏	植物	松葉牡丹
5710	梅を干す昼照草の小庭哉	30	夏	植物	松葉牡丹
5711	雑草に咲き勝つ松葉牡丹かな	30	夏	植物	松葉牡丹
5712	椎風なく昼照草の盛かな	30	夏	植物	松葉牡丹
5713	干瓜の塩の乾きや日照草	32	夏	植物	松葉牡丹
5714	何代の燈籠の苔か雪の下	24	夏	植物	雪の下
5715	何代の苔むす石が雪のした	25	夏	植物	雪の下
5716	風蘭や神代の苔のむした松	24	夏	植物	風蘭
5717	風蘭や神代の苔もついた松	24	夏	植物	風蘭
5718	風蘭や木蔭に風の一つかみ	24	夏	植物	風蘭
5719	風蘭に露はなけれと露涼し	25	夏	植物	風蘭
5720	風蘭や岩をつかんでのんだ松	25	夏	植物	風蘭
5721	風蘭のほのかに白し鉄燈籠	26	夏	植物	風蘭
5722	風蘭や軒にもたれし松の枝	26	夏	植物	風蘭
5723	風蘭を尋ねて涼む木陰哉	26	夏	植物	風蘭
5724	枕もと浦島草を活けてけり	28	夏	植物	浦島草
5725	路三叉草茂りけり石地蔵	27	夏	植物	草茂る
5726	雲濡るゝ巖に鶯の茂りかな	28	夏	植物	草茂る
5727	空寺や藜箒木など茂る	29	夏	植物	草茂る
5728	怠りや心の道に草茂る	29	夏	植物	草茂る
5729	刈り尽して三日にして草茂りけり	29	夏	植物	草茂る
5730	旧道や人も通らず草茂る	29	夏	植物	草茂る
5731	草茂み恋の細道隠れけり	29	夏	植物	草茂る
5732	草茂み七日の月の隠れけり	29	夏	植物	草茂る
5733	草茂みベースボールの道白し	29	夏	植物	草茂る
5734	墓原や墓低くして草茂る	29	夏	植物	草茂る
5735	灯袋に草茂りけり石燈籠	29	夏	植物	草茂る
5736	古沼の水ひたひたに草茂る	29	夏	植物	草茂る
5737	園荒れたり雑草茂る中に花	29	夏	植物	草茂る
5738	草茂み大蛇隠れて赤き花	30	夏	植物	草茂る
5739	名も知らぬ草物凄き茂り哉	31	夏	植物	草茂る
5740	夏草の中に動かぬ白帆かな	25	夏	植物	夏草
5741	夏草や嵯峨に美人の墓多し	26	夏	植物	夏草
5742	夏草や殺生石は見えぬまで	26	夏	植物	夏草
5743	母と子のかくれあそびや夏の草	26	夏	植物	夏草
5744	惟然寝たあとのぬくみや夏の草	26	夏	植物	夏草
5745	夏草に血のあとところところ哉	27	夏	植物	夏草
5746	夏草や大石見ゆるところところ	27	夏	植物	夏草
5747	夏草や議院門前人もなし	27	夏	植物	夏草
5748	夏草や山伏に出立つ間者あり	27	夏	植物	夏草
5749	野の寺の夏草深み隠れ猫	28	夏	植物	夏草
5750	夏草に犬糞多き小道かな	29	夏	植物	夏草
5751	夏草の上に砂利しく野道哉	29	夏	植物	夏草
5752	夏草や甘露とかゝる御涙	29	夏	植物	夏草
5753	夏草やはつかに白き何の花	29	夏	植物	夏草
5754	夏草や人むれて掘る墓の穴	29	夏	植物	夏草
5755	夏草やほのかに白き何の花	29	夏	植物	夏草
5756	夏草に白き花咲く滝の道	30	夏	植物	夏草
5757	六尺の夏草を刈る女かな	30	夏	植物	夏草
5758	夏草や事なき村の裁判所	31	夏	植物	夏草
5759	夏草や城門ありて城もなし	31	夏	植物	夏草
5760	夏草やベースボールの人遠し	31	夏	植物	夏草
5761	夏草にまじりて早き桔梗哉	32	夏	植物	夏草
5762	夏草や自転車の輪立犬の糞	32	夏	植物	夏草
5763	院宣や夏草夏木振ひ立ち	33	夏	植物	夏草
5764	院宣や夏草夏木振ひ立つ	33	夏	植物	夏草

5765	菜種の実ほこべらの実もくはずなりぬ	35	夏	植物	夏草
5766	夏草にまだ見ぬ人の行へ哉	35	夏	植物	夏草
5767	夏草や吉次をねらふ小盗人	35	夏	植物	夏草
5768	淋しげに夏花摘みたる男かな	29	夏	植物	夏花摘
5769	義仲寺へ乙州つれて夏花摘	35	夏	植物	夏花摘
5770	明け易きはじめに動く青芒	29	夏	植物	青薄
5771	青芒心のもつれとけにけり	29	夏	植物	青薄
5772	青芒三尺にして乱れけり	29	夏	植物	青薄
5773	青芒たゞ夏草のたくひかな	29	夏	植物	青薄
5774	青芒七日の月に乱れけり	29	夏	植物	青薄
5775	青芒葉未ばかりの乱れかな	29	夏	植物	青薄
5776	青芒百日たてば月見哉	29	夏	植物	青薄
5777	きのふけふ風に吹かるゝ青芒	29	夏	植物	青薄
5778	初恋の乱れ易さよ青芒	29	夏	植物	青薄
5779	古庭や一かたまりの青芒	29	夏	植物	青薄
5780	水無月の薄青く蝶黄なりけり	29	夏	植物	青薄
5781	夕立の来らんとして青芒	29	夏	植物	青薄
5782	一ツ葉に万両の実の赤さ哉	25	夏	植物	一ツ葉
5783	一ツ葉の水鉢かくす茂り哉	25	夏	植物	一ツ葉
5784	一ツ葉の緑といへぬ黒さかな	25	夏	植物	一ツ葉
5785	一ツ葉は中へせりこむ茂り哉	25	夏	植物	一ツ葉
5786	一ツ葉にをかしき露のはちき哉	26	夏	植物	一ツ葉
5787	一ツ葉の風にもまるゝけしき哉	26	夏	植物	一ツ葉
5788	一ツ葉の二葉の時ぞ見まほしき	26	夏	植物	一ツ葉
5789	一ツ葉のゆれてはなれぬ蛙哉	26	夏	植物	一ツ葉
5790	世の中を如何に契りし一ツ葉ぞ	26	夏	植物	一ツ葉
5791	一ツ葉や遠州流の活け習ひ	30	夏	植物	一ツ葉
5792	松が根や暗き処にゆふけ草	29	夏	植物	夕け草
5793	小祭の三日にせまる葵かな	28	夏	植物	葵
5794	雨三日三日見ざれば銭葵	29	夏	植物	葵
5795	鴨の子を盥に飼ふや銭葵	32	夏	植物	葵
5796	細帯の女端居す釣り葱	26	夏	植物	釣葱
5797	釣り葱と花火線香と画きたる	30	夏	植物	釣葱
5798	鳥鳴いて谷静かなり夏蕨	29	夏	植物	夏蕨
5799	河骨やちごの遊びのうらやまし	19	夏	植物	河骨
5800	河骨にわりなき茎の太さ哉	25	夏	植物	河骨
5801	河骨の横にながれて咲にけり	25	夏	植物	河骨
5802	河骨の花浮くかとぞ見えにける	26	夏	植物	河骨
5803	鮎汁や河骨しほむ門の脇	26	夏	植物	河骨
5804	河骨の水を出かぬる蒼哉	26	夏	植物	河骨
5805	河骨の花咲く川よどみ哉	27	夏	植物	河骨
5806	河骨の藎乏しき流れ哉	28	夏	植物	河骨
5807	泥ともに河骨かわく川辺哉	28	夏	植物	河骨
5808	沢瀉に河骨まじる小川かな	29	夏	植物	河骨
5809	河骨の驚きもせぬ出水かな	29	夏	植物	河骨
5810	古池に河骨さわぐ嵐かな	29	夏	植物	河骨
5811	河骨の花起き直るさでのあと	31	夏	植物	河骨
5812	尼寺に真白ばかりの蓮哉	25	夏	植物	白蓮
5813	白蓮の中に灯ともす青さ哉	25	夏	植物	白蓮
5814	古寺に真白ばかりの蓮哉	25	夏	植物	白蓮
5815	山寺に真白ばかりの蓮哉	25	夏	植物	白蓮
5816	白蓮にうつりて青き灯哉	25	夏	植物	白蓮
5817	白蓮の香にむせかへる小庭哉	26	夏	植物	白蓮
5818	白蓮や開かば露をこぼすべう	27	夏	植物	白蓮
5819	剪らんとす白蓮に手の届かざる	33	夏	植物	白蓮
5820	ふいと来て見しうれしさや蓮の花	21	夏	植物	蓮の花

5821	ふいと来て見るもうれしや蓮の花	21	夏	植物	蓮の花
5822	此上にすわり給へとはすの花	24	夏	植物	蓮の花
5823	西むいてさいたのもあり蓮の花	24	夏	植物	蓮の花
5824	ふきかへす簾の下やはすの花	24	夏	植物	蓮の花
5825	入相にすぼまる寺のはちす哉	25	夏	植物	蓮の花
5826	入相の鐘につぼまる蓮哉	25	夏	植物	蓮の花
5827	白過ぎてあはれ少し蓮の花	25	夏	植物	蓮の花
5828	桃色は弁天様のはちすかな	25	夏	植物	蓮の花
5829	かたなりに花吹きこぼす蓮哉	26	夏	植物	蓮の花
5830	行水をすてる小池や蓮の花	26	夏	植物	蓮の花
5831	傾城の悟り顔なり蓮の花	26	夏	植物	蓮の花
5832	極楽や清水の中に蓮の花	26	夏	植物	蓮の花
5833	ちりうけば吹かれつ蓮の花小舟	26	夏	植物	蓮の花
5834	蜻蛉や蓮の蒼に一つつゝ	26	夏	植物	蓮の花
5835	蓮さくや行水すてる水溜り	26	夏	植物	蓮の花
5836	蓮の花さくや淋しき停車場	26	夏	植物	蓮の花
5837	蓮持て人中行きぬ尼一人	26	夏	植物	蓮の花
5838	ほのほのや蓮の花咲く音す池	26	夏	植物	蓮の花
5839	門前の老婆利を貪るや蓮の花	26	夏	植物	蓮の花
5840	石橋の下に咲きけり蓮の花	27	夏	植物	蓮の花
5841	田の中に蓮咲けり家二つ三つ	27	夏	植物	蓮の花
5842	蓮の香や舟つなく背戸の山かつら	27	夏	植物	蓮の花
5843	昼中の堂静かなり蓮の花	27	夏	植物	蓮の花
5844	極楽は赤い蓮に女かな	28	夏	植物	蓮の花
5845	蓮咲いて百ヶ日とはなりにけり	28	夏	植物	蓮の花
5846	古池のかたへ蓮咲く真菰哉	28	夏	植物	蓮の花
5847	弁天の石橋低し蓮の花	28	夏	植物	蓮の花
5848	夜の闇にひろがる蓮の匂ひ哉	28	夏	植物	蓮の花
5849	わりなしや薄紅させは蓮の花	28	夏	植物	蓮の花
5850	わりなしやだれが紅させし蓮の花	28	夏	植物	蓮の花
5851	暁や露の中より蓮の花	29	夏	植物	蓮の花
5852	朝風やぱくりぱくりと蓮開く	29	夏	植物	蓮の花
5853	御門主の女俱したる蓮見哉	29	夏	植物	蓮の花
5854	御門主の女召さるゝ蓮見かな	29	夏	植物	蓮の花
5855	不忍や精進料理蓮の花	29	夏	植物	蓮の花
5856	だらだと上野下れば蓮の花	29	夏	植物	蓮の花
5857	蓮の花三輪にして池狭し	29	夏	植物	蓮の花
5858	蓮開く音聞く人か朝まだき	29	夏	植物	蓮の花
5859	水なくて泥に蓮咲く早かな	29	夏	植物	蓮の花
5860	長かれと水の下にて蓮を剪る	30	夏	植物	蓮の花
5861	蓮ほのぼの戸いまだあけず湖心亭	30	夏	植物	蓮の花
5862	引きよせて剪らんとす蓮の花散ぬ	30	夏	植物	蓮の花
5863	舟行くや小鬢にさはる蓮の花	30	夏	植物	蓮の花
5864	折るべからずの蓮取るべからずの緋鯉哉	30	夏	植物	蓮の花
5865	十丈の蓮開くや筆の尖	31	夏	植物	蓮の花
5866	病僧を扶けまゐらす蓮見哉	31	夏	植物	蓮の花
5867	巻葉より伸びたる蓮の蕾かな	34	夏	植物	蓮の花
5868	さきいても声おとなしや蓮の風	21	夏	植物	蓮
5869	生きてゐるやうに動くや蓮の露	25	夏	植物	蓮
5870	咲立つて小池のせまき蓮哉	25	夏	植物	蓮
5871	蓮の露ころかる度にふとりけり	25	夏	植物	蓮
5872	蓮の露めでたきやうであはれ也	25	夏	植物	蓮
5873	古池や蓮より外に草もなし	25	夏	植物	蓮
5874	夕立の露ころげあふ蓮哉	25	夏	植物	蓮
5875	覚束な遊女が後世の蓮の数	26	夏	植物	蓮
5876	月を湛へて錦鯉露の玉をはらひあへす蓮	26	夏	植物	蓮

5877	泥水を見せぬ蓮のさかり哉	26	夏	植物	蓮
5878	蓮切て牛の背にのる童哉	26	夏	植物	蓮
5879	人もなし月落ちかゝる蓮の池	26	夏	植物	蓮
5880	人や知る風蓮雨蓮の夕暮	26	夏	植物	蓮
5881	かならずよ一つ蓮と書き残す	29	夏	植物	蓮
5882	其中に若し甘露もや蓮の露	29	夏	植物	蓮
5883	蓮そよぐ上野の嵐くるたびに	29	夏	植物	蓮
5884	朝の雨蓮ある池を見て過る	30	夏	植物	蓮
5885	蓮見船は蓮に隠れて翡翠飛ぶ	30	夏	植物	蓮
5886	麩によらで鯉泳ぎ去る蓮の昼	30	夏	植物	蓮
5887	靄深き朝や蓮田の中を行く	31	夏	植物	蓮
5888	世の中の朝飯前や蓮清し	31	夏	植物	蓮
5889	豆よりも細き灯や蓮の亭	35	夏	植物	蓮
5890	下からもつき出す蓮の浮は哉	25	夏	植物	蓮の浮葉
5891	引はれば沈む蓮のうき葉かな	25	夏	植物	蓮の浮葉
5892	波なりにゆらるゝ蓮の浮葉哉	29	夏	植物	蓮の浮葉
5893	橋低く蓮の浮葉の二ツ三ツ	32	夏	植物	蓮の浮葉
5894	浮葉多く巻葉少き蓮かな	34	夏	植物	蓮の浮葉
5895	蓮の葉にうまくのつたる蛙哉	22	夏	植物	蓮の葉
5896	巻葉上に高く浮葉下に広がる蓮や此時	26	夏	植物	蓮の葉
5897	巻葉のび浮葉ひろがる蓮や此時	26	夏	植物	蓮の葉
5898	蓮池に三寸程の巻葉哉	27	夏	植物	蓮の葉
5899	荷の葉に落ちて音あり松の露	27	夏	植物	蓮の葉
5900	舟通る度にそよくや水の草	21	夏	植物	水草
5901	舟一ツ通るやそよく水の草	21	夏	植物	水草
5902	舟一ツ通れはそよぐ水の草	21	夏	植物	水草
5903	刈跡や水草咲いて田の深さ	29	夏	植物	水草
5904	古池に水草の花さかりなり	27	夏	植物	水草の花
5905	水草の泥に花咲く早かな	27	夏	植物	水草の花
5906	内堀に古水草の花白し	29	夏	植物	水草の花
5907	江南は水草の花さかりなり	29	夏	植物	水草の花
5908	水草の花の白さよ宵の雨	31	夏	植物	水草の花
5909	水草に白き花咲く沼の月	33	夏	植物	水草の花
5910	水草の花咲く池や寺の庭	33	夏	植物	水草の花
5911	水草に触れたる水棹哉	33	夏	植物	水草の花
5912	水草の花蝶々に似たりけり	33	夏	植物	水草の花
5913	萍やその日の無事に水まかせ	23	夏	植物	萍
5914	萍やうき世のさまの是非もなき	24	夏	植物	萍
5915	萍に思ふことなき早瀬哉	25	夏	植物	萍
5916	萍に乗てながるゝ小海老哉	25	夏	植物	萍
5917	萍の茨の枝にかゝりけり	25	夏	植物	萍
5918	萍の杭に一日のいのちかな	25	夏	植物	萍
5919	萍の心まかせに流れけり	25	夏	植物	萍
5920	うき草の月とほりこす流哉	25	夏	植物	萍
5921	萍や出どこも知らず果もなし	25	夏	植物	萍
5922	萍や一日は同じところにて	25	夏	植物	萍
5923	浮草をうねりよせたるさ波哉	25	夏	植物	萍
5924	浮草を上へ上へと嵐哉	25	夏	植物	萍
5925	手ばなせは又萍の流れけり	25	夏	植物	萍
5926	浮草に燕の行くへはるかなり	26	夏	植物	萍
5927	萍のかくれうせたる嵐かな	26	夏	植物	萍
5928	萍のさそはれやすき嵐哉	26	夏	植物	萍
5929	萍の横幅しらぬ浮世かな	26	夏	植物	萍
5930	浮草にのつて流るゝ蛙かな	27	夏	植物	萍
5931	浮草の流れ寄たる入江かな	27	夏	植物	萍
5932	家も木も皆萍とさそはるゝ	28	夏	植物	萍

5933	萍の中に動くや亀の首	28	夏	植物	萍
5934	萍のよるべもなしや丸木橋	28	夏	植物	萍
5935	萍やところどころに亀の首	28	夏	植物	萍
5936	萍を押しわけ行くや亀の首	28	夏	植物	萍
5937	萍をはつれてうくや亀の首	28	夏	植物	萍
5938	萍の流れ行きけり朝の内	29	夏	植物	萍
5939	萍の流れ行なり朝の内	29	夏	植物	萍
5940	浮草の心中話やつゞき物	31	夏	植物	萍
5941	浮草に河童恐るゝ泳ぎ哉	33	夏	植物	萍
5942	浮草を長く手ぐるや舟の中	35	夏	植物	萍
5943	気味わるく浮草からむかち渉り	35	夏	植物	萍
5944	風吹て萍動く花ながら	26	夏	植物	萍の花
5945	古堀は萍の花ばかりなり	29	夏	植物	萍の花
5946	かたよつて菱の花さく小池哉	26	夏	植物	菱の花
5947	六角に葉なみそろへて菱の花	26	夏	植物	菱の花
5948	引けば皆かたよる池のぬなわ哉	26	夏	植物	蓴
5949	藻の花や鶺鴒の尾のすれすれに	24	夏	植物	藻の花
5950	藻の花や小川に沈む鍋のつる	25	夏	植物	藻の花
5951	藻の花に燕の行くへ遙か也	26	夏	植物	藻の花
5952	藻の花にふつと浮出る緋鯉かな	27	夏	植物	藻の花
5953	藻の花の上に乗る込む田舟哉	27	夏	植物	藻の花
5954	船橋や花藻もよらず瀬を早み	28	夏	植物	藻の花
5955	藻の花の重なりあふて咲きにけり	28	夏	植物	藻の花
5956	藻の花は附木の舟の港かな	28	夏	植物	藻の花
5957	藻の花や竹伏す岸に乱れ咲く	28	夏	植物	藻の花
5958	藻の花や裸子桶をさげて行く	28	夏	植物	藻の花
5959	藻の花に鷺ゝんで昼永し	29	夏	植物	藻の花
5960	藻の花や水ゆるやかに手長鰕	29	夏	植物	藻の花
5961	鮒釣や藻の咲く池を見て過る	30	夏	植物	藻の花
5962	藻の花や泥鱒浮きいでゝ目高去る	30	夏	植物	藻の花
5963	藻の花や人取池に泳ぐ子等	30	夏	植物	藻の花
5964	藻の花を少し入れたり桶の鮒	30	夏	植物	藻の花
5965	泥亀の隠れて動く花藻哉	31	夏	植物	藻の花
5966	下駄ありて人なき池の花藻哉	33	夏	植物	藻の花
5967	公園となりたる濠の花藻哉	33	夏	植物	藻の花
5968	公園になりたる濠の花藻哉	33	夏	植物	藻の花
5969	公園のきたなき水に花藻哉	33	夏	植物	藻の花
5970	釣針のひつかゝりたる花藻哉	33	夏	植物	藻の花
5971	藻の花にゝむ鷺や向岸	33	夏	植物	藻の花
5972	藻の花に釣針かゝり困りたる	33	夏	植物	藻の花
5973	藻の花に鯰押へし夜振哉	33	夏	植物	藻の花
5974	藻の花に緋鯉の頭隠れけり	33	夏	植物	藻の花
5975	藻の花に行きつ帰りつ目高哉	33	夏	植物	藻の花
5976	藻の花の浅きに立つや鷺の脚	33	夏	植物	藻の花
5977	藻の花や白壁落し角櫓	33	夏	植物	藻の花
5978	藻の花や絶えず泡ふく何の魚	33	夏	植物	藻の花
5979	藻の花や野川を引し庭の池	33	夏	植物	藻の花
5980	藻の花や鮒つる人の気の長さ	33	夏	植物	藻の花
5981	藻の花や濠の半の捨小舟	33	夏	植物	藻の花
5982	手水鉢横にころけて苔の花	24	夏	植物	苔の花
5983	木ともいはず岩ともいはず苔の花	25	夏	植物	苔の花
5984	苔の花一日一日の庵のさび	25	夏	植物	苔の花
5985	西行の腰かけ岩や苔の花	25	夏	植物	苔の花
5986	石くぼむ床几の跡や苔の花	26	夏	植物	苔の花
5987	金閣や金箔はげて苔の花	26	夏	植物	苔の花
5988	其骨に苔の咲くなり小紫	26	夏	植物	苔の花

5989	古寺や門も戸ひらも苔の花	26	夏	植物	苔の花
5990	あの顔の上に咲きけん苔の花	27	夏	植物	苔の花
5991	苔も咲かず屍に砂にさらされぬ	27	夏	植物	苔の花
5992	題目や髭に花咲く石の苔	27	夏	植物	苔の花
5993	塚古りて咲くや点々の苔の花	27	夏	植物	苔の花
5994	巖ともならずひわだの苔の花	28	夏	植物	苔の花
5995	苔の花さくや地蔵の首の跡	28	夏	植物	苔の花
5996	何神か知らずひわだの苔の花	28	夏	植物	苔の花
5997	錦木や去年の恋は苔の花	28	夏	植物	苔の花
5998	君が代や鬼のすみかも苔の花	29	夏	植物	苔の花
5999	君が代や黄金腐りて苔の花	29	夏	植物	苔の花
6000	庫裏荒れたり大俎板の苔の花	29	夏	植物	苔の花
6001	苔の花門に車の跡もなし	29	夏	植物	苔の花
6002	鶯や野を見下せば早苗取	24	夏	植物	早苗
6003	煙草のむひま旅人も来て早苗とれ	25	夏	植物	早苗
6004	つるつると水玉のぼる早苗哉	25	夏	植物	早苗
6005	苗の色美濃も尾張も一ツかな	25	夏	植物	早苗
6006	ぬか星も植ゑこまれたる早苗哉	25	夏	植物	早苗
6007	植じまひ知るや早苗の一たばね	26	夏	植物	早苗
6008	風吹て心よき日の早苗哉	26	夏	植物	早苗
6009	小山田に早苗とるなり只一人	26	夏	植物	早苗
6010	朝雲り水の少き早苗哉	27	夏	植物	早苗
6011	うれしさをそよぐ瘦田の早苗哉	27	夏	植物	早苗
6012	空青しさゝ波濁る早苗舟	28	夏	植物	早苗
6013	大水の引くや早苗に風わたる	29	夏	植物	早苗
6014	水藻多き瘦田の早苗あはれ也	29	夏	植物	早苗
6015	夕鶯のぼつちり白し苗の風	29	夏	植物	早苗
6016	新田の早苗瘦せたり赤き水	30	夏	植物	早苗
6017	門の内に誰が投げこみし早苗哉	31	夏	植物	早苗
6018	麦刈るや鎌のひらめく夕日影	25	夏	植物	麦
6019	刈麦の鎌倉山とうたひけり	26	夏	植物	麦
6020	雪院の隣は麦をつくところ	26	夏	植物	麦
6021	風流のはや髭に出し去年の麦	26	夏	植物	麦
6022	麦刈るや裸の上に薦一つ	26	夏	植物	麦
6023	一村は麦刈のこす夕日哉	27	夏	植物	麦
6024	家ちらほら小山つゞきの麦畑	27	夏	植物	麦
6025	麦刈て大寺一つ簷えけり	27	夏	植物	麦
6026	山畑へ麦刈りに行く日和哉	27	夏	植物	麦
6027	入口に麦干す家や古簾	28	夏	植物	麦
6028	麦刈つて疫のはやる小村かな	28	夏	植物	麦
6029	鳥立つや風そよそよと麦の波	29	夏	植物	麦
6030	塀許り残る屋敷や麦畠	29	夏	植物	麦
6031	麦そだつ人の油や古戦場	29	夏	植物	麦
6032	鎌倉や只今惟麦みのりけり	30	夏	植物	麦
6033	青梅の林見えけり麦の風	31	夏	植物	麦
6034	隠居して五反の麦の主哉	31	夏	植物	麦
6035	つつくしき駕通りけり麦の風	31	夏	植物	麦
6036	浦風に穂遅き麦の乱れ哉	31	夏	植物	麦
6037	桑畑や一畝の麦の刈らずある	31	夏	植物	麦
6038	二階建の学校見えつ麦の風	31	夏	植物	麦
6039	病僧の門出て歩む麦の風	31	夏	植物	麦
6040	穂の黒き砂地の麦や夕曇	31	夏	植物	麦
6041	麦刈の留守を蚕飼のいそかしき	31	夏	植物	麦
6042	麦の風五月の雲雀老いにけり	31	夏	植物	麦
6043	麦の風ちいさき蛇の行へ哉	31	夏	植物	麦
6044	麦の風菜種の花は散にけり	31	夏	植物	麦

6045	麦の風故郷近くなりけり	31	夏	植物	麦
6046	麦の風美濃路に馬を雇ひけり	31	夏	植物	麦
6047	麦畑に砲車引込む轍哉	31	夏	植物	麦
6048	麦主の蚕飼羨む話かな	35	夏	植物	麦
6049	桑の実の木曾路出づれば穂麦かな	25	夏	植物	穂麦
6050	きらきらと山本くるゝ穂麦哉	26	夏	植物	穂麦
6051	麦の穂や風は浮世の花に咲け	26	夏	植物	穂麦
6052	麦は穂に雲雀の宿はあれにけり	26	夏	植物	穂麦
6053	麦の穂の揃ふて立ちし野面かな	27	夏	植物	穂麦
6054	山城の郭残りて穂麦哉	27	夏	植物	穂麦
6055	ゆふはれや麦の穂末のつくは山	27	夏	植物	穂麦
6056	麦の穂に腹こそばゆき雀かな	31	夏	植物	穂麦
6057	麦わらも千年の松のまもり哉	21	夏	植物	麦藁
6058	麦わらも冬は木の葉を護りけり	21	夏	植物	麦藁
6059	麦藁や地蔵の膝にちらしかけ	28	夏	植物	麦藁
6060	内庭や鶏の子群るゝ麦の稈	31	夏	植物	麦藁
6061	積み上げし麦藁陰や里の恋	31	夏	植物	麦藁
6062	積み上げし麦藁陰や立咄	31	夏	植物	麦藁
6063	清姫か涙の玉や蛇いちご	25	夏	植物	苺
6064	山人の腰のかゞみやつるいちご	25	夏	植物	苺
6065	足かけて岨道崩すいちご哉	26	夏	植物	苺
6066	いちごとる手もとを群山走りけり	26	夏	植物	苺
6067	順礼の道はかどらぬいちご哉	26	夏	植物	苺
6068	旅路なれば残るいちごを参らせん	26	夏	植物	苺
6069	旅人の岨はひあがるいちご哉	26	夏	植物	苺
6070	旅人のつみのこしたるいちご哉	26	夏	植物	苺
6071	旅人の山路に暮れるいちご哉	26	夏	植物	苺
6072	ほろほると谷にこほるゝいちご哉	26	夏	植物	苺
6073	ほろほると手をこほれたるいちご哉	26	夏	植物	苺
6074	いちご盛つて紅の雫流れけり	27	夏	植物	苺
6075	かけ橋や崩れ崩れの蛇いちご	27	夏	植物	苺
6076	かけ橋や蕨のあはひの蔓いちご	27	夏	植物	苺
6077	古塚に覆盆子はみ居る野馬哉	27	夏	植物	苺
6078	蛇いちご大蛇を斬りし処哉	27	夏	植物	苺
6079	露あかしいちご畑の山かつら	28	夏	植物	苺
6080	もりあげてやまいうれしきいちご哉	28	夏	植物	苺
6081	いちご熟す去年の此頃病みたりし	29	夏	植物	苺
6082	唐人の皿に盛りたるいちごかな	29	夏	植物	苺
6083	旅人に合はぬ山路のいちご哉	31	夏	植物	苺
6084	薔薇ちるやいちごくひたきハツ下り	31	夏	植物	苺
6085	わが庭の覆盆子熟して雨多し	31	夏	植物	苺
6086	わが庭の覆盆子熟せず雨多し	31	夏	植物	苺
6087	あるきながらいちごくひけりいちご畑	33	夏	植物	苺
6088	いちごある園の小道や下駄の跡	33	夏	植物	苺
6089	いちご取る山路に著莪を手折けり	33	夏	植物	苺
6090	旅人のいちごくひたる跡もあり	33	夏	植物	苺
6091	ならばせのいちごくひけり肉の後	33	夏	植物	苺
6092	ハンケチの赤く染みたるいちご哉	33	夏	植物	苺
6093	病人のくひたきといふいちご哉	33	夏	植物	苺
6094	まだ青きいちごや花の咲き残り	33	夏	植物	苺
6095	見て過ぐるいちごや旅の夕急ぎ	33	夏	植物	苺
6096	病多き此頃庭のいちご哉	33	夏	植物	苺
6097	山人はすさめぬ山のいちご哉	33	夏	植物	苺
6098	寝床並べて苺喰はゞや話さばや	34	夏	植物	苺
6099	牛部屋のかこひと見ゆれさゝげ垣	26	夏	植物	ささげ
6100	蚕豆も豌豆も咲くや庭畠	33	夏	植物	蚕豆

6101	紫蘇ばかり薄紫の明家哉	25	夏	植物	紫蘇
6102	紫蘇ひとつ薄紫の荒家哉	25	夏	植物	紫蘇
6103	紫蘇ほして蝶よりつかぬ暑さ哉	25	夏	植物	紫蘇
6104	雷に魂消て青し蕃椒	28	夏	植物	青唐辛
6105	貧しさや葉生姜多き夜の市	30	夏	植物	葉生姜
6106	老が齒のきれ味ゆかし茗荷の子	25	夏	植物	茗荷の子
6107	茗がよりかしこきふりや茗がの子	25	夏	植物	茗荷の子
6108	茗荷よりかしこさうなり茗荷の子	25	夏	植物	茗荷の子
6109	虻ないて南瓜の花の落ちにけり	28	夏	植物	南瓜の花
6110	虻鳴いて南瓜の花落ちにけり	28	夏	植物	南瓜の花
6111	添竹の折れて地にふす瓜の花	21	夏	植物	瓜の花
6112	添竹は折れて地にふす瓜の花	21	夏	植物	瓜の花
6113	添竹も折れて地に伏す瓜の花	21	夏	植物	瓜の花
6114	蝶を追ふ虻の力や瓜の花	26	夏	植物	瓜の花
6115	瓜盗むこともわすれて涼みけり	25	夏	植物	瓜
6116	うり一つだひて泣きやむ子供哉	25	夏	植物	瓜
6117	瓜一つだけば鳴きやむ赤子かな	25	夏	植物	瓜
6118	うり一つとなりの畑てみのりけり	25	夏	植物	瓜
6119	瓜持て片手にまねく子供哉	25	夏	植物	瓜
6120	くみあげて又戻しけり冷しうり	25	夏	植物	瓜
6121	涼しさに瓜ぬす人と話しけり	25	夏	植物	瓜
6122	涼しさやくるりくるりと冷し瓜	25	夏	植物	瓜
6123	中までも水しみこめと冷し瓜	25	夏	植物	瓜
6124	初瓜やまだこびりつく花の形	25	夏	植物	瓜
6125	ひやし瓜沈めても又沈めても	25	夏	植物	瓜
6126	冷瓜浪のかしらにほかんほかん	25	夏	植物	瓜
6127	冷し瓜水掬ふ手にもつれけり	25	夏	植物	瓜
6128	冷し瓜わつた中にも雫かな	25	夏	植物	瓜
6129	もてなしや池へなげこむ冷し瓜	25	夏	植物	瓜
6130	瓜ぬすむあやしや御身誰やらん	26	夏	植物	瓜
6131	瓜二つ重たさうなる禿かな	26	夏	植物	瓜
6132	何やらの花さきにけり瓜の皮	26	夏	植物	瓜
6133	喃お僧初瓜一つめすまいか	27	夏	植物	瓜
6134	瓜好きの僧正山を下りけり	28	夏	植物	瓜
6135	瓜茄子どこを関屋の名残とも	28	夏	植物	瓜
6136	瓜茄子命があらば三年目	30	夏	植物	瓜
6137	茶屋に到り瓜喰はんと思ひつゝありく	30	夏	植物	瓜
6138	垣破る瓜盗人は狐かな	31	夏	植物	瓜
6139	兄弟が瓜と茄子の訴訟哉	31	夏	植物	瓜
6140	瓜喰ふて旅の勞れや野の茶店	32	夏	植物	瓜
6141	瓜の籠茄子の籠や市の雨	32	夏	植物	瓜
6142	瓜番を化かしに来たる狐かな	32	夏	植物	瓜
6143	学校の敷地になりぬ瓜畑	32	夏	植物	瓜
6144	此村は帝国党や瓜茄子	32	夏	植物	瓜
6145	水清く瓜肥えし里に隠れけり	32	夏	植物	瓜
6146	水清く瓜清き里に隠れけり	32	夏	植物	瓜
6147	藎敷く村の芝居や瓜の皮	32	夏	植物	瓜
6148	葭簀して困ふ流や冷瓜	32	夏	植物	瓜
6149	瓜くれて瓜盗まれし話かな	33	夏	植物	瓜
6150	瓜小屋に人あるさまの草履哉	33	夏	植物	瓜
6151	孝行な瓜番瓜を盗みけり	33	夏	植物	瓜
6152	手拭に瓜三本をくゝりけり	33	夏	植物	瓜
6153	いわけなう日うらの白き胡瓜哉	25	夏	植物	胡瓜
6154	東京に世渡りやすき胡瓜哉	26	夏	植物	胡瓜
6155	花のあとにはや見えそむる胡瓜哉	26	夏	植物	胡瓜
6156	輪にもせず豎にもわらず胡瓜哉	26	夏	植物	胡瓜

6157	其題の胡瓜の頃に死なれけり	29	夏	植物	胡瓜
6158	胡瓜生節善き酒ありて俗ならず	32	夏	植物	胡瓜
6159	胡瓜より茄子むつかしき写生かな	35	夏	植物	胡瓜
6160	朝露をこぼして荷なふ真桑哉	25	夏	植物	甜瓜
6161	すぢなりに庖刀あてる真桑哉	25	夏	植物	甜瓜
6162	のせて見て団扇に重しまくわ瓜	25	夏	植物	甜瓜
6163	のせて見て団扇に書し甜瓜	25	夏	植物	甜瓜
6164	鶯のなく木の下や真桑うり	26	夏	植物	甜瓜
6165	奥の間へころがしてやる真桑哉	26	夏	植物	甜瓜
6166	狂言の手つきでぬすむ真桑哉	26	夏	植物	甜瓜
6167	旅僧のかぢりついたる真桑哉	26	夏	植物	甜瓜
6168	琵琶やめて真桑をむかん宵月夜	26	夏	植物	甜瓜
6169	真桑瓜革包の重き行脚哉	26	夏	植物	甜瓜
6170	真桑瓜見かけてやすむ床几哉	26	夏	植物	甜瓜
6171	我はまた山を出羽の初真桑	26	夏	植物	甜瓜
6172	猪の真桑踏み割る田甫かな	27	夏	植物	甜瓜
6173	洪水や下駄も真桑もほかほかと	29	夏	植物	甜瓜
6174	真桑尽きて更に心太をくはん哉	30	夏	植物	甜瓜
6175	からぐろの黒からず茄子の濃紫	25	夏	植物	茄子
6176	これ程の物も都そ初茄子	25	夏	植物	茄子
6177	茄子南瓜小道小道の別れ哉	25	夏	植物	茄子
6178	婆様のうらの茄子もふとりけり	25	夏	植物	茄子
6179	婆様の大事の茄子もふとりけり	25	夏	植物	茄子
6180	一籠でいくらがものそ初茄子	25	夏	植物	茄子
6181	富士山は毎日見えつ初茄子	25	夏	植物	茄子
6182	どれ見てもうれし小茄子大茄子	26	夏	植物	茄子
6183	どれもこれもうれし小茄子大茄子	26	夏	植物	茄子
6184	浪人の畠にやせる茄子かな	26	夏	植物	茄子
6185	糸つけて茄子ひきづるかと思へば	28	夏	植物	茄子
6186	恙なく帰るや茄子も一年目	28	夏	植物	茄子
6187	出迎へや旗ひるがへる茄子畑	28	夏	植物	茄子
6188	糠漬の茄子紫に明け易き	29	夏	植物	茄子
6189	糠味噌の茄子紫に明け易き	29	夏	植物	茄子
6190	僧齋し本堂脇の茄子畠	29	夏	植物	茄子
6191	茄子汁に村の者よる忌日哉	30	夏	植物	茄子
6192	尼寺や尼がつくりし茄子畠	31	夏	植物	茄子
6193	茄子の籃に蔭の葉長き上荷哉	32	夏	植物	茄子
6194	茄子の籃の上荷に蔭の長き哉	32	夏	植物	茄子
6195	蔭長く茄子の籠の上荷かな	32	夏	植物	茄子
6196	しなびたる茄子まづしき八百屋哉	33	夏	植物	茄子
6197	糠味噌に瓜と茄子の契かな	33	夏	植物	茄子
6198	茄子臭き南瓜くさき契哉	34	夏	植物	茄子
6199	南瓜より茄子むつかしき写生哉	35	夏	植物	茄子
6200	夏葱に鶏裂くや山の宿	29	夏	植物	夏葱
6201	名もゆかし一夜明さん刈葱畑	26	夏	植物	刈葱
6202	蔭の葉を傘にさしたる蛙哉	26	夏	植物	蔭
6203	蔭の葉や蚯蚓を包む土ながら	28	夏	植物	蔭
6204	鉢植や蔭の葉のびて臺枯れぬ	33	夏	植物	蔭
6205	露のあち知らぬふり也綿の花	23	夏	植物	綿の花
6206	露ならて何をいのちそ綿の花	25	夏	植物	綿の花
6207	綿の花葵に似るも哀れなり	25	夏	植物	綿の花
6208	綿の花*(竹冠+禦)へ曲る小道哉	29	夏	植物	綿の花
6209	船著きの小き廊や綿の花	31	夏	植物	綿の花
6210	海近クナリ又帆見エテ綿の花	35	夏	植物	綿の花
6211	海近ク帆ノ大キサヨ棉ノ花	35	夏	植物	綿の花
6212	此浜ヤ此頃埋メテ棉ノ花	35	夏	植物	綿の花

6213	このあたり人素直也麻の畑	26	夏	植物	麻
6214	麻刈りて屏風に淋し山の影	28	夏	植物	麻
6215	刈麻やどの小娘の恋衣	28	夏	植物	麻
6216	日の入りや麻刈るあとの通り雨	28	夏	植物	麻
6217	麻刈りて鳥海山に雲もなし	29	夏	植物	麻
6218	麻刈の吾にわからぬ言葉かな	29	夏	植物	麻
6219	麻三反家五軒子供八九人	29	夏	植物	麻
6220	麻につるゝ山家の雨の脚直し	29	夏	植物	麻
6221	刈麻に夕日さしこむ小庭かな	29	夏	植物	麻
6222	刈り残す麻に二十日の月出づる	29	夏	植物	麻
6223	すぱりすぱり麻刈るわざの面白き	29	夏	植物	麻
6224	渺々と麻刈るあとの雲の峰	29	夏	植物	麻
6225	夕暮やかならず麻の一嵐	29	夏	植物	麻
6226	夕立や雀のさわぐ麻畠	29	夏	植物	麻
6227	蘭の花の思ひ思ひにそよきけり	25	夏	植物	蘭の花
6228	蘭の花の中をぬひぬひ蛩哉	25	夏	植物	蘭の花
6229	蘭の花の葉末にさかぬ風情哉	25	夏	植物	蘭の花
6230	みの花は葉末にさかぬ風情哉	25	夏	植物	蘭の花
6231	みの花や親子の牛のもつれあふ	25	夏	植物	蘭の花
6232	蘭の花や小田にもならぬ溜り水	28	夏	植物	蘭の花
6233	花蘭田の緑にそゝぐ小雨哉	33	夏	植物	蘭の花
6234	蘭の花にかくるゝ鷺の頭哉	33	夏	植物	蘭の花
6235	蘭の花にかはらぬ水の水さび哉	33	夏	植物	蘭の花
6236	刈り捨てし燈心草や道の端	33	夏	植物	灯心草
6237	三尺の燈心草や花淋し	33	夏	植物	灯心草
6238	早松茸夏なき山に生まれけり	26	夏	植物	早松茸
6239	山もなし江戸にいつこの早松茸	26	夏	植物	早松茸